

科目名称:スポーツ					
担当者名:松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	実習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010101
授業概要:現在の子どもたちは、自然の中で遊ぶ機会、しかも集団遊びをする機会が失われてきた。その結果、若者たちの体力低下が指摘され、仲間づくりが不得意な学生が増えている。次の世代を担う学生たちが心身共に健全であることを願い、生涯親しむことの出来るスポーツの生活化を実践していく。実施種目は、パドルテニス、グラウンドゴルフ、ユニバーサルホッケー、ソフトバレーボール等である。					
到達目標:技術の修得時や競技では、コミュニケーション能力を発揮し、仲間と共にスポーツを心底から楽しみ、その魅力を認識できるようにする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 パドルテニス(1)ラケットとボールへの慣れ			ニュースポーツの基礎的知識(45)		
第2回 パドルテニス(2)歴史と運動特性、基礎技術の習得			パドルテニスの基礎的知識(45)		
第3回 パドルテニス(3)競技方法と戦術			パドルテニスの基礎的知識の復習(45)		
第4回 パドルテニス(4)リーグ戦による競技・1日目(4試合)			パドルテニスの競技方法と戦術の復習(45)		
第5回 パドルテニス(5)リーグ戦による競技・2日目(4試合)			パドルテニスのリーグ戦による競技方法の復習(45)		
第6回 グラウンドゴルフ(1)歴史と運動特性、基礎技術の習得			グラウンドゴルフの基礎的知識(45)		
第7回 グラウンドゴルフ(2)競技方法と戦術			グラウンドゴルフの基礎的知識の復習(45)		
第8回 グラウンドゴルフ(3)8ホールポストによる競技			グラウンドゴルフの競技方法と戦術の復習(45)		
第9回 ネオホッケー(1)歴史と運動特性、基礎技術の習得			ネオホッケーの基礎的知識(45)		
第10回 ネオホッケー(2)競技方法と戦術			ネオホッケーの歴史と運動特性の復習(45)		
第11回 ネオホッケー(3)リーグ戦による競技			ネオホッケーの競技方法と戦術の復習(45)		
第12回 ソフトバレー(1)歴史と運動特性、基礎技術の習得			ソフトバレーの基礎的知識(45)		
第13回 ソフトバレー(2)競技方法と戦術			ソフトバレーの歴史と運動特性の復習(45)		
第14回 ソフトバレー(3)リーグ戦による競技・1日目(4試合)			ソフトバレーの競技方法と戦術の復習(45)		
第15回 ソフトバレー(4)リーグ戦による競技・2日目(4試合)総合評価			ソフトバレーのリーグ戦による競技方法の復習(45)		
履修に必要な予備知識や技能:競技方法と戦術、運動特性などの知識を深めておくこと。					
課題に対してのフィードバック:競技の技術と戦術を講評する。次回の競技に活かしてください。					
評価方法・基準:受講態度(50%)、コミュニケーション能力(30%)、競技成績(20%)を100点満点の減点法で評価する。第1回授業にて詳細を説明する。					
教科書:教科書は指定しない。授業時にプリントを配布する。参考書はニュースポーツ百科。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:スポーツ理論					
担当者名:竹野 欽昭					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010102
<p>授業概要:現代社会の運動不足、精神的ストレスといった大きな健康問題に対し、どうしたら意欲的に運動し、体のあらゆる機能を改善・向上し、豊かで逞しい生活をしていけるかを大切なテーマとしている。運動スポーツは、本来その活動そのものに爽快感や充実感などといった心理的側面が大きく反映し、運動スポーツの楽しさとなっている点に注目し、運動スポーツを実践していく上で必要な心理的なスキルをどのように身につけ、やる気、持続力、パフォーマンスを高めていくのかを学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1. 健康とスポーツについて多角的に考え、身体活動を理論的に実践できるようになる。 2. 身体活動に関する身体やメンタル面の知見を深め、運動効果をあげる方策を立てることができるようになる。 3. 身体活動による生理的変化やスポーツと心理的変化との関わりを学び、実際の指導の場で応用できるようになる。 4. ディスカッションを通して意見を述べ、聞き、考えることによって自らを高めることができるようになる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション、授業の概略説明、スポーツにおけるデータの活用			シラバスをよく読んで概要を把握しておく(30)		
第2回 スポーツと身体組成			前回授業の課題レポート作成(30)		
第3回 スポーツと食事			前回授業の課題レポート作成(30)		
第4回 スポーツと筋および脂肪横断面積			前回授業の課題レポート作成(30)		
第5回 スポーツと筋力			前回授業の課題レポート作成(30)		
第6回 スポーツと持久力			前回授業の課題レポート作成(30)		
第7回 スポーツと持久性トレーニング			前回授業の課題レポート作成(30)		
第8回 スポーツと体温調節能			前回授業の課題レポート作成(30)		
第9回 スポーツと脳			前回授業の課題レポート作成(30)		
第10回 スポーツとイメージトレーニング			前回授業の課題レポート作成(30)		
第11回 スポーツとあがり			前回授業の課題レポート作成(30)		
第12回 スポーツと発達			前回授業の課題レポート作成(30)		
第13回 スポーツと社会心理			前回授業の課題レポート作成(30)		
第14回 スポーツと動機づけ			前回授業の課題レポート作成(30)		
第15回 スポーツとメンタルコンディショニング、まとめ			前回授業の課題レポート作成(30)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の最後に次時内容の予告をするので、事前にネット検索等で情報を得ておく。準備学習の講評、フィードバックは授業の冒頭で行う。					
課題に対するフィードバック:講義内容や課題レポートのまとめを次時に講評、解説する。					
評価方法・基準:課題レポート80%、受講態度(授業への参加度)20% (詳細は初回授業で説明する)					
教科書:使用テキストなし。必要に応じてプリントを配布する。					
備考:毎授業の最後にミニレポートを作成し、アクティブラーニングとしてミニレポートの情報共有活動(ペアワーク)を行う。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:レクリエーション活動 I					
担当者名:利岡 理香					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	講義・演習	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010111
<p>授業概要: 楽しさを通して元気や活力を再創造するレクリエーションは、生活の中に位置づくことでQOLの向上を図ることができる。本授業においてレクリエーションの基本的な考え方や社会的意義について理解を深め、さらに多様な場面で対象にふさわしいレクリエーション支援のあり方および支援技術について学ぶ。</p>					
<p>到達目標: 1. レクリエーション活動がもたらす楽しさを理解し、主体的に関わることができる。 2. レクリエーションの基礎知識、レクリエーション支援の多様性や基本的な考え、目的や手段について理解し明確に言語化できる。 3. リーダーシップ、フォロアシップを身につけエンゲージメント向上できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 授業の概要説明、レクリエーション体験にて関心をもつ			【事前】シラバスおよびテキストを読み概要を把握しておく(30)		
第2回 人と社会をつなぐレクリエーション			【事前】「レクリエーション」いう言葉から連想できるものをワークシートに記入しておく(30)		
第3回 レクリエーション概論 ～ 語源・定義・歴史とその背景 ～			【事後】授業の復習プリント(30)		
第4回 楽しさと心の元気づくりの理論① ～ レクリエーション活動からもたらされる楽しさを感じる心のしくみ ～			【事前】自身が楽しいと感じる時の事についてワークシートに記入しておく(30)【事後】留意点についてまとめる(30)		
第5回 楽しさと心の元気づくりの理論② ～ レクリエーション活動を心の元気づくりを活かす視点化 ～			【事後】レクリエーションの効果についてまとめる(30)		
第6回 楽しさと心の元気づくりの理論③ ～ ライフステージごとの課題(子ども・高齢者・障がい者)、地域のきずな ～			【事後】前回授業①②③の復習プリント(30)		
第7回 ニュースポーツ体験			【事前】ニュースポーツについて調べワークシートに記入しておく(30)		
第8回 レクリエーション支援の理論 ～ レクリエーション支援におけるコミュニケーション ～			【事前】コミュニケーションとは何か調べ、自分の考えをワークシートに記入しておく。(30)		
第9回 レクリエーション支援の方法 ～ 言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーション ～			【事後】演習を振り返りまとめる(30)		
第10回 レクリエーション支援の理論 ～ レクリエーション活動を通じた良好な集団づくり ～			【事後】レクリエーションにおける集団の留意点についてまとめる(30)		
第11回 レクリエーション支援の方法 ～ 集団内のコミュニケーションの促進 ～			【事後】演習を振り返り要点をまとめる(30)		
第12回 レクリエーション支援の理論 ～ 段階的に成功体験を通じた集団づくり ～			【事後】演習を振り返り要点をまとめる(30)		
第13回 レクリエーション支援の方法 ～ 自主的・主体的を高める力を育む ～			【事前】外発的動機づけ・内発的動機づけ・自己効力感を調べ例示してワークシートに記入しておく(30)【事後】演習まとめ(30)		
第14回 チャレンジ・ザ・ゲーム体験			【事後】やる気の変化と成功体験の関連性を振り返りまとめる(30)		
第15回 授業の振り返り、質疑応答			【事前】既習内容のプリント(30)		
履修に必要な予備知識や技能: 授業内のレクリエーション活動はチームでのアプローチのひとつであり、グループ内での協調性、積極性を身につけて活かすことを意識して受講すること。					
課題に対するフィードバック: 授業内で随時フィードバックを行う。					
評価方法・基準: 定期試験50%、受講姿勢(個人・グループ活動・発表含)30%、課題20%を勘案して総合評価を行うが、欠席時数によっては評価が下がる。					
教科書: 書名: 楽しさと心のおとした心の元気づくり ― レクリエーション支援の理論と方法 ― 補足として適宜レジュメ使用 発行: 公益財団法人 日本レクリエーション協会					
備考: 授業は講義と演習形式で進行するので欠席しないよう注意。またレク財を知るためにメディア情報やインターネットなど積極的に情報収集する意欲を持ってほしい。 情報収集する意欲を持ってほしい。					
実務経験の内容・期間: レクリエーション・インストラクター(16年3か月)、レクリエーション・コーディネーター(8年11か月)、福祉レクリエーションワーカー(15年)、スポーツレクリエーションインストラクター(8年)、音楽レクリエーション(16年)					

科目名称:レクリエーション活動Ⅱ					
担当者名:利岡 理香					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義・演習	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010112
<p>授業概要:「レクリエーション活動Ⅱ」では「レクリエーション活動Ⅰ」で学んだ内容を深める。理論と実践を通してレクリエーションの価値(求められる役割)を、自身を取り巻く社会環境や現代社会の様々な課題と共に学ぶ。また活動環境に合わせた演習を行い実践力を習得する。</p>					
<p>到達目標:1.レクリエーション支援の考え方と方法を説明できる。 2.レクリエーション活動の基本的かつ実践的な理論と技能を習得している。 3.目的・対象に応じたレクリエーション活動を立案し実施することができる。 4.リーダーシップ、フォロアシップを身につけ、エンゲージメント向上へとつなげることができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 授業の概要説明			シラバスとテキストを読み概要を把握(30)		
第2回 レクリエーション活動を効果的に用いるために①～気持ちをひとつにするコミュニケーション技術(ホスピタリティ)～			【事後】課題(30)		
第3回 レクリエーション活動を効果的に用いるために②～良好な集団づくりの方法(アイスブレイキング)～			【事後】課題(30)		
第4回 レクリエーション活動を効果的に用いるために③～レクリエーション活動の展開法(ハードル設定)～			【事後】課題(30)		
第5回 レクリエーション活動を効果的に用いるために④～対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術(CSSプロセス)～			【事後】課題(30)		
第6回 チャレンジ・ザ・ゲームのアレンジ			【事後】前回授業①②③④の既習プリント(30)		
第7回 目的・対象に合わせたレクリエーション活動①～子ども～			【事後】演習を振り返り要点をまとめておく(30)		
第8回 目的・対象に合わせたレクリエーション活動②～高齢者～			【事後】演習を振り返り要点をまとめておく(30)		
第9回 目的・対象に合わせたレクリエーション活動③～リハビリの視点としてのグループレクリエーション～			【事後】演習を振り返り要点をまとめておく(30)		
第10回 ニュースポーツ			【事前】対象者別にアレンジ法を考えておく(30)		
第11回 レクリエーション支援におけるリスクマネジメントの視点と方法			【事後】前回授業①②③およびリスクマネジメント既習プリント(30)【事前】具体的なレク財を考えておく(30)		
第12回 対象者に合わせたプログラム立案①(小集団)			発表準備 作成・加筆・修正(30)		
第13回 立案したプログラムのグループ発表			【事後】フィードバック要点をまとめておく(30)		
第14回 対象者の合わせたプログラム立案②(集団)			発表準備 作成・加筆・修正(30)		
第15回 立案したプログラムのグループ発表、講評、授業のまとめ			【事後】フィードバック要点をまとめておく(30)		
履修に必要な予備知識や技能:各種レクリエーションの基礎的知識を深めておく。発表に向けて各グループで入念に構想を練る。					
課題に対するフィードバック:当該授業中にフィードバックを行う。また課題は添削して次時に返却する。					
評価方法・基準:定期試験50%、受講姿勢(個人・グループワーク・発表含)30%、課題20%を勘案して総合評価を行うが、欠席時数によっては評価が下がる。					
教科書:書名:「楽しさとおとした心の元気づくりの理論」ーレクリエーション支援の理論と方法ー 適宜レジュメ使用 出版:公益財団法人 日本レクリエーション協会					
備考:理論を実践へと結びつけるため、講義の他グループワークにて演習を行う。 授業中の私語は慎み、積極的に授業に参加すること。					
実務経験の内容・期間:レクリエーション・インストラクター(16年3か月)、福祉レクリエーションワーカー(15年)、レクリエーション・コーディネーター(8年11か月)、スポーツレクリエーション指導者(8年)、音楽レクリエーション(16年)、医療レクリエーション(8年)					

科目名称:英語 I					
担当者名:茶谷 丹久、守屋 哲治					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	演習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010121
<p>授業概要:リスニング、スピーキングの基礎力を養成する。高校までに修得した知識・技能を再確認することから始め、大量の平易な英文を聞いたり話したりする練習を繰り返すことによって、英語の音声に習熟することを目指す。映画・テレビドラマなどのオーセンティックな教材を活用し、日常的な場面において頻出する基本的な表現を学習する。さらに学習した表現を用いて、口頭での簡単なやり取りの練習をする。25名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。</p>					
<p>到達目標:(1) 平易な会話を正確に理解する力を身につける。 (2) 基本的な語彙と構文を用いて自分の考えを口頭的に表現する力を身につける。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ※下の計画は一例。各担当教員の計画は第1回授業で説明する。 授業の概要・進め方等の説明			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第2回 音節			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第3回 強弱リズム(語強勢)			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第4回 日本語のカタカナ語の英語発音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第5回 強弱リズム(文強勢)			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第6回 機能語の強形と弱形			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第7回 強勢移動			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第8回 連結			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第9回 脱落			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第10回 縮約			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第11回 同化			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第12回 音調句			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第13回 イントネーション			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第14回 英語の歌で実践			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第15回 まとめ			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 80~90%、受講態度 10~20%					
教科書:担当者により異なるので、学期初めのガイダンスで指示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:英語Ⅱ					
担当者名:小原 文衛、守屋 哲治					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	演習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010122
<p>授業概要:リーディング、ライティングの基礎力を養成する。高校までに修得した知識・技能を再確認することから始め、大量の平易な英文を読んだり書いたりする練習を繰り返すことによって、英語の書き言葉に習熟することを目指す。新聞・雑誌等のオーセンティックな教材を活用し、日常的な場面において頻出する基本的な表現を学習する。さらに学習した表現を用いて、文章で自分の考えを表現する練習をする。25名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。</p>					
<p>到達目標:(1) 平易な文章を正確に理解する力を身につける。 (2) 基本的な語彙と構文を用いて自分の考えを文章で的確に表現する力を身につける。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ※下の計画は一例。各担当教員の計画は第1回授業で説明する。 授業の概要・進め方等の説明			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第2回 品詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第3回 句と節			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第4回 文の要素と文型			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第5回 第1文型・第2文型			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第6回 第3文型			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第7回 第4文型			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第8回 第5文型			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第9回 文の種類(平叙文・疑問文・命令文・感嘆文)			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第10回 時制			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第11回 進行形			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第12回 完了形			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第13回 助動詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第14回 受動態			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第15回 まとめ			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 80~90%、受講態度 10~20%					
教科書:担当者により異なるので、学期初めのガイダンスで指示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:英語Ⅲ					
担当者名:茶谷 丹久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	演習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010123
授業概要:英語IIに引き続き、リスニング、スピーキングの実践力を養成する。難易度の高い英文を聞いたり話したりする練習を繰り返すことによって、英語の聴解力、発話力をより一層発展させることを目指す。25名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。					
到達目標:(1) 比較的難易度の高い会話を素早く正確に理解する力を身につける。 (2) 比較的難易度の高い語彙と構文を用いて自分の考えを口頭で的確に表現する力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ※下の計画は一例。各担当教員の計画は第1回授業で説明する。 授業の概要・進め方等の説明			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第2回 音節と強弱リズム			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第3回 音声変化			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第4回 英語の音韻体系と発音記号			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第5回 短母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第6回 長母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第7回 二重母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第8回 破裂音 /p/, /b/, /k/, /g/			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第9回 破裂音 /t/, /d/			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第10回 摩擦音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第11回 破擦音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第12回 /l/と/r/			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第13回 半母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第14回 鼻音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第15回 まとめ			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
課題に対するフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 80~90%、受講態度 10~20%					
教科書:担当者により異なるので、学期初めのガイダンスで指示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:英語Ⅳ					
担当者名:竹腰 敦、小原 文衛					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	演習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010124
授業概要:英語Ⅲに引き続き、リーディング、ライティングの実践力を養成する。難易度の高い英文を読んだり書いたりする練習を繰り返すことによって、英語の読解力、文章力をより一層発展させることを目指す。25名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。					
到達目標:(1) 比較的難易度の高い文章を素早く正確に理解する力を身につける。 (2) 比較的難易度の高い語彙と構文を用いて自分の考えを文章で的確に表現する力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ※下の計画は一例。各担当教員の計画は第1回授業で説明する。 授業の概要・進め方等の説明			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第2回 不定詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第3回 動名詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第4回 分詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第5回 名詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第6回 代名詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第7回 冠詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第8回 形容詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第9回 副詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第10回 前置詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第11回 接続詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第12回 関係詞			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第13回 比較			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第14回 仮定法			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第15回 まとめ			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 80~90%、受講態度 10~20%					
教科書:担当者により異なるので、学期初めのガイダンスで指示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(英語) I					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年前期	演習	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010125
<p>授業概要:英語圏の人々が日常生活において実際に使っている英語を集めた教材を用いて英語の総合的運用能力の向上と英語圏の文化の理解を目指す。授業内容の詳細は受講者の関心に合わせるため、第1回授業での話し合いにより決める。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。(上級者向け)</p> <p><授業活動例> 映画・テレビドラマ・歌を利用した聞き取り・発音練習/旅行英会話/各種英文(新聞、小説、漫画、論文)の精読・多読/ディベート/その他</p> <p>* 授業計画欄には近年採用した「映画を題材にした演習(<映画>と表記)」と「小説を題材にした演習(<小説>と表記)」と「新聞を題材にした演習(<新聞>と表記)」の3つの計画を記載した。他の題材を扱う場合の計画については初回授業で決める。</p>					
到達目標:英語圏の文化に対する理解に基づいた、英語によるコミュニケーション能力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 受講者の話し合いによる授業活動の決定			この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。(30)		
第2回 <映画> 0:00~8:00 辺りの場面、<小説> 本文冒頭~10ページ辺り、<新聞> 3月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第3回 <映画> 8:00~16:00 辺りの場面、<小説> 10ページ~20ページ辺り、<新聞> 4月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第4回 <映画> 16:00~24:00 辺りの場面、<小説> 20ページ~30ページ辺り、<新聞> 4月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第5回 <映画> 24:00~32:00 辺りの場面、<小説> 30ページ~40ページ辺り、<新聞> 4月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第6回 <映画> 32:00~40:00 辺りの場面、<小説> 40ページ~50ページ辺り、<新聞> 4月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第7回 <映画> 40:00~48:00 辺りの場面、<小説> 50ページ~60ページ辺り、<新聞> 5月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第8回 <映画> 48:00~56:00 辺りの場面、<小説> 60ページ~70ページ辺り、<新聞> 5月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第9回 <映画> 56:00~64:00 辺りの場面、<小説> 70ページ~80ページ辺り、<新聞> 5月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第10回 <映画> 64:00~72:00 辺りの場面、<小説> 80ページ~90ページ辺り、<新聞> 5月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第11回 <映画> 72:00~80:00 辺りの場面、<小説> 90ページ~100ページ辺り、<新聞> 6月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第12回 <映画> 80:00~88:00 辺りの場面、<小説> 100ページ~110ページ辺り、<新聞> 6月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第13回 <映画> 88:00~96:00 辺りの場面、<小説> 110ページ~120ページ辺り、<新聞> 6月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第14回 <映画> 96:00~104:00 辺りの場面、<小説> 120ページ~130ページ辺り、<新聞> 6月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第15回 まとめ			英作文課題の総復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 80% 授業中の活動・課題 20%					
教科書:なし					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(英語)Ⅱ					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年後期	演習	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010126
<p>授業概要:言葉と文化(英語)Ⅰに引き続き、英語圏の人々が日常生活において実際に使っている英語を集めた教材を用いて英語の総合的運用能力の向上と英語圏の文化の理解を目指す。授業内容の詳細は受講者の関心に合わせるため、第1回授業での話し合いにより決める。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。(上級者向け)</p> <p><授業活動例> 映画・テレビドラマ・歌を利用した聞き取り・発音練習/旅行英会話/各種英文(新聞、小説、漫画、論文)の精読・多読/ディベート/その他</p> <p>* 授業計画欄には近年採用した「映画を題材にした演習(<映画>と表記)」と「小説を題材にした演習(<小説>と表記)」と「新聞を題材にした演習(<新聞>と表記)」の3つの計画を記載した。他の題材を扱う場合の計画については初回授業で決める。</p>					
到達目標:英語圏の文化に対する深い理解に基づいた、英語による実践的コミュニケーション能力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 受講者の話し合いによる授業活動の決定			この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。(30)		
第2回 <映画> 0:00~8:00 辺りの場面、<小説> 本文冒頭~10ページ辺り、<新聞> 9月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第3回 <映画> 8:00~16:00 辺りの場面、<小説> 10ページ~20ページ辺り、<新聞> 9月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第4回 <映画> 16:00~24:00 辺りの場面、<小説> 20ページ~30ページ辺り、<新聞> 10月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第5回 <映画> 24:00~32:00 辺りの場面、<小説> 30ページ~40ページ辺り、<新聞> 10月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第6回 <映画> 32:00~40:00 辺りの場面、<小説> 40ページ~50ページ辺り、<新聞> 10月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第7回 <映画> 40:00~48:00 辺りの場面、<小説> 50ページ~60ページ辺り、<新聞> 10月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第8回 <映画> 48:00~56:00 辺りの場面、<小説> 60ページ~70ページ辺り、<新聞> 11月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第9回 <映画> 56:00~64:00 辺りの場面、<小説> 70ページ~80ページ辺り、<新聞> 11月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第10回 <映画> 64:00~72:00 辺りの場面、<小説> 80ページ~90ページ辺り、<新聞> 11月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第11回 <映画> 72:00~80:00 辺りの場面、<小説> 90ページ~100ページ辺り、<新聞> 11月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第12回 <映画> 80:00~88:00 辺りの場面、<小説> 100ページ~110ページ辺り、<新聞> 12月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第13回 <映画> 88:00~96:00 辺りの場面、<小説> 110ページ~120ページ辺り、<新聞> 12月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第14回 <映画> 96:00~104:00 辺りの場面、<小説> 120ページ~130ページ辺り、<新聞> 12月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第15回 まとめ			英作文課題の総復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:(受講者数10人以下の場合) 授業中の活動・課題 100% (受講者数11人以上の場合) 定期試験 50%、授業中の活動・課題 50%					
教科書:なし					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(中国語) I					
担当者名:呂 夢					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年前期	演習	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010131
<p>授業概要: 初心者を対象に中国語の基礎からはじめる授業である。中国語の特徴、簡体字と繁体字、声調、音節の構造などの基礎的知識を習得し、子音と母音、ピンイン表記の規則、人称代名詞、指示代名詞、常用疑問詞、副詞、形容詞、動詞「是」と「有」の用法を的確に理解して覚える。さらに「話す、聞く、読む、書く」の練習を繰り返すことで勉強内容を記憶に定着させる。</p> <p>中国語圏の社会・歴史・文化にも触れつつ、授業を進めていく。</p>					
<p>到達目標:①発音 ローマ字と声調記号から構成されている中国語のピンインを読める、正しく発音できるようになる。 ②文法 教科書第7課～第15課に収録されている動詞述語文・形容詞述語文に関する基礎的な文法を習得する。 ③作文 既習の文法事項や語彙を使って簡単な単文が書けるようになる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 中国語の基礎知識/ピンインの構造と声調/単母音・複母音			【予習】テキスト「発音編」第1課・第2課を読んでおくこと(30分)。【復習】指定される youtube チャンネルを視聴して、中国語の母音と声調を覚えること(30分)。		
第2回 子音/声調変化/親族名称			【予習】テキスト「発音編」第3課・第4課を読んでおくこと(30分)。【復習】指定される youtube チャンネルを視聴して、中国語の子音を覚えて正確に発音できること(30分)。		
第3回 鼻母音/r化音/数字1-10/人称代詞/あいさつ			【予習】テキスト「発音編」第5課・第6課を読んでおくこと(30分)。【復習】指定される youtube チャンネルを視聴して、中国語の鼻母音を覚えること(30分)。		
第4回 動詞「是」/「吗」疑問文/名前の尋ね方と答え方			【予習】テキスト「文法編」第7課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第5回 動詞述語文/副詞「也」と「都」			【予習】テキスト「文法編」第8課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第6回 「呢」疑問文/「吧」/数字11-99			【予習】テキスト「文法編」第9課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第7回 指示代詞(1)「これ、あれ(それ)」/「的」			【予習】テキスト「文法編」第10課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第8回 第7課～第10課のまとめ/視聴練習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第9回 時点(1)「今日、今週、今月」など/疑問詞疑問文			【予習】テキスト「文法編」第11課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第10回 形容詞述語文/助動詞「想」			【予習】テキスト「文法編」第12課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第11回 所有を表す動詞「有」/量詞/「几」と「多少」			【予習】テキスト「文法編」第13課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第12回 反復疑問文/連動文/指示代詞(2)「ここ、あそこ(そこ)」			【予習】テキスト「文法編」第14課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第13回 100以上の数/金額の言い方/補充語句——量詞			【予習】テキスト「文法編」第15課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第14回 第11課～第15課のまとめ/視聴練習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第15回 授業内容の整理/模擬問題と解説			教科書第1課～第15課の文法・フレーズ・単語をまとめて覚えること(90分)。		
履修に必要な予備知識や技能: 中国語を公用語と定めている国・地域(中国・シンガポール・台湾・香港・マカオ)の文化に関する初歩的な知識を持ち、第2外国語を勉強する意欲がある。					
<p>課題に対してのフィードバック: 授業連絡、補充資料・課題の配信は Google Classroom を利用する。 毎回授業の後にGoogle Classroom に語彙・文型の練習などの課題を掲示する。 受講者からの提出物に対する評点とフィードバックコメントを翌週授業の前に返却する。</p>					
評価方法・基準: 定期試験 60% 課題 30% 受講態度(授業への参加度)10%					
教科書: 教科書: 杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語 46回』、白帝社、2022年。					
備考:					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:言葉と文化(中国語)Ⅱ					
担当者名:呂 夢					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年後期	演習	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010132
授業概要:「言葉と文化(中国語)Ⅰ」で習得した品詞や構文の知識を再確認し、さらに語彙や表現のパターンを増やす。連用修飾語や連体修飾語になる形容詞・動詞・前置詞・副詞の用法に重点を置き、名詞述語文・主述述語文の基本語順、時点と時間量の表現、時制とアスペクトに関する基本的な文法事項の習得を目指す。音読、聴き取り、書き取り、会話などの練習を通して中国語の基礎力をつける。					
到達目標:①発音 中国語の単語・簡単な単文を正確に読めるようになる。 ②文法 教科書第16課～第26課に収録されている中国語の過去形・現在形・未来形の時制表現を理解できるようになる。また、連用修飾語・連体修飾語の基本的な使い方を確実に身につける。 ③作文 既習の文法事項や語彙を使って作文ができるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 言葉と文化(中国語)Ⅰの復習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第2回 選択疑問文/名詞の修飾			【予習】テキスト「文法編」第16課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第3回 前置詞“在”/動詞の重ね型			【予習】テキスト「文法編」第17課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第4回 方位詞/存在を表す動詞“在”と“有”			【予習】テキスト「文法編」第18課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第5回 文末の“了”/年齢の尋ね方/名詞述語文			【予習】テキスト「文法編」第19課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第6回 時点(2)年月日、曜日/前置詞“跟”			【予習】テキスト「文法編」第20課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第7回 時点(3)時刻/主述述語文			【予習】テキスト「文法編」第21課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第8回 第16課～第21課のまとめ/視聴練習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第9回 動詞の後の“了”/副詞“就”と“才”			【予習】テキスト「文法編」第22課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第10回 経験の“过”/動作量補語			【予習】テキスト「文法編」第23課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第11回 疑問詞“怎么”/疑問詞のまとめ			【予習】テキスト「文法編」第24課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第12回 時間量/時間量補語			【予習】テキスト「文法編」第25課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第13回 前置詞“从”“到”“离”/二重目的語			【予習】テキスト「文法編」第26課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第14回 第22課～第26課のまとめ/視聴練習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第15回 授業内容の整理/模擬問題と解説			教科書第16課～第26課の文法・フレーズ・単語をまとめて覚えること(90分)。		
履修に必要な予備知識や技能:「言葉と文化(中国語)Ⅰ」を履修済み、ピンイン表記の規則、動詞述語文・形容詞述語文に関する基礎的な文法を身につけている。					
課題に対してのフィードバック:授業連絡、補充資料・課題の配信は Google Classroom を利用する。 毎回授業の後にGoogle Classroom に語彙・文型の練習などの課題を掲示する。 受講者からの提出物に対する評点とフィードバックコメントを翌週授業の前に返却する。					
評価方法・基準:定期試験 60% 課題 30% 受講態度(授業への参加度)10%					
教科書:教科書:杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語 46 回』、白帝社、2022 年。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:医療英語					
担当者名:ローリー・ウェスリー					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	演習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010126
授業概要:医療現場で必要とされる基本的な英語医学用語を学び、薬品や医療用具の注意書きなどの英語で書かれた情報を正しく理解できることを目指すとともに、医学論文を読み書くための基本的な技術についても学ぶ。また、外国人患者と必要なコミュニケーションをとることができるよう、英語を使うときの心構えや外国人と接するときのマナー等についても理解し、国際的な視野を拓かれるよう学習する。本授業では、そのための基礎となる英語力の獲得を目標に、医療・看護で使われる基本的な語彙とそれらを使った表現・会話を学ぶ。					
到達目標:医療・看護の現場で役立つ基本的な会話が必要に応じて使えるようになる。 医療・看護の専門用語のうち、基本的な語彙を理解できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 コース全体の説明/各回共通内容についての説明(発音練習、動詞の学習)/基礎英語力小テスト1/身体の部位名			英語で自己紹介を書く準備、G1動詞、主な身体の部位名(基本)(60)		
第2回 発音と基本動詞の練習/基礎英語テスト返却と解説/身体の部位名の復習/身体の部位名(内臓含む)のテスト練習			予習:G2動詞、主な身体の部位名(内臓含む) 復習:前回の授業内容(60)		
第3回 発音と基本動詞の練習/身体の部位名(内臓含む)の復習(口頭にて)/身体の部位名(内臓含む)の小テスト2/聞き直しの表現/初診の外来患者に使う表現/生活習慣に関する表現			予習:G3動詞、聞き直しの表現、初診の外来患者に使う表現、生活習慣に関する語彙と表現の予習 復習:前回の授業内容(60)		
第4回 発音と基本動詞の練習/身体の部位名(内臓含む)の復習/家族と血縁関係について/患者の病歴、痛み、症状についての表現			予習:G4動詞、家族と血縁関係、基本問診と病歴、痛みと症状について 復習:前回の授業内容(60)		
第5回 発音と基本動詞の練習/院内設備を案内する表現/語彙(-ology、-ics)/診療科名と病棟について			予習:G5動詞、院内設備を案内する表現 復習:前回の授業内容(60)		
第6回 発音と基本動詞の練習/主な診療科名の復習と小テスト3/よくある症状と病気/ロールプレイ(患者と看護師)/語彙(-itis、-osis)			予習:G6動詞、診療科名と病棟に関する小テストの準備 復習:前回の授業内容(60)		
第7回 発音と基本動詞の練習/主な診療科名と病棟の復習/よくある症状と病気の復習/ロールプレイの練習/患者の基礎情報と基礎的な検査について			予習:G7動詞、Chapter 8「基礎情報」 復習:前回の授業内容(60)		
第8回 発音と基本動詞の練習/役に立つ英語表現/身体の部位と内臓の復習/語彙(-ology、-ics)の復習/語彙(-itis、-osis)の復習/よくある症状の復習/生徒同士で英語表現を確認/院内設			予習:G8動詞、中間試験に向けて準備を始める 復習:前回の授業内容(120)		
第9回 発音と基本動詞の練習/患者との会話で役に立つ表現(褒め言葉など)/中間試験			復習:中間試験に向けた学習、よくある症状(宿題)を完成させる(60)		
第10回 発音と基本動詞の練習/中間試験返却と解説/患者の基礎情報と基礎的な検査の復習/救急患者/救急処置/事故と急病の語彙/救急外来/カラーコード			予習:G9動詞、Chapter 6「救急患者」(60)		
第11回 発音と基本動詞の練習/救急医療に関する小テスト4/検査前に使える役立つ表現/一般的な検査/検査での会話例の練習/検査で役に立つ英文法			予習:G10動詞、Chapter 10「精密検査」 復習:前回の授業内容(60)		
第12回 発音と基本動詞の練習/検査に関する小テスト5/会話実技テスト(ロールプレイ)の準備開始、会話の場面設定を考える、会話文作成(日本語、英語)			予習:G11動詞 復習:G10動詞、検査で役に立つ表現、「検査用の便利な文法表現」の復習と完成、第12回に実施するテストのための学習(60)		
第13回 発音と基本動詞の練習/小テスト5の返却と解説/会話実技テストにおける場面設定と会話の流れを決定し、会話文を英語で仕上げる/会話の練習			予習:G12動詞 会話実技テストのためパートナーと英語で会話文を準備、作成(60)		
第14回 会話実技の発表と評価、期末試験に向けて学習			パートナーと会話実技テストの練習(60)		
第15回 会話実技の発表と評価、期末試験の説明と学習			期末試験に向けて学習(120)		
履修に必要な予備知識や技能:英語の基礎学力(英検3級程度)、国際化する医療の現場で役立ちたいという学習動機					
課題に対するフィードバック:提出物や小テスト、中間試験は採点后に返却します。復習に役立ててください。					
評価方法・基準:期末試験(30%)、受講態度・会話の実技テスト・提出物(25%)、中間試験(20%)、小テスト1?5(合計25%)					
教科書:教科書:現場ですぐに役立つ!看護・医療スタッフの英語 山中マーガレット著(朝日出版社) 参考書:授業時に適宜紹介する。					
備考:備考:第1回から第13回まで毎回、英語の発音と医療用動詞の表現を練習します。教科書と辞書は必ず持参してください。スマホは使用禁止です。ただし第12回と第13回は、リサーチのためにスマホを含むデバイスを持参し使用することを認めます。学習効果を高めるため、日頃から教科書付属CDを聴いて発音やリズムを真似ながら声に出して練習することをお勧めします。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:情報処理演習					
担当者名:川邊 弘之、齊藤 実祥					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	演習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010141
授業概要:「情報の処理及び表現の能力」「問題解決能力」の習得を目的に、いくつかの問題解決技法と問題解決のための表計算ソフトウェア利用技術の習得を目標に、以下の内容で授業を展開する。表計算ソフトウェアの基礎、データベースの操作、アンケートの集計、グラフによるデータの可視化、回帰分析によるデータの推定、投票による社会的選択、階層分析法による意思決定、モンテカルロシミュレーション。					
到達目標:1回から2回で完了するようなテーマを設定した演習により、情報の処理及び表現の能力が身につく。また、問題解決のための手法を理解し、表計算ソフトウェアを道具として使えるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要解説、学内ネットワークの利用、情報セキュリティ、教材配布			PCの操作法を思い出しておくこと(15)。USBメモリを用意しておくこと。		
第2回 作表と印刷			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、操作法の予習をしておくこと(15)。		
第3回 表の外見とデータの書式			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、表の外見や書式の種類について理解しておくこと(15)。		
第4回 計算			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、計算機能の特徴について把握しておくこと(15)。		
第5回 データベース			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、データベースについて調べておくこと(15)。		
第6回 アンケート集計(1)コード化と集計表			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、アンケート調査法について調べておくこと(15)。		
第7回 アンケート集計(2)関数によるデータ件数の集計			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。また、関数機能について再確認しておくこと(15)。		
第8回 アンケート集計(3)フィルタ機能によるデータ件数の集計			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。また、データベース機能について再確認しておくこと(15)。		
第9回 集計表(条件付き合計)			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。また、関数機能について再確認しておくこと(15)。		
第10回 グラフ表現によるデータの可視化			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。グラフの種類と使い分けについて調べておくこと(15)。		
第11回 回帰分析によるデータの推定			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、回帰分析について調べておくこと(15)。		
第12回 移動平均による平滑化			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、移動平均について調べておくこと(15)。		
第13回 判別分析による意思決定			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、判別分析について調べておくこと(15)。		
第14回 モンテカルロシミュレーション			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、モンテカルロシミュレーションについて調べておくこと(15)。		
第15回 微分方程式の数値計算			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、コンピュータでの数値計算について調べておくこと(15)。		
履修に必要な予備知識や技能:PCの操作法を思い出しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:演習課題の成果物は点検・添削された後、次回以降の授業で返却されます。					
評価方法・基準:課題演習レポートでの評価を90%とし、残りを授業への参加状況等で評価する。					
教科書:自作の電子テキストを使用する。					
備考:課題演習では、学生間でのディスカッション・相談を歓迎する。課題が完成した学生が他の学生のサポートを行うことも構わない。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:基礎演習 I (スタディスキル)					
担当者名:北山 幸枝、舞谷 邦代、野上 睦美、今田 倫佳、大村 裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	講義・演習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010151
<p>授業概要:全体での講義・演習や主として、少人数による演習形式を用い、高校までの学習姿勢から、大学における自主的学習姿勢へ移行するためのオリエンテーション的機能を果たす。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成を主たる目的とする。本演習は、初年次教育の位置づけであるが、アクティブ・ラーニング形式の学習によって、問題点(課題)の発見と整理・討議・調査・発表等を体験し、大学での学習に必要な基礎的スキル(リーディング・ライティング・プレゼンテーション能力)を身につける。また、看護職を目指す学生の持つ興味・関心を増幅し深めることによって、知的活動の動機づけ、能動的な学習意欲を高める。さらに臨地実習に向かうための準備学習をする。必要な資質・能力を育成・評価の実施のためのパフォーマンス課題の設定からパフォーマンス評価を行う。</p>					
<p>到達目標:1. 大学での学習の前提として必要な知識・技能を修得する。 2. 看護学部の学生として、文献抄録・レポート作成・プレゼンテーション等の基礎知識を学び、適切なコミュニケーションや 能動的な学び方を身につけることができる。 3. 自分の思考過程を客観視し、考えを効率よく、わかりやすくまとめる能力を養うことができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 科目ガイダンス、履修登録の確認、初年次教育～大学で学ぶとは① アクティブラーニング、時間割の組み立て、授業の受け方、Web シラバス、訪室マナー等			履修登録内容を確認する、テキストの第0章を読んでおく。(30)		
第2回 初年次教育～大学で学ぶとは② 1.各学生時間割表配布、履修登録の修正(教学支援部と確認)、大学図書館の利用、ユニバーサルパスポート			テキストの第7章を読んでくる。履修登録の修正、大学図書館の登録を済ませる。(60)		
第3回 1. ノートの整理の仕方 2. ネット上のコミュニケーション術 3. 看護におけるコミュニケーションスキルの基礎			テキストの第1章、p.58-59, 112, 114 を読んでくる。(30)		
第4回 研究室訪問のマナー、Eメールのマナー、「読む」スキル①			テキストの第2章、p.113 を読んでくる。(20)適切なEメールを作成し送受信する。(20)		
第5回 1.「読む」スキル② 資料の読み方:大学で読む文章、論証的文章など 2. 保健室について 感染症・抗体価検査の説明			テキストの第3章を読んでくる。4月の健診・採血結果を確認、ファイリングし、予防接種等の計画を行う。(20)		
第6回 「書く」スキル① レポートの書き方、文章構成 ★課題の提示			テキストの第4章を読んでくる。(30)		
第7回 「書く」スキル② レポート作成			テキストの第5章と、p.96-101 を読んでくる。(30)		
第8回 1. グループワークのすすめかた 2. 研究室訪問についての概略、準備			適切に研究室訪問のアポイントがとれる。(30)		
第9回 1. 研究室訪問に向けての計画立案および評価表について(GW) 2. 「プレゼンテーション」スキル			テキストの第9章と、p.108-111 を読んでくる。(30)		
第10回 研究室訪問の実施と発表準備(GW)①、ピアレビュー(次週)の説明			研究室訪問の実施、インタビュー内容をまとめる、発表準備(資料作成と役割分担)、ピアレビューの目的や方法を理解する。(60)		
第11回 研究室訪問の実施と発表準備(GW)②、ピアレビュー			研究室訪問の実施、発表準備(資料作成と役割分担)、ピアレビューを行い、他のグループの意見をもとに、発表用のP.Pの修正を行う。(180)		
第12回 研究室訪問の発表①(前半グループ)			発表終了後のグループは発表後の修正、発表前のグループは発表の準備(60)		
第13回 研究室訪問の発表②(後半グループ) ※第12回と同日、2講時続けて行う			発表後の修正(20)		
第14回 1. 課題レポートのフィードバック 2. 国家試験に向けての計画と準備、学修方法 3. 定期試験に関する注意事項			国試に向けた学修方法について計画を立てる。(30)		
第15回 国試模擬試験の実施、授業のまとめ(授業アンケート含む)			国試に向けた事前学習(解剖・生理を中心として)(90)		
履修に必要な予備知識や技能:集団の中で関わり合う人としてのルール、礼儀、節度など 目上の人との対応					
課題に対するフィードバック:課題に関するレポート作成については、レポートの評価を授業中にフィードバックする。研究室訪問の発表については、各教員から講評を受ける。					
評価方法・基準:3分の2以上の出席をしていること。レポート課題(20%)、プレゼンテーション内容、研究室訪問時のアポイント・態度等(20%)、各単元での目標到達度:確認小テスト、受講態度(60%)により総合的に判断する。					
教科書:『大学生学びのハンドブック』世界思想社					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:基礎演習Ⅱ(プロフェッショナルスキル)					
担当者名:金谷雅代、境 美砂子、梶井敬子、大村裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義・演習	必修	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		71010152
<p>授業概要:「基礎演習Ⅰ」で習得した知識・技能を応用し、授業(講義・演習・グループワーク・個人ワーク)ではアクティブ・ラーニング形式(Think-Pair-Share)の中で、スタディスキル・キャリアデザイン・プロフェッショナルスキルと段階的に修得できる。特に、2年次から本格的に始まる専門分野の学習と研究に必要な読解能力、言語運用能力、調査能力、コミュニケーション技法、プレゼンテーション能力などを身につける。必要な資質・能力を育成・評価の実施のためのパフォーマンス課題の設定からパフォーマンス評価を行う。教材には、看護に関係した題材を用い、担当教員があらかじめテーマを設定する。「基礎演習Ⅰ」・「基礎演習Ⅱ」は初年次教育と位置づけており、学生は与えられた課題から自ら問題点を考えて整理し、討論や発表することによって、大学の専門教育を学習するための能動的意欲を養う。</p>					
<p>到達目標:1. 基礎演習Ⅰ(スタディスキル)で得られた知識・技能の基礎的応用ができる。 2. グループディスカッションにより自らの気づきを促進し、積極的な発言や意見の集約ができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 基礎演習Ⅱ(プロフェッショナルスキル)の概要説明、履修登録の説明、社会人基礎力とは			基礎演習Ⅰ(スタディスキル)で学んだことを復習する(60)、社会人基礎力について講義での学びを復習し、不明点を調べ確認する(30)		
第2回 履修登録の確認(時間割・学生便覧を用いて)、情報リテラシー①<SNSのメリット・デメリット、ソーシャルリテラシー、情報倫理>			SNSのメリット・デメリットについて調べる(30)、講義およびグループワークで学んだことを活かし、自分のSNSの活用における課題と今後の対応を整理する(60)		
第3回 情報リテラシー②<大学生として身につけるべきリテラシー、情報の種類・活用方法>			情報にはどのような種類があるのか調べる(30)、講義およびグループワークで学んだことを活かし、情報リテラシーに関する課題レポートを作成する(60)		
第4回 リーディングスキル①<論理的に読むスキル>			リーディングにおける自己の課題を考える(30)、講義およびグループワークで学んだことを活かし、論理的に読むための自己の課題を明確化する(60)		
第5回 リーディングスキル②<クリティカルリーディング・クリティカルシンキング>			クリティカルの意味を調べる(30)、講義およびグループワークで学んだことを活かし、短い読み物を読む(60)		
第6回 ライティングスキル①<読みもの(作文・レポート・論文など)の違い、文章の構成>			読みものにはどのような種類があるか調べる(30)、講義およびグループワークで学んだことを活かし、自分が書いた文章を校正してみる(60)		
第7回 ライティングスキル②<正しい引用、引用の実例>			引用とは何かを調べる(30)、講義およびグループワークで学んだことを基に、引用するときの留意点をまとめる(60)		
第8回 ライティングスキル③<引用の実際>			引用の実際に取り組むため、関心ある読み物を探す(30)、講義およびグループワークで学んだことを活かし、引用の課題を完成する(60)		
第9回 キャリアデザイン①			これまでの人生を振り返ってみる(30)、講義およびグループワークで学んだことを活かし、ワークシートを完成する(60)		
第10回 キャリアデザイン②			キャリアデザインとは何か調べる(30)、講義およびグループワークで学んだことを活かし、キャリアデザインマップのアウトラインを完成する(60)		
第11回 パソコンの使用方法、Power Pointの使用方法、第14回発表の概要と発表テーマの説明			基礎演習Ⅰのパソコン利用に関する講義を復習する(30)、Power Pointの課題を完成する(60)		
第12回 プレゼンテーション①<資料作成の留意点、スライド・原稿・ハンドアウトの作成>			Power Point資料を見てわかりやすいスライドとは何か考える(30)、ハンドアウトの課題を完成する(60)		
第13回 プレゼンテーション②<発表の留意点>、第14回発表要項・発表の評価基準の説明			発表における自己の課題を考える(30)、発表用スライド・ハンドアウトに取り組む(60)		
第14回 「私のキャリアデザインマップ」発表			他者の発表から学ぶ点をまとめ、自己の発表を振り返り、改めて自分自身のキャリアデザインマップについて整理する(90)		
第15回 発表の講評、基礎演習Ⅱのまとめ・振り返り			本科目で習得した知識・技能について整理する(90)		
履修に必要な予備知識や技能:大学での学習に必要な基礎能力を習得するための科目です。基礎演習Ⅰで得られた知識や技能を復習してください。担当教員からの事前課題は必ず行ってください。個人ワークやグループワークでは、その必要性を理解することと、特に自分の考えを明確化し、積極的な発言ができるように準備してください。また、ラーニングcommons(図書館・コンピュータ、ネットワークなど)を積極的に活用してください。					
課題に対してのフィードバック:演習課題などについては、点検・添削した後に、次回以降の授業で講評・解説します。					
評価方法・基準:小テスト・テスト 30% レポート 40% 発表 30%					
教科書:教科書:前原澄子ほか監修、梶谷桂子ほか編集『よくわかる大学での学び方第2版』、金芳堂、2020年					
備考:高校の教育から大学教育に移行していくための重要な科目です。本科目は演習科目であることから、One wayの講義ではなく、グループワークや質問をします。個人ワークやグループワークでは、特に考えを明確化し、積極的に取り組み、発言してください。小テスト・提出物の締切を厳守して下さい。正当な理由なき提出遅れは、採点は行いますが配点は0点とします。					
実務経験の内容・期間:金谷雅代(看護師10年) 境美砂子(看護師10年) 梶井敬子(助産師9年) 大村裕佳子(看護師10年)					

科目名称: ボランティア入門					
担当者名: 河野泰治					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	必修	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010101
<p>授業概要: ボランティアの本質は、主体性に基づく活動による「共感しあう社会づくり」にあるといえる。今日においては、ボランティア・市民活動として、多様な分野で取り組みがなされており、個別的にも社会的にも大切な役割を担っている。この科目では、ボランティアの思想と歴史、そして役割及び意義、今日的課題にいたるまで学習する。同時に、ボランティア活動の具体的事例を織り交ぜながら学ぶことにより、活動への参加意欲を高めたい。</p>					
<p>到達目標: ボランティアの本質は、主体性に基づく活動による「共感しあう社会づくり」にあるといえる。今日においては、ボランティア・市民活動として、多様な分野で取り組みがなされており、個別的にも社会的にも大切な役割を担っている。この科目では、ボランティアの思想と歴史、そして役割及び意義、今日的課題にいたるまで学習する。同時に、ボランティア活動の具体的事例を織り交ぜながら学ぶことにより、活動への参加意欲を高めたい。これらにより、ボランティアの思想と歴史、そして役割及び意義、今日的課題に至るまで理解できるようになる。か</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			書籍や新聞、インターネットを活用しながら、日本・海外のボランティア活動の活動種別や活動先・活動者数などについて調べ、現状を大まかに把握しておくこと(60)		
第2回 現代社会とボランティア① 現代におけるボランティアの捉え方・考え方			前回配布プリント「活動の種類と内容」について、書籍や新聞、インターネットを活用しながら、活動内容や活動者数の推移などの今日的動向を把握しておくこと(30)		
第3回 現代社会とボランティア② 日本のボランティア活動者数・活動内容			前回配布プリント「現代社会におけるボランティアの捉え方と考え方」について、活動内容や活動先の推移を踏まえつつ現代社会における存在意義と役割について把握しておくこと(30)		
第4回 ボランティアの歴史① 中世から現代まで			前回配布プリント「日本の活動者数と活動内容」について、内閣府の国民調査データを参考に、活動内容や活動先の推移を把握しておくこと(30)		
第5回 ボランティアの歴史② 中世から現代まで			前回配布プリント「中世から戦前における海外 volunteer」について、中世欧州と戦前日本における双方のボランティアの意味の違いについて把握しておくこと(30)		
第6回 ボランティアの理念と思想① ボランティアと慈善			前回配布プリント「戦後における海外 volunteer・日本ボランティア」について、福祉だけではなく環境保護、スポーツ文化の振興など他領域にわたり活動している現状を理解しておくこと(30)		
第7回 ボランティアの理念と思想② ボランティアと慈善			前回配布プリント「ふたつのボランティア」について、利他の基礎となる内部概念「主義主義」と、外部概念「自由な寄付行為」の双方について理解しておくこと(30)		
第8回 ボランティアと関連領域① ボランティアセンター			前回配布プリント「慈善とチャリティ」について、慈善活動の萌芽となった英国でのチャリティ組織活動(COS)と日本の慈悲活動(四箇院・光明皇后)の概要について把握しておくこと(30)		
第9回 ボランティアと関連領域② 特定非営利活動(NPO)法人			前回配布プリント「ボランティアセンター」について、その機能と役割・現場での活動内容を、書物や新聞、インターネットを活用しながら、具体的に理解しておくこと(30)		
第10回 ボランティアと関連領域③ 関連する政策、企業の社会貢献等			前回配布プリント「NPO法人の概要」について、現代社会における役割と意義をはじめ、北陸地方の許認可数と活動内容、法人が抱える問題と課題などについて把握しておくこと(30)		
第11回 具体的なボランティア活動の紹介			前回配布プリント「関連政策と企業の社会貢献」について、90年代の日本におけるフィランスロピー・メセナから、現代社会における企業活動の概要、そして実態の差について把握しておくこと(30)		
第12回 災害支援ボランティア			前回配布プリント「活動の実際」について、北陸地方のボランティア活動先や活動者数などについて把握しておくこと(30) 東日本大震災と熊本地震について理解しておくこと(30)		
第13回 ボランティア実践事例(理学)			前回配布プリント「災害支援」について、東日本大震災や熊本地震など実際と関わらせながら活動の意義と課題などについて把握しておくこと(30)		
第14回 ボランティア実践事例(作業)			理学領域におけるボランティア活動について、具体的な活動に結び付けられるように理解を図ること(30)		
第15回 ボランティア実践事例(看護) まとめ 課題と展望			作業と看護領域におけるボランティア活動について、具体的な活動に結び付けられるように理解を図ること(30×2) 全ての授業範囲を把握しておくこと(90)		
履修に必要な予備知識や技能: 調整中					
1 毎回、配布～学習したプリントをもとに復習して理解できるようになる。					
2 ボランティア関連書籍などにより、日本のボランティア活動の現状(活動者数や活動領域など)について理解できるようになる。					
3 災害支援ボランティア活動に関して、新聞や書籍、インターネットなどにより調べて把握できるようになる。					
課題に対してのフィードバック: 調整中					
授業内で実施したミニツーパーや簡易テストなどについては添削・返却するが、試験問題・用紙は返却しない。					

評価方法・基準:調整中 定期試験 70% ミニッツペーパーと簡易テスト 20% 受講態度 10% ※無断欠席の場合は欠席回数分を減点する
教科書:調整中
備考:
実務経験の内容・期間:1 市社会福祉協議会ボランティアセンター (20年)

科目名称: ボランティア活動 I					
担当者名: 内 慶瑞 今田倫佳 野上睦美 梶井敬子 荒木由希 斉藤実祥					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年通年	実習	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010102
<p>授業概要: 学生が参加したボランティア活動について、科目担当教員等によって構成されるボランティア活動担当者連絡会議に、活動レポートが提出されたものを単位認定対象とする。一定の活動内容、活動時間等の要件を満たすことが確認された場合に、成績の評価、単位の認定を行う。ボランティア活動 I では、多様な活動への参加を促すよう、広範なボランティア活動について、単位認定を行う。</p>					
<p>到達目標: 社会福祉施設・病院・団体の行事や、児童育成、健康保健、自然保護などの各種活動への参加を通して、ボランティア活動の意義と役割を体験的に理解できるようになる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>1 年間を通して、述べ5日間以上のボランティア活動(以下「活動」)に取り組み、事後に所定のレポートを提出する。</p> <p>2 活動分野は、福祉・保健・医療分野に限らず地域活動・社会貢献活動全般を対象とする。 (ただし、金員授受を目的とするアルバイト的要素のある活動は認めない)</p> <p>3 活動日は、活動受入先と履修学生の都合により自由であるが、レポートは所定の手順に従い提出する。(別途説明会あり)</p> <p>4 活動時間の単位認定要件</p> <p>1) 年間を通して「5日間以上」の活動を行う。</p> <p>2) 活動時間が、およそ5時間以上の場合は「1日扱い」とし、3時間程度は「半日扱い」とする。 (判断がつきにくい活動時間の取扱いについては、活動内容を考慮しながら判断する)</p> <p>3) 合宿やキャンプなど宿泊を伴う活動の場合は「1.5日扱い」とし、2泊するなど翌日も午後まで活動した場合は「2.5日扱い」とする。</p>			<p>事前学修 活動前に、活動受入側の事業・活動などの概要を理解し、同時に活動目的と内容、活動に臨む際の心構えやルール、マナー等の基本的態度についても、事前に理解・把握しておくこと(30)。また、ボランティア活動保険について理解し、活動日までに必ず加入を済ませておくこと(別途説明会あり)</p> <p>事後学修 活動後は、速やかに所定のレポートに、反省点や疑問点、課題、提案事項などについてまとめて記すこと(30)</p>		
履修に必要な予備知識や技能: 履修に必要な予備知識や技能: 活動予定先の概要や活動内容・ルールについて事前に把握して理解できるようにする。					
課題に対するのフィードバック: 年度を通して提出されたレポートは、年度末に一括評価するが、返却はしない。なお、記載不備や表記不十分な点などについては、適宜、担当教員からの指導が行われる場合がある。					
評価方法・基準: 所定のレポートにより担当教員が評価する 100% ※ 詳細は、上記「講義計画」に記載					
教科書: 使用テキストはしたが、ボランティアに関する新聞や雑誌、書籍、メディア、インターネットなどを活用すること					
備考: 諸事情により途中で履修を取り消す場合は、教学支援部掲示板にて自分の担当教員を確認のうえ、修学指導担当教員に取消許可・承認を得ること					
実務経験の内容・期間: 1 実務経験の内容・期間: 全国ボランティア活動振興センター ボランティアコーディネータープログラム教材開発委員(2年) 2 市社会福祉協議会ボランティアセンター ボランティアコーディネーター・福祉活動専門員(10年)					

科目名称: ボランティア活動Ⅱ					
担当者名: 内 慶瑞 道券夕紀子 荒木由希 調整中					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年通年	実習	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010103
授業概要: ボランティア活動Ⅱでは、ボランティア活動Ⅰでの体験を基に、個々の学生の学習目標に応じて選択した、継続的な活動を含むボランティア活動について、単位の認定を行う方針である。					
到達目標: 社会福祉施設・病院・団体の行事や、児童育成、健康保健、自然保護などの各種活動への参加を通して、ボランティア活動の意義と役割を体験的に理解できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>1 年間を通して、定期的もしくは継続的な、同じ活動先でのボランティア活動(以下「活動」)に取り組み、事後に所定のレポートを提出する。</p> <p>2 活動分野は、福祉・保健・医療分野に限らず地域活動・社会貢献活動全般を対象とする。 (ただし、金員授受を目的とするアルバイト的要素のある活動は認めない)</p> <p>3 活動日は、活動受入先と履修学生の都合により自由であるが、レポートは所定の手順に従い提出する。(別途説明会あり)</p> <p>4 活動時間の単位認定要件</p> <p>1) 活動が、「定期的」もしくは「継続的」であること</p> <p>2) 活動先が同一であること</p> <p>3) 活動時間については、ボランティア活動Ⅰの基準を適用する</p>			<p>事前学修 活動前に、活動受入側の事業・活動などの概要を理解し、同時に活動目的と内容、活動に臨む際の心構えやルール、マナー等の基本的態度についても、事前に理解・把握しておくこと(30)。また、ボランティア活動保険について理解し、活動日までに必ず加入を済ませておくこと(別途説明会あり)</p> <p>事後学修 活動後は、速やかに所定のレポートに、反省点や疑問点、課題、提案事項などについてまとめて記すこと。また、活動予定先の組織・事業における、今後の展望や課題についても考察すること(30)</p>		
履修に必要な予備知識や技能: 履修に必要な予備知識や技能: 活動予定先の概要や活動内容・ルールについて事前に把握して理解できるようになる。					
課題に対してのフィードバック: 年度を通して提出されたレポートは、年度末に一括評価するが、返却はしない。なお、記載不備や表記不十分な点などについては、適宜、担当教員からの指導が行われる場合がある。					
評価方法・基準: 所定のレポートにより担当教員が評価する100% ※ 詳細は、上記「講義計画」に記載					
教科書: 使用テキストなしだが、ボランティアに関する新聞や雑誌、書籍、メディア、インターネットなどを活用すること					
備考: 備考: 諸事情により途中で履修を取り消す場合は、教学支援部掲示板にて自分の担当教員を確認のうえ、修学指導担当教員に取消許可・承認を得ること					
実務経験の内容・期間: 1 実務経験の内容・期間: 全国ボランティア活動振興センター ボランティアコーディネータープログラム教材開発委員(2年) 2 市社会福祉協議会ボランティアセンター ボランティアコーディネーター・福祉活動専門員(10年)					

科目名称: データサイエンス					
担当者名: 川邊 弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010119
<p>授業概要: AI(Artificial Intelligence)、IoT(Internet of Things)等の情報通信技術(ICT)の導入が急速に進展し、情報リテラシーの教育は新たな倫理観も含め必要である。本講義では、データサイエンスの基本的概念およびデータの収集・管理(倫理観を含む)・分析の基礎知識、数理的思考を身につける。統計学的な考えを活用し、データ分析・活用の手法を理解するとともに、データサイエンスの具体事例(医療保健データなど)を通じて、社会におけるデータの分析・活用についても理解する。本講義では、ICTを活用した分析等に関連するレポートの作成を通して学びを深める。主として、データを適切に収集および管理できること、データ収集と管理に関する知識を活用し、データ分析に役立てること、さらに、データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念を理解することができる。</p>					
<p>到達目標: データを適切に収集および管理できる。 データ収集と管理に関する知識を活用し、データ分析に役立てることができる。 データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 イントロダクション、授業の説明、現代社会におけるデータサイエンス(1): データサイエンスの役割			「情報処理演習 I」の内容を再確認する(30)		
第2回 現代社会におけるデータサイエンス(2): データ分析のためのデータの取得と管理			データの取得・管理と個人情報の保護に関して、どのような社会問題が生じているか調べる(30)		
第3回 データ分析の基礎(1): ヒストグラム/箱ひげ図/平均と分散			高等学校「数学」での統計的な内容を再確認する(30)		
第4回 データ分析の基礎(2): 散布図と相関係数/回帰直線/データ分析で注意すべき点			サンプルデータでデータ分析してみる(90)		
第5回 データサイエンスの手法(1): クロス集計/回帰分析/ベイズ推論/アソシエーション分析			「データサイエンスの手法」に関する教科書の該当部分を精読し、理解できない部分を抜き出しておく(90)		
第6回 データサイエンスの手法(2): クラスタリング/決定木/ニューラルネットワーク/機械学習と人工知能(AI)			手法の得手・不得手をまとめる(60)		
第7回 データサイエンスの応用事例: マーケティング/金融/品質管理/画像処理/音声処理/医学			あなたの専門分野でのデータサイエンスの応用事例を調べる(30)		
第8回 まとめ			今後、データサイエンスは社会でどのように使われるようになるか、考察する(30)		
履修に必要な予備知識や技能: 「情報処理演習」の履修・単位修得が望ましい。					
課題に対するフィードバック: 課題レポートは評価後、返却します。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、課題レポート 40%					
教科書: 教科書: データサイエンス入門第2版(データサイエンス大系)、竹村彰通他著、学術図書出版社					
備考:					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:統計学					
担当者名:木村 剛					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年後期	講義	選択	1	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010111
<p>授業概要:看護学を含む諸科学では、調査・実験・臨床経験等から得たデータから必要な情報を引き出し、適切にまとめ、提示することが重要である。ここでは、看護学の学習や研究に必要な統計について学ぶ。授業は以下の内容で構成される。1. 統計法の基本概念1(記述統計)2. 相関と重回帰分析3. 正規分布とその性質4. 統計法の基本概念2(推測統計)5. 検定6. 重回帰分析、分割表の検定7. 応用事例とまとめ</p> <p>到達目標:標本調査によって得られたデータから、母集合の統計量を推定できるようになること。また、統計的検定方法を習得し、調査で得られたデータに対して統計的処理を行い、その結果を表現できるようになること。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 統計的なものの見方			Excel による表やグラフの作成、および基本的な関数を使ったデータの集計についての学習(30分)		
第2回 記述統計			記述統計の復習(30分)		
第3回 記述統計演習			記述統計演習の復習(30分)		
第4回 確率			確率の復習(30分)		
第5回 推測統計			推測統計の復習(30分)		
第6回 確率演習			確率演習の復習(30分)		
第7回 統計的仮説検定1(検定の考え方と手順)			検定の復習(30分)		
第8回 統計的仮説検定2(検定統計量と結果の表現)			検定の復習(30分)		
第9回 推測統計演習			推測統計演習の復習(30分)		
第10回 相関と回帰			相関と回帰の復習(30分)		
第11回 クロス集計			クロス集計の復習(30分)		
第12回 統計的仮説検定演習			統計的仮説検定演習の復習(30分)		
第13回 分散分析			分散分析の復習(30分)		
第14回 多重比較検定とノンパラメトリックな手法			多重比較検定とノンパラメトリックな手法の復習(30分)		
第15回 相関・回帰・クロス集計・分散分析演習			相関・回帰・クロス集計・分散分析演習の復習(30分)		
履修に必要な予備知識や技能:Excel による表やグラフの作成、および基本的な関数を使ったデータの集計の学習					
課題に対するフィードバック:演習課題は、添削結果を次回以降の講義内で返却し、講評する。					
評価方法・基準:小テスト(5%)、レポート課題(50%)、定期試験(45%) 但し、講義への参加状況により最大40%まで減点					
教科書:参考書:ナースのための統計学(医学書院)					
備考:なし					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:自然科学 I (生物系)					
担当者名:沖 倫子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010121
<p>授業概要:専門科目の基盤となる生物学の基礎的知識について理解を深める。生物学的なものの方や考え方を身に付け、人体の構造と機能に関わる基礎知識を確実に習得する。さらに、新しい知見についても紹介し、生命現象に対する科学的倫理観を養う。授業は以下の項目から構成される。1. 細胞(構造と機能、化学組成、浸透圧)2. 生体内の化学反応・代謝3. 遺伝のしくみ、細胞分裂と生殖4. 感覚と運動、情報伝達5. 恒常性(体液の循環、肝臓・腎臓)6. ホルモン・自律神経、生体防御</p>					
<p>到達目標:専門科目の基盤となる生物学の基礎的知識について理解を深める。生命現象の本質的な理解を深め、人体の構造と機能に関わる基礎知識を確実に習得する。さらに、新しい知見についても触れ、生命現象に対する科学的倫理観を養う。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 シラバス=レビュー、生命とは			「生命とは何か?」「生物を学ぶ意味について」を考えてくること。生命について考えます。(60)		
第2回 細胞(構造と機能)			細胞の各部の構造と機能から、細胞が生命現象に果たす役割を理解する。教科書を予習。(60)		
第3回 生体を構成している物質			ヒトは水環境ときっても切れない状況の中で生きています。水の他にも生体を構成している物質を学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第4回 代謝のしくみ I (異化)			ヒトは3大栄養素を取り入れてエネルギーを取り出して生きています。代謝の中でも異化について学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第5回 代謝のしくみ I (同化)			ヒトは出来ないが植物は出来るのが水・二酸化炭素から有機物を作る同化です。同化のしくみを学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第6回 生殖			生物は命つきるまで生殖によって子孫を残すことが出来ます。いろいろな生殖について学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第7回 発生のしくみ			一つの受精卵がどのようなしくみで生物個体として特徴的な形態になるかを学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第8回 遺伝の法則			遺伝学は、現在分子レベルでの研究が進められています。メンデルの遺伝に始まり遺伝に関する様々なことを学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第9回 タンパク質の基本的性質			タンパク質はヒトが生きていく上で大切な物質です。ここではタンパク質全般にわたって学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第10回 遺伝子発現とタンパク質合成			遺伝子本体の発現から形質発現のしくみを学び、タンパク質をつくる過程を学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第11回 ヒトの脳と神経系			現在、脳の神経伝達が注目を集めています。興奮の伝達のしくみや感覚の受容器・神経系・効果器を中心に学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第12回 恒常性 I			ヒトの恒常性を担う器官である心臓、腎臓、肝臓を中心に学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第13回 恒常性 II			私達は常にウイルスや細菌などの侵入の危険にさらされています。ヒトの恒常性を担う免疫を中心に学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第14回 恒常性 III			恒常性に深く関わる神経物質であるホルモンと自律神経を中心に学ぶ。教科書を予復習。(60)		
第15回 生命とは何か—医療従事者として科学・医療技術を考える			これまで学んできた生命現象の構造と機能の知識をもとに、医療の現場で必要とされる大切な課題を考える。状況が許せばアクティブラーニング的なアウトプットを考えている。自分なりの考えをまとめてくること。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:これまでの理数系の科目で修得した知識・考え方をよく復習しておく。特に生物学に関する内容をより広く深く身に付けてほしいため、理解が浅いと思われる項目の疑問点を自分なりに振り返ってから授業に臨んでほしい(小テストの結果を参考に、予復習についての学習計画を立てる)。教科書の予復習のページは、授業の進捗に応じて行うこと。					
課題に対するフィードバック:小テスト(各回の開始時に行う)は、その場で自己採点・相互採点を行い不明な点について話し合う。定期試験は、試験後、採点のフィードバック・講評を行った上で、皆さんには学習指針のルーブリックの自己評価をしてもらいます。					
評価方法・基準:定期試験 70% 小テスト(各回の終了時に記入する出席カード)の回答 20% 学習指針を示した「ルーブリック」評価表による自己評価 10%					
教科書:教科書:教養基礎シリーズ まるわかり!基礎生物(小林秀明著 南山堂)※必要に応じて講義プリントを配布し、追加テキストとする。 参考書:ていねいな生物学(羊土社)・やさしい基礎生物学(羊土社)・スクエア最新図説生物(第一学習社)					
備考:高校で学んだことを見直すとともに、むしろ覚えておくべき「教養的内容」にも触れています。毎回の小テストは、授業を聞いていれば答えられる内容です。定期テストの勉強にも繋がります。復習に役立つ内容になっています。					
実務経験の内容・期間:高校教諭(35年)大学非常勤講師(4年)					

科目名称:自然科学Ⅱ(物理系)					
担当者名:木村 剛					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010122
<p>授業概要:物理学の目的は、目の前にある自然現象が従う法則性を見つけ、それを説明することである。そして、自然科学の中でも物理学はあらゆる科学の基礎であり、物理的な考え方を身に付けることは他の全ての分野にも応用できる広範な論理的思考力、および洞察力を養うことにもつながる。本講義では、物理学の中でも特に医療系分野の学生にとって重要な項目に重点を置き、自然の従う法則性の理解を第一としつつ、その法則を適切に説明するための数学的手法の習得を目的とする。</p>					
<p>到達目標:力が働くことで、物体に運動の状態の変化が起こることを理解すること。また、その変化が起こる条件や変化の度合いを、定量的に表現できるようにすること。波動と振動、電気と磁気的基本的な特徴を表現できるようにすること。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 物理量の測定と単位			SI単位による物理量の表し方についての学習(30分)		
第2回 質点の運動(時刻と位置から速度・加速度)			質点の運動(時刻と位置から速度・加速度)の復習(30分)		
第3回 質点の運動(時刻と加速度・速度から位置)			質点の運動(時刻と加速度・速度から位置)の復習(30分)		
第4回 質点の運動(力と運動の法則)			質点の運動(力と運動の法則)の復習(30分)		
第5回 質点の運動(運動量、仕事とエネルギー)			質点の運動(運動量、仕事とエネルギー)の復習(30分)		
第6回 小テストとフィードバック			1回目～5回目の復習		
第7回 剛体に働く力とモーメント(回転の表現、時刻と角度から角速度・角加速度)			剛体に働く力とモーメント(回転の表現、時刻と角度から角速度・角加速度)の復習(30分)		
第8回 剛体に働く力とモーメント(時刻と角加速度・角速度から角度)			剛体に働く力とモーメント(時刻と角加速度・角速度から角度)の復習(30分)		
第9回 剛体に働く力とモーメント(モーメントと回転の運動方程式)			剛体に働く力とモーメント(モーメントと回転の運動方程式)の復習(30分)		
第10回 剛体に働く力とモーメント(剛体に働く力の合成と重心)			剛体に働く力とモーメント(剛体に働く力の合成と重心)の復習(30分)		
第11回 波動と振動			波動と振動の復習(30分)		
第12回 電気と磁気			電気と磁気の復習(30分)		
第13回 総合演習1			演習内容の予習・復習(30分)		
第14回 総合演習2			演習内容の予習・復習(30分)		
第15回 総合演習3			演習内容の予習・復習(30分)		
履修に必要な予備知識や技能:SI単位による物理量の表し方、自然科学Ⅲ(数学系)程度の数学的知識の修得					
課題に対してのフィードバック:演習課題は、添削結果を次回以降の講義内で返却し、講評する。					
評価方法・基準:小テストと試験の成績(100%) 但し、講義への参加状況により最大40%まで減点					
教科書:使用テキストなし					
備考:なし					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:自然科学Ⅲ(数学系)					
担当者名:木村 剛					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010123
<p>授業概要:医療系分野を含めた科学分野では、実験結果などを数字で定量的に提示しなければならない。数学を学ぶということは、単に公式を暗記して当てはめられるようになることではなく、数字を使った情報伝達に必要な手順やポイントを理解し、それらを現実に実践できるように練習を重ねることである。この講義では、高校までに学んできた数学を復習しながら数学的思考力を身につけるとともに、数学が必要とされる身近で実践的な具体例を挙げながら、医療系分野で必要とされる数学的知識や手法について学ぶ。</p>					
<p>到達目標:多項式関数、指数関数、対数関数、三角関数、及びスカラー量とベクトル量についての基本的な特徴・性質を理解すること。また、これらに対する基本的な演算を行うことができ、数字や数式を使って状況が表現できるようになること。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 数値の読み取りと表現			表データの読み取りと、グラフの作成(30分)		
第2回 1次関数			1次関数の復習(30分)		
第3回 2次関数			2次関数の復習(30分)		
第4回 分数関数			分数関数の復習(30分)		
第5回 点と線と面			点と線と面の復習(30分)		
第6回 小テスト1とフィードバック			1回目～5回目の復習(30分)		
第7回 指数関数			指数関数の復習(30分)		
第8回 関数と逆関数			関数と逆関数の復習(30分)		
第9回 対数関数			対数関数の復習(30分)		
第10回 三角関数			三角関数の復習(60分)		
第11回 小テスト2とフィードバック			7回目～10回目の復習(30分)		
第12回 スカラー量とベクトル量			スカラー量とベクトル量の復習(30分)		
第13回 ベクトル量の計算法則(和と差)			ベクトル量の計算法則(和と差)の復習(30分)		
第14回 ベクトル量の計算法則(内積と外積)			ベクトル量の計算法則(内積と外積)の復習(30分)		
第15回 ベクトル量の実践応用			ベクトル量の実践応用の復習(60分)		
履修に必要な予備知識や技能:多項式関数の復習、座標系における数値の表現					
課題に対してのフィードバック:演習課題は、添削結果を次回以降の講義内で返却し、講評する。					
評価方法・基準:小テストと定期試験の成績(100%) 但し、講義への参加状況により最大40%まで減点					
教科書:使用テキストなし					
備考:なし					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:自然科学Ⅳ(化学系)					
担当者名:川邊 弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010124
授業概要:自然科学は、自然現象の観察・実験をとおして、自然を理解する過程で発達してきた。自然現象の背後で働く原理について理解し、現代的な自然科学的物質観を涵養することを目的に、物質の構造と性質、物質の状態変化や反応を理解することを本講義の目標とする。本講義では、自然科学の一分野である化学における基本的な現象や概念・物質、例えば、原子・分子、水と水溶液、酸とアルカリ、酸化と還元などを生体や生体分子を題材として説明する。					
到達目標:①化学と物質の基礎的な概念を理解し、説明できる。 ②生体内での活動を化学の言葉で説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要:教科書の説明、授業進度、各回授業の展開、評価			高等学校「化学基礎」「化学」の教科書等を再読する。(60)		
第2回 原子の構造と放射能			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第3回 原子の電子構造			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第4回 周期表と元素			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第5回 化学結合と分子			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第6回 物質の量と状態			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第7回 溶液の化学			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第8回 酸・塩基と酸化・還元			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第9回 有機化合物の構造			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第10回 異性体と立体化学			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第11回 有機化学反応			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第12回 高分子化合物			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第13回 糖類と脂質			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第14回 アミノ酸とタンパク質			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
第15回 核酸 -DNAとRNA-			授業範囲の教科書章末問題を解いてみる。解けないならば、該当する教科書部分を熟読しておく。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:高等学校「化学基礎」「化学」の教科書を見直しておくこと。これらの科目を未履修の場合でも、対応する教科書または、参考書を手し、ひととおり読んでおくことが望ましい。					
課題に対するのフィードバック:各回授業の冒頭で前回授業復習テストを実施したのち、その授業内で解答・解説する。期末試験の結果を知りたい場合、研究室を訪ねて欲しい。					
評価方法・基準:復習テスト(各回授業の冒頭で実施)の結果 70%、期末試験の結果 30%					
教科書:教科書:コ・メディカル化学(改訂版)、裳華房 参考書:高等学校の教科書					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:自然科学概論					
担当者名:川邊 弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010125
<p>授業概要:高度に発展した自然科学とその成果を負の側面も含め知ることは、現代に生きる人間の基礎的素養のひとつとして重要である。本講義では、現代的な自然科学的物質観を涵養することを目的とし、自然現象の背後で働く原理を理解し、自然科学の基礎的な知識や考え方を習得することを目標とする。講義は単なる科学史や現代自然科学の解説ではなく、科学者が到達した自然観や科学哲学にも触れる。また、自然科学における抽象化・モデル化の具体例を通して、科学的な議論の仕方や仕組みに言及する。</p>					
到達目標:古今の自然科学的物質観を知り、自然現象の背後で働く原理を理解し、自然科学の基礎的な知識や考え方を習得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	本時について、宇宙(1)古代、中世		資料第1章を熟読し、古代、中世の宇宙論についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第2回	宇宙(2)中世、現代		資料第1章を熟読し、中世、現代の宇宙論についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第3回	物質(1)古代、中世		資料第2章を熟読し、古代、中世の物質観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第4回	物質(2)中世、近世		資料第2章を熟読し、中世、近世の物質観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第5回	物質(3)近世、現代		資料第2章を熟読し、近世、現代の物質観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第6回	生命(1)古代、中世		資料第3章を熟読し、古代、中世の生命観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第7回	生命(2)中世、近世		資料第3章を熟読し、中世、近世の生命観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第8回	生命(3)近世、現代		資料第3章を熟読し、近世、現代の生命観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第9回	エネルギー(1)古代、近世		資料第4章を熟読し、古代、近世のエネルギー観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第10回	エネルギー(2)近世、現代		資料第4章を熟読し、近世、現代のエネルギー観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第11回	人体(1)古代、中世		資料第5章を熟読し、古代、中世の生命観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第12回	人体(2)中世、近世		資料第3章を熟読し、中世、近世の生命観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第13回	人体(3)近世、現代		資料第5章を熟読し、近世、現代の人体観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第14回	脳(1)古代、近世		資料第6章を熟読し、古代、近世の脳理論についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第15回	脳(2)近世、現代		資料第6章を熟読し、近世、現代の脳理論についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
履修に必要な予備知識や技能:高校理科の教科書を見直しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:期末試験の結果を知りたい場合、研究室を訪ねて欲しい。					
評価方法・基準:期末試験または課題レポートで評価するが、授業態度が良好でない等の場合、評価を最大20%減ずる。					
教科書:使用テキストなし。					
備考:授業中に私が発した種々の質問・疑問を題材に教員と学生、学生間で議論しつつ授業が展開される。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:心理学 I					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	必修	2	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010341
授業概要:心理学の基礎について学ぶ。DVD視聴や簡単な体験学習も交えながら、知覚、学習、記憶、および欲求と動機づけといった領域の基礎知識を習得する。心理学の基礎分野で使われている用語を理解し、自分の言葉で説明できること。授業で学んだ内容と身近な体験をつなげて理解し、心理学用語を用いて説明できることを目標とする。					
到達目標:1. 心理学の基礎分野で使われている用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 授業で学んだ内容と身近な体験をつなげて理解し、心理学用語を用いて説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要 心理学とは			教科書 p.2-12 を丁寧に読んでおく(60)		
第2回 求める(1) 欲求と動機づけ			教科書 p.107-118 を丁寧に読み、要点を確認する(60)		
第3回 求める(2) 葛藤と防衛機制			教科書 p.107-118, 130-133 を丁寧に読み、防衛機制の具体例を考える(60)		
第4回 外界を捉える(1) 物理的世界と知覚			教科書p.14-31 に目を通しておく(60)		
第5回 外界を捉える(2) 視覚はおもしろい			教科書p.14-31 を丁寧に読み、要点を確認する(60)		
第6回 外界を捉える(3) 聴覚と注意			教科書p.14-31 を復習し、要点を確認する(60)		
第7回 外界を捉える(4) 触覚、パターン認識			教科書 p.14-31、第4-7回の授業内容を復習する(60)		
第8回 学ぶ(1) 学習とは レスポンド条件づけ			教科書 p.74-79 を丁寧に読み、レスポンド条件づけの具体例を考える(60)		
第9回 学ぶ(2) オペラント条件づけ			教科書p.80-86 を丁寧に読み、オペラント条件づけの具体例を考える(60)		
第10回 学ぶ(3) 試行錯誤学習、洞察学習、および観察学習			教科書 p.86-94 を丁寧に読み、要点を確認する(60)		
第11回 学ぶ(4) 知覚運動学習、学習理論の応用			教科書 p.74-94、第8-11回の授業内容を復習する(60)		
第12回 覚える(1) 記憶とは 感覚記憶			教科書 p.34-38 を丁寧に読み、要点を確認する(60)		
第13回 覚える(2) 短期記憶			教科書 p.38-42 を丁寧に読み、要点を確認する(60)		
第14回 覚える(3) 長期記憶と忘却 体験してみよう:系列位置効果			教科書p.42-51 を丁寧に読み、要点を確認する(60)		
第15回 覚える(4) 記憶と脳			教科書 p.34-51、第12-15回の授業内容を復習する(60)		
履修に必要な予備知識や技能:自分や他者の身体、思考、感情、行動に対してより意識的になり、興味と関心を持つこと。					
課題に対するのフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:定期試験 70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:「系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版」山村豊ら著 医学書院 参考書:講義内で適宜紹介する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称:心理学Ⅱ					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義	選択	2	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010342
授業概要:「心理学Ⅰ」に引き続き、心理学の基礎について学ぶ。DVD視聴や簡単な体験学習も交えながら、情動、パーソナリティ、コミュニケーション、集団心理といった領域の基礎知識を習得する。					
到達目標:1. 心理学の基礎分野で使われている用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 授業で学んだ内容と身近な体験をつなげて理解し、心理学用語を用いて説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 感じる(1) 情動とは			教科書 p.96-107 の予習(60)		
第2回 感じる(2) 情動生起のメカニズム			教科書 p.96-107 の復習、第1-2回 の復習(60)		
第3回 パーソナリティ(1) 性格とは何か 類型論と特性論			教科書 p.120-134 の予習(60)		
第4回 パーソナリティ(2) 遺伝と環境			教科書 p.172-173 の予習(60)		
第5回 パーソナリティ(3) 知能			教科書 p.65-72 の予習(60)		
第6回 パーソナリティ(4) 創造性的思考			教科書 p.54-59 の予習、第3-6回の復習(60)		
第7回 コミュニケーション(1) 準拠枠の違い			準拠枠について下調べる(60)		
第8回 コミュニケーション(2) 言語的・非言語的コミュニケーション			教科書 p.60-65 の予習(60)		
第9回 コミュニケーション(3) アサーション、NVC			アサーションについて下調べる、第7-9回の復習(60)		
第10回 人とのかかわり(1) 社会脳と対人知覚			教科書 p.144-147 の予習(60)		
第11回 人とのかかわり(2) 態度と説得			教科書 p.149-156 の予習(60)		
第12回 人とのかかわり(3) 集団と群衆			教科書 p.161-164 の予習(60)		
第13回 人とのかかわり(4) 集団思考			教科書 p.161-164 の予習(60)		
第14回 人とのかかわり(5) 役割期待とリーダーシップ			教科書 p.164-166 の予習、第10-14回の復習(60)		
第15回 ポジティブ心理学からの知見			ポジティブ心理学について下調べる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:自分や他者の身体、思考、感情、行動に対してより意識的になり、興味と関心を持つこと。					
課題に対するのフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:定期試験 70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:「系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版」山村豊ら著 医学書院 (「心理学Ⅰ」で使用したものを継続して使用する) 参考書:講義内で適宜紹介する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称: 白山市の自然と文化					
担当者名: 松田 淳					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010113
<p>授業概要: 本学のある白山市は、海岸部から海拔2702mの白山の山頂にいたる起伏に富んだ地形からなっており、豊かな自然環境に恵まれ、その中に暮らす人々の関わりによって、様々な歴史・文化・産業がはぐくまれてきた。白山市では地域資源を保全し、教育や地域振興につなげていくため、「白山手取川ジオパーク」活動を推進している。本講義ではこうした地元白山市の自然と文化、産業について学ぶ。</p>					
<p>到達目標: 1. 白山市の県内における位置や自然・人為環境の概要を理解する。 2. 白山手取川ジオパーク、白山国立公園、白山ユネスコエコパークの位置づけを理解し、その諸活動の意義を理解する。 3. 豊かな動植物の生態系やブナ林・高山の自然などに特徴づけられる白山の自然を理解し、今後の課題について考察する。 4. 白山市の各地域の長い歴史とその中で育まれてきた文化や産業を知る。 5. 白山ならびに白山市の文献や資料を通して知識と理解を深め、自ら白山市の紹介と情報を発信できる役割を個々に担う。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 「活動グラウンドを知る意義とは」			自身の活動拠点を知る・調べる意義と必要性を理解し、白山市の基本データとその姿を学ぶ。(60)→ワークシートの活用(30)		
第2回 「白山市の魅力」(2021 金城大学公開講座 vol.2 より)			白山市の自然、文化、歴史の概略を学ぶ。(60)→ワークシートの活用(30)		
第3回 「白山～祈りの道をたどる旅～」			美濃禪定道から見た白山の様相と歴史を知り、自分たちとは別視点で白山を客観視する。(60)→ワークシートの活用(30)		
第4回 「千代女に思いを馳せる」			白山市公式 CN『千代女 季と生きた生涯』から千代女の人物像と様々な心情を推しはかる。(60)→ワークシートの活用(30)		
第5回 「白山市の食と文化」			白山市の伝統的な食文化と名産品の知識について、他県人に PR できるように探究する。(60)→ワークシートの活用(30)		
第6回 「白山手取川ジオパークとは」			白山市全域を対象とするジオパークの活動を学び、人々の生活との関わり方を知る。(60)→ワークシートの活用(30)		
第7回 「国立公園からエコパーク、そしてジオパークへ」			白山を中心とした国立公園、エコパーク、ジオパークへの歴史と変遷、その活動の相違点を学ぶ。(60)→ワークシートの活用(30)		
第8回 「白山および白山市の動植物の生態について」			白山および白山市の豊かな動植物の生態系と人間との関わりを理解する。(60)→ワークシートの活用(30)		
第9回 「白山市の自然環境保全への課題」			白山市が今後取り組む自然環境保全への視点と課題を理解する。(60)→ワークシートの活用(30)		
第10回 「白山市の文化①白山麓地区」			白山麓地区の文化を通じて、人々の生活とその歴史を知る。(60)→ワークシートの活用(30)		
第11回 「白山市の文化②鶴来地区」			鶴来地区の文化を通じて、人々の生活とその歴史を知る。(60)→ワークシートの活用(30)		
第12回 「白山市の文化③美川地区」			美川地区の文化を通じて、人々の生活とその歴史を知る。(60)→ワークシートの活用(30)		
第13回 「白山市の歴史三選」			近代史の中で忘れてはならない白山市の歴史を取り上げ、当時の人々の生き様や智慧を受け継ぐ。(60)→ワークシートの活用(30)		
第14回 「10 年後の白山市について議論する～良いシナリオと悪いシナリオ～」			10 年後の白山市を展望して、強みと弱み、良いシナリオと悪いシナリオを議論し発表し合う。(60)→ワークシートの活用(30)		
第15回 外部講師による特別講義			開かれた大学として白山市と所縁の深い外部講師を招き、白山市の歴史と今、その思いを学ぶ。(60)→ワークシートの活用(30)		
履修に必要な予備知識や技能: 配付するプリント以外にも、白山市のホームページ、白山市公式観光サイト「うらら白山人」、一般社団法人白山観光協会「白山ベストガイド」、道の駅めぐみ白山などに常設されている資料など、自身で検索や情報収集を図ると興味関心が深まります。					
課題に対するフィードバック: ワークシートや講義の中で考察した疑問点などについて、次回の講義の中で講評し解説します。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、ワークシート提出 20%、受講姿勢(ワークシートの完成度) 20% 等					
教科書: 使用テキストなし					
備考: 講義への参加については単位習得のための基本要件ととらえます。まずは出席を重視します。					
実務経験の内容・期間: 高校教諭 36 年					

科目名称:社会学					
担当者名:高島 智世					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		72010131
授業概要:現代社会でクローズアップされている様々な事象や社会問題を題材にして、社会学の基本概念・複眼的に社会を見る「社会的なもの の見方」を学びます。また、高校までは取り上げられなかった現実の「社会のしくみ」について理解を深める。					
到達目標:1現代社会の基本的な構造についてわかる。 2社会学の基本概念を修得する。 3複眼的に社会をみる「社会的視点」を修得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション ～社会を見る「メガネ」を点検する(WEB 投票システム使用)			特別課題1 世の中認識調査1(60) 授業ブログでの発展学習(10-)		
第2回 社会認識と社会統計 ～世の中認識調査をつかって			授業ブログでの発展学習(20-)		
第3回 社会調査・社会統計の見方 ～社会を測る方法			授業ブログでの発展学習(20-)		
第4回 教育 ～大学生はなぜ「生徒」ではないのか?			授業ブログでの発展学習(20-)		
第5回 職業 ～「非正規雇用」が増えたのはなぜか?			授業ブログでの発展学習(20-)		
第6回 知識基盤社会 ～社会はどこに向かう?			特別課題2(60)・授業ブログでの発展学習(20-)		
第7回 家族 ～家族は今どうなっているのか?			授業ブログでの発展学習(20-)		
第8回 ジェンダー ～日本は男女平等な社会か?			授業ブログでの発展学習(20-)		
第9回 地域社会 ～都会と地方の違いは何か?			授業ブログでの発展学習(20-)		
第10回 エスニシティ ～「日本人」とはだれのことなのか?			授業ブログでの発展学習(20-)		
第11回 分配と再分配 ～日本社会を考える			授業ブログでの発展学習(20-)		
第12回 医療と社会 ～社会学のめがねで「医療」をみる			授業ブログでの発展学習(20-)		
第13回 政治と権力 ～「投票しない」ことは何をしていることになるのか?			特別課題3(30)・授業ブログでの発展学習(20-)		
第14回 マスメディア ～フェイク情報にだまされないために			授業ブログでの発展学習(20-)		
第15回 現代社会に生きる ～わたしたちはどこに向かうのか?			授業ブログでの発展学習(20-)		
履修に必要な予備知識や技能:社会問題に幅広く興味を持っていることが望ましい。					
課題に対するフィードバック:毎回の成果レポート、質問については、授業内でコメントを行うか、履修人数が多い場合には授業ブログを用いてフィードバックを行います。 授業ブログ: http://kinjosocio.seesaa.net/ (パスワードは授業で告知します)					
評価方法・基準:平常点(授業終了時 10 分間の成果レポート)70%+特別課題 30%					
教科書:決まった教科書は使用しません。授業時には毎時プリントを配布します。参考文献は授業時に紹介します。					
備考:毎時ごとに次回の授業をうけるための準備課題を配布しますので、その課題を行ってからコピーをとって出席してください。また授業ブログをチェックし授業で学んだことに関して発展学習を行ってください。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:ソーシャルワーク論 I					
担当者名:三和直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010132
<p>授業概要:ソーシャルワーク実践の基盤と、ソーシャルワーク専門職であるソーシャルワーカーの実践について講義を行う ソーシャルワーク論 I では、① ソーシャルワークの概念と範囲 ②ソーシャルワークの形成過程 ③ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 ④社会福祉士の意義と役割 の4つの事項を取り扱う。</p>					
到達目標:医療・保健の隣接領域である社会福祉の援助技術としてのソーシャルワークの概要について理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション: ソーシャルワークの学びの全体像			『シラバス』にて、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク演習」、「ソーシャルワーク実習」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 わが国のソーシャルワーク実践の実際①: 高齢者・障害者・児童・医療・地域・公的扶助 分野			各々の持つソーシャルワーク像及びソーシャルワーカー像を整理しておくこと。(30)		
第3回 社会福祉士の法的位置づけ			テキストの p2~14 を読んでおくこと。(60)		
第4回 ソーシャルワーク実践の特徴(事例を通じて)			テキストの p23~35 を読んでおくこと。(60)		
第5回 ソーシャルワークのグローバル定義			テキストの p52~67 を読んでおくこと。(60)		
第6回 ソーシャルワークの構成要素(1)「クライアント」と「ニーズ」			テキストの p68~73 を読んでおくこと。(60)		
第7回 ソーシャルワークの構成要素(2)「ソーシャルワーカー」と「社会資源」			テキストの p73~83 を読んでおくこと。(60)		
第8回 ソーシャルワークの原理(1)「社会正義」と「人権尊重」			テキストの p86~94 を読んでおくこと。(60)		
第9回 ソーシャルワークの原理(2)「集団的責任」と「多様性の尊重」			テキストの p94~102 を読んでおくこと。(60)		
第10回 ソーシャルワークの理念(1)「当事者主権」と「尊厳の保持」			テキストの p103~108 を読んでおくこと。(60)		
第11回 ソーシャルワークの理念(2)「権利擁護」とその実践事例 ~ オンブズパーソン~			テキストの p108~109 を読んでおくこと。(60)		
第12回 ソーシャルワークの理念(3)「自立支援」			テキストの p109~111 を読んでおくこと(60)		
第13回 ソーシャルワークの理念(4)「エンパワメント」と「ノーマライゼーション」			テキストの p111~116 を読んでおくこと。(60)		
第14回 ソーシャルワークの理念(5)「ソーシャルインクルージョン」			テキストの p116~118 を読んでおくこと。(60)		
第15回 まとめ			第1回から第14回までの授業内容について、ノート・資料等を見直しておくこと。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:現代社会が抱える問題状況について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。また授業で理解したことを文章で端的に表現出来る力を身につけておくことが望ましい。					
課題に対するフィードバック:毎回提出のコメントカードの記載内容について、次回授業のはじめの時間を使って講評を行う					
評価方法・基準:定期試験、及び毎回提出のコメントカードの記載内容を点数化して評価する。 (定期試験 70% コメントカード記載内容 30%)					
教科書:『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版 ・毎回の授業は教科書の記述の解説を中心に進める。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士 18年(病院の医療ソーシャルワーカー5年、児童相談所の児童福祉司4年、福祉事務所の現業員6年、福祉事務所の老人福祉指導主事3年)					

科目名称:ソーシャルワーク論Ⅱ					
担当者名:三和直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010133
<p>授業概要:ソーシャルワーク実践の基盤と、ソーシャルワーク専門職であるソーシャルワーカーの実践について講義を行う ソーシャルワーク論Ⅱでは、① ソーシャルワークの価値・理念 ②ソーシャルワークにおける権利擁護の意義 ③ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマ ④総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 の4つの事項を取り扱う</p>					
到達目標:医療・保健の隣接領域である社会福祉の援助技術としてのソーシャルワークの概要について理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション: ソーシャルワーク論Ⅱで何を学ぶか			『シラバス』中の「ソーシャルワーク論Ⅱ」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 ソーシャルワークの倫理(1) 専門職倫理の概念と倫理綱領			テキストの p172~180 を読んでおくこと。(60)		
第3回 ソーシャルワークの倫理(2) 日本社会福祉士会の倫理綱領と行動規範			テキストの p180~187 及び事前配布資料の『日本社会福祉士会行動規範』を読んでおくこと。(90)		
第4回 ソーシャルワークの倫理(3) ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ			テキストの p192~203 を読んでおくこと。(60)		
第5回 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲			テキストの p206~218 を読んでおくこと。(60)		
第6回 社会福祉士の職域と役割			テキストの p219~226 を読んでおくこと。(60)		
第7回 ソーシャルワーカーの職種と職場			テキストの p227~234 を読んでおくこと。(60)		
第8回 ソーシャルワークの形成過程(1) ソーシャルワークの源流と基礎確立期			テキストの p120~131 を読んでおくこと。(60)		
第9回 ソーシャルワークの形成過程(2) ソーシャルワークの発展期			テキストの p132~144 を読んでおくこと。(60)		
第10回 ソーシャルワークの形成過程(3) ソーシャルワークの展開期			テキストの p145~151 を読んでおくこと。(60)		
第11回 11 回目:ソーシャルワークの形成過程(4) ソーシャルワークの統合化			テキストの p151~156 を読んでおくこと。(60)		
第12回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と特徴			テキストの p270~288 を読んでおくこと。(60)		
第13回 ジェネラリスト・ソーシャルワークにおける多職種連携とチームアプローチ			テキストの p289~302 を読んでおくこと。(60)		
第14回 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			テキストの p246~254 を読んでおくこと。(60)		
第15回 まとめ			第1回から第14回までの授業内容について、ノート・資料等を見直しておくこと。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:現代社会が抱える問題状況について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。また授業で理解したことを文章で端的に表現出来る力を身につけておくことが望ましい。					
課題に対するフィードバック:毎回提出のコメントカードの記載内容について、次回授業のはじめの時間を使って講評を行う					
評価方法・基準:定期試験、及び毎回提出のコメントカードの記載内容を点数化して評価する。 (定期試験 70% コメントカード記載内容 30%)					
教科書:『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版 ・毎回の授業は教科書の記述の解説を中心に進める。					
参考書:『三訂 社会福祉士の倫理 倫理綱領実践ガイドブック』中央法規出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士 18年(病院の医療ソーシャルワーカー5年、児童相談所の児童福祉司4年、福祉事務所の現業員6年、福祉事務所の老人福祉指導主事3年)					

科目名称:介護福祉論 I					
担当者名:磯貝サエ子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010134
<p>授業概要:介護福祉論は介護に必要な知識・技術・価値・倫理の基礎であるため、学ぶ範囲は幅広い。そこで、介護福祉論 I では、人間の生活、家庭生活における家族の役割、高齢者、障害者の生活の理解、障害者の生活の困難性や障害者の権利を考える。次に介護福祉の歴史と発展、社会的役割を理解する。その上で介護の対象者や看護など関連領域との連携を学び、介護の具体的な業務内容を理解する。また、諸外国における介護福祉の現状と課題について考える機会とする。介護福祉に必要な対人援助の技法を消化し実践的な学びにつなげる。</p>					
<p>到達目標:1. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 2. 介護における介護福祉士の役割と支援の視点が理解できる。 3. 利用者本位のサービスを提供するための他(多)職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 4. 自立に向け高齢者・障害者の介護が理解できる。 5. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を理解する。 6. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 介護福祉士を取り巻く状況:介護の歴史、介護問題の背景			介護の概念や対象について下調べをする(30分)		
第2回 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み①:介護需要・社会福祉士・介護福祉士			社会福祉士及び介護福祉士について下調べをする(30分)		
第3回 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み②:介護保険法、その他の法制度			介護保険法について下調べをする(30分)		
第4回 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み③:専門職能団体の役割と活動、専門職能団体の日本介護福祉士会			専門職能団体について下調べをする(30分)		
第5回 介護従事者の倫理①:職業倫理、利用者の人権と介護			介護福祉士の専門性について下調べをする(30分)		
第6回 介護従事者の倫理②:プライバシーの保護			介護従事者の目指すべき姿勢についてまとめる(30分)		
第7回 介護を必要とする人の理解①:人間の多様性・複雑性の理解			自身の生活活動についてまとめる(30分)		
第8回 介護を必要とする人の理解②:人間の生活の場、高齢者の生活と暮らし			日本の暮らしの歴史について調べてくる(45分)		
第9回 介護を必要とする人の理解③:障害のある人の暮らし、介護を必要とする人の生活環境の理解			障害のある人の暮らしにおける介護の必要性についてまとめる(45分)		
第10回 自立に向けた介護①:自立の考え方、自立支援の理解			自立と自律の違いについて調べてくる(30分)		
第11回 自立に向けた介護②:個別ケア、ICF と自立支援			前回の授業をもとに自立と自律についてまとめる(45分)		
第12回 自立に向けた介護③:リハビリテーション			リハビリテーションの意義と効果について調べてくる(20分)		
第13回 尊厳を支える介護①:人間の尊厳とは、QOL の考え方			人間の尊厳とは何か調べてくる(30分)		
第14回 尊厳を支える介護②:ノーマライゼーションの実現、利用者主体の介護			ノーマライゼーションの理念について調べてくる(30分)		
第15回 まとめ			介護サービス提供における介護者の倫理的課題や利用者本位の支援のあり方にまとめてくる(60分)		
履修に必要な予備知識や技能:福祉施設の見学やボランティア体験をすることが望ましい。					
課題に対してのフィードバック:必要時コメント記入し、口頭説明を加え返却します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度(参加度)10%、小テスト 10%					
教科書:教科書:最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本 I 中央法規出版、教科書の該当ページを開きながら解説する 参考書:授業時に適宜紹介する					
備考:授業では、グループワークや発表等のアクティブラーニングを交え、進めていきます。					
実務経験の内容・期間:介護福祉士(9年)					

科目名称:介護福祉論Ⅱ					
担当者名:磯貝 サエ子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010135
<p>授業概要:介護福祉論Ⅱでは、日常生活で必要となる具体的支援技術の知識“技術・倫理を学ぶ。重ねて倫理については、各職能団体の倫理綱領があるので連携する専門職の考え方も紹介したい。介護の対象者が生活している場所により、活動の幅は拡大されるが、より良い生活の維持を目指して支援する視点も考えさせたい。その為には、生活を支えるサービスと提供を結びつけ支援する手法も紹介したい。支援をするには支援する側の健康と安全も重要であり自身の安全と感染予防に留意することも学ぶ。併せて対象者に安全に技術を提供する技術を考える学びとしたい。</p>					
<p>到達目標:1. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる 2. 介護における介護福祉士の役割と支援の視点が理解できる 3. 利用者本位のサービスを提供するため他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる 4. 自立に向けた高齢者の介護が理解できる 5. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を理解する 6. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 介護サービス①(介護保険と介護サービスの概要)			介護保険制度について厚生労働省のホームページから調査してくる(45分)		
第2回 介護サービス②(介護サービスの提供の場の特性)			介護保険制度について厚生労働省のホームページから調査してくる(45分)		
第3回 介護実践における他職種との連携とチームアプローチ			チームアプローチの意味について調べてくる(45分)		
第4回 介護実践における地域との連携			自分の住んでいる地域の高齢者人口や介護サービスの実態について調べてくる(45分)		
第5回 介護における安全の確保とリスクマネジメント①(介護における安全の確保)			自身の実家における家屋状況や環境について調べてくる(45分)		
第6回 介護における安全の確保とリスクマネジメント②(日常の安全の確保)			自身の実家における家屋状況や環境について調べてくる(45分)		
第7回 介護における安全の確保とリスクマネジメント③(事故予防)			高齢者が事故に遭遇しやすい場所について実家の状況を踏まえて調べてくる(45分)		
第8回 介護における安全の確保とリスクマネジメント④(安全対策と・感染対策)			自身の日常の感染対策について、インフルエンザ、胃腸炎等の対処法をまとめてくる(45分)		
第9回 介護過程の考え方と介護展開			身近に介護を受けている人の状況について調べてくる(45分)		
第10回 認知症ケアと相談援助			認知症について新聞や本を読み症状や病態、対応についてまとめてくる(60分)		
第11回 介護の場における終末期ケアと相談援助			人間にとっての終末期ケアの意味を調べてくる(45分)		
第12回 介護を必要とする場と住環境整備			住環境整備の種類と方法や介護保険制度との関係について調べてくる(45分)		
第13回 住環境整備と福祉用具			介護保険制度と福祉用具の必要性や福祉用具の種類について調べてくる(45分)		
第14回 介護従事者の心身の健康管理と安全			介護者の健康管理が必要な理由を調べてくる(45分)		
第15回 まとめ			介護保険制度を利用する人の利便性と課題についてまとめてくる(45分)		
履修に必要な予備知識や技能:居住地の介護保険関係パンフレットや案内を読み、理解しておく。居住地にある福祉施設について調べる。施設見学やボランティア活動を行う。自宅の住環境を理解しておく。					
課題に対してのフィードバック:授業中に提出したワークシート、課題については点検・添削後次回以降の授業で返却し講評します。					
評価方法・基準:定期試験80%、受講態度10%、課題との取り組み10%					
教科書:教科書:最新介護福祉士養成講座「4介護の基本Ⅱ」中央法規出版、教科書の該当ページを開きながら解説する。					
参考書:必要に応じて紹介する					
備考:授業内ではグループワークや結果を発表をすることもあります。					
実務経験の内容・期間:介護福祉士(9年)					

科目名称:高齢者福祉論					
担当者名:野村智宏					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010136
<p>授業概要:高齢者福祉論では、まず今日の高齢者がおかれている全体的状況と、高齢者の生活ニーズ及び高齢社会が抱える問題について概観する。その上で、わが国の高齢者保健福祉制度の変遷過程と現状及び課題を明らかにしていく。また現在の高齢者保健福祉制度の中で重要な位置を占めている介護保険制度については、成立の意義及び制度の仕組みと、そのサービス内容、専門職の役割等について学んでいく。特に介護保険制度における社会福祉専門職と看護を含む保健医療専門職の連携のあり方について言及する。</p>					
<p>到達目標:1. 今日の高齢者がおかれている全体的状況と、高齢者の生活ニーズ及び高齢社会が抱える問題について理解できる。 2. 介護保険制度成立の意義及び、制度の仕組みと、そのサービス内容、専門職の役割等について理解できる。 3. 高齢者に関わる他の法制度について理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 評価に関して			高齢者に関するニュースには、どのようなものがあるか新聞やニュースをまとめる(60)		
第2回 高齢者福祉を学ぶ理由			授業では、多面的に高齢者像を伝えます。今までにない視点から高齢者福祉を考えまとめる(60)		
第3回 高齢者をとりまく状況と高齢者問題			高齢者問題とは果たしてどんなことが問題視されているのか調べてまとめる(60)		
第4回 少子高齢化について			少子高齢化によって変化してきたことや今後起こる問題についてまとめてみる(60)		
第5回 核家族化における高齢者の現状の実際			核家族化によってどのような問題が生じているかまとめてみる(60)		
第6回 少子高齢化問題の問題の分析			少子化、高齢化を分けて考えることで、どのようなことが気付けたかまとめてみる(60)		
第7回 東日本大震災を通しての高齢者福祉のあり方			東日本大震災を通しての介護職の働きを学び、学んだことをまとめる(60)		
第8回 高齢者福祉におけるの自己覚知と他者理解の視点の必要性			配布されたテスト対策復習プリント前半部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第9回 高齢者の現状とニーズについて			配布されたテスト対策復習プリント中盤部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第10回 高齢者の現状とニーズについて 介護保険の概要と発足した理由			介護保険について、教科書に記載されている介護保険の概要をまとめる(60)		
第11回 介護保険制度における専門職の役割			介護保険について、教科書に記載されている専門職の役割をまとめる(60)		
第12回 介護保険サービスについて			介護保険サービスについて、どのようなサービスがあるのか教科書を読みまとめる(60)		
第13回 これからの高齢者福祉における課題と展望			配布されたテスト対策復習プリント後半部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第14回 高齢者福祉のあり方と高齢者福祉における真のニーズについて			介護の質向上と人材確保に関して、どのようなことが必要か考えまとめる(60)		
第15回 まとめと今までの復習			テスト対策の配布プリントを完成させておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:高齢者をとりまく現在の問題状況(特に介護保険制度の動向)について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業でリアクションペーパーとして出席票を活用します。学んだことや気づきを記載し、次回の授業で前回の復習や学生の考えを共有します。					
評価方法・基準:学期末試験の成績を100%とする。ただし、出席率や授業態度は減点の対象とする。					
教科書:新 エssenシャル高齢者福祉論					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:障害者福祉論					
担当者名:野村 智宏					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010137
授業概要:現代社会における障害福祉の理念と意義について理解する。障害福祉史から施策の変遷及び動向を理解するとともに障害者自立支援法の概念とサービス体系・諸制度を理解する。障害者福祉及び関連分野の専門性及び連携のあり方を理解する。障害者の実態を解説し医療相談援助活動、介護サービス活動の具体的事例を解説し医療援助・福祉援助の連携支援を理解する。					
到達目標:1. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要(地域移行や就労の実態を含む。)について理解できる。 2. 障害者福祉制度の発展過程について理解できる。 3. 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	オリエンテーション	評価に関して	障害者に関するニュースには、どのようなものがあるか新聞やニュースをまとめる(60)		
第2回	障害とは何か		授業では、多面的に障害者像を伝えます。今までにない視点から障害者福祉を考えまとめる(60)		
第3回	社会における障害者の現状と実態		障害者の現状と実態の講義を受けて、現状としてどのような問題があるのか整理しまとめる(60)		
第4回	障害者の雇用について		障害者の雇用の改善がとても大切であることを講義で聞いたことを整理しまとめる(60)		
第5回	障害者の雇用を踏まえた障害者の現状		障害者を雇用する上での課題と展望について整理しまとめる(60)		
第6回	軽度の障害者の現状と可能性		軽度の知的障害者が抱える問題と可能性を整理しまとめる(60)		
第7回	障害者の歴史 戦前		戦前の障害者の歴史について教科書を読んでまとめておく(60)		
第8回	障害者の歴史 戦後		戦後の障害者の歴史について教科書を読んでまとめておく(60)		
第9回	障害者スポーツを通しての障害者の可能性		活躍するパラリンピック選手の映像を観て、学んだことをまとめる(60)		
第10回	相談支援事業所の役割と実際		相談支援事業所の役割について調べてまとめる(60)		
第11回	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律		配布されたテスト対策復習プリント前半部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第12回	障害者自立支援制度の概要		配布されたテスト対策復習プリント中盤部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第13回	障害者自立支援制度の詳細		配布されたテスト対策復習プリント後半部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第14回	障害者差別解消法と合理的配慮について		障害者差別解消法における合理的配慮の内容を教科書を読み整理しまとめる(60)		
第15回	今までの復習と期末試験について		テスト対策の配布プリントを完成させておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:障害者を取りまく現在の問題状況(自立支援制度や人権に関して)について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:授業でリアクションペーパーとして出席票を活用します。学んだことや気づきを記載し、次回の授業で前回の復習や学生の考えを共有します。					
評価方法・基準:学期末試験の成績を100%とする。ただし、出席率や授業態度は減点の対象とする。					
教科書:障害者福祉論 障害者ソーシャルワークと障害者総合支援法					
備考:					
実務経験の内容・期間:障害者ナショナルチーム強化担当 ロンドンパラリンピックまで(卓球競技8年)					

科目名称:法学(憲法) I					
担当者名:岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010141
授業概要:法学一般及び憲法の基礎知識と理論の実用的修得を主要な目的とする。概要として、法学一般は法の目的、法規範、法の分類と体系等、憲法は日本国憲法の特徴と基本原理、基本的人権の特質と分類、最後に統治機構の問題として三権各々の内容と特色等基礎知識と理論を講義する。					
到達目標:①日本国憲法が保障する基本的人権の趣旨や内容、範囲を理解すること、②基本的人権の制約が憲法上正当化できるか否かを審査する際の基本的な枠組みや考え方を理解すること、③日本国憲法が定める国民民主権と天皇制及び議会制、議院内閣制、裁判所や地方自治などの統治機構について理解し、制度上の課題について考察できるようになることを目標とする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス、法学(1) 法とは何か			事前配布の資料及び教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第2回 法学(2) 法と裁判、その他			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第3回 日本国憲法の定める国のあり方(1) 国会			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第4回 日本国憲法の定める国のあり方(2) 内閣			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第5回 日本国憲法の定める国のあり方(3) 裁判所			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第6回 日本国憲法の定める国のあり方(4) 地方自治			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第7回 日本国憲法と国際社会(1) 憲法と安全保障、憲法改正			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第8回 日本国憲法と国際社会(2) 憲法と国際法			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第9回 日本国憲法の保障する権利(1) 人権総論、幸福追求権、法の下の平等			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第10回 日本国憲法の保障する権利(2) 思想良心の自由、表現の自由			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第11回 日本国憲法の保障する権利(3) 信教の自由、職業選択の自由、財産権			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第12回 日本国憲法の保障する権利(4) 生存権			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第13回 日本国憲法の保障する権利(5) 教育を受ける権利、人身の自由、裁判を受ける権利			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第14回 日本国憲法の保障する権利(6) 参政権、その他			教科書の該当部分を熟読しておくこと(90)		
第15回 まとめ			これまでの授業で扱った部分を再読すること(120)		
履修に必要な予備知識や技能:高等学校等で使用する「現代社会」「政治・経済」「公共」の教科書等の該当部分を熟読しておくこと					
課題に対するフィードバック:資料配布及び個別対応によって行う					
評価方法・基準:定期試験 100%					
教科書:教科書:「法学・憲法ナビゲーション」(Bookway)					
参考書:第1回のガイダンスで紹介する					
備考:シラバスの変更について、事前配布の資料を参照					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:法学Ⅱ					
担当者名:岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010142
<p>授業概要:「法学」とは、法に関する学問の総称のことであるが、法の理論的な解明を目的とする基礎法学と、司法や立法、行政における法原理や法的技術を中心とする実用法学に大別できる。この授業では、まず、法体系及び法規範の構造や機能、法形式や法の分類、法律用語や法の解釈などの基礎法学分野における知識や考え方について講義を行う。次に、憲法や民法、刑法、商法、労働法等といった主要な法律について概観し、現代社会における実用法学の意義や役割について講義を行う。</p>					
<p>到達目標:わが国の法体系や法の分類、法律用語、法の解釈などの基本的な知識や考え方を修得すること、民法や商法、労働法などが現代社会においてどのような役割を果たしているかを考察することを通じて、基本的な法的知識と法的な考え方(「リーガル・マインド」)の修得を図ることを目標とする。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス・法学概論			別途配布する資料及び教科書第1編から第3編を熟読しておくこと(120)		
第2回 憲法(1)ー憲法総論、人権総論			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第3回 憲法(2)ー人権各論			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第4回 憲法(3)ー統治その他			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第5回 刑法			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(120)		
第6回 行政法(1)ー行政行為、行政組織など			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第7回 行政法(2)ー行政事件訴訟、国家賠償、地方自治法など			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第8回 民法(1)ー総則、債権			教科書第5編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第9回 民法(2)ー物権			教科書第5編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第10回 民法(3)ー親族・相続			教科書第5編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第11回 商法・会社法			教科書第5編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第12回 労働法(1)ー労働契約、賃金、解雇、労働時間、休日など			教科書第6編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第13回 労働法(2)ー年少者、女性の保護規定、就業規則、労働組合など			教科書第6編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第14回 民事訴訟法、刑事訴訟法など			教科書第7編を熟読しておくこと(90)		
第15回 個人情報保護法、国際法、その他補足			教科書第8編～第9編を熟読しておくこと(90)		
履修に必要な予備知識や技能:高等学校等で使用する「現代社会」「政治・経済」「公共」の教科書等の該当部分、及び、「法学Ⅰ」で使用する教科書等の該当箇所を熟読しておくこと					
課題に対するフィードバック:資料配布または個別対応にて行う					
評価方法・基準:レポート(100%)で評価する					
教科書:教科書:法学研究会『面白いほど理解できる法学の基礎の基礎』(早稲田経営出版、2023年)					
参考書:別途配布する資料を参照					
備考:シラバスに変更があるときは、事前に案内する					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:医療関係法					
担当者名:岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010143
授業概要:実際に医療の現場で生じている様々な法的問題を取り上げながら、看護師の業務遂行に際して求められる法的知識や、医療に関連する法制度について講義を行う。					
到達目標:①わが国の医療に関する法制度を理解し、その課題やあり方について考察できるようになること、②業務遂行に際して求められる法的知識を習得し、実際に医療の現場で生じている様々な法的問題に対処するための法的な考え方(リーガルマインド)を身に付けることを目標とする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 医療と法のかかわりについて			事前配付の資料及び教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第2回 医療従事者と患者の権利関係			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第3回 インフォームド・コンセントと患者の自己決定権			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第4回 医療事故をめぐる法的問題①			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第5回 医療事故をめぐる法的問題②			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第6回 脳死問題と臓器移植をめぐる法的問題			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第7回 終末期医療、安楽死、尊厳死をめぐる法的問題①			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第8回 終末期医療、安楽死、尊厳死をめぐる法的問題②			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第9回 人の出生、人体組織と遺伝子、性の決定をめぐる法的問題			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第10回 社会保障法・社会福祉関連法①			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第11回 社会保障法・社会福祉関連法②			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第12回 医療法①			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第13回 医療法②			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第14回 医療従事者の資格法、予防衛生法規、保健衛生法規等			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第15回 まとめ・補足			これまでの授業で扱った部分を再読すること(120)		
履修に必要な予備知識や技能:「法学(憲法)Ⅰ」「法学Ⅱ」「社会保障制度論」のいずれかを履修済みであることが望ましい。					
課題に対してのフィードバック:資料配付または個別対応にて行う					
評価方法・基準:レポート(100%)					
教科書:教科書:「医事法入門 第6版」(有斐閣、2022年)					
参考書:「医事法講義」(日本評論社)、「改訂版 生命倫理・医事法」(医療科学社)					
備考:シラバスに変更があるときは、事前に案内する					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:美術					
担当者名:山下 和子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		72010114
<p>授業概要: 絵画や彫刻等の純粋美術のみならず、ファッションや映像、デザイン等現代人の生活と美術は切り離すことができない。本講義では広く美術に関する教養を修めさせることを目的としつつ、一方で、社会におけるその重要性や必要性について、特にヒーリングアートやバリアフリーデザイン等についても専門的な知識が得られるようレクチャ構成するとともに、一部で、絵を描く際に重要な右脳をトレーニングするためのスケッチ等も取り入れている。</p>					
<p>到達目標: 講義内容を的確に把握し、必要な情報・資料などを美しく記録することを目標に、専用のスケッチブックに表記する。右脳のトレーニング課題やワークシートなどを用いた学習を進め、美術教養を体感して深める。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 美術の起源からみる表現			《準備用品》色鉛筆。《事前学修》ラスコーやアルタミラなどの洞窟壁画について調べてくる(60)		
第2回 古代から近代への美の流れについて(西洋美術)			《準備用品》指定のスケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》ピカソについて調べてくる(60)		
第3回 西洋美術に見る図像学。絵画を読み解く。【●1 回目授業内レポート】			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》教科書に載っているキリスト教美術について調べてくる(60)		
第4回 印象派について			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》フランスで生まれた「印象派」について調べてくる(60)		
第5回 美術表現の多様な技法			《準備用品》輪ゴム3つ、スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》図書館で画集を何冊か閲覧し、材料や技法に留意して鑑賞する(60)		
第6回 体感する表現方法			《準備用品》はさみ、スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》「アントニ・ガウディ」について調べてくる(60)		
第7回 色彩学の基礎/色彩とファッション			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》カラーユニバーサルデザインを調べてくる(60)		
第8回 郷土の伝統工芸と、日本の固有色名【●2 回目授業内レポート】			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》身の回りで聞いたことがある色の名前を書き出してくる(60)		
第9回 西洋と日本の文様			《準備用品》コンパス、スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》見かけたことのある着物の柄にはどんな模様があるのか調べてくる(60)		
第10回 子供と美術			《準備用品》筆 1 本、スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》これまでの自分が触れ合ったことのある造形活動について把握してくる(60)		
第11回 美術と医療現場との関わり(ユニバーサルデザイン、バリアフリーデザイン)			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》身近にある「ユニバーサルデザイン」「バリアフリーデザイン」にはどのようなものがあるか調べてくる(60)		
第12回 障がい者の芸術表現①ムーブメントについて【●3 回目授業内レポート】			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》「アール・ブリュット」について調べてくる(60)		
第13回 障がい者の芸術表現②美術的価値について			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》金沢の「アート工房」について調べてくる(60)		
第14回 ヒーリングアート(クリニカルアート)【■スケッチブック提出日】			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》「ヒーリングアート」やクリニカルアートについて調べてくる(60)		
第15回 美術と社会【●4 回目授業内レポート】【■事前学修提出日】			《準備用品》スケッチブック、のり、色鉛筆。《事前学修》「国際芸術祭」について調べてくる(60)		
履修に必要な予備知識や技能: 図書館には豊富な美術書があるので活用していく。各回の事前学修で調べた内容は A4 程度の紙にまとめる(スケッチブックに貼り付けしない。15 回目にまとめて提出します)。各回で使う準備用品は異なります、忘れずに道具を持ってくること。					
課題に対するフィードバック: 授業中の机間巡視でワークシートを講評します。授業内のレポート、15 回目の事前学修の提出物は返却しません。					
評価方法・基準: スケッチブック提出(含演習: 50%)、授業内提出物の有無(50%)、受講態度により減点(最大 25%)。授業内レポートを 4 回実施します(3, 8, 12, 15 回目)。スケッチブックの提出は 14 回目に、事前学修の提出は 15 回目に行います。					
教科書: 『いちばん親切的な西洋美術史』池上英洋、新星出版社					
備考: 本科目では、指定のスケッチブックを各自で購入し、課題の提出が必要です。毎回スケッチブックを使用します。その他に授業内で参考資料を配布します。QR コードを読み込んで資料を見ますのでタブレットがあればより読みやすくなります。					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:日本文学 I					
担当者名:和田 康一郎					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		72010115
<p>授業概要:立場を入れ替えての他者理解や自己の客観視は、物語の登場人物の言動を通して会得される部分が少なくない。本講義では、人物造型(フラット・キャラクターとラウンド・キャラクター)・語り手の役割・トポス(場)などの、小説の理解につながる着眼方法の習得を目的とする。社会や人間の理解に有益な小説を読むことで、恋愛を含む人間関係の中での生きる知恵、患者と接する職業人としての資質を、表現世界を楽しみながら身につけることを到達目標とする。</p>					
到達目標:小説作品の読みどころを理解したうえで、話のあらすじ・内容をレポートにまとめることができることが、目標である。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 切ない小説	江國香織「デューク」を読む。(30)				
第2回 元気が出る小説	山本周五郎「雨あがる」を読む。(30)				
第3回 本屋大賞受賞小説	小川洋子「博士の愛した数式」を読む(60)				
第4回 直木賞受賞小説	朝井リョウ「何者」を読む。(60)				
第5回 癒される小説	宮沢賢治「やまなし」を読む。(30)				
第6回 衝撃を与える小説	五木寛之「蒼ざめた馬を見よ」を読む。(30)				
第7回 家族を描いた小説	室生犀星「あにいもうと」を読む。(60)				
第8回 死を描いた小説	三浦綾子「塩狩峠」を読む。(60)				
第9回 スリルがある小説	金城一紀「SPEED」を読む。(60)				
第10回 重厚で唸らされる小説+名作短編 1	夏目漱石「こころ」を読む。(60)				
第11回 重厚で唸らされる小説+名作短編 2	遠藤周作「深い河」を読む。(60)				
第12回 対決を描く小説	東野圭吾「容疑者Xの献身」を読む。(60)				
第13回 恋愛を描く小説	綿矢りさ「勝手にふるえてろ」を読む。(60)				
第14回 怪異・怖い小説	谷崎潤一郎「刺青」を読む。(30)				
第15回 しみじみした余韻を残す小説	重松清「きみの友だち」を読む。(60)				
履修に必要な予備知識や技能:文学史などを記した、高校国語の便覧資料を読み返しておくこと。					
課題に対するフィードバック:成績をつけるレポートを講評付きで返却するので、なぜこの成績となったかを読んで理解し、大学・社会での今後の課題取り組みの参考としてほしい。					
評価方法・基準:日本近現代作家の小説のあらすじ・読みどころを記したレポート…90% 受講態度(授業への参加度)10%					
教科書:教科書:使用テキストなし。毎回プリントを配布する。 参考書:『「王様のランチ」が恋した本』、他。					
備考:主人公または重要登場人物が、自分より年上の小説を読むようにしよう。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:日本文学Ⅱ					
担当者名:和田 康一郎					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年後期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		72010116
授業概要:小説の読解を通して他者理解・自己の客観視・状況把握力の強化を目指す。また、「韻文」感覚があると、適切な短い少ない言葉で人を感銘させ、人の心を良い方へ動かすことが可能になる。他者を励ます際や厳しい覚悟を持たせる際に有益である。日本の近現代の詩・短歌・俳句の名作に親しむことで、人の心情や季節の推移・自然詠の魅力を理解すれば、たとえば行分け散文と「詩」の違いが見分けられる能力がつく。					
到達目標:小説作品の読みどころを理解したうえで、描かれた状況をひろく深く把握して伝える能力を身につける。また、どんな作品が韻文として優れているか、理解できるようになる。行分け散文と「詩」の違いを見分けられるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 医療・看護を題材とした小説を読む。			夏川草介「スピノザの診察室」を読んでおく。(90)		
第2回 言葉によるスケッチ・比喩の使い方			新川和江「歌」を読んでおく。(10)		
第3回 短歌の鑑賞			高校までに習った短歌を復習する。(30)		
第4回 俳句の鑑賞			高校までに習った俳句を復習する。(30)		
第5回 芸術家を描いた小説			夏目漱石「草枕」を読んでおく。(60)		
第6回 短い言葉で多くを表現する			島崎藤村「初恋」を読んでおく。(10)		
第7回 言葉の対比(調和と対照)			佐藤春夫「水辺月夜の歌」を読んでおく。(10)		
第8回 文明批判・抗議・抵抗			石垣りん「崖」を読んでおく。(10)		
第9回 逆説・寓意・問いかけと解答			高見順「天」を読んでおく。(10)		
第10回 言葉の喚起力			立原道造「のちのおもひに」を読んでおく。(10)		
第11回 詩行の展開			室生犀星「小景異情 その二」を読んでおく。(10)		
第12回 詩行の展開2			入沢康夫「未確認飛行物体」を読んでおく。(10)		
第13回 プロローグ付き、散文詩			金子光晴「洗面器」を読んでおく。(10)		
第14回 ユーモア・ことば遊び			吉野弘「争う」を読んでおく。(10)		
第15回 補遺			山村暮鳥「なぎさで網を引いてゐる」を読んでおく。(10)		
履修に必要な予備知識や技能:中央公論社・中公文庫の『日本の詩歌』シリーズのうち1冊を読んでおく。					
課題に対してのフィードバック:課題に取り組み始めた人から、やり方が正しいかチェックする。					
評価方法・基準:日本近現代小説の梗概レポートの作成、または、20ページ分のアンソロジー(詩華集)を作成・提出 80% 授業の受講態度 20%					
教科書:教科書・参考書:使用教科書なし。毎回資料プリントを配布する。『ポケット日本の名詩』山本太郎編(平凡社)ほか、参考書多数。講義時に紹介する。					
備考:梗概レポート・アンソロジー作りには、早めに取り組み始めること。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:日本史 I					
担当者名:加納宏志					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		72010117
授業概要:原始時代から鎌倉時代まで、いわゆる日本古代史の歴史の流れについて概説していく。日本古代史を概観しながら、視点が変わると歴史の評価がどのように変わるか、歴史の捉え方・考え方について理解していく。					
到達目標:原始時代から鎌倉時代までの日本古代史を概観しながら、視点が変わると歴史の評価がどのように変わるか、歴史の捉え方・考え方について理解してもらいます。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 インTRODクシヨン			授業で視聴したDVDの内容についての感想をまとめておく(60)		
第2回 旧石器時代をめぐる問題			教科書 P14～P17 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第3回 縄文文化の特異性			教科書 P18～P19 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第4回 本格的な稲作農業の伝播			教科書 P20～P23 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第5回 邪馬台国			教科書 P24～P25 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第6回 空白の4世紀と日本書紀			教科書 P26～P27 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第7回 内乱を繰り返すヤマト王権			教科書 P28～P31 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第8回 なぜ大化の改新は起こった			教科書 P36～P43 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第9回 律令制度の完成まで			教科書 P44～P47 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第10回 律令制度の崩壊			教科書 P52～P57 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第11回 荘園制の拡大と武士の発生			教科書 P66～P67 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第12回 摂関政治			教科書 P62～P65 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第13回 院政と源平の台頭			教科書 P70～P73 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第14回 関東武士の意識改革			教科書 P68～P69 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第15回 源頼朝と鎌倉幕府			教科書 P82～P87 に関連する内容を調べておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:履修するに当たっては、最低限、中学校で学習するレベルの日本史の知識は身に付けておいてください(特に留学生の方)。授業はその前提で進みます。					
課題に対するフィードバック:毎回の出席調査票に授業内容に関する質問・意見等のコメントを記入。必要に応じて、次回以降の授業内で回答・反映します。					
評価方法・基準:平常点25%、期末試験(論述式)75%で評価します。					
教科書:「オールカラーでわかりやすい! 日本史」西東社					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:日本史Ⅱ					
担当者名:加納宏志					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	選択	2	看護学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		72010118
授業概要:戦国時代から明治維新まで、いわゆる日本近世史の歴史の流れについて概説していく。日本近世史を概観しながら、視点が変わると歴史の評価がどのように変わるか、歴史の捉え方・考え方について理解していく。					
到達目標:戦国時代から明治維新までの日本近世史を概観しながら、視点が変わると歴史の評価がどのように変わるか、歴史の捉え方・考え方について理解してもらいます。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 イントロダクション			授業で視聴したDVDの内容についての感想をまとめておく(60)		
第2回 武士の歴史			教科書 P108～P109 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第3回 戦国大名たちが目指したもの(強兵編)			教科書 P116～P117 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第4回 戦国大名たちが目指したもの(富国編)			教科書 P118～P119 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第5回 織田信長の統一事業			教科書 P122～P127 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第6回 豊臣政権から徳川幕府へ			教科書 P128～P133 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第7回 260年の安定政権			教科書 P140～P149 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第8回 徳川幕府の矛盾			教科書 P152～P155 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第9回 三大改革の評価			教科書 P158～P165 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第10回 田沼意次の先見性			教科書 P166～P167 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第11回 外国船の来航			教科書 P170～P171 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第12回 ペリー来航と日米和親条約			教科書 P184～P185 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第13回 阿部正弘と井伊直弼			教科書 P186～P189 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第14回 幕末の薩摩外交			教科書 P190～P197 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第15回 大政奉還から江戸開城へ			教科書 P198～P201 に関連する内容を調べておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:履修するに当たっては、最低限、中学校で学習するレベルの日本史の知識は身に付けておいてください(特に留学生の方)。授業はその前提で進みます。					
課題に対するフィードバック:毎回の出席調査票に授業内容に関する質問・意見等のコメントを記入。必要に応じて、次回以降の授業内で回答・反映します。					
評価方法・基準:平常点25%、期末試験(論述式)75%で評価します。					
教科書:「オールカラーでわかりやすい! 日本史」西東社					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:解剖生理学 I (総論、運動器、体液・血液)					
担当者名:鬼頭 巧					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	必修	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010201
授業概要:ヒトの病気や、それに対する看護を学ぶにあたり、まずは正常な人体について知っておく必要がある。解剖生理学では、正常な人体の構造と機能に関する深い理解と知識を身につけることを目的とする。この科目がすべての医学系科目の基礎として重要である。解剖生理学 I では、解剖生理学総論、運動器系、体液・血液系、免疫系器官の正常構造と機能について学ぶ。					
到達目標:1. 人体の構造が、細胞・組織・器官・器官系という様々なレベルからなることを理解する。 2. ヒトの体を構成する主要な器官系を挙げることができる。 3. 運動器系、体液・血液系、免疫系をつくる器官の構造を、その機能と関連させて説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 解剖生理学総論 (1):解剖学的用語			事後学修:当日の講義内容(講義レジメ)を復習する。(60)		
第2回 解剖生理学総論 (2):生体の階層性、細胞			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第3回 解剖生理学総論 (3):組織			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第4回 解剖生理学総論 (4):器官、器官系			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第5回 運動器系(1):骨・関節の総論			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第6回 運動器系(2):軸骨格の骨・関節			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第7回 運動器系(3):付属肢骨格の骨・関節			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第8回 運動器系(4):筋の総論			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第9回 運動器系(5):軸骨格の筋			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第10回 運動器系(6):付属肢骨格の筋			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第11回 体液・血液系(1):体液・血液系:体液、浸透圧、酸塩基平衡			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第12回 体液・血液系(2):体液・血液系:血漿、血球、血液型			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第13回 免疫系(1):リンパ管・リンパ節・リンパ系器官			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第14回 免疫系(2):免疫を担当する因子、自然免疫、獲得免疫			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第15回 免疫系(3):抗体のクラス、アレルギー			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:各回の講義が行われた当日に講義レジメを復習すること。					
課題に対してのフィードバック:記述したリアクションペーパーは、点検し次回以降の授業内で解説する。					
評価方法・基準:定期試験(90%)と授業への参加度(10%)で評価する。					
教科書:教科書:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1):解剖生理学 メディカ出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:理学療法士(13年)					

科目名称:解剖生理学Ⅱ(血液循環、呼吸、消化吸収、内分泌)					
担当者名:鬼頭 巧					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	必修	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010202
授業概要:ヒトの病気や、それに対する看護を学ぶにあたり、まずは正常な人体について知っておく必要がある。解剖生理学では、正常な人体の構造と機能に関する深い理解と知識を身につけることを目的とする。この科目がすべての医学系科目の基礎として重要である。解剖生理学Ⅱでは、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系器官の正常構造と機能について学ぶ。					
到達目標:1. 循環器系をつくる器官の構造を、その機能と関連させて説明できる。 2. 呼吸器系をつくる器官の構造を、その機能と関連させて説明できる。 3. 消化器系をつくる器官の構造を、その機能と関連させて説明できる。 4. 内分泌系をつくる器官の構造を、その機能と関連させて説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 循環器系(1) 心臓の構造			事後学修:当日の講義内容(講義レジメ)を復習する。(60)		
第2回 循環器系(2) 心臓の機能			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第3回 循環器系(3) 動脈・静脈			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第4回 循環器系(4) 心電図			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第5回 循環器系(5) 異常心電図			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第6回 呼吸器系(1) 呼吸器系の構造			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第7回 呼吸器系(2) 呼吸器系の機能			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第8回 呼吸器系(3) 呼吸器系の調節			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第9回 消化器系(1) 消化管の構造(1)			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第10回 消化器系(2) 消化管の機能(2)			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第11回 消化器系(3) 消化管の機能			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第12回 内分泌系(1) ホルモンの総論			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第13回 内分泌系(2) 内分泌臓器と各種ホルモンの機能(1) 視床下部-下垂体、甲状腺、副甲状腺			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第14回 内分泌系(3) 内分泌臓器と各種ホルモンの機能(2) 副腎、松果体、膵臓、消化管			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第15回 内分泌系(4) 内分泌臓器と各種ホルモンの機能(3) 脂肪細胞、内分泌による循環・血糖調節			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:各回の講義が行われた当日に講義レジメを復習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは、点検し次回以降の授業内で解説する。					
評価方法・基準:定期試験(90%)と授業への参加度(10%)で評価する。					
教科書:教科書:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1):解剖生理学 メディカ出版(解剖生理学Ⅰで使用した教科書)					
備考:					
実務経験の内容・期間:理学療法士(13年)					

科目名称:解剖生理学Ⅲ(泌尿生殖器、神経系)					
担当者名:鬼頭 巧					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年前期	講義	必修	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010203
授業概要:ヒトの病気や、それに対する看護を学ぶにあたり、まずは正常な人体について知っておく必要がある。解剖生理学では、正常な人体の構造と機能に関する深い理解と知識を身につけることを目的とする。この科目がすべての医学系科目の基礎として重要である。解剖生理学Ⅲでは、泌尿器系、生殖器系、神経系器官の正常構造と機能について学ぶ。それに加えて人体の遺伝・発生学に関しても併せて学ぶ。					
到達目標:1. 泌尿器系をつくる器官の構造を、その機能と関連させて説明できる。 2. 生殖器系をつくる器官の構造を、その機能と関連させて説明できる。 3. 神経系をつくる器官の構造を、その機能と関連させて説明できる。 4. 遺伝・発生の基本を説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 泌尿器系(1):腎臓の機構と機能、尿の生成			事後学修:当日の講義内容(講義レジメ)を復習する。(60)		
第2回 泌尿器系(2):膀胱、尿道の構造と周辺臓器との位置関係			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第3回 生殖器系(1):生殖器系の構造と機能:男性生殖器、女性生殖器			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第4回 生殖器系(2):女性性周期、妊娠と出産			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第5回 遺伝・発生(1):遺伝子、細胞分裂の仕組みと制御、配偶子			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第6回 遺伝・発生(2):染色体異常			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第7回 遺伝・発生(3):遺伝様式、ヒトの発生と性分化			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第8回 神経系(1):神経系総論			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第9回 神経系(2):中枢神経系の構造と機能(1)			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第10回 神経系(3):中枢神経系の構造と機能(2)			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第11回 神経系(4):末梢神経系の構造と機能			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第12回 神経系(4):自律神経系の構造と機能			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第13回 感覚器系の構造と機能(1):体性感覚、内蔵感覚			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第14回 感覚器系の構造と機能(2):特殊感覚(視覚)			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第15回 感覚器系の構造と機能(3):特殊感覚(聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚)			事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:各回の講義が行われた当日に講義レジメを復習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは、点検し次回以降の授業内で解説する。					
評価方法・基準:定期試験(90%)と授業への参加度(10%)で評価する。					
教科書:教科書:ナースング・グラフィカ 人体の構造と機能(1):解剖生理学 メディカ出版(解剖生理学Iで使用した教科書)					
備考:					
実務経験の内容・期間:理学療法士(13年)					

科目名称:栄養代謝学					
担当者名:打出喜義					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010211
<p>授業概要: 栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わりなどを学び、看護に役立てる。</p>					
<p>到達目標: 1. 各種栄養素の構造及びヒトの体とどのように関わるかを説明できる。 2. 各種栄養素の消化・吸収・細胞内での代謝のあらましを説明できる。 3. 各種栄養素の代謝が相互に関わり、調節しあって健康な生活が保たれていることを理解できる。 4. 各種栄養素の欠乏・過剰と疾病の関わりを説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 代謝総論			事前学修:教科書当該部分に目を通す。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第2回 生命維持に必要な栄養素の構造と性質			事前学修:教科書当該部分に目を通す。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第3回 酵素			事前学修:教科書当該部分に目を通す。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第4回 糖質代謝			事前学修:教科書当該部分に目を通す。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第5回 脂質代謝			事前学修:教科書当該部分に目を通す。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第6回 タンパク質とアミノ酸の代謝、核酸・ヌクレオチドの代謝			事前学修:教科書当該部分に目を通す。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第7回 エネルギー代謝の統合と制御			事前学修:教科書当該部分に目を通す。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第8回 遺伝情報			事前学修:教科書当該部分に目を通す。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:各回の講義が行われた当日に復習すること。					
課題に対するフィードバック:出席確認も兼ねて授業後に提出したリアクションペーパーの一部は次回の授業開始時に紹介します					
評価方法・基準:定期試験 60%、受講態度(授業への参加度) 20%、リアクションペーパー内容 20%として評価する。					
教科書:人体の構造と機能 ② 臨床生化学 メディカ出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(46年)					

科目名称:微生物学					
担当者名:押野谷 幸之輔、塩土 菜穂子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010212
<p>授業概要:近年、院内感染や新型インフルエンザなどが社会的にも大きな問題となっているように、感染症に関する知識は、看護師にとってもますます重要度を増している。本講義では、感染症を引き起こす細菌、真菌、原虫、ウイルスについて、どのような種類があるのか、それらの病原性、感染時の症状・治療や予防対策について学ぶことによって、感染症に対し、科学的根拠に基づいた対応・対策を行うための基礎知識を修得することを旨とする。</p>					
<p>到達目標:1. 細菌・真菌・原虫・ウイルスの違いを説明できる。 2. 感染および発症のメカニズムについて理解できる。 3. 感染症の検査、診断、治療について説明できる。 4. おもな病原微生物とその感染症について理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 微生物学の基礎 微生物学とは、細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質【押野谷】			教科書 第1章～第5章を読みレポートにまとめる(60)		
第2回 感染と感染症(1) 感染の成立から発症まで、感染源と感染経路【押野谷】			教科書 第6章、第8章を読みレポートにまとめる(60)		
第3回 感染と感染症(2) 感染症の検査と診断、感染症の治療、感染症の現状と対策【押野谷】			教科書 第10章、第11章、第12章を読みレポートにまとめる(60)		
第4回 おもな病原微生物(1) 病原細菌と細菌感染症Ⅰ【塩土】			教科書 第13章を読みレポートにまとめる(60)		
第5回 おもな病原微生物(2) 病原細菌と細菌感染症Ⅱ【塩土】			教科書 第13章を読みレポートにまとめる(60)		
第6回 おもな病原微生物(3) 病原真菌、病原原虫と真菌感染症、原虫感染症【押野谷】			教科書 第14章、第15章を読みレポートにまとめる(60)		
第7回 おもな病原微生物(4) おもなウイルスとウイルス感染症Ⅰ【押野谷】			教科書 第16章を読みレポートにまとめる(60)		
第8回 おもな病原微生物(5) おもなウイルスとウイルス感染症Ⅱ【押野谷】			教科書 第16章を読みレポートにまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「事前事後学修の内容とその所要時間」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験80%、受講態度(出席状況を含む)20%					
教科書:教科書:《系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④》『微生物学』吉田眞一、他(共著)、医学書院					
備考:					
実務経験の内容・期間:押野谷幸之輔(医師37年)、塩土菜穂子(臨床検査技師24年)					

科目名称:医学概論					
担当者名:打出 喜義					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010301
<p>授業概要:看護専門職を目指し、これから医学を学ぶ出発点として、今後医学をどのように学んでいくのか、医学はどのように発展してきたのか、そして医学の今日的な問題や将来への課題について学習する。また、人間の生命をどのようにとらえるのか、健康や病気とはどのような状態か、病気の診断・検査・治療がどのように行われているのかを理解する。医学の本質を十分に理解し、看護と医学の関わりや看護の意義について考える。</p> <p>到達目標:健康の維持を支援し、病苦の人たちに寄り添っていく為に、医学・医療の“あるべき姿”を理解していく。 また、看護専門職として、実際の場面で思考、判断して正しく実践していける能力の基礎を養う。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 医学概論で学ぶこと。自己紹介。これからの講義の進め方			教科書目次をざっと見て、どんな授業となるのか、概観しておくこと(60)		
第2回 第1章医学・医療のあゆみ①			教科書 2～19 を読んでおくこと(60)		
第3回 第1章医学・医療のあゆみ②、第2章健康と疾病①			教科書 20～36 を読んでおくこと(60)		
第4回 第2章健康と疾病②			教科書 36～70 を読んでおくこと(60)		
第5回 第2章健康と疾病③			教科書 71～84 を読んでおくこと(60)		
第6回 第2章健康と疾病④			教科書 84～109 を読んでおくこと(60)		
第7回 第2章健康と疾病⑤			教科書 109～114 を読んでおくこと(60)		
第8回 試験、まとめ			教科書の第一章、第二章に目を通しておくこと		
履修に必要な予備知識や技能:毎回の講義予定の教科書範囲を前もって予習しておくこと。					
課題に対するのフィードバック:出席確認も兼ねて授業後に提出したリアクションペーパーの一部は次回の授業開始時に紹介します。					
評価方法・基準:定期試験 60%、受講態度(授業への参加度)20%、リアクションペーパー内容 20%として評価する。					
教科書:新体系 看護学全書 別巻 現代医療論(メヂカルフレンド社)					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(46年)					

科目名称:病理病態学					
担当者名:打出喜義					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	必修	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010302
<p>授業概要:病理病態学では解剖生理学で学んだ人体の正常構造・機能を基礎として、病的状態とはどのような状態か、何が原因で発症するかを学ぶ。先天異常・代謝障害・循環障害・炎症・腫瘍といった病変を理解し、消化器、呼吸器、循環器、運動器、泌尿生殖器、神経、内分泌、造血、皮膚、感覚器の主要な疾患を学ぶことで、基礎医学から臨床医学へとつなげていく。また、基礎医学・臨床医学の基礎的な知識をもとに、看護に必要となる臨床判断能力の向上を目指す。</p>					
<p>到達目標:1. 多くの疾病に共通する基本的病変(先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍)について説明できる。 2. 上記を踏まえ、器官系毎の代表的な疾患について、その病因、病態、対応・対処の原則を理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 はじめに:病理病態学で学ぶこと、序論 人間の身体における本来の構造・機能とその乱れ			事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第2回 病理病態学総論(1):遺伝子異常、細胞障害・変性と細胞死、腫瘍			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第3回 病理病態学総論(2):炎症と修復、免疫疾患、感染			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第4回 病理病態学総論(3):循環障害、体液異常、代謝異常			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第5回 病理病態学総論(4):中毒、放射線障害、外傷			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第6回 病態症候論(1):身体の不調はどう現れるか、咳嗽・喀痰・咯血			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第7回 病態症候論(2):呼吸困難、胸痛			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第8回 病態症候論(3):不整脈			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第9回 病態症候論(4):チアノーゼ、ショック			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第10回 病態症候論(5):腹痛、食欲不振			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第11回 病態症候論(6):嚥下障害、嘔気・嘔吐、吐血・下血			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第12回 病態症候論(7):便秘、下痢			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第13回 病態症候論(8):腹部膨満、腹水			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第14回 病態症候論(9):黄疸、貧血、出血傾向			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
第15回 病態症候論(10):リンパ節腫脹、皮膚掻痒			事前学修:教科書当該箇所を読んでおく。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:まずは、教科書に出てくる漢字は全て読めるようにしておくこと					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは、点検し次回以降の授業内で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 60%、受講態度(授業への参加度) 20%、リアクションペーパー内容 20%として評価する。					
教科書:ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進①:病態生理学 メディカ出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(46年)					

科目名称:診断治療学Ⅰ(内科系)					
担当者名:安間 圭一					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年前期	講義	必修	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010311
授業概要:本講義では、主として成人・高齢者に見られる内科系疾患(呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、感染症、自己免疫疾患消化器疾患、肝・胆・膵疾患、神経疾患、内分泌疾患、代謝性疾患、腎臓・泌尿器疾患、)について学ぶ。看護の実践上に必要となる主要な疾患の病態、症状と徴候、診断法、治療法について解説する。					
到達目標:代表的な内科疾患についての病態、症状と徴候、診断法、治療法を理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 呼吸器疾患Ⅰ	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第2回 呼吸器疾患Ⅱ	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第3回 循環器疾患Ⅰ	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第4回 循環器疾患Ⅱ	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第5回 代謝・栄養疾患	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第6回 腎・尿路疾患	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第7回 肝疾患	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第8回 消化管疾患Ⅰ	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第9回 消化管疾患Ⅱ、胆膵疾患	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第10回 脳神経Ⅰ	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第11回 脳神経Ⅱ	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第12回 自己免疫疾患・アレルギー疾患	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第13回 血液・造血器疾患	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第14回 内分泌疾患	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
第15回 感染症	教科書 該当する部分を読んでおくこと(60)				
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「事前事後学修の内容とその所要時間」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 20%					
教科書:教科書:看護のための臨床病態学、浅野嘉延、吉山直樹編集、南江堂 参考書:必要に応じ、授業の中で指示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(29年)					

科目名称:診断治療学Ⅱ(外科系)					
担当者名:村上 健一					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年前期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010312
授業概要:診断治療学Ⅱでは代表的な外科系疾患について学ぶ。外科侵襲に対する生体反応と、それに対する術前・術後の対策、術後管理、合併症を理解し、消化器および腹部、肺および胸部、心臓および脈管系、脳および神経、頭部および頸部の外科的疾患について、その病態と治療について学ぶ。					
到達目標:1. 外科的侵襲とそれに対する生体の反応を理解する。 2. 術後合併症の種類とそれに対する対策を説明できる。 3. 手術に際し重要となる麻酔・輸液・術後疼痛管理を理解する。 4. 主要な外科的疾患の病態と治療を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 外科的侵襲と生体の反応			外科的侵襲とはどのような概念か、調べてまとめておくこと。(60)		
第2回 麻酔、輸液、術後疼痛管理			麻酔、輸液、術後疼痛管理について、教科書等を用いて予習のこと。(60)		
第3回 術後合併症とその対策			術後合併症とその対策について、教科書等を用いて予習のこと。(60)		
第4回 消化器外科			消化器および腹部の正常構造と、主要な外科的疾患について予習のこと。(60)		
第5回 脳神経外科			脳および神経の正常構造と、主要な外科的疾患について予習のこと。(60)		
第6回 整形外科			運動器の正常構造と、主要な外科的疾患について予習のこと。(60)		
第7回 呼吸器外科			肺および胸部の正常構造と、主要な外科的疾患について予習のこと。(60)		
第8回 心臓血管外科			心臓および脈管系の正常構造と、主要な外科的疾患について予習のこと。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:教科書等を用い、各回のテーマについて予習を行うこと。また、前回授業の復習を行うこと。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 20%					
教科書:教科書:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)、系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器(医学書院)					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(34年)					

科目名称:診断治療学Ⅲ(周産期)					
担当者名:打出 喜義					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010313
授業概要:診断治療学Ⅲでは、女性の身体的特徴と生理的变化を理解し、女性特有の診断や検査法を学び、女性特有のしっかんを理解する。					
到達目標:1. 女性生殖器の構造と機能を学ぶ。 2. 女性特有の症状とその病態生理を理解する。 3. 婦人科系疾患の診察・検査と治療・処置について学ぶ 4. 女性特有の疾患を理解し看護に役立たせることができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 第2章 女性生殖器の構造と機能			教科書 20～36 の予習(60)		
第2回 第3章 症状とその病態生理			教科書 38～45 の予習(60)、復習(60)		
第3回 第4章 診察・検査と治療・処置① A 診察・検査			教科書 48～76 の予習(60)、復習(60)		
第4回 第4章 診察・検査と治療・処置② B 治療・処置			教科書 77～95 の予習(60)、復習(60)		
第5回 第5章 疾患の理解① A 性分化疾患、B 臓器別疾患 ①外陰の疾患 ②膣の疾患			教科書 98～112 の予習(60)、復習(60)		
第6回 第5章 疾患の理解② B 臓器別疾患 ③子宮の疾患 ④卵管の疾患 ⑤卵巣の疾患 ⑥骨盤内炎症性疾患			教科書 112～146 の予習(60)、復習(60)		
第7回 第5章 疾患の理解③ B 臓器別疾患 ⑦乳房の疾患			教科書 147～172 の予習(60)、復習(60)		
第8回 第5章 疾患の理解④ C 機能性疾患 D 感染症			教科書 173～205 の予習(60)、復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:講義の範囲が広いので、十分な予習の上で講義を受けていただきたい。					
課題に対するフィードバック:出席確認も兼ねて授業後に提出したリアクションペーパーの一部は次回の授業開始時に紹介します。					
評価方法・基準:定期試験 60%、受講態度(授業への参加度)20%、リアクションペーパー内容 20%として評価する。					
教科書:系統看護学講座 専門 女性生殖器 成人看護学9, 末岡 浩 他, 医学書院 第15版					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(46年)					

科目名称:診断治療学Ⅳ(小児)					
担当者名:河野 晃					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010314
<p>授業概要:新生児そして小児に特有の疾患を中心に、神経、循環器、呼吸器、感染症、消化器、代謝内分泌系、血液・腫瘍・免疫疾患等の特徴と、それらの原因・病態・診断・治療について学ぶ。また、不慮の事故、児童虐待、発達障害や障害児医療等と小児を取り巻く環境について学習、理解する。予防接種等の予防医学、公衆衛生分野にも関心を持つ。授業は知識のつめ込みでなく、「なぜ」「どうして」と、疑問や思考過程を取り入れて進める。</p>					
<p>到達目標:1. 小児科学の基礎的知識を習得する。それは他の分野の疾患の理解にも役立つ。 2. 生命への尊厳・個の尊重の精神を体得する。 3. チーム医療の中で、他職種との連携を果たせる基礎作りをする。 4. 思いやり、心に寄り添う”看護の心を育む。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 染色体異常、先天異常、新生児、子どもの成長・発達			各論第1章、第2章、概論第1章、2章、3章、4章、5章 (60分)		
第2回 代謝性疾患、内分泌疾患			各論第3章、4章 (60分)		
第3回 免疫疾患、アレルギー疾患、リウマチ性疾患			各論第5章 (60分)		
第4回 感染症、予防接種			各論第6章 概論第7章 (60分)		
第5回 呼吸器疾患、循環器疾患			各論第7章、第8章 総論第4章 (60分)		
第6回 消化器疾患、血液・造血管疾患			各論第9章、10章 概論第3章 総論第6章 (60分)		
第7回 悪性新生物、腎・泌尿器疾患			各論第11章、第12章 (60分)		
第8回 神経疾患 運動器疾患			各論第13章、第14章 (60分)		
第9回 皮膚科疾患、眼疾患、耳鼻咽喉科疾患			各論第15章、16章、17章 (60分)		
第10回 精神疾患 発達障害(神経発達症)、事故・外傷、予防接種			各論第18章、第19章 概論第7章 (60分)		
履修に必要な予備知識や技能:準備学習に示す教科書の該当項目を読み、学習すべき課題を理解しておくこと。そして事前配布資料をよく読み授業当日持参すること。					
課題に対してのフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。教科書での記述を読むだけでは、理解が困難な課題に関しては、映像、画像情報等を提示するので、各自学習するようにして、その結果を評価します。					
<p>評価方法・基準:定期試験90%、受講態度10% 定期試験は記述問題と選択問題。記述問題では、課題に対する回答の正確さを評価するとともに、自分の考えを記述しているかを重視して評価する。受講態度など参考とし総合的に判断して評価する。</p>					
教科書:教科書:①小児臨床看護各論 ②小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)					
備考:小児科や他の分野の医学の基礎を学び、看護の技術を習得し、人間的にも成長して、患者さんに寄り添えるような看護師になられることを期待しています。					
実務経験の内容・期間:小児科医師として病院勤務(49年) 金沢市保健所での乳幼児健診に従事(15年)					

科目名称:診断治療学Ⅴ(精神)					
担当者名:渡辺 優磨					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010315
<p>授業概要:精神健康の基礎知識および精神障害を有する人のケアに必要な精神医学の基礎知識を習得する。また、精神障害者の人権尊重と倫理的配慮を習得する。(1)定義と診断・分類(2)精神症状(3)脳と精神機能(4)検査(脳波、画像検査心理検査)(5)各論(統合失調症、気分障害、老年期精神障害、器質性精神障害、発達障害、アルコール関連障害、薬物依存、神経症性障害、摂食障害・睡眠障害、人格障害、てんかん等)(6)治療(7)精神保健福祉法、医療観察法(8)社会復帰とリハビリテーション、について学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1.精神健康の基礎知識および精神障害を有する人の看護に必要な精神医学の基礎知識を概説できる。 2.精神障害者の人権尊重と倫理的配慮を理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 精神障害の定義と精神疾患の診断・分類、(1)精神症状(2)検査(脳波、画像検査心理検査等)、精神保健福祉法、医療観察法、社会復帰とリハビリテーション			教科書・配布資料の当該箇所を予習(30)		
第2回 統合失調症スペクトラム、事例発表・検討			教科書・配布資料の当該箇所を予習、前回授業の復習(30)		
第3回 抑うつ障害群、双極性障害、事例検討			教科書・配布資料の当該箇所を予習、前回授業の復習(30)		
第4回 神経認知障害群(認知症)、器質性精神障害、てんかん			教科書・配布資料の当該箇所を予習、前回授業の復習(30)		
第5回 不安症、強迫症、解離症、心的外傷後ストレス障害、身体症状症			教科書・配布資料の当該箇所を予習、前回授業の復習(30)		
第6回 摂食障害、睡眠-覚醒障害			教科書・配布資料の当該箇所を予習、前回授業の復習(30)		
第7回 アルコール関連障害、物質関連障害・嗜癖性障害群			教科書・配布資料の当該箇所を予習、前回授業の復習(30)		
第8回 神経発達障害群(自閉症スペクトラム、ADHD等)、総括、質疑・応答			教科書・配布資料の当該箇所を予習、前回授業の復習、全体を通しての質疑・応答(30)		
履修に必要な予備知識や技能:テーマになっている疾患を教科書や参考図書等で調べ、授業に臨んでください。また、常に障害のある人、メンタルヘルス不調者への福祉、支援のあり方を身近の問題として考えおくことが必要です。					
課題に対するフィードバック:試験・レポートは点検・添削された後、返却します。その際には説明、講評しますので、復習の材料としてください。					
評価方法・基準:定期試験:80%、受講態度:20%					
教科書:吉松和哉・小泉典章・川野雅資編:精神看護学Ⅰ 精神保健学,ヌーヴェルヒロカワ 川野雅資他編:精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学,ヌーヴェルヒロカワ					
備考:本科目は、精神看護学概論、精神看護論、精神看護学演習、精神看護学実習の基盤となることから、予習や復習は必ず行ってください。また、授業毎に資料を配布しますので、教科書と併せて学習してください。教科書の付録(参考資料)の「精神保健福祉法」と「用語の解説」を活用してください。教科書(2冊)は、精神看護学概論(2年後期)、精神看護論(3年前期)・精神看護学演習(3年後期)、精神看護学実習(4年前期)でも使用します。					
実務経験の内容・期間:医師(3年)					

科目名称:臨床栄養学					
担当者名:室塚 登紀子、長東 菜穂					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010321
<p>授業概要:本講義では、栄養素の種類とその役割、食物に含まれる栄養素や食事摂取基準、ライフステージの各段階における栄養摂取の考え方や栄養状態の判定法を学び、栄養障害が患者の生活に及ぼす影響を理解する。また、個々の疾患(糖尿病、高血圧、消化器疾患、腎疾患等)の経過中に考慮すべき栄養障害の種類と程度を理解し、その治療法を学び、患者に対する栄養管理や、食習慣改善・健康増進のための栄養指導に必要な知識を習得する。</p>					
<p>到達目標:1. 栄養アセスメントの意義と方法を説明できる。 2. 食品に含まれる栄養素と食事摂取基準について説明できる。 3. ライフステージにおける低栄養と過栄養の病態を理解する。 4. 主要な疾病における栄養学的病態とチーム医療の必要性を理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 栄養素の種類とはたらき:室塚			教科書 栄養学(1章、2章、5章)を読みレポートにまとめる(60)		
第2回 食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝:室塚			教科書 栄養学(3章、4章)を読みレポートにまとめる(60)		
第3回 栄養アセスメント:長東			教科書 栄養学(6章、7章)を読みレポートにまとめる(60)		
第4回 ライフステージ各期における栄養:室塚			教科書 栄養学(8章)別巻(15-17章)を読みレポートにまとめる(60)		
第5回 疾患別栄養管理①:室塚			教科書 別巻(2-5章)を読みレポートにまとめる(60)		
第6回 疾患別栄養管理②:室塚			教科書 別巻(6-9章)を読みレポートにまとめる(60)		
第7回 疾患別栄養管理③:長東			教科書 別巻(10-14章)を読みレポートにまとめる(60)		
第8回 医療保険制度、介護保険制度、生活習慣病の予防、チーム医療:長東			教科書 別巻(1章、18章)、栄養学10章を読みレポートにまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「事前事後学修の内容とその所要時間」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 20%					
教科書:教科書:専門基礎分野 栄養学(医学書院) 別巻 栄養食事療法(医学書院)					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:臨床薬理学					
担当者名:安間 圭一					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年前期	講義	必修	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010322
<p>授業概要:本講義では看護専門職に必要な薬理学の知識を学ぶ。薬はどのようにして効くのか、どのように投与するのか、投与した薬はその後どうなるのか、医薬品の安全性と副作用、薬剤の管理と取り扱い等を知る。さらに、各種疾病の治療に用いられる代表的な薬物にはどのようなものがあるか、その特徴、作用機序、副作用などについて学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1. チーム医療において看護師が薬物療法と患者に対して重要な立場であることを理解する。 2. 臨床で用いられる主要な薬物について、その作用機序と薬理作用を理解できる。 3. 臨床で用いられる主要な薬物について、与薬法や与薬時の注意点を理解できる。 4. 臨床で用いられる主要な薬物について、主作用と副作用(有害作用)を理解できる。 5. 薬物療法における看護師の役割や、医薬品の取り扱い際の注意点を説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 薬理学総論(1) 薬理学とは、薬が作用するしくみ、薬の体内での挙動			教科書 薬理学総論 第1章 A、第2章 A,Bを読みレポートにまとめる(60)		
第2回 薬理学総論(2) 薬物の相互作用、薬効の個人差、主作用と副作用、薬と法律			教科書 薬理学総論 第2章 C,D,E,Fを読みレポートにまとめる(60)		
第3回 薬理学各論(1) 抗感染症薬			教科書 薬理学各論 第3章を読みレポートにまとめる(60)		
第4回 薬理学各論(2) 抗がん薬、免疫治療薬			教科書 薬理学各論 第4・5章を読みレポートにまとめる(60)		
第5回 薬理学各論(3) 抗アレルギー薬・抗炎症薬			教科書 薬理学各論 第6章を読みレポートにまとめる(60)		
第6回 薬理学各論(4) 末梢神経系に作用する薬物			教科書 薬理学各論 第7章を読みレポートにまとめる(60)		
第7回 薬理学各論(5) 中枢神経系に作用する薬物 I			教科書 薬理学各論 第8章 A~Cを読みレポートにまとめる(60)		
第8回 薬理学各論(6) 中枢神経系に作用する薬物 II			教科書 薬理学各論 第8章 D~Hを読みレポートにまとめる(60)		
第9回 薬理学各論(7) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物			教科書 薬理学各論 第10章を読みレポートにまとめる(60)		
第10回 薬理学各論(8) 物質代謝に作用する薬物			教科書 薬理学各論 第11章を読みレポートにまとめる(60)		
第11回 薬理学各論(9) 皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物			教科書 薬理学各論 第12章、第11章を読みレポートにまとめる(60)		
第12回 薬理学各論(10) 消毒薬、輸液製剤・輸血剤、漢方薬			教科書 薬理学各論 第14・15章、付章を読みレポートにまとめる(60)		
第13回 薬理学各論(11) 心臓・血管系に作用する薬物 I			教科書 薬理学各論 第9章 A~Dを読みレポートにまとめる(60)		
第14回 薬理学各論(12) 心臓・血管系に作用する薬物 II			教科書 薬理学各論 第9章 E~Gを読みレポートにまとめる(60)		
第15回 薬と看護 薬物療法における看護師の役割、薬の処方箋、添付文書等			教科書 薬理学総論 第2章 B、巻末資料を読みレポートにまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「事前事後学修の内容とその所要時間」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 20%					
教科書:教科書:《系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進③》『薬理学』吉岡充弘、他(共著)、医学書院					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(29年)					

科目名称:リハビリテーション概論					
担当者名:木林勉、河野光伸、永井将太、山本拓哉					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	選択	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010331
<p>授業概要:リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念、およびその仕組みについて教授する。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的、社会的、教育的、職業的、工学的リハビリテーション、地域リハビリテーション等について、諸外国のリハビリテーションと比較して概説する。また、病期に合わせたリハビリテーションを整理し、その特徴を解説する。</p>					
<p>到達目標:1. リハビリテーションの基本理念や考え方を理解する。 2. リハビリテーションの定義、歴史、目的を理解する。 3. リハビリテーションの仕組みと制度を理解する。 4. 医療従事者としての心構え、医療チームの一員としての将来的な自分の役割、位置づけを理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 医学的・社会的リハビリテーションの歴史と概要			奈良勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 p1-28 資料(60)		
第2回 地域リハビリテーション			奈良勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 p169-174 資料(60)		
第3回 理学療法の概要 役割と対象者			奈良勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 p29-57(60)		
第4回 作業療法の概要 役割と対象者			奈良勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 p58-76(60)		
第5回 リハビリテーション看護の概要 役割と対象者			奈良勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 p91-101(60)		
第6回 リハビリテーションに関する心理的配慮			奈良勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 p128-139(60)		
第7回 医療ソーシャルワーカーの役割と業務			奈良勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 p117-127(60)		
第8回 多職種連携の理解 リハビリテーションの実際			奈良勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 p169-174 (60)		
履修に必要な予備知識や技能:予習として、使用テキストの配当部分を読み、わからない用語を調べておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業中に課題があれば、授業内で時間を設けて解説・説明します。					
評価方法・基準:レポート 80% 受講態度 20%					
教科書:奈良 勲編集主幹:実学としてのリハビリテーション概観 理学療法士・作業療法士のために. 文光堂 大田仁史:心にふれる 荘道社					
備考:					
実務経験の内容・期間:木林勉、理学療法士 38年					

科目名称:臨床心理学 I					
担当者名:高橋 ひとみ、三好 留美子、西坂 愛深					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年前期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010343
<p>授業概要:臨床心理学は、人間の心の問題について、心理学の人間理解と心理学的援助技法を用いて、対象者の心理的適応や発達を促進し、自己実現を支援していくという実践的な学問である。臨床心理学Iでは、特に基本理論を概説し、心理的な問題を理解するためのアセスメントについて学習します。アセスメントのためのデータ収集技法と分析技法について学ぶことができる。発達段階の違いや被った障害によって異なる心理的問題について理解を深めることが目標である。</p>					
<p>到達目標:1. 臨床心理学の活動と基本理念について理解し、概説できる。 2. 臨床心理学的アセスメントについて理解し、概説できる。 3. 臨床心理学が対象とする問題について理解し、概説できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要 臨床心理学とは【高橋】			配付資料を復習し、要点を確認する(60)		
第2回 人の発達と心の問題 (1) 乳幼児期～児童期のこころの問題【高橋】			配付資料を復習し、要点を確認する(60)		
第3回 人の発達と心の問題 (2) 乳幼児期～児童期のこころの問題【高橋】			配付資料を復習し、興味をもったトピックはWEB で調べる(60)		
第4回 人の発達と心の問題 (3) 思春期、青年期のこころの問題【高橋】			配付資料を復習し、興味をもったトピックはWEB で調べる(60)		
第5回 不安への心の働き(防衛機制を中心として)【三好】			配付資料を復習し、興味をもったトピックはWEB で調べる(60)		
第6回 アセスメントの基礎と技法【西坂】			配付資料を復習し、要点を確認する(60)		
第7回 検査法の種類【西坂】			配布資料を復習し、主だった検査名と特徴をまとめておく(60)		
第8回 データ分析法とまとめ【三好】			配布資料全体を丁寧に読み返し、ふりかえり問題を解く(60)		
履修に必要な予備知識や技能:身近で生じているこころの問題に対する感度を上げ、テレビや新聞等で情報を得ること。教科書の該当箇所を読んで分からない語句があれば、都度、調べること。					
課題に対するのフィードバック:出席カードに記入された質問・意見には、必要に応じて次回以降の講義内で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 70%、受講態度(授業への参加度)30%					
教科書:教科書:「面白いほどよくわかる!臨床心理学」 下山晴彦 監修 西東社					
備考:					
実務経験の内容・期間:高橋 ひとみ:看護師(36年)、三好 留美子:臨床心理士(17年)、西坂 愛深:臨床心理士(16年)					

科目名称:臨床心理学Ⅱ					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	講義	選択	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010344
<p>授業概要:臨床心理学Ⅱでは、臨床心理学Ⅰで学んだことを基礎として、心理的問題に介入する理論モデルと介入技法について学習する。臨床心理学は多くの理論的立場と技法から成り立っている。このことから、その中のおもな理論について概説し、心理学的人間理解の方法について理解を深める。心理的援助のための個人療法および集団療法の介入技法について基礎的な学修をする。さらにコミュニティにおける相談活動の実際についても学ぶことができる。</p>					
<p>到達目標:1. 個人および集団への治療的介入にはどのようなものがあるかを理解し、主だった心理療法の概要を自分の言葉で説明できること。 2. さまざまな関係機関の役割、現状、および心理的支援における課題を理解すること。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 臨床心理学の基本概念			チームアプローチ、多職種連携について下調べをする(60)		
第2回 心理学的支援の基本的面接技法			ナラティブアプローチ、ヒューマニスティックアプローチについて下調べする(60)		
第3回 心理療法の理論と個人への介入技法(1) 精神分析と力動的心理療法			フロイトとユングの理論について下調べする(60)		
第4回 心理療法の理論と個人への介入技法(2) 行動理論と行動療法			「心理学Ⅰ」で学んだ学習理論について復習する(60)		
第5回 心理療法の理論と個人への介入技法(3) 認知理論と認知行動療法			認知理論について下調べする(60)		
第6回 心理療法の理論と個人への介入技法(4) プレイセラピー、箱庭療法			非言語的アプローチについて下調べする(60)		
第7回 実践の場での活用 (1)子ども・家庭福祉 (2)高齢者福祉			ライフストーリーワーク、回想法について下調べする(60)		
第8回 実践の場での活用 (3)障がい児・者福祉 (4)精神保健福祉			ストレングス、オープンダイアログについて下調べする(60)		
履修に必要な予備知識や技能:「臨床心理学Ⅰ」で学んだことを復習しておくこと。					
課題に対するのフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:定期試験 70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:1年次「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」および「臨床心理学Ⅰ」と同じものを継続して使用する					
備考:					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(4年)					

科目名称:カウンセリング演習					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	演習	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010345
授業概要:看護師が活動する場面では、人と人のかかわり、コミュニケーションが非常に重要になっている。コミュニケーションは言語的なやり取りだけでなく、非言語的な要素を読み取ることが非常に重要なところである。カウンセリング演習では、コミュニケーションスキルを含むカウンセリングの基礎について学習を行う。そして、看護現場でも活用できる基礎的なカウンセリングの技術をロールプレイなども交えて学ぶことができる。					
到達目標:カウンセリングの基本的な理論、構造、技法を理解する。日常対話について再考し、自身のコミュニケーション方法に気づく。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 役に立つ支援とは			配布資料を読み返し、要点を確認する(60)		
第2回 信頼関係と基本的かかわり行動			配布資料を読み返す(60)		
第3回 カウンセリング理論(来談者中心療法)			教科書の該当箇所の予習(60)		
第4回 積極的傾聴の基本的態度(無条件の肯定的関心、共感的理解、自己一致)			教科書の該当箇所の予習(60)		
第5回 非言語的コミュニケーション			教科書の該当箇所の予習(60)		
第6回 応答技法(1)(あいづち、繰り返し)			教科書の該当箇所の予習(60)		
第7回 質問技法			教科書の該当箇所の予習(60)		
第8回 応答技法(2)(言いかえ、要約)			教科書の該当箇所の予習(60)		
第9回 感情の反映(1)(感情表出を促す、表情で応える)			教科書の該当箇所の予習(60)		
第10回 感情の反映(2)(感情表現を繰り返す、言いかえる、ことばで返す)			教科書の該当箇所の予習(60)		
第11回 沈黙			教科書の該当箇所の予習(60)		
第12回 最小限のはげまし、言いかえ、要約のロールプレイ			教科書の該当箇所の予習(60)		
第13回 感情の反映も含めた技法の統合			これまでの講義全体を復習する(60)		
第14回 ロールプレイ(1)(患者と看護師)			これまでの講義全体を復習する(60)		
第15回 ロールプレイ(2)(患者と看護師)とまとめ			これまでの講義全体を復習する(60)		
履修に必要な予備知識や技能:2年次に学んだ臨床心理学を復習すること。					
課題に対するフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:課題レポート70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:「逐語で学ぶ21の技法 対人援助のための相談面接技術」岩間伸之著 中央法規 参考書:「傾聴の心理学 PCAをまなぶ」坂中正義編著 創元社					
備考:本講義ではロールプレイを多く行います。ロールプレイに取り組む態度も、受講態度の評価対象となります。何らかの配慮が必要な場合には、直接申し出てください。					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称:高齢者の心理					
担当者名:奥田 裕紀					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	4年後期	講義	選択	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010346
<p>授業概要:発達とは、個体発生の過程における比較的永続的な変化であるとされる。また、成長、成熟、老化等は発達的变化の一部と考えられる。ここでは、発達過程全般の理解を基礎として、高齢者の特性について理解していく。そして、高齢化にともなう心理的特性、身体的特性の変化等に関する基本的な事項を理解し、基礎的な知識について学ぶとともに、様々な事例への対応についても考えていく。</p>					
到達目標:授業概要で示した内容について理解・考察し、説明・ディスカッションできることを目標とします。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 人間の心理的発達の基礎的理解Ⅰ(はじめに)			高齢者の心理に関して疑問に思ったこと、対応が困難であったことなどをまとめ、講義内容について自主学習を行うこと(90)		
第2回 人間の心理的発達の基礎的理解Ⅱ(発達とは、発達段階)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第3回 人間の心理的発達の基礎的理解Ⅲ(発達過程を理解する方法)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第4回 人間の心理的発達の基礎的理解Ⅳ(発達に影響を与える要因)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第5回 高齢期の心理的発達過程と特性Ⅰ(認知と身体など)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第6回 高齢期の心理的発達過程と特性Ⅱ(知能、性格など)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第7回 高齢期の心理的発達過程と特性Ⅲ(記憶、学習など)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第8回 高齢期の心理的発達過程と特性Ⅳ(喪失経験など)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第9回 高齢化に伴う心理的变化と日常生活Ⅰ(基礎的理解)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第10回 高齢化に伴う心理的变化と日常生活Ⅱ(展開)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第11回 高齢化に伴う心理的变化と日常生活Ⅲ(実例をもとに)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第12回 高齢者の心理的健康と支援Ⅰ(基礎的理解)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第13回 高齢者の心理的健康と支援Ⅱ(心の健康と支援)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第14回 高齢者の心理的健康と支援Ⅲ(支援の実際)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第15回 まとめと評価			学習内容について振り返り、まとめておくこと(120)		
履修に必要な予備知識や技能:実習などで、高齢者の心理に関して疑問に思ったこと、対応が困難であったことなどをまとめておく。高齢者の心理に関する図書を選択し、読んでおくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内で行った課題については、可能な限り当該授業、次回授業などで解説します。					
評価方法・基準:講義への取り組みの状況(20%)、課題・試験(80%)などに基づいて総合的に評価します。					
教科書:特に指定しませんが、必要に応じて資料配布などをします。					
備考:本科目については、資格取得に関連する科目であるため、シラバスの基本的内容を維持します。必要に応じて、Google Classroom や youtube などを用いることがあります。講義内容に関連する各自が選択したテーマに関して、資料のまとめ・考察・意見交換・発表などを行います。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:障害者の心理					
担当者名:奥田 裕紀					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	4年後期	講義	選択	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010347
授業概要:障害に関して理解するためには、自分自身との共通点にも注目することが重要と考えられる。ここでは、障害のある人達の心理的特性に関する基礎的知識について学び、障害のある人達の体験に関する理解を深めていく。そして、障害のある人達の家族の支援や、環境の整備等を含めた、様々な事例への対応についても考えていく。					
到達目標:授業概要で示した内容について理解・考察し、説明・ディスカッションできることを目標とします。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 障害者の心理的特性に関する基礎的理解Ⅰ(はじめに)			実習などで、障害者の心理に関して疑問に思ったこと、対応が困難であったことなどをまとめ、講義内容に関する自主学習を行うこと(90)		
第2回 障害者の心理的特性に関する基礎的理解Ⅱ(障害の認知と影響)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第3回 障害者の心理的特性に関する基礎的理解Ⅲ(自閉症スペクトラム障害)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第4回 障害者の心理的特性に関する基礎的理解Ⅳ(ADHD)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第5回 障害者の心理的特性に関する基礎的理解Ⅴ(LD)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第6回 障害者の心理的特性に関する基礎的理解Ⅵ(身体的障害など)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第7回 障害者の心理的特性に関する基礎的理解Ⅶ(様々な障害)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第8回 様々な職種・立場の人達の連携と協働Ⅰ(基礎的理解)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第9回 様々な職種・立場の人達の連携と協働Ⅱ(事例に基づいて)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第10回 障害者と家族への支援・環境整備Ⅰ(基礎的理解)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第11回 障害者と家族への支援・環境整備Ⅱ(展開)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第12回 障害者と家族への支援・環境整備Ⅲ(事例1について)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第13回 障害者と家族への支援・環境整備Ⅳ(事例2について)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第14回 障害者と家族への支援・環境整備Ⅴ(事例3について)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第15回 まとめと評価			これまでの学習内容を振り返り、まとめておくこと(120)		
履修に必要な予備知識や技能:実習などで、障害者の心理に関して疑問に思ったこと、対応が困難であったことなどをまとめておく。障害者の心理に関する図書を選択し読んでおくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内で行った課題については、可能な限り当該授業、次回授業などで解説します。					
評価方法・基準:講義への取り組みの状況(20%)、課題・試験(80%)などに基づいて総合的に評価します。					
教科書:特に指定しませんが、必要に応じて資料配布などをします。					
備考:本科目については、資格取得に関連する科目であるため、シラバスの基本的な内容を維持します。必要に応じて、Google Classroom や youtube などを用いることがあります。講義内容に関連する各自が選択したテーマに関して、資料のまとめ・考察・意見交換・発表などを行います。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:安全管理					
担当者名:安間 圭一					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年前期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010323
<p>授業概要:看護師が活躍する医療等の現場での安全管理は、職務内容の専門性の高さ、人間という対象の複雑さ(個人差、短時間での状態変化)、多くの職種の人に関与する状況等から特異性があるともいわれる。本講義では、看護師に求められる医療安全、安全管理の重要性、エラー・事故等の発生の要因、安全管理に必要な事項・対策、危険の予知と回避など、その実践方法等を中心に学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1. 医療事故は日常的に起こり得ることを理解し、安全管理の重要性を説明できる。 2. 看護現場で生じやすいヒューマンエラーと、それを防ぐ対策を説明できる。 3. 医療現場におけるコミュニケーションの重要性を説明できる。 4. 医療機関においてどのような安全管理の取り組みが行われているか説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 安全管理の基本的な考え方			教科書 序章、第1章を読みレポートにまとめる(60)		
第2回 看護における安全管理(1)診療補助における事故防止I			教科書 第2章を読みレポートにまとめる(60)		
第3回 看護における安全管理(2)診療補助における事故防止II			教科書 第2章、第3章を読みレポートにまとめる(60)		
第4回 看護における安全管理(3)療養支援における事故防止			教科書 第4章を読みレポートにまとめる(60)		
第5回 業務領域を超えて発生するヒューマンエラー			教科書 第5章を読みレポートにまとめる(60)		
第6回 医療安全とコミュニケーション			教科書 第6章を読みレポートにまとめる(60)		
第7回 安全管理への組織的な取り組み			教科書 第7章を読みレポートにまとめる(60)		
第8回 松任石川中央病院における安全管理の実際			これまでの講義内容をまとめておくことを読みレポートにまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「事前事後学修の内容とその所要時間」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 10%、グループワーク 10%					
教科書:教科書:《系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践②》『医療安全』川村治子著、医学書院					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(29年)					

科目名称:感染防御					
担当者名:小笠原 佐緒里、木下 幸子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年前期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010324
<p>授業概要:看護師が活動する医療等の現場では、施設内感染の複雑化が進行しており、感染防御の取り組みが重要となっている。看護師は、患者、施設利用者等の感染の媒体となることを防ぐと共に、自身が感染することを防ぐ必要があり、地域・在宅から高度専門医療機関まであらゆる看護の領域において重要な課題である。本講義では、細菌・ウイルス等による主要な感染症、感染の要因・経路、感染防御の具体的方法等について学ぶ。また、病院感染や施設内感染の防御に必要なスタンダードプリコーション、感染予防技術の原則を理解し、インフェクション・コントロールナース（感染管理認定看護師）の役割について学習する。</p>					
<p>到達目標:1)臨床微生物・医動物(細菌、真菌、原虫、寄生蠕虫、節足動物、ウイルス、プリオンなど)の特徴が理解できる。 2)感染防御機構の基礎がわかり、感染症発症のしくみや免疫の概要が理解できる。 3)宿主の臓器・組織別に感染症と病原体の関連が理解できる。 4)宿主の因子別に感染症と病原体の関連が理解できる。 5)感染症の検査・治療の概要を学び、感染症患者の病態(特徴や症状、検査データ)や治療の作用、副作用の観察などの看護について説明できる。 6)感染・発症予防(洗浄・消毒・滅菌、ワクチン接種、血清療法等)が理解でき</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 微生物・医動物とは (小笠原)			これまで学んだ臨床微生物・医動物にはどんなものがあるか(60)		
第2回 感染症の分類と感染防御機構/感染・発症予防と行政の対応(木下)			感染症法について。免疫とはなにか(60)		
第3回 感染症の検査・治療 (小笠原)			感染症の特徴・抗菌薬(60)		
第4回 宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体① (木下)			呼吸器感染症、結核、消化器感染症、肝炎、尿路感染症(60)		
第5回 宿主の臓器・組織的にみる感染症と病原体② (小笠原)			性感染症、皮膚・粘膜の感染症、皮膚に発疹が出現するウイルス感染症とリケッチア感染症、脳・神経系感染症(60)		
第6回 宿主の因子が影響する感染症と病原体① (木下)			人畜共通感染症、寄生虫感染症、小児の感染症、母子感染、高齢者の感染症(60)		
第7回 宿主の因子が影響する感染症と病原体② (小笠原)			日和見感染症、移植患者と感染症、手術創・外傷と感染症、血管内カテーテル関連血流感染症、薬剤耐性菌(60)		
第8回 演習・まとめ (小笠原、木下)			手指衛生・PPE 着脱・N95 マスク(60)		
履修に必要な予備知識や技能:予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にし、参加する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 20%					
教科書:教科書:《ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③》『臨床微生物・医動物』, 矢野久子, メディカ出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:小笠原 佐緒里(看護師 32 年)、木下 幸子(看護師 26 年)					

科目名称:保健医療概論					
担当者名:打出 喜義					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010401
授業概要:医学と医療の違い、医の倫理、ヘルシンキ宣言とインフォームドコンセント、患者の権利、カルテ記載と保存、情報公開制度、守秘義務等について理解する。また、我が国の保健医療制度の利点と問題点、医療の中における看護の役割について学び、良き医療人とは、病める人にとって必要な医療とは何かを考察し、みんなで意見を交わす。					
到達目標:看護専門職としてチーム医療の実践にあたり、患者との共有された理解のもとに、その目的達成の使命を果たしてゆくための心構えを養う。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 第3章 医学と医療①			教科書の116—147を読んでおくこと(60)		
第2回 第3章 医学と医療②			教科書の148—162を読んでおくこと(60)		
第3回 第5章 現代医療における諸問題① I 医療の進歩と医の倫理			教科書の204—244を読んでおくこと(60)		
第4回 第5章 現代医療における諸問題② II 医療における患者の権利			教科書の245—250を読んでおくこと(60)		
第5回 第5章 現代医療における諸問題③ III 病状(真実)告知			教科書の251—256を読んでおくこと(60)		
第6回 第5章 現代医療における諸問題④ IV 脳死と臓器移植			教科書の257—268を読んでおくこと(60)		
第7回 第5章 現代医療における諸問題⑤ V 死と生命保持、安楽死、死を共有する			教科書の268—292を読んでおくこと(60)		
第8回 試験、まとめ			試験及び解答解説		
履修に必要な予備知識や技能:講義予定の教科書範囲を前もって読んでおくこと。読めない漢字は無いようにしておくこと。					
課題に対するフィードバック:出席確認も兼ねて授業後に提出したリアクションペーパーの一部は次回の授業開始時に紹介します。					
評価方法・基準:定期試験60%、受講態度(授業への参加度)20%、リアクションペーパー内容20%として評価する。					
教科書:新体系看護学全書 別巻 現代医療論(メヂカルフレンド社)					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(46年)					

科目名称:保健医療制度論					
担当者名:岡森 正吾					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010402
授業概要:我が国の社会保障制度のうち、本講義では保健・医療に関する制度を中心に学ぶ。公的医療保険や介護保険制度が我が国の医療を大きく規定しているが、こうした制度のしくみ、成立過程、現状及び課題、将来の展望、関連する法を学び、その中における看護職の役割を考察する					
到達目標:1. 医療保険制度の仕組みについて、そのあらましを説明できる。2. 介護保険制度の仕組みについて、そのあらましを説明できる。3. 医療保障・介護保障制度の根拠となる法律の概要を理解できる。4. 医療保障・介護保障制度における看護職の役割を理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 はじめに、医療保障制度とは何か			教科書 3章 A~B(60)		
第2回 健康保険と国民健康保険			教科書 3章 C(60)		
第3回 高齢者医療制度			教科書 3章 D(60)		
第4回 保険診療のしくみと国民医療費			教科書 3章 E~G(60)		
第5回 介護保険制度の背景・目的・動向			教科書 4章 A(60)		
第6回 介護保険のしくみ I			教科書 4章 B(60)		
第7回 介護保険のしくみ II、介護保険制度の課題と展望			教科書 4章 B~C(60)		
第8回 全体のまとめ			これまでの講義内容をまとめておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「事前事後学修の内容とその所要時間」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度(出席状況を含む)20%					
教科書:《系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③》『社会保障・社会福祉』福田素生、他(共著)、医学書院					
備考:我が国の医療制度(公的医療保険や介護保険)を理解し、看護職の役割について分かってもらいたい					
実務経験の内容・期間:医療ソーシャルワーカー 18年					

科目名称: 社会保障制度論					
担当者名: 岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	選択	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010403
授業概要: わが国の社会保障制度のうち、本講義では保健・医療に関する制度を中心に学ぶ。公的医療保険や介護保険制度が我が国の医療を大きく規定しているが、こうした制度のしくみ、成立過程、現状及び課題、将来の展望、関連する法を学び、その中における看護職の役割を考察する。					
到達目標: ①わが国の社会保障制度を理解し説明できようになること、②現在のわが国の社会保障制度が抱える課題について考察できるようになることを目標とする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	ガイダンス・社会保障①	社会保障の概念・理念・歴史・機能・体系など	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第2回	社会保障②	少子高齢化・財政問題・制度改革など	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第3回	社会保険①	社会保険の歴史・意義・機能など、公的年金制度(1)	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第4回	社会保険②	公的年金制度(2)	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第5回	社会保険③	雇用保険・労働者災害補償保険	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第6回	公的扶助	生活保護制度・貧困問題・低所得者対策など	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第7回	社会福祉①	高齢者・障害者・児童福祉制度など	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第8回	社会福祉②	各種社会福祉制度・概念・歴史・援助技術など	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
履修に必要な予備知識や技能: 「保健医療制度論」を履修済みであることが望ましい					
課題に対するフィードバック: 資料配布または個別対応にて行う					
評価方法・基準: レポート(100%)					
教科書: 教科書: 『系統看護学講座 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉』(医学書院)					
参考書: 第1回授業で紹介する					
備考: シラバスに変更があるときは、事前に案内する					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:石川県・白山市の保健医療事情					
担当者名:曾根志穂 堀田真弓					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	選択	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010404
授業概要:看護師を目指す者として、地域の保健医療が置かれている現状や課題について知ることは大切である。そのため本講義では、本学の位置する石川県・白山市の保健医療について、地域の保健医療の特色、現状と課題について学び、地域に対する視点を養う。石川県の医療、看護を全国と比べて理解し、白山市の保健医療施策と将来計画について知る。そして白山市の医療と白山石川医療企業団について学ぶ。					
到達目標:①石川県、白山市の概要、保健医療の特色、現状と課題について学ぶ ②国、石川県、白山市のそれぞれの保健医療の現状、実施施策、計画等を理解する ③地域の特性に応じた看護活動を考える					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 石川県、白山市の概要、保健医療の特色、現状と課題を知る			石川県、白山市の地勢や人口など調べる(30)		
第2回 国、石川県、白山市の保健医療の現状、実施施策、計画等を知る			ホームページなどから保健計画等の情報を得る(30)		
第3回 石川県における保健分野の現状、課題を考える① 保健計画等から			インターネットを活用し、関係する情報を収集する(30)		
第4回 石川県における保健分野の現状、課題を考える② SDGs の基本理念から			インターネットを活用し、関係する情報を収集する(30)		
第5回 石川県の住民の暮らしと健康の特徴を考える			1-4 回目授業を復習する(30)		
第6回 石川県における看護活動を考える			1-5 回目授業を復習する(30)		
第7回 フィールドワーク① 石川県のモデル地区の保健医療事情を知る			フィールドワークの計画、準備をする(30)		
第8回 フィールドワーク② 石川県のモデル地区の看護活動を考える			フィールドワークの計画、準備をする(30)		
履修に必要な予備知識や技能:日頃から、新聞、インターネット等により石川県、白山市、自分の居住地における授業テーマについて興味関心を持ち、情報収集すること 毎回、教員、学生とのディスカッションしながらすすめるので、コミュニケーション力、協調性、リーダーシップを十分に発揮することを期待する					
課題に対するフィードバック:毎回の授業の後、学生より提出される出席カードに記載のコメントに対し、次回の授業において、解説等によりフィードバックする					
評価方法・基準:ワークシート、最終レポート 80%、受講態度(ディスカッション、フィールドワークの参加態度) 20%					
教科書:使用テキストなし					
備考:実際にモデル地区でのフィールドワークを予定していますが、諸事情により模擬演習となる場合があります					
実務経験の内容・期間:曾根志穂(保健師 5年) 堀田真弓(看護師 3年 保健師 11年)					

科目名称:看護マネジメント論					
担当者名:野上悦子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010411
<p>授業概要:看護管理・マネジメントとは、対象者に質の高い看護サービスの提供するために、看護組織を運営する過程である。看護師は、医師をはじめ医療を取り巻く多職種と連携協力して患者の健康、生活や人権を守るという責務を持ち、それは法的な根拠に基づいて実践されるものである。本講義では、看護に関する法律の知識とともに、提供する看護サービスマネジメントについて、組織論および管理論の側面から基本的な理解を深める。その上で、状況に応じた変革のプロセスやリーダーシップ論に関する知識とスキルを学び、変動に対応する組織の一員として、法的な視点(保健師助産師看護師法、看護職者の法的責任、関連する職種や医療・福祉に関する法)を基盤に看護マネジメントの展開を考える。</p>					
<p>到達目標:1.看護管理に関する基本的な知識を学び、看護実践者および看護管理者の視点で看護管理の目的と実践が理解できる。 2.医療環境が変動する中、多職種連携の中核的な役割を担う看護師の責務、組織変革のプロセスや問題解決手法、リーダーシップ論、チーム志向活動などに関する知識とスキルを学び、看護サービスマネジメントの展開が理解できる。 3.看護実践の法的根拠である関係法規をもとに、その背景にある社会のニーズや看護師に求められる役割を学び、セルフマネジメントによる継続教育の重要性と、これからの看護マネジメントの展開が理解</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 看護管理の基礎(1)看護と法律の関係を理解し、その上で、看護管理、看護サービス管理とは何か、マネジメントの機能とマネジメントに必要なスキル、組織の機能と形態について学習する 小テスト(1)			テキスト第1章 1「看護管理を学ぶとは」、2「看護サービス管理」、3「看護組織と管理」の 1「組織論」までを事前学習し、特にマネジメントの機能やマネジャーの役割について概観する(60)		
第2回 看護管理の基礎(2) 看護提供方式の種類と特徴、組織変革のプロセスとリーダーシップ、看護管理に必要な問題解決プロセスについて学ぶ 小テスト(2)			テキスト第1章 3-2「看護提供方式」から4「看護管理プロセス」を事前学習し、看護提供方式の特徴、意思決定のアプローチ、コッターの組織変革、看護管理のプロセスについて概観する(60)		
第3回 看護管理のスキル(1) 医療資源の獲得と配分、医療経費と法的根拠に基づく看護との関連、及び人的資源管理について学習する 小テスト(3)			「医療資源の獲得と配分」は講義資料を中心に説明する。テキスト第2章2「人的資源管理」を事前学習し、特にキャリアマネジメントについて概観する(60)		
第4回 看護管理のスキル(2) 主に電子情報の取り扱いや情報の管理、看護管理者に必要なコミュニケーションやアサーションなど、基本的なスキルについて学習し、保健師助産師看護師法についても学習する 小テスト(4)			テキスト第2章3「情報の管理」から4「管理行動」を事前学習し、電子情報の特徴とリスク、及び管理者に必要なスキルについて概観する(60)		
第5回 看護管理のスキル(3) 専門職として必要な自己管理、医療連携と多職種連携について学習する 小テスト(5)			テキスト第2章5「自己管理」と6「連携と協働」を事前学習し、ストレス管理や時間管理の重要性と具体的な方法、また医療連携と多職種連携の実際について概観する(60)		
第6回 看護管理のスキル(4)アウトカムマネジメントとして医療や看護の質評価の実際、安全管理の概要、働きやすい職場環境づくりにおける管理者の役割について学習する 小テスト(6)			テキスト第2章7「アウトカムマネジメント」を事前学習し、医療や看護の質を構成する要素や評価方法について、安全管理とアウトカムマネジメントの関連、働きやすい職場環境と管理者の役割を概観する(60)		
第7回 看護サービス管理の周辺 医療制度の仕組みを理解し、看護における診療報酬の評価、看護に関する医療関連法規について、また看護管理と倫理の課題について学習する 小テスト(7)			テキスト第3章「看護サービス管理の周辺」を事前学習し、特に医療関連法規として「看護師等の人材確保の促進に関する法律」と「医療法」について、看護における倫理的課題と看護管理との関係を概観する(60)		
第8回 看護管理の展望 これからの時代に看護管理に求められるものは何か、SDGsに掲げられた目標達成への貢献について学習する			テキスト第4章「看護管理の展望」を事前学習し、これからの社会のニーズに看護管理が果たす役割を考える(30)		
履修に必要な予備知識や技能:講義では、専門用語や難しい言葉に接する機会が多くなります。事前にテキストを読み、予習時間を確保しましょう。医療や看護に関するニュースやトピックに注目し、医療に従事する者として、医療を取り巻く情勢や課題などへの感度を高めましょう					
課題に対してのフィードバック:授業に関する疑問や質問に対して、次回の授業時に回答します。授業内で小テストを実施し、授業内容の振り返りをします。					
評価方法・基準:定期試験 70% 小テスト 20% 受講態度(授業への参加度) 10%					
教科書:看護管理学 自立し協働する専門職の看護マネジメントスキル 手島 恵他 南江堂					
備考:授業内で小テストを実施し、講義内容のポイントを確認すると同時に、学生が知識の振り返りを行えるようにします。					
実務経験の内容・期間:看護師(36年)					

科目名称:公衆衛生学					
担当者名:安間 圭一					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	必修	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010421
<p>授業概要:公衆衛生学は、個人ではなく人の集団を対象とし、健康の保持増進、疾病予防と早期発見等を推進する学問である。本講義では、公衆衛生学の基本概念を理解し、公衆衛生学の発展経緯を知り、プライマリヘルスケア、人間と環境、ヘルスプロモーション等の概念を学んでその重要性を理解する。</p>					
<p>到達目標:1. 健康の大切さを理解し、疾病予防の重要性を説明できる。 2. 環境要因と健康との関連を理解できる。 3. 健康づくりのための我が国や国際的な制度を説明できる。 4. 地域、学校、職場の保健について理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 はじめに・公衆衛生学とは何か			教科書 序章、第1章Aを読みレポートにまとめる(60)		
第2回 公衆衛生の歴史			教科書 第1章B～Eを読みレポートにまとめる(60)		
第3回 公衆衛生の対象			教科書 第2章を読みレポートにまとめる(60)		
第4回 公衆衛生のしくみ			教科書 第3章を読みレポートにまとめる(60)		
第5回 環境と健康			教科書 第4章を読みレポートにまとめる(60)		
第6回 国際保健とWHO・疫学の考え方			教科書 第5章、第6章を読みレポートにまとめる(60)		
第7回 地域と保健(1) 母子保健			教科書 第7章Aを読みレポートにまとめる(60)		
第8回 地域と保健(2) 成人保健			教科書 第7章Bを読みレポートにまとめる(60)		
第9回 地域と保健(3) 高齢者保健			教科書 第7章Cを読みレポートにまとめる(60)		
第10回 地域と保健(4) 精神保健			教科書 第7章Dを読みレポートにまとめる(60)		
第11回 地域と保健(5) 難病・障害者			教科書 第7章Fを読みレポートにまとめる(60)		
第12回 地域と保健(6) 感染症			教科書 第7章Gを読みレポートにまとめる(60)		
第13回 学校と健康			教科書 第8章を読みレポートにまとめる(60)		
第14回 職場と健康			教科書 第9章を読みレポートにまとめる(60)		
第15回 健康危機管理と災害保健・全体のまとめ			教科書 第10章を読みレポートにまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「事前事後学修の内容とその所要時間」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 20%					
教科書:教科書:《系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度②》『公衆衛生』神馬征峰、他(共著)、医学書院 参考書:『国民生活の動向』財団法人厚生統計協会					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(29年)					

科目名称:疫学・保健統計入門					
担当者名:横山 邦彦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		73010422
<p>授業概要:疫学は人間集団における疾病の分布とそれを規定する様々な因子を解析することにより、たとえば病気の感染源を特定したり疾病を予防したりするための基本的な方法論である。本講義ではこうした疫学の基本概念を知り、それに用いる統計理論や計算方法、統計資料の読み方を学ぶことで、今後の学習や卒業研究、看護現場で遭遇する問題の解決に必要な調査の基本を理解する。</p>					
<p>到達目標:1. 疫学で用いられる主要な指標について説明できる。 2. 卒業研究等でも必要となる疫学調査法の基本を理解できる。 3. 感染症・食中毒発生時の疫学調査について説明できる。 4. 人口統計・保健統計資料について説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 疫学の考え方			教科書 疫学 第1章、第2章-2を読みレポートにまとめる(60)		
第2回 感染症の疫学			教科書 疫学 第6章を読みレポートにまとめる(60)		
第3回 疫学調査法			教科書 疫学 第4章を読みレポートにまとめる(60)		
第4回 疫学で用いられる様々な指標			教科書 疫学 第2章-1、第3章を読みレポートにまとめる(60)		
第5回 疾病の予防とスクリーニング			教科書 疫学 第5章を読みレポートにまとめる(60)		
第6回 保健統計調査			教科書 保健統計 第2章-3を読みレポートにまとめる(60)		
第7回 疫学・保健統計をいかに使うか 臨床現場における実例①			これまでの講義内容をまとめておくことを読みレポートにまとめる(60)		
第8回 疫学・保健統計をいかに使うか 臨床現場における実例②			これまでの講義内容をまとめておくことを読みレポートにまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「準備学習」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対してのフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 20%					
教科書:教科書:《保健学講座4》『疫学／保健統計』尾島 俊之、編(共著)、メヂカルフレンド社					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(35年)					

科目名称:社会福祉概論 I					
担当者名:内慶瑞					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	選択	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010431
<p>授業概要:指定教科書を用いながら、下記について学修する。</p> <p>1 社会福祉の原理を学ぶ。 2 社会福祉の歴史を学ぶ 3 現代の社会問題について学ぶ。 4 社会福祉の思想と哲学について学ぶ。 5 社会福祉の理論について学ぶ。 6 社会福祉政策について学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1 現代の社会問題について社会福祉の視点から理解することができる。 2 社会福祉の担い手と施設・事業の実態、その援助や支援の方法について説明することができる。 3 福祉政策の概念・理念、その動向と課題について理解することができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 社会福祉の原理	事前に現代における社会福祉の対象(高齢者・障がいのある人・子ども等)や福祉専門職について調べる。(60)				
第2回 社会福祉の歴史1 日本	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第3回 社会福祉の歴史2 海外	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第4回 現代の社会問題1 社会問題への視点	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第5回 現代の社会問題2 グローバル時代の社会問題	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第6回 現代の社会問題3 日本	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第7回 社会福祉の思想	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第8回 社会福祉の哲学	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第9回 社会福祉の理論1 社会福祉の原理論	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第10回 社会福祉の理論2 福祉国家	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第11回 社会福祉の理論3 福祉政策	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第12回 福祉政策の機能1 機能と実施過程	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第13回 福祉政策の機能2 政策の決定	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第14回 福祉政策の機能3 政策の実施方法	教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)				
第15回 福祉政策の機能4 政策の評価 まとめ	全授業の総復習(90)				
履修に必要な予備知識や技能:現代社会の抱える問題について幅広く関心をもって、ニュースや新聞紙上において情報を収集しておくこと					
課題に対するのフィードバック:小テストを実施した場合は返却する。アクティブラーニングを適宜取り入れ、次回授業でフィードバックする。					
評価方法・基準:定期試験 80% 小テスト 10% 受講態度 10%					
教科書:教科書:『社会福祉の原理と政策』ミネルヴァ書房					
備考:					
実務経験の内容・期間:市社協福祉活動専門員 10年 県社会福祉士会副会長・理事 14年					

科目名称:社会福祉概論Ⅱ					
担当者名:内慶瑞					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	選択	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		73010432
<p>授業概要:指定教科書を用いながら、下記について学修する。</p> <p>1 福祉政策の財政について学ぶ。</p> <p>2 福祉政策の供給と利用について学ぶ。</p> <p>3 関連政策(保育 医療 教育など)の動向について学ぶ。</p> <p>4 社会福祉の国際比較について学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1 福祉政策の概要(財政 供給と利用)について理解することができる。</p> <p>2 関連する政策について理解することができる。</p> <p>3 社会福祉の国際比較の概要を理解することができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 福祉政策の財政1 財政の役割			社会福祉概論Ⅰで学習した内容を復習しておくこと(90)		
第2回 福祉政策の財政2 福祉国家の財政			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第3回 福祉政策の財政3 日本の福祉財政の課題			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第4回 福祉政策の供給と利用1 公的部門			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第5回 福祉政策の供給と利用2 民間部門			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第6回 福祉政策の供給と利用3 部門間の調整・連携・協働			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第7回 福祉政策の供給と利用4 福祉人材			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第8回 福祉政策の供給と利用5 利用者支援			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第9回 関連政策の動向1 保健医療政策とソーシャルワーク			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第10回 関連政策の動向2 教育政策とソーシャルワーク			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第11回 関連政策の動向3 住宅政策とソーシャルワーク			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第12回 関連政策の動向4 労働政策とソーシャルワーク			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第13回 社会福祉の国際比較1 比較福祉国家研究			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第14回 社会福祉の国際比較2 比較福祉国家研究の中の日本			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第15回 社会福祉の国際比較3 新しい福祉国家に向けて まとめ			全授業の総復習(90)		
履修に必要な予備知識や技能:社会福祉概論Ⅰおよびソーシャルワーク論Ⅰで学んだ内容をしっかりと復習して理解しておくこと					
課題に対するフィードバック:小テストは次回の授業時に補足説明および解説する。アクティブラーニングを適宜実施して、翌週にフィードバックする。					
評価方法・基準:定期試験 80% 小テスト 10%、受講態度 10%					
教科書:教科書:『社会福祉の原理と政策』ミネルヴァ書房					
備考:					
実務経験の内容・期間:市社協福祉活動専門員 10年 県社会福祉士会副会長・理事 14年					

科目名称:看護概論					
担当者名:田中 克恵					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	必修	2	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011101
<p>授業概要:本講義では、看護を初めて学ぶ学生を対象に、看護の本質、専門職性、看護の対象理解、看護実践の基盤など、これから看護・看護学を学ぶための出発点となる基礎的知識を提示し、看護と看護学に対する興味・関心を持たせるとともに、学生自らが看護について深く考え、理解するための基盤とする。</p>					
<p>到達目標:1. 看護の本質について考えを述べることができる。 2. 看護の専門職性について考えを述べるができる。 3. 看護の主要概念である人間、健康、環境、看護について説明できる。 4. 看護の対象となる個人・家族・集団・地域について説明できる。 5. 看護における倫理の必要性を理解し、説明できる。 6. 看護をめぐる法・制度・政策について学び、概要を説明できる。 7. 看護サービス提供の場と看護サービスについて説明できる。 8. 看護サービス提供に必要なチーム医療、看護管理、医療安全の概念を理解し、説明できる。 9. 看護職</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 Introduction - 看護とは、目指す看護師像(グループワーク)			事前学修:看護とは何か、看護を実践するために何が必要かを考え、ノートにまとめ、授業に参加する(60)。		
第2回 目指す看護師像(発表)			事前学修:グループで「目指す看護師像」についてまとめ、発表の準備をする(60)。		
第3回 看護の役割と機能、看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標			事後学修:「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標」を確認し、自己評価する(60)。		
第4回 看護の歴史			事前学修:テキスト第1章Aを読み、授業に臨むこと(30)。		
第5回 看護の主要概念と理論			事後学修:看護の主要概念について、授業、テキスト、専門書などを参考にノートにまとめる(90)。		
第6回 看護の対象の理解			事前学修:看護の対象とは何かを考え、ノートにまとめ、授業に参加する(60)。		
第7回 看護の対象と暮らしの理解			事後学修:看護の対象と暮らしについて、授業、テキスト、専門書などを参考に自身の考えをまとめ、提出する(90)。		
第8回 健康と生活			事後学修:健康とはなにか、授業、テキスト、専門書などを参考にノートにまとめる(60)。		
第9回 看護における倫理			事後学修:看護における倫理の必要性と概要について、授業、テキスト、専門書などを参考にノートにまとめる(60)。		
第10回 看護をめぐる法・制度・政策、看護職者に求められる臨床実践能力			事後学修:看護をめぐる法・制度・政策について、授業、テキスト、専門書などを参考にノートにまとめる(60)。		
第11回 看護サービス提供の場と看護サービス			事前学修:看護師がどのようなところで勤務・活躍しているかについて調べ、授業に参加する(60)。		
第12回 看護サービスの管理、医療安全			事後学修:看護サービスの管理・医療安全の必要性と概要について、授業、テキスト、専門書などを参考にノートにまとめる(60)。		
第13回 看護サービスとチーム医療			事後学修:チーム医療の必要性と看護職者の役割について、授業、テキスト、専門書などを参考にノートにまとめる(60)。		
第14回 看護実践におけるコミュニケーション			事後学修:コミュニケーションに関する自己の課題を考え、ノートにまとめる(30)。		
第15回 看護の基盤となる思考過程、看護記録			事後学修:目指す看護師像と今後の課題について、これまでの授業を踏まえて自身の考えをまとめ、提出する(90)。		
履修に必要な予備知識や技能:多様な社会の営みの中で、看護の果たす役割や意義について探求する態度が求められます。看護の歴史や現代看護の状況を資料をもとに調べ、看護の果たす社会的役割・責務について考えてみましょう。					
課題に対してのフィードバック:毎回、前回授業のリアクションペーパーに記された内容についてコメントをします。					
評価方法・基準:定期試験 80% 課題・レポート・受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:教科書:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論(医学書院)					
参考書:ヴァージニア・ヘンダーソン著 看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 フロレンス・ナイチンゲール著 看護覚え書―看護であること・看護でないこと、現代社					
備考:本科目は、基礎看護学実習 I を含めすべての看護の科目に深く関連しています。学修内容の理解を深めることは勿論ですが、授業や学生・教員とのディスカッションを通し、看護を探究する意義や楽しさを見出してください。					
実務経験の内容・期間:看護師(10年)					

科目名称:看護理論					
担当者名:一ノ山 隆司					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011102
授業概要:看護理論は看護実践の裏付けとなる考え方の枠組みを示すものである。代表的な看護理論の歴史の変遷と発展から、看護・人間・健康・環境といった看護学に共通する基礎的概念を理解することによって、科学的な思考を基盤とした看護実践の基礎を身につける。					
到達目標:1.看護理論を学ぶ意義について理解できる。 2.代表的な看護理論の分類と特徴について述べるができる。 3.看護理論を看護実践へ活用する意義を説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 看護理論とは(理論とは・看護理論の種類・中範囲理論)・看護理論を実践に活かす・看護理論の歴史と動向			教科書の第I章の「看護理論とは」を読み、看護理論の分類、理論の抽象度と分類についてまとめる。わからない言葉や用語を調べてノートに整理する。(60)		
第2回 看護理論の理解と実践への応用① フロレンス・ナイチンゲール(自然治癒力と生活環境への深い洞察)			教科書の第II章の「フロレンス・ナイチンゲール」の項を読み、生きた時代の背景などを含めて、教科書、専門書を活用して重点項目をまとめてノートに記述する。(60)		
第3回 看護理論の理解と実践への応用② ヴァージニア・ヘンダーソン(人間の基本的欲求?ニード?)に根差した看護の基本			教科書の第II章の「ヴァージニア・ヘンダーソン」の項を読み、理論の特徴について教科書、専門書を活用して重点項目をまとめてノートに記述する。(60)		
第4回 看護理論の理解と実践への応用③ アーネスティン・ウィーデンバック(患者の援助へのニードを満たす)			教科書の第II章の「アーネスティン・ウィーデンバック」の項を読み、理論の特徴について教科書、専門書を活用して重点項目をまとめてノートに記述する。(60)		
第5回 看護理論の理解と実践への応用④ ヒルデガート E.ペプロウ、ジョイス・トラベルビー、アイダ J.オーランド			教科書の第II章の「ペプロウ、トラベルビー、オーランド」の項を読み、理論の特徴について教科書、専門書を活用して重点項目をまとめてノートに記述する。(60)		
第6回 看護理論の理解と実践への応用⑤ ドロセアE.オレム(セルフケアの観点からの看護理論)			教科書の第II章の「ドロセアE.オレム」の項を読み、理論の特徴について教科書、専門書を活用して重点項目をまとめてノートに記述する。(60)		
第7回 看護理論の理解と実践への応用⑥ シスター・カリスタ・ロイ(人間と環境の相互作用で考える「適応看護モデル」)			教科書の第II章の「シスター・カリスタ・ロイ」の項を読み、理論の特徴について教科書、専門書を活用して重点項目をまとめてノートに記述する。(60)		
第8回 看護理論の理解と実践への応用⑦ ジーン・ワトソン(ヒューマンケアリング)、パトリシア・ベナー(臨床技能の修得段階とナラティブス)・総括			教科書の第II章の「ジーン・ワトソン、パトリシア・ベナー」の項を読み、理論の特徴について教科書、専門書を活用して重点項目をまとめてノートに記述する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:看護学概論では、看護の歴史、現代看護の状況などから看護の本質を学修します。看護・看護学を学ぶ意義について熟考し、看護実践に看護理論をどのように活用できるかを学ぶため、提示された授業外学修(予習・復習・課題など)に取り組んでください。					
課題に対するフィードバック:事前課題で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、次回以降の授業で講評・解説します。 事前課題は Google Classroom などを活用して掲示します。					
評価方法・基準:課題レポート 60% 小テスト 30% リアクションペーパー10%					
教科書:筒井真優美編:看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用, 改訂第3版, 南江堂					
備考:本科目は、現代の看護理論家の理論や哲学の序論、看護の歴史などを含め、看護実践の裏付けとなる看護理論の概略を学ぶことができます。普遍性・妥当性の高い看護実践について看護理論が果たす意義について探求してください。 看護理論は看護師国家試験出題基準に組み込まれています。					
実務経験の内容・期間:一ノ山隆司(看護師 15年)					

科目名称:看護倫理					
担当者名:一ノ山 隆司					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011103
授業概要:看護専門職を目指す看護師が身につけておくべき看護倫理の基礎的知識に関して学習し、看護実践の場で生じやすい倫理的課題について事例を用いて考察を深めることで、看護専門職としての倫理的態度を養う。					
到達目標:1.看護における倫理の重要性を理解できる。 2.看護倫理に関係する種々の用語を理解できる。 3.看護を実践する際の倫理的な課題について理解でき、解決するための方法を考えることができる。 4.看護学生としての倫理観を養う。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 倫理とはなにか。倫理と道徳、法律の違い・生命倫理、医療倫理、看護倫理の概念			教科書の序文を読み、わからない言葉について意味を調べる。教科書の第I章の倫理・道徳・法律・論理・理論・概念の言葉の違いを整理する(90)		
第2回 看護倫理の歴史的推移(倫理綱領の変遷)			教科書の第I章の米国看護師協会・国際看護師協会・日本看護協会の倫理綱領の項を読む。教科書に提示された学習課題を行う。(60)		
第3回 看護倫理のアプローチ(徳の倫理・原則の倫理・ケアの倫理)			教科書の第II章を読み、教科書の学習課題に対応するため考えをまとめる。(60)		
第4回 看護倫理に関係する重要な知識・概念① レジリエンス、アドボカシー、パターンリズム			教科書の第III章を読み、レジリエンス、アドボカシー、パターンリズムについて調べた内容をノートにまとめる。(60)		
第5回 看護倫理に関係する重要な知識・概念② 個人の権利、レスポンスビリティ、アカウントビリティ、インフォームド・コンセント			教科書の第III章を読み、個人の権利、レスポンスビリティ、アカウントビリティ、インフォームド・コンセントについて調べた内容をノートにまとめる。(60)		
第6回 看護倫理に関係する重要な知識・概念③ 守秘義務、プライバシー、個人情報保護法			教科書の第III章を読み、守秘義務、プライバシー、個人情報保護法について調べた内容をノートにまとめる。(60)		
第7回 倫理的意思決定のステップと事例検討(4ステップ法)			教科書の第IV章を読み、倫理的意思決定のためのモデルについて、事例を通して検討し、ノートにまとめる。(60)		
第8回 人生の最後を生きる人々への看護と倫理・総括			教科書の第V章を読み、さまざまな看護活動と倫理について考える。倫理は看護実践の中心であることについて、ノートにまとめる。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:看護学実習の「実習の心得」に倫理綱領が記載されており、その重要性を理解してください。生活の場で倫理について興味・関心が持てるように、倫理に関する社会的な話題を新聞・専門雑誌などから積極的に情報を収集してください。					
課題に対してのフィードバック:事前課題で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、授業で講評・解説します。					
評価方法・基準:課題レポート50% 定期試験40% リアクションペーパー10%					
教科書:教科書 小西恵美子編:看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ(第3版)、南江堂 参考書 前原澄子、遠藤俊子監:看護学生のためのよくわかる大学での学び方(第2版)、金芳堂					
備考:看護倫理は、看護ケアおよび臨床場面での判断やコミュニケーションにおける倫理的諸問題についての態度決定に影響する重要な分野です。倫理学、生命倫理とも深く関連しています。また、ナイチンゲール誓詞・ヒポクラテス誓詞・ジュネーブ宣言・ヘルシンキ宣言・患者の権利章典などは、看護倫理と密接に関連しますので、専門書、文献を探って、より深く学んでください。					
実務経験の内容・期間:一ノ山隆司(看護師15年)					

科目名称:看護情報論					
担当者名:田中 克恵					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	選択	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011104
<p>授業概要:看護師にとって、ICT(Information and Communication Technology)に関する知識は不可欠と言える。本講義では、病院の医療情報システム(電子カルテやオーダーリングシステム等)から個人用の情報ツールまで、様々な情報機器を例に、それらを扱う技術だけでなく、情報とは何か、看護現場ではどのような情報を扱うか、情報の保護と公開、看護情報を扱う態度(特に倫理や患者の権利に関して)等についても学び、看護実践につながる情報処理能力の習得を目指す。</p>					
<p>到達目標:1. 看護情報の概念を理解する。 2. 情報の収集方法を理解する。 3. 看護における情報の活用方法を理解する。 4. 情報倫理について理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 情報と情報化社会:情報化社会における情報の活用			事前学修:日常において活用している情報機器と情報ツールについて調べておく(60)		
第2回 情報化社会と保健・医療・看護			事前学修:教科書の第2章を読み、情報が保健・医療や消費者に及ぼす影響を考えておくこと(60)		
第3回 医療における情報システム:電子カルテ、オーダーリングシステム等			事前学修:基礎看護学実習で見学・使用した情報システムについて復習しておくこと(60)		
第4回 看護における情報の活用①:看護情報とは、看護用語の標準化、NANDA-I看護診断			事前学修:看護情報とは何か、看護情報の種類について調べてくること(60)		
第5回 看護における情報の活用②:診療情報の二次利用、看護研究(グループディスカッション)			事前学修:看護学研究法で作成した「文献メモ」を整理し、持参すること(60)		
第6回 研究データの収集方法			事前学修:教科書の第10章、第11章を予習しておくこと(60)		
第7回 データ分析			事前学修:研究テーマに関する文献検索を行い文献メモを作成すること。また、データを持参すること(90)		
第8回 情報を取り扱う態度:情報と倫理、看護実習における個人情報保護			事後学修:提示された課題を提出すること(90)		
履修に必要な予備知識や技能:インターネット、エクセルに関する基礎知識を持ち活用できることが望ましい。					
課題に対するフィードバック:毎回、前回授業のリアクションペーパーに記された内容についてコメントします。					
評価方法・基準:定期試験80%、課題・レポート・受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:系統看護学講座 別巻 看護情報学(医学書院)。参考書:授業内で適宜紹介します。					
備考:本科目では、予習した内容や取り組んだ課題をもとに学生間でディスカッションする時間を設けます。					
実務経験の内容・期間:看護師(10年)					

科目名称:基礎看護学方法論Ⅰ(生活の援助技術)					
担当者名:田中 克恵、野上 悦子、野上 睦美、大村 裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011111
授業概要:基礎看護学方法論Ⅰ(生活の援助技術)では、コミュニケーションや感染防御などの看護における共通基本技術および基本的な生活の援助技術を科学的原理に基づいて実践するために必要な基礎知識を学ぶ。					
到達目標:1.看護技術とは何かを理解する。 2.生活の援助技術とは何かを理解する。 3.看護を展開する際の共通基本技術(コミュニケーション、スタンダードプリコーション、安全・安楽、ヘルスアセスメントなど)に必要な基礎知識を身に付ける。 4.安全・安楽な日常生活の援助技術を提供するために必要な基礎知識を身に付ける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 看護技術とは、コミュニケーション			教科書Ⅰ序章を予習するとともに基礎看護学実習Ⅰを振り返り、看護技術とは何かを考え日々のコミュニケーションに関心を持って生活する(60)。授業で学んだことを振り返り学んだ知識を日常生活で活用する(30)		
第2回 安全確保の技術1・感染防止の技術			教科書Ⅰ第2章を予習するとともに、1日の生活の中で感染予防に関心を持って生活する。。また、教科書Ⅰ第3章を予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(30)。		
第3回 ヘルスアセスメント			教科書Ⅰ第4章A・Bを予習するとともに、自分の身体の動きに関心を持って生活する(60)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(30)。		
第4回 環境調整技術			教科書Ⅱ第1章を予習するとともに、自分の生活環境を健康の視点から振り返る(60)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(30)。		
第5回 活動・休息の援助技術			教科書Ⅱ第4章を予習するとともに、1日の生活の中での活動と休息に関心をもって生活する(60)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(30)。		
第6回 清潔・衣生活の援助技術			教科書Ⅱ第5章C、第6章を予習するとともに、自分の清潔行動、衣服に関する行動に関心をもって生活する(60)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(30)。		
第7回 食事の援助技術1:基礎知識、食事介助			教科書Ⅱ第2章A、Bを予習するとともに、自分の食事行動および毎日の食事内容・摂取量に関心をもって生活する(60)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(30)。		
第8回 排泄の援助技術1:自然排尿・自然排便がある患者への援助			教科書Ⅱ第3章Aを予習するとともに、自分の排泄動作、1日の排泄回数、排泄パターンに関心をもって生活する(60)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(30)。		
履修に必要な予備知識や技能:これまでに学修した専門展開科目および専門基本科目を復習し、知識の定着を図るとともに、各単元に関わる自分の生活を振り返った上で授業に臨んでください。 基礎看護学方法論演習Ⅰを同時に履修してください。					
課題に対するフィードバック:毎回、前回授業のリアクションペーパーに記された内容についてコメントします。					
評価方法・基準:筆記試験:80%、提出物・受講態度:20%					
教科書:教科書Ⅰ:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 教科書Ⅱ:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)					
備考:本科目では、事前学習や取り組んだ課題について、学生間でディスカッションする時間を設けます。					
実務経験の内容・期間:田中克恵(看護師、10年)、野上悦子(看護師、36年)、野上睦美(看護師、5年)、大村裕佳子(看護師、10年)					

科目名称:基礎看護学方法論Ⅱ(診療の援助技術)					
担当者名:田中 克恵、野上 悦子、野上 睦美、大村 裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	必修	2	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011112
授業概要:基礎看護学方法論Ⅱ(診療の援助技術)では、看護における共通基本技術をふまえた上で、与薬や検査等に伴う診療の援助技術を科学的原理に基づいて実践するために必要な基礎的知識を学ぶ。					
到達目標:1.診療の補助技術とは何かを理解する。 2.正確かつ安全・安楽な診療の補助技術を提供するために必要な基礎知識を身に付ける。 3.診療の補助技術における看護の共通基本技術の適用の必要性を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 診療の補助技術とは・安全確保の技術2			教科書Ⅱ序章および教科書Ⅰ第3章を予習しておくこと。また、教科書Ⅱ第2章から第13章までの見出しを確認する(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第2回 感染予防の技術2:無菌操作			教科書Ⅰ第2章 E~H を予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第3回 創傷管理技術1:創傷管理の基礎知識			教科書Ⅱ第8章Aを予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第4回 創傷管理技術2:創傷処置と褥瘡予防			教科書Ⅱ第8章B・Cを予習しておくこと(60)。提示された演習ワークブック「褥瘡予防」の事後課題に取り組むこと(30)。		
第5回 与薬の技術1:基礎知識			教科書Ⅱ第9章Aを予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第6回 与薬の技術2:与薬方法/経口薬、経皮・外用薬、座薬の投与			教科書Ⅱ第9章B~Gを予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第7回 与薬の技術3:注射			教科書Ⅱ第9章Hを予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第8回 症状・生体機能管理技術			教科書Ⅱ第11章を予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第9回 診察・検査・処置の介助技術			教科書Ⅱ第12章を予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第10回 食事の援助技術2:非経口栄養摂取			教科書Ⅱ第2章Dを予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第11回 排泄の援助技術2:排尿障害のある患者への援助			教科書Ⅱ第3章Bを予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第12回 排泄の援助技術3:排便障害のある患者への援助			教科書Ⅱ第3章C・Dを予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第13回 呼吸・循環を整える技術			教科書Ⅱ第7章を予習しておくこと(60分)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第14回 苦痛の緩和・安楽確保の技術			教科書Ⅱ第5章B・Cを予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
第15回 死の看取りの援助			教科書Ⅱ第13章を予習しておくこと(60)。授業で学んだことを振り返り、不明な点や疑問を解決する(30)。		
履修に必要な予備知識や技能:これまでに学修した専門展開科目および専門基本科目を復習し、知識の定着を図るとともに、看護の共通基本技術を習得した上で授業に臨んでください。 基礎看護学方法論演習Ⅱを同時に履修してください。					
課題に対してのフィードバック:毎回、前回授業のリアクションペーパーに記された内容についてコメントします。					
評価方法・基準:筆記試験:80%、提出物・受講態度:20%					
教科書:教科書Ⅰ:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 教科書Ⅱ:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)					
備考:本科目では、事前学習や取り組んだ課題について、学生間でディスカッションする時間を設けます。					
実務経験の内容・期間:田中克恵(看護師、10年)、野上悦子(看護師、36年)、野上睦美(看護師、5年)、大村裕佳子(看護師、10年)					

科目名称:基礎看護学方法論演習Ⅰ(生活の援助技術)					
担当者名:田中 克恵、野上 悦子、野上 睦美、大村 裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	演習	必修	2	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011121
<p>授業概要:基礎看護学方法論演習Ⅰ(生活の援助技術)では、看護における共通基本技術、基本的な生活の援助技術および医療従事者としての基本的態度を演習を通して身につける。学生がイメージしやすいシミュレータ教育も含め具体的には、感染防御技術、フィジカルアセスメント、病床環境の整備、体位変換、移動の援助、清潔の援助、休息の援助、食生活の援助、排泄の援助等について、高性能シミュレータも活用しながら演習を行う。</p> <p>到達目標:1.対象に合わせたコミュニケーション、プライバシーへの配慮の必要性を理解し実践できる。 2.スタンダードプリコーションの必要性を理解し実践できる。 3.安全・安楽な生活の援助技術を提供する必要性を理解し実践できる。 4.ヘルスアセスメントに必要な知識と基本技術を習得する。 5.生活の援助技術に関する知識と技術を習得する。 6.対象の状態・状況に合わせた生活の援助技術の具体的方法や留意点を述べる事ができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	看護における共通基本技術:コミュニケーション技術		提示された演習ワークブック「コミュニケーション技術」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第2回	感染防止の技術1:標準予防策		提示された演習ワークブック「標準予防策」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第3回	ヘルスアセスメント1:フィジカルアセスメント①バイタルサイン・身体計測		教科書Ⅰ第4章A～Cを予習するとともに、自分の身体の働きに関心を持って生活する(40)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(20)。		
第4回	ヘルスアセスメント2:フィジカルアセスメント②系統別フィジカルアセスメント		教科書Ⅰ第4章Dを予習するとともに、自分の身体の働きに関心を持って生活する(40)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(20)。		
第5回	ヘルスアセスメント3:バイタルサインの測定①		提示された演習ワークブック「バイタルサインの測定」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第6回	ヘルスアセスメント4:バイタルサインの測定②		提示された演習ワークブック「バイタルサインの測定」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第7回	ヘルスアセスメント5:身体計測・体表面のフィジカルアセスメント		提示された演習ワークブック「身体計測・体表面のフィジカルアセスメント」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第8回	ヘルスアセスメント6:系統別フィジカルアセスメント①(呼吸・循環)		提示された演習ワークブック「フィジカルアセスメント(呼吸・循環)」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第9回	ヘルスアセスメント7:系統別フィジカルアセスメント②(乳房・腋窩、腹部)		提示された演習ワークブック「フィジカルアセスメント(乳房・腋窩・腹部)」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第10回	ヘルスアセスメント8:系統別フィジカルアセスメント③(脳神経・感覚器・運動器)		提示された演習ワークブック「フィジカルアセスメント(脳神経・感覚器・運動器)」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第11回	環境調整技術1:ベッドメイキング		提示された演習ワークブック「ベッドメイキング」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第12回	活動・休息の援助技術1:体位変換・保持・ボディメカニクス①		提示された演習ワークブック「体位変換・保持・ボディメカニクス」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第13回	活動・休息の援助技術1:体位変換・保持・ボディメカニクス②		提示された演習ワークブック「体位変換・保持・ボディメカニクス」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第14回	活動・休息の援助技術2:ポジショニング		教科書Ⅱ第5章Aを予習するとともに安楽な姿勢に意識して生活する(40)。提示された演習ワークブック「ポジショニング」の事後課題に取り組むこと(20)。		
第15回	環境調整技術2:シーツ交換		提示された演習ワークブック「シーツ交換」の事前課題(40分)、事後課題(20分)に取り組むこと		
第16回	活動・休息の援助技術3:車椅子移乗・移送①		提示された演習ワークブック「車椅子移乗・移送」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第17回	活動・休息の援助技術4:車椅子移乗・移送②		提示された演習ワークブック「車椅子移乗・移送」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第18回	活動・休息の援助技術5:歩行・移動介助、ストレッチャー移乗・移送		提示された演習ワークブック「歩行・移動介助、ストレッチャー移乗・移送」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第19回	清潔・衣生活の援助技術1:寝衣交換(和式、パジャマ)		提示された演習ワークブック「寝衣交換」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第20回	清潔・衣生活の援助技術2:全身清拭①		提示された演習ワークブック「全身清拭」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第21回	清潔・衣生活の援助技術3:全身清拭②		提示された演習ワークブック「全身清拭」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第22回	清潔・衣生活の援助技術4:洗髪・整容①		提示された演習ワークブック「洗髪・整容」の事前課題(40分)、事後課題		

	(20分)に取り組むこと
第23回 清潔・衣生活の援助技術 5:洗髪・整容②	提示された演習ワークブック「洗髪・整容」の事前課題(40分)、事後課題(20分)に取り組むこと
第24回 清潔・衣生活の援助技術 6:手浴	提示された演習ワークブック「手浴」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと
第25回 清潔・衣生活の援助技術 7:足浴	提示された演習ワークブック「足浴」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと
第26回 食事の援助技術 1:食事介助、清潔・衣生活の援助技術 8:口腔ケア	提示された演習ワークブック「食事介助、口腔ケア」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと
第27回 排泄の援助技術 1:おむつ交換	提示された演習ワークブック「おむつ交換」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと
第28回 排泄の援助技術 2:床上排泄、清潔・衣生活の援助技術 9:陰部洗浄	提示された演習ワークブック「床上排泄、陰部洗浄」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと
第29回 救命救急処置技術 1:基礎知識、心肺蘇生法①	教科書Ⅱ第10章を予習するとともに救命救急が必要な日常生活の場面に関心を持って生活する(40分)。授業で学んだことを振り返り、学んだ知識を日常生活で活用する(20分)。
第30回 救命救急処置技術2:心肺蘇生法②	提示された演習ワークブック「心肺蘇生法」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと
履修に必要な予備知識や技能:基礎看護学方法論Ⅰを同時に履修し、かつ、学習した内容を復習・理解した上で授業に臨んでください。	
課題に対するフィードバック:毎回、前回授業のリアクションペーパーに記された内容についてコメントします。 提出された演習ワークブックは、コメントを記して返却します。	
評価方法・基準:実技試験:60%、提出物・受講態度 40%	
教科書:教科書Ⅰ:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 教科書Ⅱ:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)	
備考:本科目では、グループで演習課題に取り組むことで技術の習得を目指すとともに、ディスカッションを通じて学びを深め共有します。	
実務経験の内容・期間:田中克恵(看護師、10年)、野上悦子(看護師、36年)、野上睦美(看護師、5年)、大村裕佳子(看護師、10年)	

科目名称:基礎看護学方法論演習Ⅱ(診療の援助技術)					
担当者名:田中 克恵、野上 悦子、野上 睦美、大村 裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011122
授業概要:基礎看護学方法論演習Ⅱ(診療の援助技術)では、看護における共通基本技術をふまえた上で、検査・治療に関わる援助技術およびリスクマネジメントの基礎を演習を通して身につける。シミュレータ教育も含め具体的には、無菌操作、注射法、静脈採血、浣腸、導尿、経管栄養、酸素吸入療法等について、高性能シミュレータも活用しながら演習を行う。					
到達目標:1.対象に合わせたコミュニケーション、プライバシーへの配慮の必要性を理解し実践できる。 2.スタンダードプリコーションの必要性を理解し実践できる。 3.正確かつ安全・安楽な診療の援助技術を提供する必要性を理解し実践できる。 4.診療の援助技術に関する知識と技術を習得する。 5.診断・検査・治療時の生活の援助技術に関する知識と技術を習得する。 6.対象の状態・状況に合わせた診療の援助技術の具体的方法や留意点を述べる事ができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 感染防止の技術:滅菌物の取り扱い・無菌操作、創傷管理技術1:創傷処置			提示された演習ワークブック「無菌操作・創傷処置」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第2回 創傷管理技術2:包帯法・止血法			提示された演習ワークブック「包帯法・止血法」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第3回 与薬の技術1:経口薬、経皮・外用薬、座薬の投与			提示された演習ワークブック「経口薬、経皮・外用薬、坐薬の投与」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第4回 与薬の技術2:注射法①(筋肉内注射、皮下注射)			提示された演習ワークブック「注射法」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第5回 与薬の技術3:注射法②(筋肉内注射、皮下注射)			提示された演習ワークブック「注射法」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第6回 症状・生体機能管理技術:採血			提示された演習ワークブック「採血」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第7回 与薬の技術4:点滴静脈内注射			提示された演習ワークブック「点滴静脈内注射」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第8回 清潔・衣生活の援助技術10:点滴をしている人の寝衣交換			提示された演習ワークブック「点滴をしている人の寝衣交換」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第9回 食事の援助技術2:経鼻胃管の挿入			提示された演習ワークブック「経鼻胃管の挿入」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第10回 食事の援助技術3:経管栄養			提示された演習ワークブック「経管栄養」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第11回 排泄の援助技術3:浣腸、排便			提示された演習ワークブック「浣腸・排便」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第12回 排泄の援助技術4:導尿・膀胱留置カテーテル挿入中の管理①			提示された演習ワークブック「導尿・膀胱留置カテーテル挿入中の管理」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第13回 排泄の援助技術5:導尿・膀胱留置カテーテル挿入中の管理②			提示された演習ワークブック「導尿・膀胱留置カテーテル挿入中の管理」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第14回 呼吸・循環を整える技術1:吸引			提示された演習ワークブック「吸引」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
第15回 呼吸・循環を整える技術2:酸素吸入、気道内加湿、体位ドレナージ			提示された演習ワークブック「酸素吸入、気道内加湿、体位ドレナージ」の事前課題(40)、事後課題(20)に取り組むこと		
履修に必要な予備知識や技能:これまでに学習した基礎看護学系(特に、基礎看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学方法論演習Ⅰ)の学習内容を復習し知識の定着を図るとともに、これまで学んだ看護技術を習得した上で授業に臨んでください。基礎看護学方法論Ⅱを同時に履修してください。					
課題に対してのフィードバック:毎回、前回授業のリアクションペーパーに記された内容についてコメントします。 提出された演習ワークブックは、コメントを記して返却します。					
評価方法・基準:実技試験:60%、提出物・受講態度:40%					
教科書:教科書Ⅰ:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 教科書Ⅱ:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)					
備考:本科目では、グループで演習課題に取り組むことで技術の習得を目指すとともに、ディスカッションを通じて学びを深め共有します。					
実務経験の内容・期間:田中克恵(看護師、10年)、野上悦子(看護師、36年)、野上睦美(看護師、5年)、大村裕佳子(看護師、10年)					

科目名称:基礎看護過程論					
担当者名:田中 克恵、野上 悦子、野上 睦美、大村 裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011123
授業概要:看護過程は、看護の対象となる人々に適切な看護を実践するための科学的方法論である。問題解決法の考え方や看護過程の構成要素などについて学び、仮想事例を用いたアセスメント、看護問題の明確化、看護計画立案などを通し、看護過程の展開に必要な基本的な知識の習得を目指す。					
到達目標:1. 看護過程を構成する要素とプロセスを理解する。 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方(問題解決法、クリティカルシンキングなど)を理解する。 3. 看護過程におけるアセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価の方法と留意点を理解する。 4. 仮想事例を用いたアセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案ができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 看護過程と看護理論			事前学修:看護概論を復習しておくこと、テキスト第5章A・Bを予習しておくこと(60)		
第2回 ヘンダーソンの看護理論に基づくアセスメント			事前学修:ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を熟読して授業に臨むこと(60)		
第3回 情報収集と分析			事前学修:第5章C-①を予習しておくこと(30)		
第4回 仮想事例を用いた情報収集、グループワーク			事後学修:提示された課題(仮想事例「情報収集」)に取り組むこと(90)		
第5回 仮想事例を用いたアセスメント			事後学修:提示された課題(仮想事例「アセスメント」)に取り組むこと(90)		
第6回 仮想事例を用いたアセスメント(グループワーク、発表の準備)			事後学修:提示された課題(仮想事例「アセスメント」の発表準備)に取り組むこと(60)		
第7回 仮想事例を用いたアセスメント(発表)			事後学修:提示された課題(仮想事例「アセスメント」の見直し・修正)に取り組むこと(60)		
第8回 関連図の作成と全体像の理解			事後学修:提示された課題(仮想事例「全体像」)に取り組むこと(90)		
第9回 関連図の作成と全体像の理解(グループワーク、発表の準備)			事後学修:提示された課題(仮想事例「全体像」の発表準備)に取り組むこと(60)		
第10回 関連図の作成と全体像の理解(発表)			事後学修:提示された課題(仮想事例「全体像」の見直し・修正)に取り組むこと(60)		
第11回 看護上の問題の明確化と優先順位			事後学修:提示された課題(仮想事例「看護上の問題の明確化と優先順位」)に取り組むこと(60)		
第12回 看護計画立案の方法と留意点			事後学修:提示された課題(仮想事例「看護計画立案」)に取り組むこと(60)		
第13回 事例を用いた看護計画の立案(グループワーク)			事後学修:提示された課題(仮想事例「看護計画」の見直し・修正)に取り組むこと(60)		
第14回 看護計画の実施と評価			事後学修:学習内容を復習しておくこと(30)		
第15回 小テスト、基礎看護学実習における看護過程の展開			事前学修:これまでに学習した内容を復習して授業に臨むこと(90)		
履修に必要な予備知識や技能:これまでに学修した内容(特に、看護概論、看護理論)について復習し、授業に臨んでください。					
課題に対してのフィードバック:毎回、前回授業のリアクションペーパーに記された内容についてコメントします。 提出されたレポートは、コメントを記して返却します。					
評価方法・基準:小テスト50%、課題・レポート・受講態度(授業への参加度)50%。					
教科書:教科書:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術I(医学書院) 参考書:ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの(日本看護協会出版)。その他、授業内で適宜紹介します。					
備考:本科目では、看護過程を理論的に学ぶとともに、仮想事例を用いてグループワークや看護計画立案などに取り組めます。					
実務経験の内容・期間:田中克恵(看護師10年)、野上悦子(看護師36年)、野上睦美(看護師5年)、大村裕佳子(看護師10年)					

科目名称:基礎看護学実習 I (早期体験実習)					
担当者名:田中 克恵、野上 悦子、野上 睦美、大村 裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年通年	実習	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011131
<p>授業概要:基礎看護学実習 I (早期体験実習)では、病院の機能を成り立たせる各部門の機能と相互の連携、病院で療養生活を送っている人たちやその療養環境、看護職の業務と役割について理解を深める。また、看護専門職者としての基本的態度を学ぶと共に、これからの学修に対する動機付けとする。</p>					
<p>到達目標: 1. 看護・医療が提供されている医療施設において、病棟ならびに病棟以外にどのような部門があるかを知り、説明できる。 2. 患者にとっての療養環境を理解し、説明できる。 3. 看護師が実際にどのように患者と接しているのかを学び、説明できる。 4. 看護師の看護活動の見学をふまえ、看護師の業務と役割について説明できる。 5. 入院中の患者とのコミュニケーションを通して患者の入院中の日常生活の実際を知る。 6. 実習生に必要な接遇やマナーについて学び、実践できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の構造・組織、各部門の役割・特徴の理解 2. 病院で療養する患者の特徴および療養環境の理解 3. 看護師の業務と役割の理解 4. 患者とのコミュニケーション 5. 実習生に必要な接遇やマナーの理解 <p>【学習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院および病棟のオリエンテーションを受け、病院・病棟の構造、入院患者の特徴、実習上の注意点などについて理解する。 2. 以下の部門を見学し、その役割と特徴について考察する。 ・中央手術室 ・中央材料室 ・カルテ管理室 ・検査部門 ・栄養科 ・リハビリテーション部門 ・薬剤部門 ・外来部門 ・地域連携部門 など 3. 看護師に同行してその看護師が実践する看護を見学し、看護師の業務と役割について考察する。 4. 患者との関わりや見学を通し、患者にとって望ましい療養環境について考える。 5. 患者との会話をプロセスレコードに記録し、自身のコミュニケーションスキルについて振り返る。 6. 実習生として望ましい態度や行動、身に付けるマナーについて考え実践する。 7. 病院実習での学びをまとめ、共有する。 <p>実習に関する詳細な内容については、実習前オリエンテーションにて配布する「基礎看護学実習 I (早期体験実習)実習要項」を参照してください。実習前オリエンテーションの日程は、後日、提示します。</p>			<p>指示される事前学習(実習施設の概要など)に取り組んでください(120)。事前に「本日の実習目標」と「行動計画」を考えて記録用紙に記載します(30)。 1 日の病院実習を終えて、その日に説明を受けたことや見学したこと、学んだことなどを記録用紙に記載します(60)。 病院での実習終了後に、基礎看護学実習 I で学んだことを「課題レポート」としてまとめます(120)。</p>		
履修に必要な予備知識や技能:看護概論を履修中、または単位を修得済みであることが望ましい。指定する実習前オリエンテーションに出席してください。					
課題に対してのフィードバック:提出した課題は添削して指導・返却します。					
評価方法・基準:到達目標の達成度 80%、課題・記録・実習態度 20%、総合的に評価します。					
教科書:使用テキストなし。実習要項を配布します。					
備考:実習施設での見学・体験、患者や指導者・病院スタッフとの関わり、学生間でのディスカッションなどを通じて看護に関する学びを深め、看護師になるために何をすべきか考えましょう。					
実務経験の内容・期間:田中克恵(看護師 10 年)、野上悦子(看護師 36 年)、野上睦美(看護師 5 年)、大村裕佳子(看護師 10 年)					

科目名称:基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)					
担当者名:田中 克恵、野上 悦子、野上 睦美、大村 裕佳子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年通年	実習	必修	2	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011132
授業概要:基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)では、病院で療養生活を送っている人たちとコミュニケーションをとって対象者の情報を集め、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画立案、実施、評価という一連の看護過程を展開する中で、すべての看護に共通する基本的な技術を習得し、チームの一員として行動する態度や、倫理を含めた看護実践能力を養う。					
到達目標:1.療養生活を送る受け持ち患者との援助的人間関係を築く。 2.受け持ち患者のバイタルサイン測定が適切に実施できる。 3.受け持ち患者を対象に看護過程を展開する。 4.実習を通して自己の学習課題を見出し、解決に向けた取り組みができる。 5.実習生としての学習態度や、倫理的観に基づいて行動できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
【学習内容】 1.療養生活を送る受け持ち患者との援助的人間関係 2.受け持ち患者の健康状態を理解するための看護技術 3.受け持ち患者を対象とした看護過程の展開 4.実習生としての学習態度や倫理的配慮 【学習方法】 1.病院および病棟のオリエンテーションを受け、病院・病棟の機能や構造、看護体制、実習病棟の特徴、入院患者の概要、電子カルテ、受け持ち患者などについて理解する。 2.看護師の患者への接し方の観察、患者との関りなどを通して、患者と良好な人間関係を築くための実際を学ぶ。 3.受け持ち患者の理解に努め、バイタルサイン測定や日常生活援助を中心に看護援助を行う。 4.指導者および教員の指導・助言を受け、受け持ち患者を対象に情報収集から立案した看護計画の実施・評価までの一連の看護過程を展開する。 5.日々の実習行動計画を立案して実習に臨むと共に、その日の学習活動を振り返ることで自己の学習課題を見出し、解決に向けて取り組む。 実習に関する詳細な内容については、実習前オリエンテーションにて配布する「基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)実習要項」を参照してください。実習前オリエンテーションの日程は、後日、提示します。			指示される事前学習(実習施設の概要など)に取り組んでください(240)。事前に「本日の実習目標」と「行動計画」を考え、記録用紙に記載します(30)。 1日の病院実習を終え、その日に説明を受けたことや見学したこと、学んだことなどを記録用紙に記載します(60)。 基礎看護学実習Ⅱで学んだことを「課題レポート」としてまとめます(120)。		
履修に必要な予備知識や技能:基礎看護学領域の必修科目を全て単位習得している、または履修中であることが望ましい。 基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)では、基礎看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学方法論演習Ⅰ・Ⅱ、基礎看護過程論で学んだ知識や技術だけでなく、基礎科目、主題科目、専門基本科目、専門展開科目などで学んだ全ての知識を統合し、患者と向き合うことが求められます。しっかりと復習し、実習に臨みましょう。					
課題に対してのフィードバック:提出した課題は添削して指導・返却します。					
評価方法・基準:到達目標の達成度80%、記録・課題・実習態度20%、総合的に評価します。					
教科書:使用テキストなし。実習要項を配布します。					
備考:第1段階となる基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)において、患者との良好な人間関係を築くための接し方や看護過程の展開などの基礎を学び、第2段階・第3段階の実習へとつなげていきましょう。					
実務経験の内容・期間:田中克恵(看護師10年)、野上悦子(看護師36年)、野上睦美(看護師5年)、大村裕佳子(看護師10年)					

科目名称:地域・在宅看護学概論Ⅰ(健康・生活支援)					
担当者名:子吉知恵美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	1	看護学科(1)(2)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011201
<p>授業概要:人々の健康や暮らしの理解は看護の土台であり、地域・在宅看護学概論Ⅰ(健康・生活支援)では、地域に暮らす人々の生活環境や習慣が健康と暮らしに与える影響について理解する。①暮らすということの理解、②家族、仲間、近隣の人々、学校や職場での支え合いの理解、③地域の生活環境が健康に与える影響の理解、④健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護の理解、⑤健康と暮らしを支える看護の理解、⑥地域包括ケアシステムにおける看護の役割、自助/互助/共助/公助の意義と役割、多職種連携、協働の意義と方法を学び、理解を深める。</p>					
<p>到達目標:① 地域の中にある暮らしと暮らしの中にある看護について理解する ② 地域の人々の生活を支える地域・在宅看護の視点と療養の場について理解する ③ 暮らしを支える看護に関わる法・制度・システムについて理解する ④ 暮らしを理解した上での家族を含めたアセスメントについて理解する</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 地域・在宅看護を学ぶ 背景と大切な概念			教科書 第1章「地域・在宅看護論で学ぶこと」について予習(45)		
第2回 地域・在宅看護の対象 理解			教科書 第2章「地域・在宅看護の対象理解」について予習(45)		
第3回 地域・在宅看護に欠かせない視点とアプローチ方法			教科書 第3章「地域・在宅看護に欠かせない視点とアプローチ方法」について予習(45)		
第4回 地域・在宅看護がかかわる主な法・制度・施策			教科書 第4章「地域・在宅看護がかかわる主な法・制度・施策」について予習(45)		
第5回 地域・在宅看護がかかわる療養の場			教科書 第5章「地域・在宅看護がかかわる療養の場」について 予習(45)		
第6回 「暮らし」を理解した上でのアセスメント(インフォーマルな支援について)			教科書 第6章「暮らし」を理解した上でのアセスメントについて予習(45)		
第7回 暮らしを支える看護に関わるケアシステム(地域の保健室)			地域の保健室の実践 「地域の保健室」について予習(45)		
第8回 「暮らし」を理解した上でのアセスメント			発表事例についてのアセスメントをまとめてくる(45) グループワークと発表		
履修に必要な予備知識や技能:事前に教科書の対応箇所を読み、「Work」の部分について考えた上で講義に出席する。					
課題に対するフィードバック:レポート課題は点検・添削されたあと、返却されます。復習に活用ください。					
評価方法・基準:定期試験(60%)、講義への参加度(10%)、レポート課題・発表(30%)で総合的に評価する。					
教科書:教科書:池西静江,基礎からわかる地域・在宅看護論,照林社,2021					
参考書:渡辺裕子,地域・在宅看護論 第5版,日本看護協会出版会,2021					
備考:					
実務経験の内容・期間:看護師(3年)・保健師(4年)					

科目名称:地域・在宅看護学概論Ⅱ(療養・生活支援)					
担当者名:子吉 知恵美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	1	看護学科(2)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011211
<p>授業概要:在宅看護を提供する対象者及び看護が提供される場は多様であり、療養と生活支援は切り離せない。地域・在宅看護学概論Ⅱ(療養・生活支援)では、多様な療養の場における、様々な対象者と家族に対して提供される療養と暮らしを支える看護を学ぶ。①在宅看護が必要とされる社会的背景の理解、在宅看護の様々な対象の理解、③療養者と家族の望む生活を実現するための支援についての理解、④看護が提供される多様な場の理解、⑤地域・在宅看護学に関連する法や制度と施策の理解、地域で療養生活を続けるための意思決定支援について理解を深める。</p>					
<p>到達目標:1)在宅看護が必要とされる社会的背景について説明ができる 2)在宅看護の様々な対象について理解ができる 3)療養者と家族の望む生活を実現するための支援についての理解ができる 4)看護が提供される多様な場について理解し、説明ができる 5)地域・在宅看護学に関連する法や制度と施策について理解し、説明ができる 6)地域で療養生活を続けるための意思決定支援について理解を深めることができる</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 在宅看護の特徴 在宅看護が必要とされる社会的背景			教科書①「1.地域・在宅看護の概念」、を予習(60)		
第2回 在宅看護の対象と生活 対象者とその特徴・対象者の課題・ヘルスケアアセスメント			教科書①「2.在宅療養者と家族の支援:地域・在宅看護の対象者」を予習(30)、教科書②:「在宅療養における看護過程の展開技術:在宅におけるヘルスアセスメント」を予習(90)		
第3回 地域・在宅看護の実際①			教科書①「3.地域包括ケアシステムと多様な生活の場における在宅看護」を予習、他講義で学んだ「介護保険制度」を復習しておく(90)		
第4回 在宅療養を支える制度と社会資源② 地域包括ケアシステムとケアマネジメント			教科書①「3.地域包括ケアシステムと多様な生活の場における在宅看護」を予習し、興味のある社会資源を調べておく(90)		
第5回 地域療養を支える制度			配布資料 教科書①「1.社会資源の活用、2.医療保険制度、3.後期高齢者医療制度、4.介護保険制度、10.高齢者施策」を予習(90)		
第6回 地域療養を支える制度			教科書①「5.生活保護制度、6.障害者に関連する法律、7.難病法、9.在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源」を予習(60)		
第7回 地域・在宅看護の実際②			配布資料 教科書①「3.地域包括ケアシステムと多様な生活の場における在宅看護」、これまでの配布資料を予習・復習(60)		
第8回 地域・在宅看護の実際③ 望む生活を支える支援			教科書①「在宅療養者と家族の支援:在宅看護の場における家族のとらえ方、在宅療養者の家族への看護」を予習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:事前に教科書の対応箇所・配布資料をよく読んで、講義に臨んでください。詳細は初回の講義でお話します					
課題に対してのフィードバック:課題に対してのフィードバック:レポート課題や提出したワークシートは確認・添削された後、返却されます。復習の材料としてください。					
評価方法・基準:定期試験70%、レポート課題30%					
教科書:教科書:①臺有桂、石田千絵、山下留理子:地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア, MCメディカ, 最新版 ②臺有桂、石田千絵、山下留理子:地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術, MCメディカ, 最新版 参考図書:鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子:家族看護学 理論と実践 第5版、日本看護協会出版会					
備考:					
実務経験の内容・期間:看護師(3年)、保健師(4年)					

科目名称:地域・在宅看護学演習					
担当者名:子吉 知恵美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	演習	必修	1	看護学科(2)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011212
<p>授業概要:地域に暮らす人々の生活環境や習慣、人との関わりが健康に与える影響の理解、看護が提供される多様な場の理解を学生の主体的な演習で学ぶ。フィールドワークや事例を通じて、個の理解と地域・環境・集団の理解を双方向に学ぶ。①暮らすというものの理解、②家族、仲間、近隣の人々の支え合いの理解、③地域の生活環境が健康に与える影響の理解(文化的環境、社会的環境、自然環境)、④看護が提供される多様な場の理解について、グループ毎に地域に赴きフィールドワークを実施する。併せて、地域で生活をする対象者と家族を含めた看護について理解し、家族看護事例について看護過程を展開する。</p>					
<p>到達目標:1)人々の「暮らしと健康」の理解を深める 2)人間が、家族、仲間、近隣の人々、学校や職場、コミュニティの中で支えあって生きていることの理解を深める 3)看護が提供される多様な場を理解し、多職種との連携・協働の理解を深める 4)子どもを生み育てる、学ぶ、働く、病を治す、老いとともに生きる、最期を迎えるというライフサイクルと健康との関連を考え、看護を考察することが出来る 5)地域の生活環境、文化的環境、社会的環境、自然環境が人々の健康に与える影響を考え、看護を考察することが出来る 6)地域で療養生活を送る人と</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	人々の暮らしを知る・地域を知る①	講義:人々の暮らしと健康	地域・在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱの教科書・配布資料の復習(45分)		
第2回	人々の暮らしを知る・地域を知る②	講義:地域看護診断	地域・在宅看護地域・在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱの教科書・配布資料復習(45分)		
第3回	人々の暮らしを知る・地域を知る③	フィールドワーク(1)	配付資料の予習、自分の住む地域のことなど調べておく(60)		
第4回	人々の暮らしを知る・地域を知る④	フィールドワーク(2)	フィールドワークの企画(90)		
第5回	人々の暮らしを知る・地域を知る⑤	フィールドワーク(3)	フィールドワークの企画(90)		
第6回	人々の暮らしを知る・地域を知る⑥	フィールドワーク(4)	フィールドワーク(90)		
第7回	人々の暮らしを知る・地域を知る⑦	フィールドワーク(5)	フィールドワーク(90)		
第8回	家族看護①:講義		教科書・配布資料の復習(45)		
第9回	家族看護②:講義・事例提供		教科書・配布資料の復習(45)		
第10回	家族看護③:グループワーク		事例に関する事前学習 グループワーク:事例の展開(60)		
第11回	家族看護④:グループワーク		事例に関する事前学習 グループワーク:事例の展開(60)		
第12回	家族看護の実際		家族看護の実際に関する講演		
第13回	家族看護⑤:グループワーク		事例に関する事前学習 グループワーク:事例の展開(60)		
第14回	家族看護⑥:まとめ・報告会		事例に関する事前学習 グループワーク:事例の展開・まとめ(90)		
第15回	家族看護⑥:まとめ・報告会		事例に関する事前学習 グループワーク:事例の展開・まとめ(90)		
履修に必要な予備知識や技能:1 年次後期に履修した地域・在宅看護学概論Ⅰ(健康・生活支援)、および2 年後期科目の地域・在宅看護学概論Ⅱ(療養・生活支援)の教科書・配布資料を学修し、自分の住む地域について関心をもって調べてから、講義に臨んでください。					
課題に対してのフィードバック:レポート課題や提出したワークシートは確認・添削された後、返却されます。復習の材料としてください。					
評価方法・基準:人々の暮らしを知る・地域を知るフィールドワーク課題 30%、看護事例の展開課題 20%、小レポート 30%、グループワークの参加度・報告会 20%					
教科書:教科書:①池西静江,基礎からわかる地域・在宅看護論,照林社,最新版 ②臺 有桂,石田 千絵,山下 留理子:地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア,MC メディカ,最新版 ③臺 有桂,石田 千絵,山下 留理子:地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術,MC メディカ,最新版					
備考:					
実務経験の内容・期間:当該科目に関連した担当教員の実務経験の内容 子吉 知恵美(保健師4年、看護師3年)					

科目名称:地域・在宅看護学実践論					
担当者名:子吉 知恵美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	必修	2	看護学科(2)(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011221
<p>授業概要:地域で暮らす療養者とその家族の特徴や生活課題、家族による介護の状況を踏まえた在宅看護の実践が求められている。地域・在宅看護論では訪問看護の制度や目的、訪問看護ステーションの活動、その中における看護師の役割を学ぶ。小児から高齢者、医療的管理を必要とする在宅療養者、及び回復期・慢性期・終末期の療養者、様々な疾患や成長発達段階における療養者と家族に対する看護を実践するために必要な知識・技術、臨床判断、保健医療福祉チームとの協働、在宅看護過程の展開を講義形式で学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1. 対象者に応じた在宅看護の知識・技術・倫理観を理解し、臨床判断能力について理解できる。2. 訪問看護制度と訪問看護ステーションの役割とサービス内容を理解できる。</p> <p>3. 在宅看護における様々な対象への支援の実際を理解できる。</p> <p>4. 在宅看護における保健医療福祉チームや多職種との連携・協働について理解できる。</p> <p>5. 在宅看護における看護過程の展開に必要な視点と方法を理解し、紙上事例を展開できる。</p> <p>6. 在宅看護の場で活躍をする認定看護師や診療看護師の活動の実際について理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 在宅における看護の実際:訪問看護技術、在宅療養生活を支える基本的な技術			教科書② p18-50を予習(60)		
第2回 訪問看護ステーションと訪問看護			教科書② p198-234を予習(60)		
第3回 在宅看護過程の展開①			教科書②「訪問看護技術:在宅療養における看護過程に展開技術」を予習(60)		
第4回 在宅看護過程の展開②			教科書②「訪問看護技術:在宅療養における看護過程に展開技術」を予習(60)		
第5回 地域・在宅看護の実際① 精神科訪問看護(臨床判断)			提示する事例の疾患と看護について、教科書①「対象に応じた在宅看護:事例」、②「事例で学ぶ在宅看護の技術」を予習し、知識や疑問点の整理をしておく(90)		
第6回 在宅看護過程の展開③ まとめ・報告			事例に関する事前学習 グループワーク:事例の展開(90)		
第7回 在宅看護過程の展開④ まとめ・報告			事例に関する事前学習 グループワーク:事例の展開(90)		
第8回 地域・在宅看護の実際② 在宅における看取り(臨床判断)			提示する事例の疾患と看護について、教科書①「対象に応じた在宅看護:事例」、②「事例で学ぶ在宅看護の技術」を予習し、知識や疑問点の整理をしておく(90)		
第9回 在宅療養者と家族に対する災害看護			災害時の訪問看護の役割について調べ、知識や疑問点の整理をしておく(60)		
第10回 地域・在宅看護の実際③ 多重課題における在宅療養			提示する事例の疾患と看護について、教科書①「対象に応じた在宅看護:事例」、②「事例で学ぶ在宅看護の技術」を予習し、知識や疑問点の整理をしておく(90)		
第11回 臨床判断・在宅における看護倫理 講義			教科書の看護倫理を予習し、在宅看護における臨床判断について予習し、知識や疑問点の整理をしておく(90)		
第12回 臨床判断・在宅における看護倫理 まとめ			教科書の看護倫理を予習し、在宅看護における臨床判断について予習し、知識や疑問点の整理をしておく(90)		
第13回 地域・在宅看護の実際④ 在宅看護における診療看護師や新卒訪問看護師の活動の実際			提示する事例の疾患と看護について、教科書①「対象に応じた在宅看護:事例」、②「事例で学ぶ在宅看護の技術」を予習し、知識や疑問点の整理をしておく(90)		
第14回 疾病のある小児・障がい児とその家族の在宅看護			提示する事例の疾患と看護について、教科書①「対象に応じた在宅看護:事例」、②「事例で学ぶ在宅看護の技術」を予習し、知識や疑問点の整理をしておく(90)		
第15回 地域・在宅看護の実際 小児在宅看護			提示する事例の疾患と看護について、教科書①「対象に応じた在宅看護:事例」、②「事例で学ぶ在宅看護の技術」を予習し、知識や疑問点の整理をしておく(90)		
履修に必要な予備知識や技能:事前に教科書の対応箇所を読んで授業に出席してください。また1年次後期に履修した地域・在宅看護学概論Ⅰ(健康・生活支援)、および2年後期科目の地域・在宅看護学概論Ⅱ(療養・生活支援)は勿論ですが、基礎・専門科目、専門展開科目の既修・履修中の科目において関連する内容を復習・学修し、講義に臨んでください。					
課題に対してのフィードバック:レポート課題や在宅看護過程の展開課題は添削された後、返却されます。復習の材料としてください。					
評価方法・基準:小テスト30%、受講態度(講義・グループワークへの参加度・発表)10%、レポート課題50%、看護過程の展開課題10%					
教科書:教科書:①池西静江、基礎からわかる地域・在宅看護論、照林社、最新版 ②臺有桂、石田千絵、山下留理子:地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア、MCメディカ、最新版 ③臺有桂、石田千絵、山下留理子:地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術、MCメディカ、最新版					
備考:					
実務経験の内容・期間:子吉知恵美(看護師3年、保健師4年)					

科目名称:地域・在宅看護技術演習					
担当者名:子吉知恵美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	必修	1	看護学科(2)(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011231
<p>授業概要:在宅看護では多様な疾患や障害を持つ広い年齢層の人々が対象となる。地域・在宅看護学演習では、多様な対象や様々な疾患に対する、暮らしの場で行われる看護技術について学ぶ。褥瘡予防、褥瘡処置、栄養状態改善のケア、輸液、在宅中心静脈栄養法、在宅CAPD、在宅人工呼吸療法、非侵襲的陽圧換気療法、在宅酸素療法、ストーマ管理、疼痛緩和などの看護技術を演習形式で学ぶ。</p>					
<p>到達目標:①地域で生活をする在宅療養者を支える看護技術と日常生活を支える技術について理解する。 ②地域で生活をする在宅療養者を支える医療的ケアを理解する。 ③様々な疾患を持ちながら地域で生活をする対象者に対する、疾患の特性を踏まえた生活の状況に応じた支援実践について理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 日常生活を支える看護技術 清潔と更衣			教科書①② 日常生活を支える看護技術 清潔と更衣について予習(45)		
第2回 日常生活を支える看護技術 入浴介助と福祉用具			教科書①② 日常生活を支える看護技術 清潔と更衣の福祉用具について予習(45)		
第3回 日常生活を支える看護技術 食生活			教科書①② 日常生活を支える看護技術 食生活について予習(45)		
第4回 日常生活を支える看護技術 排泄・ストーマ管理			教科書①② 日常生活を支える看護技術 排泄・ストーマ管理について予習(60)		
第5回 療養を支える看護技術(医療ケア)胃ろう・在宅経管栄養法			教科書② 療養を支える看護技術(医療ケア)胃ろう・在宅経管栄養法について予習(60)		
第6回 療養を支える看護技術(医療ケア)在宅中心静脈栄養法・CVポート			教科書②療養を支える看護技術(医療ケア)在宅中心静脈栄養法・CVポートを予習(60)		
第7回 在宅療養生活を支える基本的な技術 在宅における感染予防			教科書② 在宅療養生活を支える基本的な技術 感染予防を予習(60)		
第8回 在宅療養生活を支える基本的な技術 生活リハビリテーション・移動のアセスメント			教科書①② 在宅療養生活を支える基本的な技術 生活リハビリテーション・移動のアセスメントを予習(60)		
第9回 療養を支える看護技術(医療ケア)呼吸・排痰ケア			教科書② 療養を支える看護技術(医療ケア)呼吸・排痰ケアを予習(60)		
第10回 療養を支える看護技術(医療ケア)在宅人工呼吸療法、在宅人工呼吸療法(HMV)、気管カニューレ管理			教科書②「療養を支える看護技術(医療ケア)」在宅人工呼吸療法、在宅人工呼吸療法(HMV)、気管カニューレ管理を予習(60)		
第11回 療養を支える看護技術(医療ケア)在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法			教科書② 療養を支える看護技術(医療ケア)在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法を予習(60)		
第12回 療養を支える看護技術(医療ケア)在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法			教科書② 療養を支える看護技術(医療ケア)在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法を予習(60)		
第13回 療養を支える看護技術(医療ケア)在宅CAPD・褥瘡管理・足病変のケア			教科書②療養を支える看護技術(医療ケア)在宅CAPD・褥瘡管理・足病変のケアを予習(60)		
第14回 療養を支える看護技術 まとめの演習			「日常生活を支える看護技術」「在宅療養生活を支える基本的な技術」「療養を支える看護技術(医療ケア)」を予習(60)		
第15回 療養を支える看護技術の実際 在宅看護におけるがん性疼痛看護認定看護師による実際			教科書 がん在宅療養者への看護を予習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:事前に教科書の対応箇所を読み授業に出席する。同時進行の「地域・在宅看護実践論」と関連づけて学びを深める。					
課題に対してのフィードバック:レポート課題は点検・添削されたあと、返却されます。復習に活用ください。					
評価方法・基準:小テスト:60%、演習への参加態度・各演習レポート:15%、自己学習課題・フィールドワーク:20%、感想レポート:5%で総合的に評価する。					
教科書:教科書:臺 有桂、石田 千絵、山下 留理子:地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア, MC メディカ, 最新版 臺 有桂、石田 千絵、山下 留理子:地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術, MC メディカ, 最新版					
備考:					
実務経験の内容・期間:当該科目に関連した担当教員の実務経験の内容 子吉知恵美 看護師3年・保健師4年					

科目名称:地域・在宅看護学実習					
担当者名:子吉知恵美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	実習	必修	2	看護学科(2)(3)(4)(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011241
<p>授業概要:在宅療養を必要とする対象者およびその家族の特性と生活ニーズを理解し、対象者とその家族に対する看護計画を立案・実施のできる実践能力を習得する。また、地域社会における保健・医療・福祉との連携を理解し、その中における看護職の役割を学ぶと共に、各地域の在宅療養の現状を知り、訪問看護ステーション、保健・医療・福祉との連携機関等の活動の実際を学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1. 地域社会で暮らす人々の生活を理解し、在宅で療養する対象者とその家族が抱える健康課題・ニーズを理解する。 2. 在宅で療養する対象者とその家族が抱える健康課題の解決、ニーズの充足、自立に向けた看護援助を実践する。 3. 個人・家族・集団と環境の相互作用を理解する。 4. 地域の保健・医療・福祉サービス機関および多職種との連携・協働を理解する。 5. 多様な価値観、健康観、人生観を尊重した、対象に応じた看護の実践を理解する。 6. 対象が地域で生活し続けるための在宅看護のあり方について、地域のケアシステムや社会資源を統合して考察する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>【学習内容】 1. 在宅看護の対象者と家族および取り巻く社会・環境の理解 2. 在宅看護の意義・役割 3. 実習施設(訪問看護ステーション・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等)についての理解 4. 訪問看護の対象者とその家族のアセスメント、看護計画、援助方法の実際 5. 地域の保健・医療・福祉サービス機関における活動と看護との連携・協働の実際 6. 在宅看護に関連する多職種との連携・協働の実際 7. 地域で療養する人々と家族の多様な価値観、健康観、人生観を尊重した看護実践 8. 倫理的な課題に対する看護の理解</p> <p>【学習方法】 1.オリエンテーション:各自の実習目標や学習課題を明確にし、必要な知識や基本看護技術を確認する。 2.訪問看護ステーションでの実習 1)訪問看護師に同行して学習する。 2)利用者や家族の在宅療養における健康課題とニーズをアセスメントし、看護の方向性としてまとめる。 3)援助の参加を通して、在宅療養者と家族のニーズの多様性と、ニーズに対応した援助の展開について学ぶ。 4)生活の場において、学生の立場で可能な看護を実施し、評価する。 3.地域の保健・医療・福祉サービス機関での実習 1)地域の保健・医療・福祉サービス機関等の活動に参加・見学して学習する。 2)活動への参加を通して、対象者が地域で生活し続けるために必要な、地域の保健・医療・福祉サービス機関の役割および多職種との連携・協働を学ぶ。 4. 実習のまとめ 1)臨地におけるまとめカンファレンス:個々が得た学びをまとめ、臨地の実習指導者と共に学びを深める。 2)学内全体まとめカンファレンス:個々が得た学びをグループディスカッションでまとめ、プレゼンテーションを行い、全体で学びを共有する。 5. 実習で学んだことをまとめ、事例の在宅看護過程の展開とレポート課題をまとめる。 * 実習に関する詳細な内容については、別途『在宅看護学実習要項』を配布しますので参照してください。</p>			<p>1. 事前学習(150×4) 1)3 年次までに履修した基礎科目、主題科目、専門基本科目、専門展開科目の学習内容を整理・統合して実習に臨む。各自、不足部分を必ず補って実習に臨む。 2)「事前学習課題」を基に、各自の実習開始に向けた準備をする。 3)訪問看護ステーション実習における在宅看護技術の実施・介助を想定し、在宅看護技術の復習を行う(これまでの学習と教科書①②)。 4)在宅看護技術における多重援助課題の習得(事前学習課題)配布する事前学習課題内にある、在宅看護技術における多重課題の看護技術を習得してから実習に臨む。 2. 事後学習(150×2) 1)実習記録・レポートの完成 2)学習の不足した部分の復習、できなかった訪問看護技術の復習</p>		
履修に必要な予備知識や技能:詳細な内容については、別途『在宅看護学実習要項』と『在宅看護学実習事前学習課題』を配布しますので参照してください。オリエンテーションの日程は後日、提示します。					
課題に対してのフィードバック:実習日誌、実習記録、在宅看護過程の展開等、提出した記録は添削し返却します。復習の材料としてください。					
評価方法・基準:実習目標の達成状況・記録 74%、最終レポート 10%、実習状況および学習態度(実習指導者からの評価) 16%					
教科書:教科書:①池西静江:基礎からわかる地域・在宅看護論, 照林社, 最新版 ②臺 有桂, 石田 千絵他:ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア, メディカ出版, 最新版 ③臺 有桂, 石田 千絵他:ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術, メディカ出版, 最新版					
備考:					
実務経験の内容・期間:子吉知恵美(看護師 3 年、保健師 4 年)					

科目名称:成人看護学概論					
担当者名:北山 幸枝、道券 タ紀子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	1	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		74011301
授業概要:人のライフサイクルの中で、成人期は成熟から老化に向かうまでの幅広い年齢層であり、社会的にも充実した時期である。こうした成人期にある人の特徴を知り、成人期における生活習慣と健康課題、健康問題の特徴を理解する。そして様々な健康レベルにある人とその家族に対する成人看護の役割と機能を学ぶ。					
到達目標:1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけを理解する。 2. 成人期にある人の成長発達、生活、成人期に特徴的な健康問題、予防行動を理解する。 3. 成人を取り巻く社会環境と成人の生活からみた健康を理解する。 4. 成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策を理解する。 5. 成人期にある人と家族の看護のため、看護アプローチの基本を理解する。 6. 成人の健康レベルに対応した看護について理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 履修指導・ガイダンス ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期の成長・発達過程からみた成人の特徴 <北山>			教科書 p.2-40、128-156 を読み、ライフサイクルと健康状態、成人期の成長発達段階と役割、成人各期の特徴と健康問題について理解する。(60)		
第2回 成人を取り巻く社会環境と成人の生活からみた健康 <北山>			教科書p.43~97 を読み、労働災害、就労条件、環境と疾病との関係、家族の多様な姿、多様なライフスタイルについて理解する。(60)		
第3回 成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策 <道券>			教科書p.101~127、156~171 を読み、わが国の人口構成、平均寿命、死亡数、死亡率、死因、受療状況、性感染症、DV、自殺及び政策について理解する。(60)		
第4回 成人期にある人と家族に対する看護アプローチの基本 <北山>			教科書p.197~224 を読み、成人看護で用いられる基礎理論(危機理論、ストレスコーピング、自己効力理論、エンパワメント等)、健康行動への行動変容、健康学習支援について理解する。(60)		
第5回 成人の健康レベル(急性期)に対応した看護 <北山>			教科書p.237~257 を読み、急性期にある成人の看護:健康の危機状況への支援について理解する。(60)		
第6回 成人の健康レベル(慢性期)に対応した看護 <道券>			教科書p.269~291 を読み、慢性期にある成人の看護:健康生活の継続への支援について理解する。(60)		
第7回 成人の健康レベル(回復期)に対応した看護 <北山>			教科書p.170~172、292~310 を読み、リハビリテーションを必要とする成人への看護:生活の再構築への支援について理解する。(60)		
第8回 成人の健康レベル(終末期)に対応した看護 <道券>			教科書p.310~344 を読み、終末期にある成人の看護:人生の最期を迎える人と家族への支援について理解する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:各単元で学んだ内容は復習を確実にを行う。教科書は該当する範囲をよく読み、内容についてわからない所は自主的に調べて臨む。					
課題に対するフィードバック:出席カードに記載された質問・意見には、必要に応じて次回以降の授業で解説する。各回の授業後に Google Classroom から小テストをアップロードする。採点后、返却する。					
評価方法・基準:小テストで20点、定期試験(筆記)80点で評価。授業中の態度は評価に加味する。30分以上の遅刻は1日欠席、30分未満の遅刻3回で1日欠席となるため注意する。					
教科書:成人看護学概論/成人保健(メヂカルフレンド社) 参考書:成人看護学総論(医学書院) 看護師・看護学生のための なぜ? どうして? ②成人看護学概論(メディックメディア)					
備考:成人看護学全般については国家試験に最も頻出する領域です。3年次後期には成人看護学実習があり、臨地実習を進める上でも重要な学修内容を含んでいます。 その入り口となる本科目では、特に復習を十分に行い、教科書や参考図書(読んで理解しておく内容)等も活用し、毎回学修を積み重ねる習慣をつけていきましょう。					
実務経験の内容・期間:北山幸枝:看護師(12年)、道券タ紀子:看護師(2年)					

科目名称:成人看護論Ⅰ(慢性期・終末期)					
担当者名:道券夕紀子、松田美紀、北山幸枝、遠藤瑞穂					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	必修	2	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		74011311
授業概要:慢性・終末期にある成人期の患者およびその家族に対する看護援助に必要な基礎的知識、理論、関連する知識を学ぶ。慢性疾患の特徴の理解を前提に、慢性疾患のコントロールに不可欠となるセルフマネジメントスキルや、生活の再調整・再構築、全人的苦痛を理解し、その人らしい生き方を尊重する看護援助の方法、家族・遺族へのケアを学ぶ。					
到達目標:1. 慢性的な経過をたどる健康障害を理解し、成人が生活を再調整・再構築するために必要な看護を理解する。 1) 代表的な循環機能障害(心不全など)を持つ患者への看護を理解する。 2) 代表的な呼吸機能障害(COPDなど)を持つ患者への看護を理解する。 3) 代表的な代謝機能障害(糖尿病など)を持つ患者への看護を理解する。 4) 代表的な内部環境調節機能障害(慢性腎臓病、肝硬変など)を持つ患者への看護を理解する。 5) 代表的な消化機能障害(クローン病・潰瘍性大腸炎など)を持つ患者への看護を理解する。 6)					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 履修指導・ガイダンス 慢性疾患の特徴、慢性看護の目標、呼吸機能障害を持つ患者への看護①(気管支喘息)(道券)			成人看護学概論 p.269-291、成人看護学②呼吸器 p.176-180、p.317-323を読む(60)事後学修:気管支喘息の看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第2回 呼吸機能障害を持つ患者への看護②(COPD)(道券)			成人看護学②呼吸器 p.183-188、p.323-338を読む(60)事後学修:慢性閉塞性肺疾患の慢性期及び終末期の看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第3回 終末期における緩和ケアの概念、緩和ケアの歴史とわが国の現状、がん対策基本法(松田)			成人看護学概論 p.310-324、緩和ケア p.2~49を読む(60)事後学修:緩和ケアの概念、緩和ケアの歴史とわが国の現状について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第4回 肺がん患者への看護、がんの治療法(薬物療法)とその看護(松田)			成人看護学②呼吸器 p.199-212、p.345-354、成人看護学④血液・造血器 p.168-180を読む(60)事後学修:肺がん患者への看護等について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第5回 乳がん患者への看護、がんの治療法(放射線療法)とその看護(遠藤)			成人看護学④血液・造血器 p.180-184、成人看護学⑨女性生殖器 p.145-164を読む(60)事後学修:乳がん患者への看護等について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第6回 循環器障害を持つ患者への看護(慢性心不全)(松田)			成人看護学③循環器 p.152-164、p.323-335を読む(60)事後学修:慢性心不全の患者への看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第7回 代謝機能障害を持つ患者への看護(糖尿病)(道券)			成人看護学⑥内分泌・代謝 p.132-164、p.243-281を読む(60)事後学修:糖尿病の患者への看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第8回 内部環境調節機能障害を持つ患者への看護①(慢性腎臓病)(北山)			成人看護学⑧腎・泌尿器 p.102-109、p.121-123、p.250-264を読む(60)事後学修:慢性腎臓病の患者への看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第9回 内部環境調節機能障害を持つ患者への看護②(肝炎・肝硬変)(道券)			成人看護学⑤消化器 p.210-235、p.396-407を読む(60)事後学修:肝炎・肝硬変の患者への看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第10回 消化機能障害を持つ患者への看護(潰瘍性大腸炎・クローン病)(遠藤)			成人看護学⑤消化器 p.175-180、p.367-373を読む(60)事後学修:潰瘍性大腸炎・クローン病の患者への看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第11回 終末期患者の全人的苦痛とケア、緩和ケアの実践方法(道券)			緩和ケア p.100-132、p.148-151、p.163-175を読む(60)事後学修:全人的苦痛と緩和ケアの実践方法について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第12回 終末期患者の家族へのケア、がんサバイバー支援(道券)			緩和ケア p.77-93を読んでおく、「がんサバイバー」について参考書や文献を読む(60)事後学修:終末期患者の家族やがんサバイバーへの支援について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第13回 自己免疫疾患を持つ患者への看護(関節リウマチ)(松田)			成人看護学⑩運動器 p.132-135、p.300-303を読む(60)事後学修:関節リウマチの患者への看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第14回 血液・造血機能障害を持つ患者への看護(白血病)(松田)			成人看護学④血液・造血器 p.97-120、p.146-152、p.184-199を読む(60)事後学修:白血病の患者への看護について不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
第15回 終末期患者の看取りのケア、アドバンスドケアプランニング(道券)			緩和ケア p.65-75、p.177-201を読む(60)事後学修:終末期患者の看取りのケア、アドバンスドケアプランニングについて不明点を理解できるよう追加学習を行う(60)		
履修に必要な予備知識や技能:3年前期に開講する成人看護学演習、3年後期に開講する成人看護学実習との関連性が高い科目である。この科目で取り扱う分野に関連した解剖生理学、病態生理学の知識・理論をベースに授業を構築している。したがって、この科目の履修にあたり、当該科目の					

<p>復習が不可欠である。また、終末期看護は、人の生涯や人生の重要な課題を理解することであり、自らの考え方を深めることが重要である。</p>
<p>課題に対するフィードバック: 出席カードに記載された質問・意見には、必要に応じて次回以降の授業で解説する。各回の授業後に Google Classroom から小テストをアップロードする。採点后、返却する。</p>
<p>評価方法・基準: 小テスト 20%、定期試験 80%(中間試験、定期試験)、受講態度も考慮し評価する。</p>
<p>教科書: 1. 朝倉啓他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学②呼吸器、医学書院 2. 吉田俊子他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③循環器、医学書院 3. 飯野京子他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④血液・造血器、医学書院 4. 南川雅子他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤消化器、医学書院 5. 伊波早苗他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥内分泌・代謝、医学書院 6. 伊澤由香他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧腎・泌尿器、医学書院 7. 末岡 浩他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学</p>
<p>備考:</p>
<p>実務経験の内容・期間: 道券夕紀子: 看護師(2年) 松田美紀: 看護師(28年) 北山幸枝: 看護師(12年) 遠藤瑞穂: 看護師(30年)</p>

科目名称:成人看護論Ⅱ(急性期・回復期)					
担当者名:北山 幸枝、道券 夕紀子、松田 美紀、遠藤 瑞穂、鈴木 典子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	2	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		74011312
<p>授業概要:急性・回復期にある成人期の患者およびその家族を理解し、看護援助に必要な基礎的知識、理論、関連する人間の反応について学ぶ。急性期では、生命を脅かす健康問題をもつ患者とその家族の心理社会的側面についても理解を深め、クリティカルな状況にある患者に対する看護援助を学ぶ。また、回復期にある患者およびその家族が疾病や障害の状況を理解し回復への意欲を持てるような関わりや、社会復帰に向けて日常生活動作の自立を促すための看護援助の方法を学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1. 急性期看護(クリティカルケア)の基本的概要、援助方法を理解する。 2. 周術期看護、内視鏡下手術を受ける患者の看護について理解する。 3. 急性の循環機能障害のある患者の看護を理解する。 4. 急性の脳機能障害のある患者の看護を理解する。 5. 消化機能障害(胃がん、大腸がん等の術後および消化器ストーマ造設術後)がある人への回復期看護について理解する。 6. 排泄機能障害(泌尿器系疾患の術後、蓄尿・排尿障害、尿路ストーマ造設術後)がある人への回復期看護について理解する。 7. 脳神経機</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 急性期およびクリティカルな状態にある患者の理解と援助方法<北山>			教科書 1. p.2~12、334~351 を読んで予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第2回 周術期看護の基本、術前の患者・家族の看護① <北山>			教科書 1. p.194~199、220~239 を読んで予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第3回 術前の患者・家族の看護② <北山>			教科書 1. p.239~243 を読んで周術期の理解及び術前の看護について予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第4回 術中の患者・家族の看護 <遠藤>			教科書 1. p.78~87、250~291 を読んで術中の看護について予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第5回 術後の患者・家族の看護 <遠藤>			教科書 1. p.294~331 を読んで術後の看護について予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第6回 内視鏡下手術(胆嚢摘出術)を受ける患者の看護 <遠藤>			教科書 1. p.160~165、教科書 3. p.419~423、を読んで手術療法の理解及び看護について予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第7回 急性の循環機能障害(虚血性心疾患)がある患者の看護 <道券、鈴木>			教科書 2. p.68~78、83~87②、122~145②、276~278、312~322 を読んで循環器系の解剖生理および疾患について予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第8回 急性の脳機能障害(クモ膜下出血、脳動脈瘤)がある患者の看護<北山>			教科書 4. p.52~60①、108~114④、122~133②、297~311①を読んで脳の解剖生理および疾患について予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第9回 回復期看護の特徴/消化機能障害(胃がん術後)がある人への看護 <道券>			教科書 7. p.269~270、教科書 3. p.365~367 を読んで予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第10回 消化機能障害(大腸がん術後、消化器ストーマ造設術後)がある人への看護 <遠藤>			教科書 3. p.474~480 を読んで予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第11回 排泄機能障害(泌尿器系疾患の術後、蓄尿障害、排尿障害、尿路ストーマ造設術後)がある人への看護 <北山>			教科書 6. p.32~49、161~165、170~183、208~225、269~282 を読んで予習し、事前課題プリントに取り組んでくること(90)		
第12回 脳神経機能障害(脳血管疾患)がある人への看護 <北山>			教科書 5. p.18~50、122~147、245~254、262~270、297~303、324~338 を読んで予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第13回 運動機能障害(骨折、人工関節置換術後)がある人への看護<松田、鈴木>			教科書 4. p.86~104、p.141~143、p.188~194、p.229~231、p.254~265 を読んで予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第14回 運動機能障害(脊髄損傷、廃用症候群、関節可動域障害)がある人への看護 <道券>			教科書 4. p.78~79、110~112、132~135、185、194~213、285~293、300~303 を読んで予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
第15回 脳神経機能障害(高次脳機能障害)がある人への看護 <北山>			教科書 5. p.60~65、251~256 を読んで予習し、周術期看護ワークブックの該当箇所を記載してくること(90)		
<p>履修に必要な予備知識や技能:成人看護学概論と関連付けながら予習を行い臨む。予習・復習は必ず行い、国家試験の過去問題レベルは習得すること。 指定の教科書1~7だけでなく、各回に行う内容に関する解剖学的・病態生理学的な知識について、教科書8のワークブック等を用いて予習・復習してください。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:出席カードに記入された質問・意見には、必要に応じて次回以降の講義内で解説します。 毎回、授業終了後に復習として確認小テストを実施します。確認小テスト課題については添削後、授業中に解説します。</p>					
<p>評価方法・基準:定期試験 80%、確認小テスト 20%、受講態度も考慮のうえ評価します。</p>					
教科書:教科書					
1. 系統看護学講座:別巻 臨床外科看護総論(医学書院)					

2. 系統看護学講座:専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器(医学書院)
3. 系統看護学講座:専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器(医学書院)
4. 系統看護学講座:専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経(医学書院)
5. 系統看護学講座:専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器(医学書院)
6. 系統看護学講座:専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器(医学書院)
7. 新体系 看護学全書:成人看護学概論/成人保健 成人看護学①(メヂカルフレンド社)
8. 周術期看護 学習ワー

備考: 3年次前期に開講する成人看護学演習や、それに引き続き後期に始まる臨地実習を進める上でも、重要な学修内容を含んでいます。授業の前に、テキストの該当部分の予習や、関連する解剖生理学、診断治療学(外科系)の復習をしておきましょう。

講義後もテキストや関連科目の資料、参考図書をよく読み、各自でノートをまとめるなど、学修の習慣や環境を整えて履修しましょう。

実務経験の内容・期間:北山幸枝:看護師(12年)、道券夕紀子:看護師(2年)、松田美紀:看護師(28年)、遠藤瑞穂:看護師(30年)、鈴木典子(8年)

科目名称:成人看護過程展開論					
担当者名:道券夕紀子、北山幸枝、松田美紀、遠藤瑞穂					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011313
<p>授業概要:成人期にある患者とその家族の看護を展開する上で基盤となる思考のプロセスを、ゴードンの機能的健康パターンに基づいて学修する。健康障害を持つ紙上事例について成人期の特徴を考慮しながら看護過程の5段階-アセスメント・診断・計画・実施・評価の概念と活用法を理解し、具体的な展開方法を学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1.成人看護で用いるアセスメントの枠組み(ゴードンの機能的健康パターン)について理解する。 2.問題解決過程としての看護過程のアセスメント・診断・計画・実施・評価の概念と活用法を理解する。 3.成人期にある人への看護過程の具体的な展開方法を理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 成人期にある人への看護過程の展開:アセスメントの枠組み(ゴードンの機能的健康パターン)			事前学修:教科書 p.40-69 を読んでおく(60)		
第2回 ゴードンの機能的健康パターンに基づく情報収集と分析			事前学修:教科書 p.70-102 を読んでおく(60)		
第3回 看護過程の展開 事例の解説			事前学修:事例の疾患、病態、治療について調べておく(90)事後学修:事例の疾患、病態、治療について復習し、不明点を調べノートにまとめる(120)		
第4回 アセスメントの実際①			事前学修:事例について指定したゴードンの機能的健康パターンのアセスメントに取り組む(90)事後学修:授業の解説を受け、アセスメントを修正する(90)		
第5回 アセスメントの実際②			事前学修:事例について指定したゴードンの機能的健康パターンのアセスメントに取り組む(90)事後学修:授業の解説を受け、アセスメントを修正する(90)		
第6回 アセスメントの実際③			事前学修:事例について指定したゴードンの機能的健康パターンのアセスメントに取り組む(90)事後学修:授業の解説を受け、アセスメントを修正する(90)		
第7回 看護上の問題点の明確化(看護診断)、計画立案			事前学修:教科書 p.105-149 を読んでおく(60)事後学修:看護問題・看護計画について復習し、不明点を調べノートにまとめる(60)		
第8回 看護計画の実施、評価			事前学修:教科書 p.150-166 を読んでおく(60)事後学修:看護計画の実施、評価について復習し、不明点を調べノートにまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:基礎看護学、看護理論で学修した看護過程について既習学修をよく理解し、その上で成人看護過程展開論を積み上げることが重要である。紙上事例の理解には、解剖生理学、病態生理学一般、診断治療、栄養学、薬理学等、種々の科目での知識・理論をベースにした授業を構築してある。関連科目の復習を十分に行い、テキストや参考図書等を活用し、毎回学修する。					
課題に対するフィードバック:紙上事例の看護過程の展開については、毎回提出する課題のフィードバックを授業中に必ず実施する。取り組んだ課題に対する評価、評価基準について、どこが誤っているか、どのようにしたら良くなるか、どのように考えればよいかを説明するため、それらをよく聴き、自己で振り返り修正し、次に臨むようにする。					
評価方法・基準:定期試験 20% レポート課題 80%とする。 事前課題の取り組み、課題の提出状況や内容、授業への参加度も評価に加味する。					
教科書:看護がみえる vol4.看護過程の展開 メディックメディア 参考書:任和子編:実習記録の書き方がわかる看護過程の展開、照林社					
備考:この科目で学修することは、3年前期に開講する成人看護学演習Ⅰ・Ⅱ、および3年後期に実施する成人看護学実習に関連する重要科目である。予習・復習を充分に行い、理解できるまで取り組むようにすること。					
実務経験の内容・期間:道券夕紀子:看護師(2年)、北山幸枝:看護師(12年)、松田美紀:看護師(28年)、遠藤瑞穂:看護師(30年)					

科目名称:成人看護学演習 I (慢性期・終末期)					
担当者名:道券夕紀子、松田美紀、北山幸枝、遠藤瑞穂					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011321
授業概要:成人看護論 I (慢性期・終末期)の学修内容をふまえ、慢性・終末期にある対象者に対する成人看護に必要な基礎的看護技術について演習を通して学ぶ。慢性疾患を抱える対象者の病態や検査・治療の目的、慢性疾患を抱える対象者に特有な心理状態を理解し、対象者が自己管理能力を高めるための援助方法を学ぶ。また、慢性期にある患者の紙上事例を通して、看護問題の解決に必要な実践的な思考プロセス(判断能力、応用能力、問題解決能力)を養い、慢性疾患と共に生きる対象者への援助技術を習得する。					
到達目標:1.慢性期にある患者の事例をアセスメントし、必要な看護援助が抽出できる。 1)事例を通して対象者の理解・アセスメントを行うことができる。 2)看護上の問題を明確にし、看護計画を立案できる。 2.代謝機能障害のある患者(糖尿病患者)への事例を通して慢性期疾患を有する患者への教育・支援技術を習得する。 1)糖尿病患者の自己血糖測定・インスリン自己注射の技術を理解し、その指導方法を習得する。 2)教育的支援に必要な情報収集の技術を習得する。 3.慢性的な経過をたどる代表的な健康障害を理解し、成人が生					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	ガイダンス・履修指導	輸血が必要な患者への支援	事前:教科書①p.124~136を読む(60)事後:講義内容について不明点を追加学習する(60)		
第2回	輸血が必要な患者への支援技術		事前:第1回講義の復習(30)事後:輸血に関する手技と看護について不明点などを追加学習する(60)		
第3回	看護過程の展開①[事例の解説]		事前:事例について専門用語や検査値を調べておく(60)事後:指定したゴードンの機能的健康パターンのアセスメントに取り組む(90)		
第4回	看護過程の展開②[アセスメント①]		事後:アセスメントの解説を受け、修正する。指定したゴードンの機能的健康パターンのアセスメントに取り組む(120)		
第5回	看護過程の展開③[アセスメント②]		事後:アセスメントの解説を受け、修正する。指定したゴードンの機能的健康パターンのアセスメントに取り組む(120)		
第6回	看護過程の展開④[アセスメント③]		事後:アセスメントの解説を受け、修正する。指定したゴードンの機能的健康パターンのアセスメントに取り組む(120)		
第7回	看護過程の展開⑤[アセスメント④ 関連図と看護問題の抽出]		事後:アセスメントの解説を受け、修正する。全体関連図の作成と看護問題の抽出を行う(120)		
第8回	看護過程の展開⑥[関連図の解説、看護計画の立案]		事後:関連図の修正を行う。看護計画を立案する(120)		
第9回	看護過程の展開⑦[看護計画の立案、まとめ]		事後:看護計画の解説を受け、修正する。(60)		
第10回	自己血糖測定・インスリン療法の実践		教科書②p.214~220を読む(30)事後:自己血糖測定・インスリン療法について追加学習を行う(60)		
第11回	自己血糖測定・インスリン療法[演習]		教科書②p.214~220を読み事前課題に取り組む(30)事後:自己血糖測定・インスリン自己注射の手技を追加学習する(60)		
第12回	教育的支援に必要な情報収集とは		事後:教育的支援に必要な情報収集について不明点を追加学習し、実習ワークシート、情報収集ワークシートに取り組む(90)		
第13回	ロールプレイ演習		事後:ロールプレイおよびグループワークを振り返り、実習ワークシートを追加・修正する(90)		
第14回	終末期患者の全人的苦痛への援助①[グループワーク]		事前:教科書③p.4~13、p.100~101を読む(60)事後:グループワークを振り返り、ワークシートを加筆・修正する(60)		
第15回	終末期患者の全人的苦痛への援助②[発表]		事後:発表の振り返りを行い、ワークシートを加筆・修正する(60)		
履修に必要な予備知識や技能:3年後期に開講する成人看護学実習 I と関連性の高い科目である。慢性期特有の疾患の病態生理、症状、検査、治療、看護について、既習の診断治療学、病理病態学、成人看護論 I の内容を十分に復習して臨む。					
課題に対するフィードバック:課題は紙面またはオンラインで提出とする。演習内で解説を行うほか、課題にコメントをつけて返却するので、コメントを確認し修正を行うこと。					
評価方法・基準:本演習は、TBL を活用したグループワークやロールプレイなど、グループでの学習機会が多くある。準備状況、協働作業のプロセスにおいて学習者の積極的参加を重視する。成績評価を受けるためには講義回数数の 2/3 以上の出席が必要である。定期試験 40%、課題 60%で評価する。					
教科書:1. 矢永勝彦他編:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論. 医学書院 2. 宮脇郁子他編:成人看護技術 慢性看護. メヂカルフレンド社 3. 梅田恵他編:緩和ケア. 南江堂 4. 医療情報科学研究所:看護がみえる vol.4 看護過程の展開. MEDIC MEDIA <参考書> 1. 安酸史子著:改訂 2 版 糖尿病患者のセルフマネジメント教育. MC メディカ出版 2. 飯野京子他:系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学④血液・造血器. 医学書院 3. 医療情報科学研究所:看護がみえる vol.2 臨床看護技術. MEDIC					
備考:					
実務経験の内容・期間:道券夕紀子:看護師(2年)、松田美紀:看護師(28年)、北山幸枝:看護師(12年)、遠藤瑞穂:看護師(30年)					

科目名称:成人看護学演習Ⅱ(急性期・回復期)					
担当者名:北山 幸枝、道券 夕紀子、松田 美紀、遠藤 瑞穂、鈴木 典子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011322
授業概要:成人看護論Ⅱ(急性期・回復期)の学修内容をふまえ、急性・回復期にある対象者に対する成人看護に必要な基礎的看護技術について演習を通して学ぶ。主要な手術を受ける・あるいは急性に推移する疾患を持つ患者の事例を通して、健康障害をアセスメントし看護上の問題の明確化、適切な看護援助を計画立案する。そのために必要な知識や技術を習得し、思考プロセスを養い、健康の回復過程が順調に進むように支援することができる能力を習得する。					
到達目標:1. 急性期特有の代表的な疾患とその症状について理解し、看護援助について理解する。 2. 回復期特有の代表的な疾患とその症状について理解し、看護援助について理解する。 3. 急性期または回復期にある患者の事例をアセスメントし、看護上の問題点の明確化、必要な援助計画を立案する。 4. ストーマサイトマーキングに対する援助方法と基本的技術を習得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 1回目:ガイダンス、事例の確認			事前課題あり。事例について分からない部分を調べてくること。教科書 1(事前に指定の範囲)に取り組み、成人看護論Ⅱ(既習)の周手術期の内容を復習すること。(90)		
第2回 2回目:データベースを用いた情報の整理、術後の観察とその根拠について			成人看護論Ⅱ(既習)の周手術期(術後)についての復習(教科書 4:p.341-350、p.444-450)を十分にしておくこと。(90)		
第3回 3回目:術後患者のアセスメント(グループワーク)と解説、関連図の書き方と看護問題の抽出			事前課題あり(アセスメント)。教科書 3(p.8-10、15-19、102-105)を読んでおくこと。(180)		
第4回 4回目:関連図の作成(グループワーク)と看護問題の抽出、解説			事前課題あり(関連図を作成し、看護問題に至るまでの考え方を説明できるようにしておく)。(180)		
第5回 5回目:看護計画立案の方法と考え方			教科書 3(p.20-26)を読んでおくこと。(90)		
第6回 6回目:看護計画立案(グループワーク)と解説			事前課題あり(優先度の高い看護問題について看護計画を立案する)。(120)		
第7回 7回目:看護過程のまとめと行動計画についての解説			看護過程の展開についての復習を十分に行うこと。(120)		
第8回 8回目:術前訓練の目的と予防方法、観察項目について(グループワーク)			事前課題あり(術後合併症の観察について)。教科書 1(p.15-28)、教科書 2(p.136-148)、教科書 4(p.151-180)を読んでおくこと。(180)		
第9回 9回目:術前訓練の技術習得と術後ベッド作成、ドレーン管理			教科書 2(p.136-150、p.180-192)、教科書 4(p.195-199)を読んでおくこと。また、呼吸音の聴取方法について復習しておくこと。(120)		
第10回 10回目:深部静脈血栓症(DVT)予防の援助			教科書 1(p.16、23)、教科書 2(p.94、103-106)、教科書 4(p.93、157、160)を読んでおくこと。また、成人看護論Ⅱ(既習)の周手術期の内容を復習すること。(90)		
第11回 11回目:ストーマサイトマーキング①			教科書 1(p.47-50)、教科書 2(p.12-34)を読んでおくこと。教科書 1(p.163-168)、教科書 4(p.347-348)を読んでおくこと。(90)		
第12回 12回目:ストーマサイトマーキング②			教科書 1(p.47-50)、教科書 2(p.12-34)を読んでおくこと。教科書 1(p.163-168)、教科書 4(p.347-348)を読んでおくこと。(90)		
第13回 13回目:人工呼吸器装着中の患者への看護(講義)			教科書 1(p.75-106)、教科書 2(p.84-88)を読んでおくこと。また呼吸器系の解剖の理解をしておくこと。(90)		
第14回 14回目:創傷治癒過程および褥瘡予防(講義)			教科書 2(p.168-171、p.195-197)を読んでおくこと。また、皮膚の解剖の理解をしておくこと。(90)		
第15回 15回目:急性期にある患者のアセスメント・最終課題の事例確認			消化器系の解剖・生理の理解を十分にしておくこと。また、これまでの課題の復習をしておくこと。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:既習科目の復習をしっかりと行ってください。特に、主な疾患の病態生理、症状の起こるメカニズム、治療、検査等の基礎知識は必ずアセスメント等を行う上で重要となります。それらのテキスト、授業資料、参考書をもとに、提示した課題に取り組んでください。					
課題に対してのフィードバック:講義受講前の課題については、講義中に公表・指示します。 演習内で課したレポート・課題については、授業中に解説を行います。必ず復習を行うようにしてください。					
評価方法・基準:課題評価 60%、定期試験 40%、受講態度も考慮のうえ評価します。					
教科書:<教科書> 1.成人看護技術 急性・クリティカルケア看護(メヂカルフレンド社) 2.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 3.系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤(医学書院) 4.周手術期看護 学習ワークブック(メヂカルフレンド社) 5.看護がみえる ④看護過程の展開(メディックメディア) <参考書> 1.パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 急性期・周手術期(照林社) 2.高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 第2版 竹内登美子(医歯薬出版)					
備考:複数の専門展開科目の講義や演習が同時開講される時期なので、授業資料や課題プリント類は“2穴のリングファイル”(初回講義時に指定したもの)に順に綴じて管理することを本科目のルールとします。 ※課題提出物に2穴がないものは、このルールに従っていないものと「受講態度」の評価に含めます。					
実務経験の内容・期間:北山幸枝:看護師(12年)、道券夕紀子:看護師(2年)、松田美紀:看護師(28年)、遠藤瑞穂(30年)、鈴木典子(8年)					

科目名称:成人看護学実習Ⅰ(慢性期・終末期実習)					
担当者名:道券夕紀子、松田美紀					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	実習	必修	2	看護学科(2)(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011331
<p>授業概要:成人の特性を理解し、慢性的に経過する健康障害を有する対象者、または終末期看護が必要な対象者に対し、健康レベルに合わせた看護援助の実践能力を養う。とくに、慢性疾患の自己管理において不可欠であるセルフマネジメント能力の向上ならびに社会生活への適応に向けた患者教育のプロセスについて、対象者の看護をとおして学習する。終末期看護においては、ターミナル期にある対象者と家族の特徴を理解し、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)を維持するための援助について学習する。</p>					
<p>到達目標:1.慢性に推移するあるいは終末期にある対象者の身体的・精神的・社会的な特徴が理解できる。 2.治療・検査を受ける対象の身体的・精神的・社会的状況を理解できる。 3.慢性(あるいは終末)に推移する疾病をもちながら生きていく生活者としての対象を理解できる。 4.疾病をもちながら生きていく対象のセルフケア能力を支援し、その人らしい人生を全うできるよう援助できる。 5.看護実践を通してチームアプローチにおける看護の役割を理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性期あるいは終末期にある対象の全体像を理解する。 慢性期あるいは終末期にある対象を受け持ち、セルフケアの視点で看護計画を立案、実施、評価し、一連の看護過程を展開する。 終末期にある患者の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和の方法を理解する。 慢性期あるいは終末期にある患者が疾病をもちながら生きていくセルフケア能力を支援することができる。 看護実践を通してチームアプローチのあり方を理解する。 看護学生として責任ある行動がとれる。 <p>【学習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性期あるいは終末期にある患者を原則として一人受け持ち、看護援助を実施する。 慢性期あるいは終末期にある患者の看護上の問題を明確にし、患者の看護計画を立案、実施、評価する。 終末期にある患者を受け持った場合、患者の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和の方法を理解する。 受け持ち患者についてカンファレンスを行い、グループメンバー間で討議し理解を深める。 自己の看護実践を記録し、評価する。 実習目標および自己の達成状況を自己評価する。 <p>実習時期、実習場所、実習期間等、詳細については成人看護学実習の実習要項を参照。詳細は実習オリエンテーションにて説明を行う。</p>			<p>受け持ち患者に関する解剖・生理、病理病態、検査・治療法、看護については、事前・実習中・事後に十分に学修し臨む。(平均毎日150~240分程度)</p>		
<p>履修に必要な予備知識や技能:慢性期あるいは終末期にある患者の疾患、病態、特徴的な治療・検査を理解しておく。生活者としてのその人らしさやその人らしい生を全うすることや全人的苦痛について理解しておく。3年前期までの成人看護論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学、病理・病態学、臨床栄養、臨床薬理学等々の専門基本科目、専門展開科目のすべての科目が基盤となるため、十分に学修して臨む。</p>					
<p>課題に対するフィードバック:実習終了後、学生間での学びの共有、最終的に提出したレポート、実習記録等で総合的に評価表に基づき評価し、評価内容については、面談にてフィードバックする。</p>					
<p>評価方法・基準:臨地実習100%。実習評価表(実習内容、実習態度等を含む)に基づき、評価する。</p>					
<p>教科書:臨地実習での受け持ち患者に応じて適宜紹介・提示する。</p>					
<p>備考:</p>					
<p>実務経験の内容・期間:道券夕紀子:看護師(2年)、松田美紀:看護師(28年)</p>					

科目名称:成人看護学実習Ⅱ(急性期・回復期実習)					
担当者名:北山 幸枝、道券 夕紀子、松田 美紀、遠藤 瑞穂					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	実習	必修	3	看護学科(2)(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011332
<p>授業概要:成人の特性を理解し、急性・回復期にある対象者とその家族への看護援助の方法を学ぶ。手術を受ける・あるいはクリティカルな状況を推移する対象者を受け持ち、個々の対象者や疾病の特性に合わせた看護過程を展開する実践能力を習得する。また、対象者を尊重するとともに、その権利を擁護し、看護チームの一員として、チーム内・他職者との協調的な態度を養う。</p>					
<p>到達目標:1. 急性に推移する状況にある対象の身体的・精神的・社会的な特徴が理解できる。 2. 治療・検査を受ける対象の身体的・精神的・社会的状況を理解し、援助することができる。 3. 生活者としての対象の状況を捉え、対象の健康の維持・拡大に向けた支援が実施できる。 4. 看護実践を通してチームアプローチにおける看護の役割を理解する。 5. 看護実践を自己評価し、看護者としての自己を成長させるための課題を見出すことができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期あるいは急性期・回復期にある患者を理解する。 2. 急性期・回復期にある患者に必要な治療・検査を理解する。 3. 急性期・回復期にある患者の心身の回復過程を阻害する因子について理解する。 4. 急性期・回復期にある患者の回復を促進させ、健康を維持・増進させる看護援助の実施。 5. 看護実践を通してチームアプローチのあり方を理解する。 <p>【学習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期あるいは急性期・回復期に推移する状況にある患者を原則として1人受け持ち、看護援助を実施する。 2. 受け持ち患者の看護上の問題を明確にし、患者の看護計画を立案、実施、評価する。 3. 受け持ち患者についてカンファレンスを行い、グループメンバー間で討議し理解を深める。 4. 自己の看護実践を記録し、評価する。 5. 実習目標および自己の達成状況を自己評価する。 			<p>受け持ち患者に関連した疾患の解剖・生理、病理病態、検査・治療法、その看護について、事前・実習中・事後に十分に学修し臨む。(平均毎日150~240分程度)</p>		
<p>履修に必要な予備知識や技能:急性期・回復期にある患者の疾患の理解、周手術期にある患者の理解、急性期・回復期の特徴的な治療・検査の理解。 3年前期までの成人看護論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学、病理・病態学、臨床栄養、臨床薬理学等々の専門基本科目、専門展開科目のすべての科目が基盤となっているため、十分に学修して臨みましょう。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:実習終了後、学生間での学びの共有、最終的に提出したレポート、実習記録等で総合的に評価表に基づき評価し、評価内容については、面談にてフィードバックします。</p>					
<p>評価方法・基準:実習評価表に基づき、実習内容と自己評価を総合して評価する。臨地実習(実習内容、実習態度等を含む)80%、その他課題レポート等自己学修20%とし、単位認定する。</p>					
<p>教科書:臨地実習での受け持ち患者に応じて適宜紹介・提示する。</p>					
備考:					
<p>実務経験の内容・期間:北山幸枝:看護師(12年)、道券夕紀子:看護師(2年)、松田美紀:看護師(28年)、遠藤瑞穂(30年)、鈴木典子(8年)</p>					

科目名称:老年看護学概論					
担当者名:舞谷邦代					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	1	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011401
<p>授業概要:加齢に伴う高齢者の身体的・精神的・社会的変化を知り、高齢者に生じやすい健康問題を理解し、地域社会で生活・療養する高齢者とその家族・介護者を支援する高齢者看護の役割を学ぶ。実際の在宅の高齢者に身体測定及び健康指導及び話し合いを通して高齢者の力と多様性を学ぶ。また、高齢化社会に伴う法や制度の整備等、社会的課題を理解する。</p>					
<p>到達目標:1. 高齢者の身体的側面としての加齢変化を理解し、加齢変化に伴う疾患を理解できる 2. 加齢変化に伴う生活変化に適応しながら生活している高齢者の力を理解できる 3. 国民的問題としての高齢者問題に対する社会的支援としての制度が理解できる 4. 高齢者看護の専門家としての将来像を描くことができる</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ライフサイクルからみた高齢者の理解と加齢変化,高齢者にとっての健康,QOL			教科書第1章 1.2.3.1-3.4を読む。高齢者の定義を覚える。範囲内の図表から高齢者の現状を理解した上で臨む(60)		
第2回 高齢者の加齢に伴う身体機能(感覚機能),心理・精神機能、社会的機能の変化とコミュニケーションの方法			教科書第1章 5.15[ア.2-3,第6章 1を読む。感覚機能の低下が認知機能やコミュニケーションに及ぼす影響を考える(60)		
第3回 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化とフィジカルアセスメント,高齢者の自立を妨げる要因(老年症候群、フレイル、など)			教科書第1章 3.5,5.1(5[を除外]),第4章 1,2,3を読む。一般的な身体の生理機能,バイタルサインを復習した上で臨む(60)		
第4回 高齢者看護の基本と倫理(虐待など),高齢者の健康状態のアセスメント(CGA,ICF など)			教科書第1章 3.4,第4章 1,2,3,4.4を読む。(30)		
第5回 高齢者を取り巻く社会,高齢者を支える制度と社会資源,生活を支える看護(グループワーク)			教科書第2章,第6章 2-5を読む。高齢者を取り巻く社会問題や虐待についての最近のニュース記事を持参する(30)		
第6回 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護、高齢者のヘルスプロモーション			教科書第3章、第5章 1,2,5を読む。介護保険制度について復習しておく。介護保険下の入所施設の種類と特徴を調べる(60)		
第7回 高齢者看護におけるチームアプローチ 老人看護専門看護師の活動から看護の展望を学ぶ【外部講師】			教科書第4章 6を読む。老人看護専門看護師について調べ、質問を1つ以上考える(60)		
第8回 高齢者のリスクマネジメント、災害時の看護			教科書第4章 7,8を読む。第1回からの授業を踏まえて高齢者のリスクマネジメントの課題について考えてくる(30)		
履修に必要な予備知識や技能:解剖学・生理学、基礎看護学の知識が基盤となります					
課題に対してのフィードバック:試験に関しては回答・解説を提示する。課題・レポートに関しては添削して返却する					
評価方法・基準:定期試験 90% レポート 10%					
教科書:ナーシンググラフィカ 老年看護学①,メディカ出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:舞谷 邦代 看護師(8年)					

科目名称:認知症ケア					
担当者名:舞谷邦代 磯 光江 他					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	1	看護学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012104
授業概要:認知機能障害をもつ高齢者を統合的に捉える視点を理解したうえで、その人の健康と生活を援助するために必要とされる基本的知識と技術を学ぶ。					
到達目標:1. 認知症の症状をきたす疾患・病態、治療について整理しまとめることができる。 2. 認知機能障害(中核症状)と行動・心理症状(Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia: BPSD)の種類と特徴を述べることができる。 3. 認知症の原因疾患と経過に応じたコミュニケーションの特徴を理解し、コミュニケーション能力をアセスメントすることができる。 4. 認知機能、健康障害、生活機能、薬物の影響をアセスメントすることができる。 5. 認知症の原因疾患の特性を踏まえて、					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 認知症の病態(4 大認知症:アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 血管性認知症)と要因、危険因子、認知症施策【舞谷】			教科書第2章 1.1を読む。認知症の定義を覚える。4 大認知症の特徴をまとめる(60)		
第2回 認知機能の評価方法、認知機能との鑑別と診断のプロセス、MCI(軽度認知機能障害)、うつ病【磯】			教科書第2章 1.3.2を読む。認知症とMCI、うつ病の違いを理解する(60)		
第3回 認知症の中核症状の理解とケア、認知症ケアの原則、認知症高齢者とのコミュニケーションの基本【舞谷】			教科書第2章 1.21□4□5を読む。認知症の生活障害について理解する。パーソン・センタード・ケアについて調べる(60)		
第4回 認知症の行動・心理症状(BPSD)の理解とケア、急性期医療における認知症高齢者へのアプローチ【舞谷】			教科書第2章 1.25□5を読む。認知症の中核症状について復習しておく(60)		
第5回 認知症の人がおかれている世界を体験する①(VR体験)【磯、他】			授業で体験したこと、感じたことを自分の家族や周囲の人にシェアする(30)		
第6回 認知症の人がおかれている世界を体験する②(認知症当事者の意見をもとにグループワーク)【舞谷】			認知症当事者の体験がわかる書籍を持参する(30)		
第7回 認知症高齢者の人権と権利擁護、認知症高齢者の終末期ケア(意思決定支援)【磯】			教科書第2章 1.9,10を読む。認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン p.1-6を読み、意思決定支援とは何かをまとめる(60)		
第8回 認知症の非薬物療法、認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム【舞谷】			教科書第2章 1.7,8を読む。高齢者が生きた時代背景を調べる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:脳の構造と機能の知識は必須です。診断治療学(認知症)、老年看護学概論を想起して臨んでください。認知症に関する書籍や、動画、映画などがたくさんあります。特に、認知症の当事者の目線で表現された作品を是非、読んだり、観たりして、認知症を身近なものとしてとらえてください。					
課題に対してのフィードバック:試験に関しては、試験問題を返却し解答を掲示する。					
評価方法・基準:定期試験 100%					
教科書:教科書ナーシンググラフィカ 老年看護学② メディカ出版 参考書:認知症世界の歩き方 ライツ社 授業内で適宜紹介する					
備考:					
実務経験の内容・期間:舞谷邦代 看護師(8年) 磯 光江 看護師(16年)					

科目名称:老年看護論					
担当者名:舞谷邦代 磯 光江 今田倫佳					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年 前期	講義	必修	1	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		74011411
授業概要:高齢者の家庭や社会における役割・高齢者の特徴を踏まえたアセスメント、高齢者の日常生活を支える看護、高齢者によく見られる疾患と支援方法を学習する。さらに、高齢者看護の倫理的課題、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉システムとケアにおける専門職の連携について理解する。					
到達目標:1. 疾患や障害が高齢者に及ぼす影響及び援助方法とその根拠が理解できる。 2. 高齢者の価値・信念に基づいた援助について理解できる。 3. 老年期におけるケアの継続性について理解できる。 4. 人生の最終段階にある高齢者とその家族の特徴及びケアについて理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 高齢者によくみられる疾患の特徴,高齢者に起こりやすい疾患,高齢者の受診行動の特徴(パーキンソン病、熱中症など)【舞谷】			教科書①第4章5,教科書②第1章7(-5,6除く)を読む 高齢者の加齢による生理機能の変化、診断治療学を復習しておく(60)		
第2回 治療を受ける高齢者の看護(薬物療法、手術療法),せん妄の理解と看護【磯】			教科書②第2章3,第3章1,2を読む 薬物動態について薬理学を復習しておく(60)		
第3回 治療を受ける高齢者の看護(リハビリテーション,検査入院,入退院支援),終末期の看護【舞谷】			教科書②第3章3~7,第4章を読む 高齢者の特徴を踏まえた入退院支援の必要性について調べる(60)		
第4回 高齢者の生活を支える看護①呼吸・循環機能障害を支える看護(肺炎,COPD,脳卒中,不整脈,心不全)【舞谷】			教科書②第1章6を読む 循環器・呼吸器の解剖生理について既習内容を復習しておく(90)		
第5回 高齢者の生活を支える看護②活動と休息を支える看護(活動と休息、歩行と移動、骨粗鬆症、骨折,褥瘡),転倒予防【今田】			教科書①第5章3、第6章4,教科書②第1章4を読む 高齢者の転倒リスクと転倒による予後について覚える(60)		
第6回 高齢者の生活を支える看護③食生活(食事、脱水、摂食障害、低栄養)【磯】			教科書②第1章1を読む 摂食嚥下の5段階を覚える 消化機能の解剖生理を復習しておく(60)		
第7回 高齢者の生活を支える看護④排泄機能障害(尿失禁、排便障害)腎機能障害、電解質異常【磯】			教科書②第1章2,7-5~6を読む 尿失禁、便失禁のタイプを覚える 排泄機能の解剖生理を復習しておく(60)		
第8回 高齢者の清潔を支える看護⑤清潔、衣生活(清潔、搔痒、痛み、しびれ、感染症)【今田】			教科書②第1章3を読む 皮膚の解剖生理を復習しておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:解剖生理学、病理・病態学の知識が必要。講義は疾患を含めて進めるので、診断治療学、高齢者の心理、成人看護学での講義内容、疾患のメカニズムや病態について復習しておいてください。					
課題に対するフィードバック:試験に関しては回答・解説を提示。					
評価方法・基準:定期試験 100%					
教科書:教科書:ナーシンググラフィカ 老年看護学①② メディカ出版 必要に応じて資料など配布する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:舞谷邦代 看護師 8年 磯 光江 看護師 16年、 今田倫佳 看護師 3年					

科目名称:老年看護学演習					
担当者名:舞谷 邦代、磯 光江、今田 倫佳、他					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011421
授業概要:高齢者に起こりやすい健康問題を理解したうえで、様々な健康レベルにある高齢者の事例を活用して、高齢者の特徴を踏まえたアセスメントや看護計画の立案から実施までの看護過程をグループワークや演習方式で学ぶ。					
到達目標:1. 老化に伴う諸機能の変化と健康問題が高齢者の生活に及ぼす影響を述べることができる。 2. 健康問題のある高齢者の生活場面での援助に必要な知識と看護技術を基本的な方法で実施することができる。 3. 様々な健康レベルにある高齢者の事例をもとに、健康問題の原因、症状、治療経過を踏まえて看護に必要な情報収集、アセスメント、看護計画を立案することができる。 4. 看護過程の展開を通して、高齢者の健康回復に必要な看護について自分の意見をもつことができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス、高齢者の看護活動の場の理解、グループワークとは			老年看護学に関する既習内容を復習しておく(60)		
第2回 地域高齢者の身体機能測定と健康状態のアセスメント①～ガイダンス、測定方法と測定技術			高齢者とのコミュニケーションの方法について考える、測定の計画について次回までに考えてくる(60)		
第3回 地域高齢者の身体機能測定と健康状態のアセスメント②～測定の計画立案			測定の練習を行う(60)		
第4回 地域高齢者の身体機能測定と健康状態のアセスメント③～測定の実施			実施結果についてまとめる(60)		
第5回 地域高齢者の身体機能測定と健康状態のアセスメント④～実施結果の発表			実施結果から得られた知見のプレゼンテーションを練習してくる(60)		
第6回 高齢者における看護過程の展開(看護過程の展開に関するガイダンス、高齢者の看護活動の場の理解(再確認)全体像(全体関連図)の理解 事例紹介(認知機能障害・心不全)			心不全、認知症のある人への看護についての復習 看護過程の課題に取り組む(120)		
第7回 高齢者における看護過程の展開 ～回復期の理解			第6回授業を振り返り、課題に取り組む(120)		
第8回 高齢者に対する情報収集とフィジカルアセスメントの実践①			看護過程の課題 フィジカルアセスメントの準備(90)		
第9回 高齢者に対する情報収集とフィジカルアセスメントの実践②			看護過程の課題 フィジカルアセスメントの練習(90)		
第10回 高齢者に対する情報収集とフィジカルアセスメントの実践③			実施結果から計画の修正を行う(90)		
第11回 高齢者における看護過程の展開 ～施設で生活する高齢者の理解① 施設における看護の特徴			高齢者施設の特徴を調べる(90)		
第12回 高齢者における看護過程の展開 ～施設で生活する高齢者の理解② アセスメント、看護目標の設定			課題に取り組む(90)		
第13回 高齢者における看護過程の展開 ～施設で生活する高齢者の理解③ 看護計画立案			課題に取り組む(90分)		
第14回 高齢者の自立した生活への支援① 福祉用具の活用、転倒予防			老年看護論の該当箇所の知識・技術を復習してくる(60)		
第15回 高齢者の自立した生活への支援② 嚥下食(とろみ、ゼリー)、おむつの着用			老年看護論の該当箇所の知識・技術を復習してくる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:これまで老年看護学領域の授業で学んできた知識が必要です。知識が曖昧な場合は復習をして下さい。グループワークを行いますので、メンバーの一人として課題に取り組んでください。					
課題に対してのフィードバック:事例演習の課題は添削し、返却する。					
評価方法・基準:演習課題 70%、グループワークに取り組む態度 30%で評価する					
教科書:教科書:ナーシンググラフィカ 老年看護学①②					
参考書:生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第2版, 医学書院					
備考:					
実務経験の内容・期間:舞谷邦代 看護師 8年、 磯 光江 看護師 16年、 今田倫佳 看護師 3年					

科目名称:老年看護学実習 I (施設実習)					
担当者名:舞谷邦代 他					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年 後期	実習	必修	2	看護学科(2)(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011431
<p>授業概要:加齢や疾患により生活支援が必要な高齢者を支える介護施設の機能や役割について理解する。施設を利用する高齢者の身体・精神・生活上の特徴を理解し、尊厳を守り、生活の質の向上を目指した援助について看護過程の展開を通して学ぶ。施設の目的に基づいた看護師の専門的役割と他職種との連携について理解し、家族支援も含め高齢者が最期までその人らしく生活するための援助や課題について考える。</p>					
<p>到達目標:1. 施設で暮らす高齢者の日常生活について理解することができる。 2. 高齢者の健康問題と生活機能障害を把握し、[強み]を生かした計画を立案し看護援助を実践できる 3. 高齢者の生活を支える保健・医療・福祉との連携や協働への理解を深め、施設での看護の特徴と役割を捉えることができる。 4. 人生の最終段階における高齢者とその家族への支援について考えることができる。 5. 自己の高齢者観を深める。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 場所:介護老人保健施設・介護老人福祉施設 2. 受け持ち利用者:75歳以上の後期高齢者を1名受け持つ 3. 受け持ち利用者の健康状態、心身機能や生活活動の状態、社会的側面や環境を統合して全体像をとらえ、生活機能の質を高めるための看護計画を立案・実施・評価する。 4. 多職種連携の実際(会議やカンファレンス、日々の業務)に参加する 5. 通所リハビリテーションで半日または1日実習する 6. 施設における看護師の役割について見学、説明をうける 7. 施設における看取りケア、人生の最終段階における意思決定支援について見学、説明をうける 8. カンファレンスで実習指導者、グループメンバー、教員と積極的に討議を行い、高齢者の強みやその人らしさの理解を深める 9. 日々の実習や記録から自己の看護を振り返る 			<p><事前学習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学概論、認知症ケア、老年看護論、老年看護学演習で学んだ内容について、教科書や配布資料を見直してくる(90分) 2. 以下を調べ、学習ノートに整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設における多職種連携と看護師の役割(60分) ・実習施設の概要・特徴(60分) ・介護保険における施設サービス、通所サービスの種類と特徴(60分) ・後期高齢者が生きてきた時代、生活背景、流行の遊びや歌、心身機能、認知機能の活性化につながるケアについて調べてくる(60分) <p><事後学習></p> <p>以下について自分の考えをまとめる(90分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生の最終段階にある高齢者とその家族に対する支援について ・高齢者の強みを活かす援助について 		
<p>履修に必要な予備知識や技能:・基本的な日常生活援助技術(食事、口腔ケア、入浴整容、着脱、移動、排泄)、バイタルサインの測定について自己学修、技術練習を行ってから実習を迎える ・受け持ち高齢者の疾患について調べておく。 ・感染対策について十分理解して臨む。 ・実習に対する自己の課題や目標を明確にして臨む。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:・事前課題は指定された提出日に提出後、確認・指導する。 ・実習中の課題や記録については適宜指導する。(個別、グループ) ・実習後に個別面談を実施し振り返りを行う。</p>					
<p>評価方法・基準:実習評価表に準ずる(100%)</p>					
<p>教科書:ナーシンググラフィカ老年看護学①②, メディカ出版会 老年看護学演習で行った事例検討資料、他授業資料 など その他適宜紹介する。</p>					
<p>備考:</p>					
<p>実務経験の内容・期間:舞谷邦代 看護師 8年</p>					

科目名称:老年看護学実習Ⅱ(病院実習)					
担当者名:磯光江、今田倫佳、舞谷邦代、他					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	実習	必修	3	看護学科(2)(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011432
<p>授業概要:健康上の問題を抱え病院に入院している高齢者との援助的関係を構築し、高齢者特有の疾患や治療に基づいた診療の補助、療養生活ケアを学ぶ。個々の高齢者を身体的・生活的・精神的側面からアセスメントし、これまでの人生を尊重して、持てる力(強み)と権利を擁護する視点と、退院後の生活を考えた視点を視野に入れた看護過程展開能力を学習し高齢者看護特有の実践能力を習得する。さらに、高齢者の視点に立った“問いや疑問”から地域包括ケアシステムにおける今後の課題を考える。</p>					
<p>到達目標:1. 治療を必要とする高齢者と家族の価値観やこれまでの生き方を尊重しながら関わり、援助関係を築くことができる。 2. 高齢者の加齢変化の特徴と健康上の問題を理解し、病態・生活・心理を関連付けた全体像を書くことができる。 3. 療養生活を送る高齢者を統合的にアセスメントし、看護計画を立案・実践できる。自らの実践を評価し、適時、看護計画の修正ができる。 4. 高齢者と家族とともに退院後の生活について話し合い、生活援助を行うことができる。 5. 高齢者を尊重する倫理的態度を習得する。 6. 多職種メンバーと協働し、必要な時には相談、連絡を行うことができる。 7. 地域連携を担う部署の機能や各専門職の役割を知り、地域包括システムの現状と課題を述べることができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>1. 実習場所は、公立つぎ病院、南ヶ丘病院、芳珠記念病院。 2. 高齢者1~2名を受け持ち、実習を行う。 3. 高齢者の全体像を捉え、看護過程にそって看護計画を立案、実施、評価する。 4. カンファレンスで、臨床指導者、グループメンバー、教員と積極的に討議を行い、多角的な視点から高齢者の理解を深め、より個別性のある看護を実践する。 5. 日々の実習記録から、自己の看護を振り返る。 6. 地域連携にかかわる地域連携室、外来(入退院調整)、病棟管理業務の実際を体験する。 実習に関する詳細な内容については、別途配付する資料を参照してください。</p>			<p><事前学修> 1. 老年看護学概論、認知症ケア、老年看護論、老年看護学演習で学んだ内容について、教科書や配付資料を見直す 2. 受け持ち高齢者の疾患(特に解剖・生理学、病態)と主な治療法、看護について調べる(180分) 3. 看護技術について自己学習、技術練習を行ってから実習を迎える(60分) 4. 地域包括ケアシステムについての概要と実習に行く部署の目的機能について調べる(60分) <事後学修> 1. 受け持ち患者の主疾患に関する解剖生理学・薬物療法についてまとめる(120分)</p>		
履修に必要な予備知識や技能:○高齢者に見られる症状(浮腫、尿失禁、疼痛、起立性低血圧、搔痒感)の知識 ○血圧測定、呼吸音の聴取、嚥下訓練					
課題に対してのフィードバック:実習終了時、面接などを実施し振り返りを行う。					
評価方法・基準:実習目標に沿った評価基準 100%					
教科書:ナーシンググラフィカ老年看護学①②、メディカ出版 老年看護学演習で行った事例検討資料、授業資料、他					
備考:					
実務経験の内容・期間:磯 光江 看護師 16年、今田 倫佳 看護師 3年、舞谷邦代 看護師 8年、					

科目名称:小児看護学概論					
担当者名:金谷 雅代					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	1	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011501
授業概要:小児看護の対象と理念を理解する。小児の成長・発達や生活の特徴を理解し、小児期に生じやすい健康問題とその支援について学ぶ。また、子どもを取り巻く保健・医療・福祉・教育の状況、子どもの権利、子どもとその家族の関係構築への理解を深め、子どもの成長・発達、疾病の予防・回復における看護職の役割を考察する。					
到達目標:1. 小児看護の対象としての子どもとその家族を理解する。 2. 小児保健医療や小児看護の変遷について理解する。 3. 小児と家族の諸統計、児童福祉、母子保健、医療費支援、特別支援教育から子どもを取り巻く環境について理解する。 4. 子どもの権利について理解する。 5. 小児の成長・発達や生活の特徴を理解する。 6. 子どもと家族の関係が子どもの成長・発達や健康に及ぼす影響を理解する。 7. 小児期に生じやすい健康問題とその支援について法律や保健施策を含めて理解する。 8. 子どもの成長・発達や健康を支える					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 小児看護の理念と対象、小児看護・医療の歴史と変遷、小児看護に関連する諸統計			教科書(概論)第1章1~3(90)		
第2回 小児看護・医療の法と倫理、小児保健			教科書(概論)第1章4(90)		
第3回 小児看護における概念と理論			教科書(概論)第1章5(90)		
第4回 小児の特徴と成長・発達			教科書(概論)第2章1,6(120)		
第5回 小児各期の成長・発達に応じた看護① 胎児期、新生児期、乳児期			教科書(概論)第2章2(120)		
第6回 小児各期の成長・発達に応じた看護② 乳児期へのかかわり(栄養・食事演習)			教科書(概論)第2章2(60),ワークシートのまとめ(60)		
第7回 小児各期の成長・発達に応じた看護③ 幼児期			教科書(概論)第2章3(120)		
第8回 小児各期の成長・発達に応じた看護④ 学童期・思春期・青年期			教科書(概論)第2章4,5(120)		
履修に必要な予備知識や技能:講義内容を教科書で予習・復習を行いましょう。					
課題に対するフィードバック:各回の次週に、前週の内容に関する小テストを実施します。					
評価方法・基準:小テスト:40% 定期試験:60%					
教科書:教科書:ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版					
備考:小児看護学概論では小児とは何か、小児看護とは何か、小児期における成長発達の過程を理解し、小児を取り巻く環境や法律・制度について、小児看護における基本となる知識を学びます。事前学習・復習に努め、子どもを少しでも身近に感じられるように学習を進めて下さい。					
実務経験の内容・期間:看護師10年					

科目名称:小児看護学実践論					
担当者名:金谷 雅代、長村 純子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	必修	2	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011511
<p>授業概要:本講義では、小児各期の特徴を理解し、小児の健康な成長・発達を促すために必要な援助方法を学ぶ。また、小児看護に必要な概念を理解し、さまざまな健康状態の子どもと家族に対して適切な看護援助を行うための基礎知識を身につける。さらに、小児看護の特性を理解し、チームの連携やチーム内における看護師の役割を考察する。</p>					
<p>到達目標:1. 病気や入院が子どもとその家族に与える影響と、看護を理解する。 2. 急性期によくみられる症状のアセスメントの視点を理解し、その看護を説明できる。 3. 慢性的な疾患を持つ子どもと家族の心理を理解し、必要な看護援助を説明できる。 4. 子どもにおける周手術期の特徴を理解し、術前・術後の子どもと家族への看護援助を説明できる。 5. 子どもの検査・処置における看護師の役割を理解し、必要な看護援助を説明できる。 6. 外来看護の果たす役割を理解し、外来受診する子どもと家族に必要な看護援助を説明できる。 7. 先天的な障害</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 1、3(120)		
第2回 子どもへのプレパレーション【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 2(90)		
第3回 急性期にある子どもと家族への看護① 発熱、けいれん【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 2-1、2-3(90)		
第4回 急性期にある子どもと家族への看護② 下痢・嘔吐・脱水【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 2-2、2-5(120)		
第5回 急性期にある子どもと家族への看護③ 呼吸困難【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 2-4(120)		
第6回 慢性疾患のある子どもと家族への看護 1型糖尿病【長村】			教科書(小児看護学①)第3章 3(90)		
第7回 終末期にある子どもと家族への看護【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 4(120)		
第8回 検査や処置を受ける子どもと家族への看護【長村】			教科書(小児看護学①)第3章 5(120)		
第9回 周手術期における子どもと家族への看護【長村】			教科書(小児看護学①)第3章 6(120)		
第10回 外来における子どもと家族への看護【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 7(120)		
第11回 先天的な障がいのある子どもと家族への看護 施設から在宅移行における他職種・他機関との調整と連携【長村】			教科書(小児看護学①)第3章 8(120)		
第12回 災害を受けた子どもと家族への看護【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 9(120)		
第13回 虐待を受けた(受けている可能性のある)子どもとその家族への看護【金谷】			教科書(小児看護学①)第3章 10(120)		
第14回 小児における看護過程【金谷】			配布した資料を読んで授業に臨む(120)		
第15回 健康障害をもつ子どもと家族への看護過程の展開【金谷】			配布した資料を読んで授業に臨む(120)		
履修に必要な予備知識や技能:シラバスの「準備学習」欄に記載した教科書の対応箇所の予習・復習を行きましょう。					
課題に対するフィードバック:課題レポートは確認後、返却します。					
評価方法・基準:小テスト:40%					
定期試験:60%					
教科書:教科書:ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①、メディカ出版(2年次概論で購入した教科書)					
備考:この科目は小児期の特徴を踏まえて、小児の健康な成長・発達を促すために必要な援助方法を学ぶものです。今後の演習や実習に必要な知識や援助内容の基礎となる科目です。事前学習・復習に積極的に取り組んで下さい。					
実務経験の内容・期間:金谷雅代(看護師 10年)、長村純子(看護師 15年)					

科目名称:小児看護学演習					
担当者名:金谷 雅代、長村 純子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	演習	必修	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011521
授業概要:小児の成長・発達や生活、小児期にみられる多様な健康問題、子どもと家族の関係を理解し、子どもとのコミュニケーション技術や子どもの成長・発達、健康状態をアセスメントする方法や看護過程の展開など、子どもと家族のニーズに対応した援助技術についてPBL(Problem Based Learning)の学習形式によって学ぶ。					
到達目標:1.さまざまな状況にある子どもと家族の看護について理解する。 2.子どもの生活や診療に関する基礎的な援助技術を習得する。 3.小児各期におけるヘルスアセスメントの技術を学習する。 4.子どもと家族への看護を実践するための看護過程の展開方法を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 症状・生体機能の管理技術、生活援助技術(VS 測定、身体計測等)	教科書(技術)第9章1,4第4章1 事前学習を行う(60)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第2回 安心・安全な環境を調整する技術(環境調整、事故防止)	教科書(技術)第2章1~5 事前学習を行う(60)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第3回 与薬の技術①経口薬ほか	教科書(技術)第7章1,2,3 事前学習を行う(60)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第4回 与薬の技術②注射法(輸液ポンプ・シリンジポンプ)、点滴の固定	教科書(技術)第7章4,5,6 事前学習を行う(60)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第5回 与薬の技術②注射法(輸液ポンプ・シリンジポンプ)、点滴の固定	教科書(技術)第7章4,5,6 事前学習を行う(60)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第6回 プレパレーション作成	教科書(小児看護学①)第3章1-2 事前学習を行う(30)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(60)				
第7回 プレパレーション発表	教科書(小児看護学①)第3章1-2 事前学習を行う(60)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第8回 プレパレーション発表	教科書(小児看護学①)第3章1-2 事前学習を行う(60)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第9回 小児における看護過程の展開①(病態の理解)	教科書(小児看護学①)第4章 必要な資料や書籍を確認する(60)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第10回 看護過程の展開②(健康障害によって受ける影響とその対処:情報の整理、アセスメント)	教科書(小児看護学①)第4章 必要な資料や書籍を確認する(90)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第11回 看護過程の展開③(子どもの成長・発達:情報の整理、アセスメント)	教科書(小児看護学①)第4章、必要な資料や書籍を確認する(90)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第12回 看護過程の展開④(日常生活を支えるもの:情報の整理、アセスメント)	教科書(小児看護学①)第4章、必要な資料や書籍を確認する(90)、演習およびグループワークで学んだことを復習する(30)				
第13回 看護過程の展開⑤ 看護問題リストと看護計画	教科書(小児看護学①)第4章、必要な資料や書籍を確認する(90)				
第14回 看護過程の展開(発表)	配布した資料を読んで授業に臨む(90)				
第15回 看護過程の展開(発表)	配布した資料を読んで授業に臨む(90)				
履修に必要な予備知識や技能:シラバスの「準備学習」欄に記載した教科書の対応箇所の予習・復習を行いましょ。初回到講義と対応したワークブックを提示します。技術演習では、初回の授業で配布したワークブックの該当箇所や小児看護技術に関する参考図書やビデオを活用し、自己学習を行いましょ。看護過程の授業では、事前に配布した事例を熟読し、授業に臨みましょ。					
課題に対してのフィードバック:レポートは確認後、次回以降の授業内で返却します。その際、解説を加えます。					
評価方法・基準:課題(事前課題やレポート):50% 定期試験:50%					
教科書:教科書:ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①,メディカ出版(概論で購入済み) 教科書:ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 小児看護学②,メディカ出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:金谷 雅代(看護師10年)、長村 純子(看護師15年)					

科目名称:小児看護学実習					
担当者名:金谷 雅代、長村 純子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	実習	必修	2	看護学科(3)(4)(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		74011531
授業概要:保育施設では健康な子どもとの関わりを通し、子どもの日常生活行動から、子どもの行動特性や成長・発達を支援する方法を理解する。さらに、健康上の問題をかかえ、療養している子どもとその家族に対する援助ニーズをアセスメントし、看護過程を展開する基本的実践能力を習得する。					
到達目標:1. 子どもの発達に応じた方法でコミュニケーションをとり、子どもへのかかわり方を説明できる。 2. 子どもを取り巻く環境や成長・発達の過程に基づいて対象を理解することができる。 3. 子どもの健康レベルを理解することができる。 4. 子どもの発達と健康レベルに応じて必要な援助を計画し、実践することができる。 5. 子どもを取り巻く保健・医療・福祉・教育における看護の役割を考えることができる。 6. 子どもとその家族の生活を尊重し、誠実な態度で関わるることができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
【実習内容】 1. 子どもの生活する環境(保育園、病院、家庭など)の理解 2. 子どもと家族との意図的なコミュニケーションによる相互作用 3. 子どもの安全に配慮した実践 4. 子どもの成長・発達ならびに子どもの健康レベルおよび治療のアセスメント 5. 入院および病気が子どもと家族の発達や日常生活に及ぼす影響のアセスメント 6. 入院している子どもとその家族の看護問題を抽出し、必要な援助計画の立案、実施、評価 7. 遊びおよび教育機会の保証、子どもの権利、継続看護の重要性についての理解ならびに看護の実践 8. 保健、医療、福祉および教育に関わる多職種との連携の実際と看護師の役割と継続支援 9. 子どもと家族の生活を支える社会資源の理解 【実習方法】 保育園実習 1. 年齢の異なるクラスに1~2名が入り実習する。 2. カンファレンスを通して、子どもの生活や成長・発達について学びを共有する。 病院実習 1. 入院している子どもを受け持ち、看護過程を展開する。 2. グループメンバーや実習指導者および担当教員から意見を得る。さらに子どもや家族の希望をもとに看護の方向性を明らかにし、子どもと家族に必要な看護を実践する。 3. 実習期間中、小児外来およびディサービスにおける対象の理解と看護師の役割・多職種との連携について理解する。 4. 実習最終日のカンファレンスでは、自身の看護実践を振り返り、グループメンバーと学びを共有すると共に、今後の課題を明確にする。 外来実習 1. 外来通院している子どもとその家族に対する看護ケアの実際を知る。 2. 子どもとその家族が、家庭や地域の中で生活していくうえで起こりやすい問題状況や、予防的支援を理解する。 実習に関する詳細な内容については別途「小児看護学実習要項」を配布しますので参照してください。			【保育施設実習】 成長発達に応じた形態的発達、運動機能、知的機能、コミュニケーション能力、情緒・心理・社会的発達、愛着行動、分離不安について調べ、園児の成長発達段階を理解する。(120) 基本的生活の自立および日常生活行動について理解する。(90) 【病院実習・外来実習】 ・重症心身障がい児の看護(障がいの原因、症状と機序、主な症状に対する治療、検査、看護)について理解する。大島分類、横地分類など障がい児の障害の程度を理解する。(120) ・重症心身障がい児に必要な日常生活援助(食事、排泄、清潔、姿勢・移動)治療処置(酸素療法、吸入、吸引、経管栄養など)について理解する。(120) ・法的根拠、制度、社会資源について理解し、障がい児を取り巻く環境と外来での看護の役割、多職種との連携について理解する。(90) ・外来で実施される看護援助について理解する。(90) ・継続看護の必要性を理解する。(90)		
履修に必要な予備知識や技能:本実習に臨むにあたり、これまで学習してきた小児看護学概論、小児看護実践論、小児看護学演習、診断治療学IV(小児)などの講義や演習で学んだことを、しっかり復習しておいて下さい。また、事前課題内容を学習し実習の準備を十分に行って下さい。臨地実習では学習の積み重ねが出来るよう自己の課題を明確にし、実習に臨んで下さい。					
課題に対してのフィードバック:実習記録は確認し、指導します。					
評価方法・基準:達成目標の達成度:出席状況、実習態度、カンファレンスへの参加度、実習記録、学習目標の達成状況、自己評価表及び終了後の面談を総合的に評価する。 出席状況・実習態度・カンファレンスへの参加度:20% 実習記録・実習目標の達成状況・自己評価・終了後の面談:80%					
教科書:教科書:『小児看護学①小児の発達と看護』中野綾美他、MC メディカ出版 『小児看護学②小児看護技術』中野綾美他、MC メディカ出版					
備考:小児看護学実習は今までの総まとめの学習です。患児に行なわれる援助内容の必要性を考え、援助内容の根拠を理解した上で患児および家族とかかわって下さい。					
実務経験の内容・期間:金谷雅代(看護師10年)、長村純子(看護師15年)					

科目名称:母性看護学概論					
担当者名:浦山 晶美、田村 博美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義・演習	必修	1	看護学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011601
授業概要:女性・家族・社会の視点から母性を総合的に捉え、リプロダクティブヘルス・ライツの概念に関心が寄せられ母性看護の意義及び役割について考えられる。女性を取り巻く現状と母性看護の対象を学び、女性特有の健康課題の解決に向けて必要なケア方法について考える力を養う。					
到達目標:1. 女性のライフサイクルの特性を理解し、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの課題を明確にできる。 2. ライフステージの変化に伴う母性看護を理解できる 3. 家族の発達モデルを理解し、母親・父親役割を理解できる 4. 性・生殖に関連した倫理的課題を理解できる 5. 母性看護の活動を展開する上で、活用する諸理論を理解できる 6. 女性のライフサイクルの特性を踏まえ、リプロダクティブヘルス・ライツの課題を明確にできる					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	リプロダクティブ・ヘルスの基礎	(担当:浦山晶美)	「性と生殖に関する健康・権利とは」第1章をまとめる 事前学習(30)		
第2回	ウイメンズヘルスの基礎	(担当:浦山晶美)	「女性のライフサイクルとライフステージにみる健康の特徴を知る」事前学習(60)		
第3回	対象の理解と実践の基盤	(担当:浦山晶美)	「愛着に関する理論・概念、セルフケア理論、ロイの適応理論、ウェルネスの概念」事前学習(60)		
第4回	母子保健をめぐる動向と制度	(担当:田村博美)	「母子保健統計、母子保健の現状・母子保健に関わる法律と施策」事前学習(40)		
第5回	リプロダクティブヘルス・ライツと倫理	(担当:田村博美)	「母性看護実践において遭遇する倫理的課題を知る」事前学習(40)		
第6回	リプロダクティブ・ヘルスにおける看護実践(1)	(担当:田村博美)	「子どもを産み育てる女性と家族の現在の課題」事前学習(60)		
第7回	リプロダクティブ・ヘルスにおける看護実践(2)	(担当:田村博美)	「メンタルヘルスの問題を抱える女性の家族を知る」事前学習(30)		
第8回	リプロダクティブ・ヘルスにおける看護実践(3)	(担当:田村博美)	「多様な背景を持つ女性や母子支援を考える」事前学習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:女性・母子・家族の成長発達を学習しライフステージでの健康問題を明らかにする。現社会における母子保健の動向について事前に情報収集をして臨んでください。					
課題に対するフィードバック:事前課題で提出したレポートや授業内に記述したリアクションペーパー等は、点検・添削した後に次回以降の授業内で解説します。PBLを活用し発表します。オンライン授業:クラスルーム・グーグルミートまたはZOOMなどを使用する場合があります。					
評価方法・基準:定期試験90%、レポート、受講態度(授業への参加度)グループワーク発表と評価(10%)を含めて総合的に判定します。					
教科書:教科書・参考書:母性看護学 I 概論 有森直子編著 医歯薬出版株式会社 資料の配布					
備考:リプロダクティブヘルスについてPBLを行います。現代の母子保健の動向について関心を持つように努めてください。					
実務経験の内容・期間:浦山晶美(助産師約40年)・田村博美(助産師22年・看護師3年)					

科目名称:母性看護学実践論					
担当者名:浦山 晶美、田村 博美、梶井 敬子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	必修	2	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011611
授業概要:妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と新生児の生理的変化と病態を理解し、母子およびその家族の健康を維持増進を考える。疾病の予防とハイリスク妊婦・新生児の養育および対処、新生児の母体外環境適応過程や母児関係確立・家族役割構築を支援するために必要な知識と技術を学ぶ。					
到達目標:1. 妊娠経過のアセスメントに必要な知識が理解できる。 2. 分娩期のアセスメントに必要な知識が理解できる。 3. 産褥期にある女性の生理的変化をについて理解できる。 4. 新生児の胎内生活から胎外生活への生理的変化について理解できる。 5. 周産期にある女性と新生児に起こりうる正常からの逸脱を理解する。 6. 女性の心身・社会的側面の相互関連の影響を考慮することができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 妊娠期の看護 妊娠経過のアセスメントに必要な知識と技術(担当:田村博美)			「女性生殖器」解剖学・生理学 女性ホルモン動態 復習(30)		
第2回 妊娠期の看護 妊婦の健康課題と看護 (担当:田村博美)			マイナートラブルについて 症状から看護を考える(30)		
第3回 妊婦の看護 日常生活とセルフケアを支える看護 (担当:田村博美)			妊娠期の日常生活とセルフケアについて看護をまとめる(40)		
第4回 分娩期の看護 分娩経過のアセスメントに必要な知識と技術(担当:田村博美)			周産期診断学(分娩期)の現象の復習(40)		
第5回 分娩期の看護 分娩期に必要なアセスメント (担当:田村博美)			分娩期の経過のアセスメントに必要な身体的な現象について(40)		
第6回 分娩期の看護 産褥のニーズ、健康課題と看護 (担当:田村博美)			分娩のアセスメントに必要な観察項目と看護(40)		
第7回 分娩期の看護 分娩経過に起こりうる正常からの逸脱 (担当:田村博美)			分娩期の経過のアセスメントに必要な身体的な現象について(40)		
第8回 産褥期の看護 産褥経過のアセスメントに必要な知識と技術(担当:浦山晶美)			産褥経過のアセスメントに必要な身体・心理的生理的現象について(40)		
第9回 産褥期の看護 産褥期のニーズ・健康課題 (担当:浦山晶美)			親役割・家族形成構築への支援 母子・家族関係について事前学習(30)		
第10回 産褥期の看護 産褥期に起こりうる正常からの逸脱 (担当:浦山晶美)			マタニティブルー、乳頭乳房ケア トラブル軽減、改善するための看護をまとめる(40)		
第11回 新生児期の看護 新生児のアセスメントに必要な観察と技術(担当:梶井敬子)			周産期診断学 新生児期の生理的変化について復習(30)		
第12回 新生児期の看護 新生児のアセスメント (担当:梶井敬子)			新生児の出生直後から24時間以内と24時間以降の重要観察項目 看護の視点(30)		
第13回 新生児期の看護 新生児期に起こりうる正常からの逸脱(担当:梶井敬子)			正常な新生児 循環の復習(30)		
第14回 周産期の看護 ハイリスク 妊婦・産婦の看護 (担当:打出喜義)			産科出血、産科ショック、DIC 救急看護(30)		
第15回 周産期の看護 ハイリスク 産褥・新生児の看護 (担当:打出喜義)			ハイリスク妊産婦・新生児の観察と看護(40)		
履修に必要な予備知識や技能:解剖学生理学、病態生理学「母性看護学I概論」「女性生殖器」の周産期診断学、「小児看護学論」「精神看護学」など復習してください。					
課題に対するフィードバック:事前課題で提出したレポートや授業内に記述したリアクションペーパー等は、点検・添削した後に次回以降の授業内で解説します。リモート授業を実施する可能性があります。(Google クラスルームに招待します)					
評価方法・基準:定期試験90%、レポート5%、受講態度(授業への参加度)5%を含めて総合的に判定します。					
教科書:教科書・参考書: 母性看護学各論 周産期各論 有森直子編著 医歯薬出版株式会社 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院					
備考:他の看護学領域、(多・他職種連携含む)と関連があります。対象者を総合的にとらえ、随時アセスメントから看護診断につなげるよう学修してください。2023度開講の母性看護論から名称変更しましたが、授業日程は同様です。 柔軟にとらえて考えることに努めてください。					
実務経験の内容・期間:浦山晶美(助産師約40年)田村博美(助産師22年・看護師3年)梶井敬子(助産師9年)					

科目名称:母性看護学演習					
担当者名:浦山 晶美、田村 博美、梶井 敬子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	演習	必修	2	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011621
授業概要:周産期にある女性とその家族・新生児を支援するために必要な知識を学び、様々な事例を通して、出産と母子と家族への理解する。女性および母子の看護過程を展開する。女性、妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護実践に必要な技術と態度をPBL(Problem Based Learning)を活用して身に付ける。					
到達目標:1. 女性、妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護に必要なフジカルアセスメントと技術を修得する。 2. 正常分娩における分娩の機序を理解し、看護の視点について考えることができる。 3. 母親と新生児、家族との関連を観察できる。 4. 女性を支える看護について考え、事例を通して看護過程を展開できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 看護過程と看護診断 (担当:田村博美)			マタニティ診断 ロイ適応モデル ウェルネス看護診断について予習(60)		
第2回 妊娠期の看護過程の展開 (担当:田村博美)			妊娠期に必要な検査、妊婦健康診査、母子健康手帳の活用などについてまとめる(60)		
第3回 産褥期の看護過程の展開 (担当:浦山晶美)			身体的心理的側面・社会的側面から看護を考える(60)		
第4回 新生児期の看護過程の展開 (担当:梶井敬子)			新生児の子宮外生活に適應するための必要な観察と看護(60)		
第5回 婦人科疾患を患った女性における看護過程の展開 (担当:田村博美、梶井敬子)			女性のライフステージから、対象者の身体的心理的社会的側面から適切なケア援助を考える(60)		
第6回 胎児心拍陣痛図の判読 (担当:梶井敬子)			分娩期の経過に必要なアセスメント情報観察項目をまとめる(60)		
第7回 妊娠期 看護技術演習① 妊娠期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			事例に基づく課題学習(妊娠期)(60)		
第8回 妊娠期 看護技術演習② 妊娠期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			事例に基づく課題学習(妊娠期)(60)		
第9回 妊娠期 看護技術演習③ 妊娠期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			事例に基づく課題学習(妊娠期)(60)		
第10回 産褥期 看護技術演習① 産褥期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			産前産後の女性のホルモンの動態と生理的变化(進行性変化と退行性変化) 事前学習(60)		
第11回 産褥期 看護技術演習② 産褥期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			事例に基づく課題学習(産褥期)(60)		
第12回 産褥期 看護技術演習③ 産褥期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			事例に基づく課題学習(産褥期)(60)		
第13回 新生児期 看護技術演習① 新生児期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			新生児期の生理的变化 新生児が子宮外生活に適應していくための必要な観察項目(40)		
第14回 新生児期 看護技術演習② 新生児期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			事例に基づく課題学習(新生児期)(60)		
第15回 新生児期 看護技術演習③ 新生児期の看護技術 (担当:浦山晶美、田村博美、梶井敬子)			事例に基づく課題学習(新生児期)(60)		
履修に必要な予備知識や技能:「解剖学・生理学」「母性看護論」を復習しておいてください。実技試験をします。実施する根拠を述べるようにしましょう。					
課題に対してのフィードバック:事前課題で提出した内容や授業内に記述したリアクションペーパー等は、点検・添削した後に次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:課題学習90%、レポート5%、受講態度(授業への参加度 演習を含む)5%を総合的に判定します。					
教科書:母性看護学Ⅱ(周産期各論)第2版 医歯薬出版株式会社、根拠と事故防止から見た母性看護技術 医学書院					
参考書:ロイとゴードンで母性小児看護過程 ふくろう出版					
備考:技術演習時は白衣とナースシューズを着用します。整髪、着衣(白衣靴下肌着など)、薄化粧、爪は短くする、装飾品は禁止、身だしなみを整えて参加してください。					
実務経験の内容・期間:浦山晶美(助産師約40年)田村博美(助産師22年 看護師3年)梶井敬子(助産師9年)					

科目名称:母性看護学実習					
担当者名:浦山 晶美、田村 博美、梶井 敬子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	実習	必修	2	看護学科(2)(3)(4)(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011631
<p>授業概要:母性看護学では、切れ目のない母子支援を目指し、概論や方法論・演習で学んだことを踏まえ、病院実習では、女性、妊婦・産婦・褥婦・新生児を受け持ち看護過程の展開ができる実践能力を習得する。見学実習に対象者の心身の特徴や社会的側面を知り理解を深める。地域の母子の子育て支援の活動に参加し母子支援の意義を理解する。実習により看護者としての成長を図る。</p>					
<p>到達目標:1. 女性および妊産褥婦の身体的、精神的、社会的側面から発達課題を述べることができる 2. 新生児の発育・発達課題が理解でき、日々の正常な経過・特徴を述べるができる 3. 周産期における対象の発達・健康課題に対し、適切な看護過程を展開できる 4. 妊娠中の生理的变化を理解し、セルフケアにむけて助言を考慮することができる 5. 産婦の身体的精神的苦痛が共感でき、安楽への援助を計画立案実施ができる 6. 出生直後の母子の関わりを観察できる 7. 産褥期における発達課題がわかり、セルフケアを考慮することができる 8. 新生児の生理的变化を理解する。それに応じた援助を考慮することができる 9. 対象を取り巻く家族の役割変化を理解し、新しい家族を迎える援助を考慮することができる 10. 地域における母子の支援に関する社会的資源を知り、母子保健のサポートシステムを理解できる 11. 臨地実習の体験を通して自己の生命観・母性観について記述できる</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>【病棟実習】女性および周産期にある対象者に母子や家族の健康状態、症状や治療方針を観察、アセスメントをする。看護計画の立案ができる。外来では、妊婦健康診査や診察を受ける女性の健康状態をアセスメントができる。コミュニケーション能力を養う。指導看護師についてシャドーイングを実施し、チーム医療の一員としての看護師の役割を学ぶ。 【地域実習】地域で生活する女性とその家族の生活を支えるために、提供できる社会資源の活用方法や看護について学ぶ。 【学内実習】看護技術を習得し実践できるよう学習する。母性看護学実習のまとめと振り返りを行う。</p>			<p>解剖学・病態生理学・薬理学などの基礎科目の復習、母性看護学論・演習などの母性に関わる講義・母性看護技術演習等の復習を行い、臨地実習に臨みましょう。また、現社会の社会資源の活用方法について調べておきましょう。 看護に必要な医学系基礎科目(150以上)母性看護論復習(150)技術演習(120)</p>		
履修に必要な予備知識や技能:専門知識と看護技術は必要です。実践できるよう復習しましょう。診断治療学Ⅲ(周産期)の女性の身体的特徴と生理的变化を理解する。小児看護論の正常な発達・発育・家族支援などを復習しましょう。					
課題に対してのフィードバック:提出された課題・レポート・看護過程の展開等は、適宜添削し指導します。実習後に個別面談を実施し振り返りを実施します。					
評価方法・基準:事前学習状況、実習目標の達成状況・記録(50%)、実習状況・実習態度・実習参加度・評価面接(50%)を含めて総合的に判定します。					
<p>教科書:教科書・参考書: 母性看護学論Ⅰ概論・母性看護学Ⅱ各論 有森直子編著 医歯薬出版株式会社、成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院、 母性看護技術 石村由利子著 ロイトとゴードンで母性小児看護過程 編者内藤直子・下村明子 参考書は随時提示します。 授業等で使用した資料等も参考にしてください。</p>					
備考:実習はチームワークも重要な達成課題の一つです。報告・連絡・相談の実践と自己の健康管理・時間管理をして実習に臨んでください。感染予防対策を十分に活用して責任ある行動をしてください。					
実務経験の内容・期間:浦山晶美(助産師約40年)田村博美(助産師22年・看護師3年)梶井敬子(助産師9年)					

科目名称:精神保健看護学概論					
担当者名:一ノ山隆司					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	1	看護学科(2)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011701
授業概要:精神保健看護のアプローチを活用するために、心の健康と健康に影響を及ぼす要因について知り、心に健康問題を持つ人の社会生活上の困難や課題を理解し、そうした人々が社会の中で自立的に生きるためにはどのような環境が必要か、そのために看護職がどのような役割を果たせるかについて学ぶ。					
到達目標:1.心の健康を保持・増進することと健康障害を予防するために必要とされる知識・技術を理解する。 2.精神障害をもつ人の社会復帰や地域生活への支援、多職種間の連携について考えることができる。 3.精神保健看護の基盤となる概念と歴史、理論を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 心の健康および不健康ー心の健康・不健康、心の健康の保持・増進、心の発達について理論・モデルから学ぶ			教科書 序の「精神看護学の考え方」と第I章-1を予習する。(90)		
第2回 心の健康とそのアセスメントー人の心のはたらきを心理学的観点から理解(主に精神力動理論)する			教科書 第1章-2を予習する。(60)		
第3回 心の健康とそのアセスメントー人の心のはたらきを生物学的観点から理解(主に脳科学)する			教科書 第2章-1・2・3・4・5・6を予習する。(60)		
第4回 現代社会におけるストレスと心の健康ーストレスと適応およびストレスへの反応に関する考え方、ストレス対処行動、ストレスコーピング理論について学ぶ			教科書 第1章-3を予習する。(60)		
第5回 現代社会におけるストレスと心の健康ーストレス関連障害と危機について、理論および概念について理解する・災害時の精神保健医療活動について理解する			教科書 第1章-1・3および第2-4・5を予習する。(60)		
第6回 ライフサイクルおよび生活の場と精神保健ー乳幼児期から青年期の自我形成過程と各期の危機について、成人期・青年期の心理的特徴と各期の危機について、老年期の心理的特徴と加齢にともなう喪失について理解する			教科書 第1章-2および第3章-1・2・3を予習する。(90)		
第7回 精神保健医療の歴史ー歴史の変遷、現在の地域精神保健活動についての知識を得る			教科書 第4章-1・2・3・4・5および第3章-4・5を予習する。(60)		
第8回 地域で暮らす精神障害者への支援ー地域で利用できる資源や支援について学び、対象者のソーシャルサポートについて考える。			教科書 第3章-6・7および第5章-1を予習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:本科目は、診断治療学Ⅴ(精神)、精神保健看護学実践論、精神保健看護学実践演習、精神保健看護学実習の基盤となることから、予習は行ってください。授業毎に資料を配布しますので、教科書と併せて復習してください。また、教科書にある付録(参考資料)の「精神保健福祉法」と「用語の解説」を活用してください。					
課題に対するフィードバック:事前課題で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、次回以降の授業で講評・解説します。 課題については、Google Classroomなどを活用して掲示します。					
評価方法・基準:定期試験 100%					
教科書:教科書 吉松和哉・小泉典章・川野雅資編:精神看護学Ⅰ 精神保健学,ヌーヴェルヒロカワ 国民衛生の動向 参考書 川野雅資他編:精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学,ヌーヴェルヒロカワ 田中美恵子編著:精神看護学,医歯薬出版					
備考:本科目では、国民衛生の動向を使用し、特に「保健と医療の動向」にある精神保健に関する重要なことを学習します。 授業内容に適した資料を配付します。配付資料は書き込み式ですので、ファイリングして予習・復習に活用してください。					
実務経験の内容・期間:一ノ山隆司(看護師15年)					

科目名称:精神保健看護学実践論					
担当者名:境 美砂子、千 英樹(一ノ山 隆司)					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	必修	2	看護学科(2)(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011711
<p>授業概要:本講義では、精神機能とその疾患について知り、精神状態(症状)のアセスメントの方法や、主要な精神疾患とそれに対するケアを学ぶ。また、生物的・心理的・社会的側面(バイオ(bio)・サイコ(psycho)・ソーシャル(social))から対象者を捉え、精神保健看護に活用する理論やモデルについて学び、対象者に必要とされる精神保健看護援助とは何かを考え、人的・物理的環境に働きかける看護援助技法を理解する。さらに、精神医療保健福祉に関する歴史と現状を知り、疾患の発生によって生じる生活上の困難や課題を理解すると共に、精神疾患を持つ人やその家族に対して、看護が果たす役割と課題を学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1. 精神看護についての考え方、理論やモデルについて学び、精神看護師の役割を理解する。 2. 精神を病む人やその家族の多様な価値観、信条、生活背景を持つ一個人として尊重しながら、その心理を理解し、精神的看護援助とは何かを考えることができる。 3. 認知や感情、精神情緒状態のアセスメントができ、その看護援助技法を理解する。 4. 精神症状とその人の生活や人的、物理的環境との関連をアセスメントして、人的・物理的環境などに働きかける看護援助技法を理解する。 5. 精神疾患とその治療について理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 精神科医療における看護の役割、精神看護の考え方、精神看護に用いる理論・モデル・精神を病む人の理解と対応、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル(一ノ山)			教科書 序の「精神看護学の考え方」と第I章-1を予習する。(90)		
第2回 精神を病む人の看護援助の基本ー日常生活援助・精神を病む人の看護援助の基本ー活用する技法、トラウマインフォームド(一ノ山)			教科書 a) 第1章-1・2・4を予習する。(60)		
第3回 精神看護の看護過程ーアセスメント、ケアプラン、実施、評価〔統合失調症患者のアセスメント〕(境)			教科書 a) 第1章-2・3を予習する。(60)		
第4回 セルフケアー概要、セルフケア理論、オレム-アンダーウッドモデル、セルフケア行動の観察項目(境)			教科書 a) 第1章-2・第4章-1・3および第5章を予習する。(60)		
第5回 精神疾患の理解ー精神疾患の基礎知識〔精神疾患の概念、ICD-11・DMS-V〕精神疾患の治療法・看護、生活技能訓練、認知行動療法(千)			教科書 a) 第3章-1・2および第2章-4・5・6・7を予習する。(60)		
第6回 精神疾患の理解ー主な疾患〔統合失調症・気分障害・神経症障害・ストレス関連障害、身体表現性障害・パーソナリティ障害〕(境)			教科書 a) 第4章-2、第5章、第3章-2および第4章-1・2・3を予習する。(60)		
第7回 精神看護の実践ー統合失調症〔急性期～回復期〕、幻覚、妄想の患者の看護(境)			教科書 a) 第4章-1・3および第3章-2および第5章を予習する。(60)		
第8回 精神看護の実践ー気分障害〔躁病・うつ病〕、抑うつ状態、躁状態の患者の看護(千)			教科書 a) 第5章および第3章-2を予習する。(60)		
第9回 精神看護の実践ーパーソナリティ障害、摂食障害、強迫障害(境)			教科書 a) 第5章および第3章-2を予習する。(60)		
第10回 精神看護の実践ー児童・思春期・青年期の精神看護、不安状態、パニック障害の患者の看護(境)			教科書 a) 第5章および第3章-2を予習する。(60)		
第11回 精神看護の実践ー精神保健福祉法、医療観察法〔司法精神看護〕、精神科救急(一ノ山)			教科書 a) 第4章-2およびb) 第4章-2・3を予習する。(60)		
第12回 地域精神保健活動ー退院支援・訪問看護(千)			教科書 第4章-3・第1章-4・ b) 第3章-3・5・7、5章を予習する。(60)		
第13回 地域精神保健活動ー災害時要援護者に対する心のケア〔入院患者の看護、被災地で生活する対象者への支援〕(境)			教科書 a) 序章およびb) 第3章-6を予習する。(60)		
第14回 リエゾン精神医学・リエゾン精神看護(一ノ山)			教科書 b) 第2章-1を予習する。(60)		
第15回 総括 - 精神看護の今後の展望(境)			教科書 p.353 から 358 を予習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:本科目は、2 年次後期に既習した「診断治療学Ⅴ(精神)」と「精神保健看護学概論」の知識を基に精神疾患をもつ人やその家族の看護について学びます。また、精神保健看護学実践演習、精神保健看護学実習の履修時に基盤となる知識・技術であることを理解し、授業に臨むことが必要です。授業毎に資料を配布しますので、整理して教科書と併せて予習・復習してください。用語理解のため教科書の「用語の解説」と索引を活用してください					
課題に対してのフィードバック:事前課題で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、次回以降の授業で講評・解説します。 課題については、Google Classroomなどを活用して掲示します。					
評価方法・基準:定期試験 100%					
教科書:教科書 a)川野雅資他編:精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学, ヌーヴェルヒロカワ b)吉松和哉・小泉典章・川野雅資編:精神看護学Ⅰ 精神保健学, ヌーヴェルヒロカワ c) 川野雅資編:精神科看護ポケットガイド, 中央法規 国民衛生の動向 参考書 田中美恵子編著:精神看護学, 医歯薬出版					

備考:「5大疾病」とは、がん、脳卒中、心臓病、糖尿病、精神疾患(医療計画 5 疾患)です。うつ病、認知症、統合失調症などの精神疾患の患者は年々増えており、従来の4大疾病をはるかに上回っている現状です。このことから疾患や症状について正しく理解し、患者やその家族に対する支援方法を見出すことが必要になります。

実務経験の内容・期間:境美砂子(看護師 10 年)、千 英樹(看護師 30 年)[一ノ山隆司(看護師 15 年)]

科目名称:精神保健看護学実践演習					
担当者名:千 英樹、境 美砂子(一ノ山 隆司)					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	演習	必修	1	看護学科(2)(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011721
授業概要:精神保健看護実践論で学修した知識を活用して、様々な事例をもとに、PBL(Problem Based Learning)・IBL(Inquiry-based Learning)形式の学習によって、精神疾患を理解し、対象者との治療的援助関係を構築し、様々な精神疾患や生活障害に対する看護の実際を学ぶと共に、そこで生じる人権や倫理に関する課題や問題についても理解を深め、精神保健看護の基礎となる援助技術や態度を身に付ける。					
到達目標:1. 患者-看護師関係の構築および効果的なコミュニケーションについて理解する。 2. 各精神障害の特性や精神症状がその人の生活にどう影響するかを学び、必要な援助を理解する。 3. 精神障害をもつ人の社会復帰や地域生活への支援、多職種間の連携について考えることができる。 4. 具体的な事例(課題)を通して、セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開について理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 精神看護とセルフケアモデル-セルフケアモデルの理解、QOL向上に向けた援助			教科書 b) 第I部-第1章および第3章を予習する。(60)		
第2回 精神看護における患者-看護師関係 患者-看護者関係の位置付け、関係のプロセス、援助的なコミュニケーション技法			教科書 b) 第I部-第1章、第2章、第II部-1章およびa) 第1章-1を予習する。(60)		
第3回 プロセスレコードの演習(1) 目的や方法の理解、ロールプレイを行い、その内容をプロセスレコードにおこし、分析・解釈する。			教科書 b) 第I部-第2章およびa) 第1章-1を予習する。(60)		
第4回 プロセスレコードの演習(2) <グループワーク> 分析・解釈について発表する。ファシリテーター、チューターの役割を通して、学びや気づきを共有する。			教科書 b) 第I部-第2章、第1章-1を復習し、発表の準備をする。(60)		
第5回 統合失調症の回復過程と看護 回復過程の看護、急性期の看護援助から精神科病棟における患者の人権を擁護する看護者の役割を考える。			教科書 b) 第I部-第2章およびa) 第4章-2を予習する。(90)		
第6回 統合失調症の慢性化と看護 <グループワーク> 慢性化の理解と慢性統合失調症をもつ人に必要となる看護援助法について学び考える。			教科書 b) 第II部-第3章-2・3およびa) 第4章-2、第5章を予習する。(90)		
第7回 気分障害をもつ人の理解と看護 <グループワーク> 生活障害の理解、看護援助法を学び考える。			教科書 b) 第II部-第3章-2・3およびa) 第3章-2、第5章を予習する。(90)		
第8回 アルコール使用障害をもつ人の理解と看護 生活障害の理解、看護援助法を学び考える。			教科書 b) 第II部-第3章-9およびa) 第3章-2を予習する(90)		
第9回 不安症状の理解と看護 セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開(1) 情報収集とセルフケアレベルの評価 <グループワーク> 倫理的な観点からの情報収集 不安症状の理解と看護援助法を学び考える。			教科書 b) 第II部-第3章およびa) 第3章-2、第5章を予習する。(90)		
第10回 精神科リハビリテーションとチームアプローチ 様々な精神科リハビリテーションについて学び、社会参加(社会復帰)に向けてのチームアプローチについて考える。			教科書 b) 第II部-11・12・13・14を予習する。(90)		
第11回 地域で暮らす精神障害者への支援 <グループワーク> 利用できる資源や支援について学び、事例を通して、対象者のソーシャルサポートについて考える。			教科書 b) 第II部-11・12・13・14を予習する。(90)		
第12回 セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開(1) 情報収集とセルフケアレベルの評価セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開(1) 情報収集とセルフケアレベルの評価 <グループワーク> 倫理的な観点からの情報			教科書 b) 第II部-第3章およびa) 第5章を予習する。(90)		
第13回 セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開(2) アセスメントと看護目標の設定 <グループワーク>			教科書 b) 第II部-第3章およびa) 第5章を予習する。(90)		
第14回 セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開(3) 看護計画の立案・実施・評価 <グループワーク> 立案では対象の権利や個別性の尊重をする。			教科書 b) 第II部-第3章およびa) 第5章を予習する。(90)		
第15回 セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開(4) 看護過程課題発表			教科書 b) 第II部-第3章およびa) 第5章を予習し発表の準備をする。(90)		
履修に必要な予備知識や技能:本科目は、課題に対してグループワークなどを活用しながら、精神保健看護の実践の基盤となる知識と技術について学びます。精神保健看護学実習で使用される患者情報・計画用紙やプロセスレコード用紙を実際に行う演習も含まれます。本科目の学びが実習に活かせることを認識して、取り組んでください。また、グループワークの前には必ず個人でその課題に対して学習することが必要となります。					
課題に対してのフィードバック:事前課題、看護過程の展開(演習)で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、次回以降の授業で講評・解説します。課題などについては、Google Classroomなどを活用して提示します。					
評価方法・基準:定期試験 50% 課題(レポート)への取り組みと成果 50%					
教科書:教科書					
a) 川野雅資他編:精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学, ヌーヴェルヒロカワ					

b) 川野雅資編:精神科看護ポケットガイド, 中央法規

参考書

田中美恵子編著:精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開, 医歯薬出版

吉松和哉・小泉典章・川野雅資編:精神看護学 I 精神保健学 , ニューウェルヒロカワ

武井麻子他著:系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 I , 医学書院

備考:本科目では、PBL(Problem Based Learning)・IBL(Inquiry-based Learning)形式で進行し、VR(Virtual Reality)やシミュレーション機器を活用します。グループワークを効果的に進めるために、確実に個人ワークを行ってください。

実務経験の内容・期間:千 英樹(看護師 30 年)、境美砂子(看護師 10 年)[一ノ山隆司(看護師 15 年)]

科目名称:精神保健看護学実習					
担当者名:境 美砂子、千 英樹(一ノ山 隆司)					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	実習	必修	2	看護学科(2)(3)(4)(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74011731
<p>授業概要:精神に障害を持つ看護対象者や、それを支える家族の課題を理解し、個性のある具体的な看護の展開を通して、対象者の社会復帰を支援する看護実践能力を習得する。また、チーム医療の中での看護職の役割と多職種連携の必要性を学ぶと共に、地域精神医療保健福祉の観点から対象者を取りまく社会的背景を理解し、精神障害者の尊厳と権利を守る態度を養う。</p>					
<p>到達目標:1. 精神障害をもつ人の価値観や人権を尊重しながら関わり、援助関係を築くことができる。 2. 精神障害をもつ人の体験、病態や症状、生活上の問題等を理解することができる。 3. 対人関係のプロセスを通して、生活援助を行うことができる。 4. 精神科病棟や地域で行われているアプローチを学び、多職種の役割や、精神障害をもつ人が利用できる社会資源について知ることができる。 5. セルフケアや自立に焦点を当てた具体的な看護援助方法を考えることができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病院の構造・諸規則等についての理解 2. 精神科薬物療法の実際と看護ケアについての理解 3. 精神科リハビリテーション療法(作業療法、心理教育、SST、レクリエーション療法等)の実際、ケアワーカーとの協働の実際と看護の役割についての理解 4. 精神疾患・障害のある人(対象)について、生物・心理・社会的モデル(バイオ(bio)・サイコ(psycho)・ソーシャル(social))による理解 5. 発達課題と達成状況、身体状態、精神状態、セルフケア、今後の可能性(リハビリ、ストレンクス、ソーシャルサポート)のアセスメント 6. 対象のセルフケアの維持・拡大、ならびに地域生活に向けた看護の実際の理解、看護目標の設定、看護計画の立案、実施、評価(オレムアンダーウッドモデルの使用) 7. 対象の精神症状の緩和に関する治療的コミュニケーションの理解と実践 8. ノーマライゼーションの理念、自己選択・自己決定の尊重、人権擁護の重要性についての理解と看護の実践 <p>【学習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病院・精神科病棟の急性期病棟、慢性期病棟、回復期病棟で、患者1名を受け持ち実習する。 2. 看護過程に沿って看護計画を立案、実施、評価する。 3. 事前学習やプロセスレコードによるふり返し、教員・実習指導者・グループメンバーなどのディスカッションを通して、受け持ち患者に対する看護の方向性を明確にし、より効果的な看護を実践する。 4. 全体検討会や全体会(カンファレンス)を通して学びを共有し、今後の看護に生かす。 <p>実習に関する詳細な内容については、別途『精神保健看護学実習要項』を配布しますので参照してください。また、実習オリエンテーションの日程などについては、後日、提示します。</p>			<p>精神保健看護学概論、精神保健看護学実践論、精神保健看護学実践演習、診断治療学Ⅴ(精神)で学んだ知識・技術・態度を確認をする。(120) 臨地実習要項「精神保健看護学実習」の内容を理解する。(60) 実習期間中は毎日、実習での学び(現象、指導からの助言内容などを含む)や受け持ち患者との関わりについて、リフレクションをする。(60)</p>		
<p>履修に必要な予備知識や技能:本実習に臨むにあたり、これまで学修してきた精神保健看護学概論、精神保健看護学実践論、精神保健看護学実践演習、診断治療学Ⅴ(精神)などの講義や演習で学んだことを、確認して、しっかり復習しておいてください。 精神障害をもつ人とかかわる場面では、自分自身の感性を働かせながら対象となる人がどのような体験をしているのかなどを理解することが重要となります。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:実習開講前の事前課題、実習中の課題や一連の実習記録などについては、学修進度に応じて指導します。また、実習のリフレクション(振り返りなど)については個別面談やグループ面談を通して講評・解説します。</p>					
<p>評価方法・基準:達成目標の達成度 80% 実習に取り組む姿勢・態度 20%</p>					
<p>教科書:教科書 川野雅資他編:精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学、ヌーヴェルヒロカワ 川野雅資源編:精神科看護ポケットガイド、中央法規 参考書 田中美恵子編著:精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開、医歯薬出版 吉松和哉・小泉典章・川野雅資編:精神看護学Ⅰ 精神保健学、ヌーヴェルヒロカワ 武井麻子他著:系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学Ⅰ、医学書院</p>					
<p>備考:実習前に実施するオリエンテーションには必ず出席してください。 事前課題(Google Classroomなどの活用もあります)についての説明なども行います。 実習期間のカンファレンス・学内実習はアクティブラーニングの要素を含んでいます。</p>					
<p>実務経験の内容・期間:境美砂子(看護師10年)、千 英樹(看護師30年)[一ノ山 隆司(看護師15年)]</p>					

科目名称:エンド・オブ・ライフケア実践論					
担当者名:一ノ山 隆司、金谷 雅代、千 英樹、磯 光江、境 美砂子、松田 美紀					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	講義・演習	選択	1	看護学科(2)(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012131
<p>授業概要:エンド・オブ・ライフケアは、診断名、健康状態、年齢に関わらず、誰もが安心して人生の最終段階を迎えるために、終末期医療だけではなく、本人とその家族の死生観育成から、医療機関や在宅におけるケア体制を確立し、尊厳をもって自分らしく生きることが支援されるケアである。エンド・オブ・ライフケアのプロセスでは、本人の意思表示支援と意思決定支援(アドバンス・ケア・プランニング:ACP)が重視され、生命・生活・人生の質(QOL)と価値を高め、家族の支援までを含めた統合したケアが求められる。基礎看護学、地域・在宅看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神保健看護学領域を超えて、その人の生活、人生、いのちを支えるケアを領域横断的に学ぶ。教育方法は、講義の他に演習・ディスカッションを取り入れることで効果的な教育効果が得られる。</p>					
<p>到達目標:1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフケア、アドバンス・ケア・プランニングの用語を理解できる。 2. エンド・オブ・ライフケアの実践に必要な要素を説明できる。 3. エンド・オブ・ライフにある患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズについて説明できる。 4. エンド・オブ・ライフにある患者・家族のケアについて説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 エンド・オブ・ライフケアの特徴と看護師の役割、看護師が直面する倫理的課題[一ノ山]			事後学習にて、授業の学びについて課題レポートを提出する。(60)		
第2回 終末期にある対象の理解①(小児期における終末期の特徴、子どもと家族における死の受け止め方)[金谷]			事後学習にて、授業の学びについて課題レポートを提出する。(60)		
第3回 終末期にある対象の理解②(成人期における終末期の特徴、成人期における死の受け止め方)[松田]			事後学習にて、授業の学びについて課題レポートを提出する。(60)		
第4回 終末期にある対象の理解③(老年期における終末期の特徴、老年期における死の受け止め方)[磯]			事後学習にて、授業の学びについて課題レポートを提出する。(60)		
第5回 緩和ケア(癌性疼痛の緩和、主な症状・症状マネジメント・多職種連携)[松田]			事後学習にて、授業の学びについて課題レポートを提出する。(60)		
第6回 死の受容段階と危機・グリーフケア・家族参加・家族心理・家族ケア[境]			事後学習にて、授業の学びについて課題レポートを提出する。(60)		
第7回 在宅におけるエンド・オブ・ライフケア、自宅で死を迎えることの意味[千]			事後学習にて、授業の学びについて課題レポートを提出する。(60)		
第8回 総括(発達段階別・健康レベル別のエンド・オブ・ライフケアに関する学びのまとめ)[一ノ山]			事後学習にて、授業の学びについて課題レポートを提出する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:終末期の多様なあり方を学ぶために、発達段階、健康レベル(がん・非がん疾患など)、療養の場の違い、在宅看取りなど様々な事象があります。本科目は、基礎看護学、地域・在宅看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学領域を超えて、その人の生活、人生、いのちを支えるケアを領域横断的に学ぶことから、学修した知識を確認してください。					
課題に対してのフィードバック:事前課題で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、次回以降の授業で講評・解説します。 課題については、Google Classroomなどを活用して掲示します。					
評価方法・基準:課題レポート 80% 小テスト 20%					
教科書:教科書 必要に応じ、担当教員から別途指示します。 参考書 田村恵子編:終末期看護 エンド・オブ・ライフ・ケア、メヂカルフレンド					
備考:患者がどのような治療や療養の場を選択するかによって多様な終末期があり、それぞれに必要なケアが異なります。「生活者」としての患者や家族を中心とした看護の視点を養います。 終末期の多様なあり方を学べるよう、発達段階・健康レベル(がん・非がん疾患など)、療養の場の違い、在宅看取りなど様々な事象を学修します。					
実務経験の内容・期間:一ノ山隆司(看護師 15 年)、金谷 雅代(看護師 10 年)、千 英樹(看護師 30 年)、磯 光江(看護師 16 年)、境 美砂子(看護師 10 年)、松田 美紀(看護師 28 年)					

科目名称:実践看護学実習Ⅰ(地域活動実習)					
担当者名:田中 克恵、金谷 雅代、浦山 晶美、野上 悦子、田村 博美、野上 睦美、大村裕佳子、梶井 敬子、長村 純子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	実習	必修	1	看護学科(2)(4)(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012141
<p>授業概要:看護は、患者をはじめとする対象のケアを中心的に担い、医療機関に限らず在宅や施設等の多様な場において、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが必要である。また、対象の多様性・複雑性、異文化に対応した看護を創造する能力が看護教育には求められる。学生は、基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)、基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)における体験から病院実習の重要性に触れ、また地域・在宅看護学の講義やフィールドワークから地域や社会資源の活用や必要性を学び、病院完結型から地域完結型に移行している現状を理解した。</p>					
<p>到達目標:1. 地域で暮らす様々なライフステージにある人の健康課題を説明できる。 2. 地域の健康・福祉に関する制度・施策の概略を説明できる。 3. 地域で暮らす人々が活用できる健康・福祉・防災に関する社会資源の概略を説明できる。 4. 地域で暮らす人々の健康と生活を維持するための支援の概略を説明できる。 5. 地域で暮らす人々が抱える健康と生活を維持するための課題を説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>【学習内容(フィールドワークのテーマ)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の健康維持・増進支援 2. 地域における子ども・子育て支援 3. 地域で暮らす母子の防災支援 <p>【学習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の健康・福祉・防災に関する制度・施策の概要について調べ、全体発表を通して共通理解を図る。 2. フィールドワークのテーマを選び、フィールドワークに取り組む。 3. 地域の健康維持・増進、子ども・子育て支援、防災に関する社会資源の活用の実際を見学・体験する。 4. 地域で暮らす様々なライフステージにある人に、健康維持・増進、子ども・子育て、防災などに関する意識と取り組みについて話を聞く。 5. フィールドワークを通し、地域で暮らす人々が抱える健康と生活を維持するための課題を探求する。 6. 実習のまとめ(総括)において、各テーマの学びなどをまとめて発表し、学びを共有する。 7. 実習目標と行動計画を立ててフィールドワークに取り組む、実施内容を振り返り、学びを記録する。 8. 実習を振り返り、実習目標の到達度について自己評価する。 			<p>【事前学習】専門基礎科目や専門展開科目の講義・演習・実習で学んだ知識・技術を確認する(120)。事前学習ワークブックに取り組む(240)。 【実習期間中】フィールドワークの学びや対象者との関わりをデイリーレポートに記載し、振り返る。(毎日、60)</p>		
<p>履修に必要な予備知識や技能:基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)・基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)における実習の体験から病院実習の重要性を、地域・在宅看護学の講義やフィールドワークから地域や社会資源の活用やその必要性を学んでいます。学修した内容を想起し、実習に備えてください。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:実習開講前の事前課題、実習中の課題や一連の実習記録などについては、学修進度に応じて指導します。また、実習のリフレクション(振り返りなど)については個別面談やグループ面談を通して講評・解説します。</p>					
<p>評価方法・基準:到達目標の達成度 80% 実習に取り組む姿勢・態度 20%</p>					
<p>教科書:教科書:各テーマの担当教員から指定された教科書を使用する。 参考書:各テーマの担当教員から指定された教科書を使用する。</p>					
<p>備考:適切な時期に実践看護学実習Ⅰ(地域活動実習)の説明会(オリエンテーション)を開催し、フィールドワークのテーマを選択してもらいます。本実習はチーム医療論・チーム医療演習・実践看護学実習Ⅱ(多職種連携実習)と連結するため学修課程を理解し履修してください。</p>					
<p>実務経験の内容・期間:田中(看護師10年)、金谷(看護師10年)、浦山(助産師約40年)、野上悦(看護師36年)、田村(助産師22年・看護師3年)、野上睦(看護師5年)、大村(看護師10年)、梶井(助産師9年)、長村(看護師15年)</p>					

科目名称:実践看護学実習Ⅱ(多職種連携実習)					
担当者名:北山 幸枝・舞谷 邦代・千 英樹・道券 夕紀子・子吉 知恵美・磯 光江・境 美砂子・松田 美紀・遠藤 瑞穂・鈴木 典子(一ノ山 隆司)					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年通年	実習	必修	1	看護学科(2)(4)(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012142
<p>授業概要:基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)実践看護学実習Ⅰ(地域活動実習)、地域・在宅看護学実習、成人看護学実習Ⅰ(慢性期・終末期実習)・Ⅱ(急性期・回復期実習)、老年看護学実習Ⅰ(施設実習)・Ⅱ(病院実習)、小児看護学実習・母性看護学実習、精神保健看護学実習からの学修の積み重ねを通して、地域住民、地域の保健・医療・福祉に関わる関係者や行政職員などとの連携を学び、学生が主体的に「地域」「コミュニティ」の力をアセスメントし、地域住民の自助と互助を意識しながら、健康を見守ることができ</p> <p>到達目標:1. 地域・コミュニティの力をアセスメントし、地域住民の自助と互助の視点から健康を見守ることができる方法を理解する。 2. 地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用、調整、開発に関して理解する。 3. 利用者及びその重要他者(家族、親族、友人など)への権利擁護や支援方法(リカバリー・エンパワメントなどを含む)を理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>実習内容</p> <p>1. 地域で生活する人々の保健・医療・福祉のニーズを充足するための地域連携の実践</p> <p>2. 地域で生活する人及び在宅での療養生活に必要な看護支援</p> <p>3. 各専門職が担う役割や専門性を理解し、チーム医療を発揮するために看護職と多職種との協働</p> <p>4. 一貫性・継続性ある看護ケアの提供システム(病棟-外来-在宅の継続システム)</p> <p>5. 看護チームの一員としてのリーダーシップ、メンバーシップの役割</p> <p>実習方法</p> <p>実習の主な拠点は石川県白山市の中山間地域(白山ろく)で展開する「やまの保健室」であり、高齢者に限定せず多世代交流ができる場(公民館・サロン・地域福祉センターなど)である。特に地域と大学が協働する「やまの保健室」の実習では、白山ろくの住民が住み慣れた地域で健康的に暮らし続けられる環境づくりの一助としての役割を体験的に学ぶ。また、利用者(障害者)に提供する訪問看護(精神科訪問看護を含む)や地域の社会資源に相当する施設において、権利擁護及び支援を学ぶ。実習のまとめ(総括)において、学生間で実習の学びを共有し、ひとりひとりの理解を深化させるために、テーマ別の課題について、学びなどをまとめて発表する。</p>			<p>これまでの専門基礎科目や専門展開科目の講義・演習・実習で学んだ知識・技術を確認してください。(120)</p> <p>また、提示される課題(事前課題:レポート・事後課題)に取り組むために計画的な準備をしてください。(120)</p> <p>実習期間中は毎日、実習での学び(現象、指導からの助言内容などを含む)や対象者との関わりについて、リフレクションをしてください。(60)</p>		
履修に必要な予備知識や技能:各看護学実習における実習体験で修得したこと、特に実践看護学実習Ⅰ(地域活動実習)やチーム医療論・チーム医療演習と密接に関連しています。予め実習概要や到達目標を十分に理解してください。また、病院完結型から地域完結型に移行している現状や地域包括ケアシステムについて理解し、準備を整えておいてください。					
課題に対するフィードバック:実習開講前の事前課題、実習中の課題や一連の実習記録などについては、学修進度に応じて指導します。また、実習のリフレクション(振り返りなど)については個別面談やグループ面談を通して講評・解説します。Google Classroomなどを活用し、学生-教員が相互に学習課題や学習成果についてフィードバックします。					
評価方法・基準:達成目標の達成度 80% 実習に取り組む姿勢・態度 20%					
教科書:教科書:各看護学領域(担当教員)から指定された教科書を使用する。 参考書:各看護学領域(担当教員)から指定された教科書を使用する。					
備考:実践看護学実習Ⅱ(多職種連携実習)における看護学実習領域(実習施設など)の実習方法については、適切な時期に実践看護学実習Ⅱ(多職種連携実習)の説明会(オリエンテーション)を開催します。 実習期間においては、カンファレンスの実施や学内実習ではアクティブラーニングの要素があります。 本実習は、各看護学実習、特に実践看護学実習Ⅰ(多職種連携実習)・チーム医療論・チーム医療演習と連結しています。					
実務経験の内容・期間:北山(看護師12年)、舞谷(看護師8年)、千(看護師30年)、道券(看護師2年)、子吉(看護師3年・保健師4年)、磯(看護師16年)、境(看護師10年)、松田(看護師28年)、遠藤(看護師30年)、鈴木(看護師2年)[一ノ山(看護師15年)]					

科目名称:看護教育論					
担当者名:舞谷邦代					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年後期	講義	選択	1	看護学科(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		74012122
授業概要:これまで、社会の進歩と医療の発展によって、求められる看護師像は変化してきた。それにともない、看護教育の理念・目標や国の看護教育制度も変わってきている。また今日では、看護師養成だけではなく、卒後の継続・生涯教育としての看護教育も重要度を増している。本講義ではこうした看護教育の歴史的変遷と今日的な課題を学ぶと共に、学生各自がどのような看護教育が望ましいかを考える機会としたい。					
到達目標:1.看護教育にかかわる関連法規を述べることができる。 2.看護教育方法と看護教育評価の関連性が理解できる。 3.看護継続教育の重要性が理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 看護教育と看護教育学、看護における教育学・教育研究、看護教育制度と関連法規			教科書 第1章、第2章を読み、疑問や質問を考えてくる(30)		
第2回 看護基礎教育課程の定義・変遷、一般教育と専門教育の位置づけと相互の関係			教科書 第3章Iを読み、疑問や質問を考えてくる(30)		
第3回 看護学教育組織・運営、教育目的・目標の設定、教育内容の選定			教科書 第3章II～VIIを読み、疑問や質問を考えてくる(30)		
第4回 看護学教育組織運営と看護学教育、教員組織と研究活動、自己点検・自己評価の組織体制			教科書 第4章を読み、疑問や質問を考えてくる(30)		
第5回 看護学教育方法・授業形態・教授法、看護師養成教育、看護基礎教育課程における看護学実習の特質・活動・評価			教科書 第5章を読み、疑問や質問を考えてくる(30)		
第6回 教育をすることによる評価の意義と特質、看護教育方法、看護教育における授業評価と自己点検・自己評価との関係			教科書 第6章を読み、疑問や質問を考えてくる(30)		
第7回 看護の継続教育・機関・FD、看護継続教育の対象と学習ニード、院内教育			教科書 第7章を読み、疑問や質問を考えてくる(30)		
第8回 看護教育・看護研究体制における将来の課題、まとめ			望ましい看護教育像を考えてくる(30)		
履修に必要な予備知識や技能:毎授業前までに教科書(授業予定部分)を読んで授業に臨みましょう。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:定期試験(筆記)40%、レポート40%、受講態度・参加度20%					
教科書:教科書:看護教育学、杉森みど里・舟島なをみ著、医学書院 参考書:1.エビデンスに基づく看護学教育、杉森みど里監訳、医学書院 2.看護学教育評価の基礎と実際 第2版 田島桂子 医学書院					
備考:					
実務経験の内容・期間:看護師(舞谷邦代 8年) 看護教員(舞谷邦代 15年)					

科目名称:チーム医療論					
担当者名:一ノ山 隆司、舞谷 邦代、千 英樹、境 美砂子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	1	看護学科(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012111
<p>授業概要:現在、医療の現場では、看護職は、医師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学・作業療法士など、多くの職種と連携・協働し、さらに保健・福祉担当者も加わって、統合的な医療を提供する事が求められている。本講義では、こうしたチーム医療の概念やチーム医療に関わる専門職の役割・機能を理解し、実際にどのようなチーム医療が行われているかを知ることにより、多職種間のコミュニケーションに基づく連携・協働のあり方を考える。</p>					
<p>到達目標:1. チーム医療の概念やチーム医療に関わる専門職間の連携・協働の重要性について説明できる。 2. チーム医療において、看護職および他職種について、その専門性やチームにおける役割を説明できる。 3. チーム医療を実践するための方法や、リスク管理、倫理上の問題について説明できる。 4. 様々な疾患・課題や地域における療養に対応したチームアプローチの特徴を説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 チーム医療・その必要性と意義			チーム医療の意義について現代医療を取り巻く社会的環境を踏まえて考察する。(60)		
第2回 チーム医療の実際(舞谷)			チーム医療実践における課題について調べてまとめる。(60)		
第3回 チーム医療における看護職の役割(境)			チーム医療における看護職の役割について調べてまとめる。(60)		
第4回 チーム医療における倫理(一ノ山)			チーム医療における倫理(倫理的課題等)について調べてまとめる(60)		
第5回 チーム医療とリスクマネジメント(千)			チーム医療とリスクマネジメントについて調べてまとめる(60)		
第6回 チーム医療の実際(施設看護の視点から)周手術期・リハビリテーション期・退院支援期にある患者(千)			施設看護の視点からチーム医療の実際について、チーム医療の現状をイメージすることができる。(60)		
第7回 チーム医療の実際(地域・在宅看護の視点から)(子吉)			地域・在宅看護の視点からチーム医療の実際について、チーム医療の現状をイメージすることができる。(60)		
第8回 総括、多職種連携教育(IPE:Interprofessional Education)(一ノ山)			2人以上の専門職者が共に学び、相互に学び合いながら、連携・協働とケアの質を向上させる機会の意義について調べる。(60)		
<p>履修に必要な予備知識や技能:厚生労働省 チーム医療の推進についてーチーム医療の推進に関する検討会報告書,平成22年3月19日の必読、人口動態等統計資料や医療制度等の内容。 https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf 次回授業の予習課題を指示するので、必ず課題を行ってから授業に臨むこと。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:事前課題で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、次回以降の授業で講評・解説します。 課題の提示方法については、Google Classroomなどを活用します。</p>					
評価方法・基準:レポート課題 60% 小テスト 30% リアクションペーパー10%					
<p>教科書:教科書 細田満和子:「チーム医療とは何か」患者・利用者本位のアプローチに向けて 第2版,日本看護協会出版会 参考書 必要時、提示します。</p>					
<p>備考:本科目は、チーム医療演習、実践看護学実習Ⅱに関連します。 チーム医療に関する書籍や雑誌等は多数ありますので、文献検索し学習を進めてください。 厚生労働省「チーム医療の推進に関する検討会報告者」必読してください。その他、人口動態等統計資料や医療制度など学習した内容を確認しておいてください。</p>					
実務経験の内容・期間:一ノ山(看護師15年)、舞谷(看護師8年)、千(看護師30年)、境(看護師10年)					

科目名称:チーム医療演習					
担当者名:舞谷邦代 北山幸枝 松田 美紀 磯 光江 他					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	演習	必修	1	看護学科(4)(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012112
<p>授業概要: 今日、良質の医療を提供するためには、様々な専門職がチームとして連携・協働することが不可欠になっている。本演習ではチーム医療に必要な知識・技術・態度をPBL(Problem Based Learning)を活用して身に付ける。また、履修した看護学実習においては、チーム医療(チーム連携)の実際を体験している。このことから、まず前半では、実習で体験した内容を踏まえて、チーム医療を構成する専門職についての理解をさらに深化させ、後半では実際の症例をとりあげ、各専門職がどのような役割をもってチーム医療に貢献するか、チームの一員としての役割や、あるべき態度や多職種とのコミュニケーションのあり方について討議することで、チーム医療の重要性を理解する。</p>					
<p>到達目標: 1. チーム医療の概念について説明できる。 2. チーム医療を担う専門職の独自機能と役割について説明できる。 3. チーム医療を担う専門職間の相互理解の意義について説明できる。 4. チーム医療のなかで果たす看護職の役割について説明できる。 5. 各職種間のチームでの役割や連携について説明できる。 6. 医療施設におけるチーム医療の実際について説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 イントロダクション			「チーム医療論」の内容を復習しておくこと。(60)		
第2回 チーム医療とはなにか グループ演習(討議)			討議テーマについて、関連する文献や成書などを探索し、自らの考えを整理しておくこと。(60)		
第3回 チーム医療とはなにか グループ演習(発表)			テーマについてのグループ発表ができるよう準備しておくこと。(60)		
第4回 チーム医療の実際 専門職の協働(医師の立場から)			チーム医療におけるリハビリテーション医師の専門機能と役割について事前学習しておくこと。(60)		
第5回 チーム医療の実際 専門職の協働(リハビリテーション専門職の立場から)			チーム医療における理学療法士の専門機能と役割について事前学習しておくこと。(60)		
第6回 チーム医療の実際 専門職の協働(社会福祉士の立場から)			チーム医療における作業療法士の専門機能と役割について事前学習しておくこと。(60)		
第7回 チーム医療の実際 専門職の協働(医療福祉専門職の立場から)			チーム医療における医療福祉職の専門機能と役割について事前学習しておくこと。(60)		
第8回 チーム医療の実際 専門職の協働(看護師の立場から)			チーム医療における看護師の専門機能と役割について事前学習しておくこと。(60)		
第9回 事例検討1 グループワーク(資料探索・討議)			討議テーマについて、関連する文献や成書などを探索しておくこと。(60)		
第10回 事例検討1 グループワーク(討議)			テーマについてグループ討議できるよう思考の整理をしておくこと。(60)		
第11回 事例検討1 グループワーク(発表)			グループ討議のテーマについて発表資料の準備をしておくこと。(60)		
第12回 事例検討2 グループワーク(資料探索・討議)			討議テーマについて、関連する文献や成書などから探索しておくこと。(60)		
第13回 事例検討3 グループワーク(討議)			テーマについてグループ討議できるよう思考の整理をしておくこと。(60)		
第14回 事例検討3 グループワーク(発表)			グループ討議のテーマについて発表資料の準備をしておくこと。(60)		
第15回 グループ演習 チーム医療における看護職の責務			グループ討議できるようテーマについて自らの考えを整理しておくこと。(60)		
履修に必要な予備知識や技能: 2年次後期に学修した科目「チーム医療論」の内容を復習しておくこと。 臨地実習における体験、学びを想起して臨んでください。					
課題に対するフィードバック: 提出された課題は点検し、次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準: グループワークの取り組みと発表(80%)、レポート課題(20%)を総合的に判定する。					
教科書・参考書: 田村由美編: 新しいチーム医療 -看護とインタープロフェSSIONAL・ワーク入門-, 看護の科学社 細田満和子: 「チーム医療とは何か」患者・利用者本位のアプローチに向けて 第2版, 日本看護協会出版会					
備考: 能動的にグループワークに参加し、リーダーシップ、メンバーシップの大切さを学んでください。					
実務経験の内容・期間: 舞谷邦代 看護師(8年) 北山幸枝 看護師(12年) 松田美紀 看護師(29年) 磯 光江 看護師(16年)					

科目名称:地域と看護					
担当者名:曾根 志穂					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義・演習	選択	1	看護学科(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012101
<p>授業概要: 少子高齢社会の進行による人口構造の変化、医療の高度化・複雑化や医療技術の進歩等の社会情勢の流れの中で、看護サービスに対する期待は大きい。さらに、地域における包括的なケアの推進、ヘルスプロモーションや予防に関する保健活動も重視されている。看護の対象がすべての生活者に拡大しており、また在宅療養者や何らかの健康問題を抱える人々の増加等によって、これからの看護師には看護の対象として個人のみならず、広く地域やそこでの生活を捉える視点が求められている。「地域」「コミュニティ」の力をアセスメントする意義を含めて、本講義では地区踏査や既存資料の活用によって、看護の視点から地域の特徴をアセスメントし、そこにある健康問題を把握すること(地域看護診断)の意義とその方法を学ぶ。また実際に応用する。</p>					
<p>到達目標: 1. 地域の特性と人々の生活および健康問題を理解する 2. 対象となる人々や家族が住み慣れた地域における看護活動の必要性を理解する 3. 対象となる人々や家族、地域の特性に応じた看護活動を考察する</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 地域の特性と人々の暮らしと健康「AIが捉える生活習慣と健康」			地域の特性と人々の暮らし、健康問題との関係を考える。(30)		
第2回 地域の特性と人々の暮らしに対する看護活動「地域看護診断と自治体の保健事業」			地域の特性と看護を必要としている人々の生活、健康問題について、周りの状況を観察する。(30)		
第3回 多様化する社会と看護「医療現場における国際化」			人々の価値観の複雑化や国際化等、多様化する社会と看護のあり方を考える。(30)		
第4回 災害から自分と家族の健康を守る①「災害時の健康問題」「地域防災活動の実際」			想定される災害、災害から身を守るための備え、自助・共助・公助とは何かを考える。(30)		
第5回 災害から自分と家族の健康を守る②「SDGsと看護」「SDGsゲーム体験会」			SDGsと健康、看護の関係について考える。(30)		
第6回 地域でのSDGs活動① SDGsの基本理念と啓発普及活動の実際			地域と住民の暮らしの特徴を考える。(30)		
第7回 地域でのSDGs活動② SDGsアクションゲームをやってみよう			健康とSDGsとのつながりを考える。(30)		
第8回 地域における看護職の看護活動とその役割			これまでの学びから地域における看護活動を考える。(30)		
<p>履修に必要な予備知識や技能: 多様な人々の暮らしに関心を持ち、人口動態や社会問題による様々な影響を理解し、健康で安全・安心な暮らしを守る看護の必要性などを考えておく。毎回、教員、学生とのディスカッションしながらすすめるので、コミュニケーション力、協調性、リーダーシップを十分に発揮することを期待する。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック: 授業内の課題やテーマについて、教員学生間でディスカッションしながらすすめます。最終レポートはコメントを記入し、返却します。</p>					
<p>評価方法・基準: 演習ワークシートとレポート 100%</p> <p>1. 地域の特性と人々の生活および健康問題が理解できる 2. 対象となる人々や家族が住み慣れた地域における看護活動の必要性が理解できる 3. 対象となる人々や家族、地域の特性に応じた看護活動が考察できる 4. 学生らしい自由な創造性や独創性を活かして、講義・演習に積極的に取り組むことができる</p>					
<p>教科書: 参考書: 地域特性がみえてくる 地域看護診断 地域包括支援センターの活動充実を目指して 都築千景編著 医歯薬出版株式会社</p>					
<p>備考: 実際に地域でのSDGs啓発活動に参加して、住民らと交流しながら人々の暮らしとSDGsと健康について学習する機会を設ける予定です。また、この活動企画にあたり、さまざまな関係者が協働する姿も必見です! ただし、諸事情により模擬演習となる場合があります。</p>					
<p>実務経験の内容・期間: 自治体保健師(5年)</p>					

科目名称:災害看護論					
担当者名:大月 真由美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	必修	8	看護学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		74012102
<p>授業概要:人は常に自然がもたらす脅威に対峙し、人々の命や健康を守るための対策を講じ、さらに文明の発達とともに増加してゆく人為災害にも対応してゆく必要がある。そこで、災害発生の直後から支援できる看護の基礎から実践まで網羅し、学生が理解しやすい内容(災害看護の基礎知識と看護について理解し、看護職の役割について考えることができる)を提供する。</p>					
<p>到達目標:1. 災害と災害看護の概念を理解する。 2. 我が国における災害対応のしくみを説明できる。 3. 災害サイクルに対応した看護のあり方を説明できる。 4. トリアージの目的と方法について説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 はじめに・災害と災害看護 災害とは、災害看護とは			教科書 第1章(60)		
第2回 災害対応の基本 災害医療の基本、災害時の情報伝達			教科書 第2章、第3章のI(60)		
第3回 災害対応のしくみ 災害発生時の対応、災害派遣医療チーム(DMAT)			教科書 第3章のII以降(60)		
第4回 災害サイクルに対応した看護(1) 災害サイクルとは、被災者の状況			教科書 第4章のI~III(60)		
第5回 災害サイクルに対応した看護(2) トリアージの目的と方法、急性期の治療と搬送			教科書 第4章のIV~VIII(60)		
第6回 災害サイクルに対応した看護(3) 亜急性期、慢性期以降の看護活動			教科書 第5章(60)		
第7回 災害看護の実際 能登半島沖地震または東日本大震災の経験から			これまでの授業内容をまとめておくと共に 教科書 序章を読んでおくこと(60)		
第8回 災害サイクルに対応した看護(4) 災害時への備え(防災・減災)と看護、災害看護に期待される能力			住んでいる地域や基礎看護実習を行った医療機関でどのような災害への備えがされているか、まとめておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業の前には前回授業の復習とともに、このシラバスの「準備学習」欄に記載した教科書の対応箇所を予習すること。					
課題に対するフィードバック:質問は出席カードに記載し提出、次回の授業で全体にフィードバック。メールアドレスをお伝えしますので随時送信可能。試験・レポート講評・添削し返却					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度 20%					
教科書:教科書:《新体系看護学全書 看護の統合と実践②》『災害看護学』辺見弘、監修(共著)、メヂカルフレンド社 参考書:『災害看護学習テキスト 概論編』南裕子、山本あい子編(共著)、日本看護協会出版会 『災害看護学習テキスト 実践編』南裕子、山本あい子編(共著)、日本看護協会出版会 《看護学テキスト NiCE》『災害看護』酒井明子、菊池志津子編(共著)、南江堂					
備考:講義 8 回の 1 回をトリアージ演習の実施について相談してみたいと思います。(演習はコロナ禍の状況に応じて対応する)					
実務経験の内容・期間:看護師免許取得 看護師経験 24 年 防災士資格取得(2005 年)災害支援ナース 被災地へは新潟中越地震・能登半島地震・東日本大震災に医療班、医療スタッフ、医療ボランティアで活動					

科目名称:国際看護論					
担当者名:一ノ山 隆司					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	必修	1	看護学科(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012103
<p>授業概要:看護に関連する国際的な問題(グローバルヘルスの現状と課題)を理解するため、看護が果たす国際協力に関連する国際機関(世界保健機関、国連難民高等弁務官事務所、国連児童基金など)の役割や、国際看護・保健活動(発展途上国、難民キャンプ、災害地などにおける)の概要や我が国の保健・医療・看護の国際貢献のあり方について学ぶ。また「国内の国際看護」として、異文化への理解と共生の観点から、在日外国人に対する看護支援のあり方や国際的な視点から健康課題や看護を考える力を養う。</p>					
<p>到達目標:1. 看護を実践する上で国際的な視野をもつことの必要性を理解できる。 2. 世界規模の健康課題に対する基本概念を説明できる。 3. 国際協力の仕組みと国際看護活動の課題を明らかにできる。 4. 海外における看護活動の枠組みについて理解する。 5. 多様な社会・文化的背景を持つ対象への看護のあり方を説明できる。 6. 国際看護活動を推進する上での関連機関について理解する</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 国際看護学を学ぶことの意義(国際看護の概念と対象・日本と海外で異なる国際看護の対象)			教科書の第I章を読み、履修上の疑問点を明確化する。国際看護の概念、目的、対象について、教科書、専門書や文献などを活用し調べた内容をノートにまとめる。(60)		
第2回 日本の国際看護の歴史(世界にみる国際看護協力の歴史・日本における国際看護協力の歴史)			日本における国際看護協力の歴史について、教科書、専門書を活用し調べて内容をノートにまとめる。(60)		
第3回 国際看護活動の支援を必要とする対象(異文化理解、開発途上国の現状と保健・医療システム)			国際看護活動が扱う範囲と海外における看護活動について、教科書、専門書などを活用し調べた内容をノートにまとめる。(60)		
第4回 世界の健康課題(世界の健康課題を理解するための基本概念・世界的健康課題を起す感染症・災害・国際機関、国際協力機構)			教科書の第III章を読み、履修上の疑問点を明確化する。世界の健康課題に対する改善にはどのような取り組みがあるのか、教科書、専門書を活用し調べて内容をノートにまとめる。(60)		
第5回 世界の保健医療システムと課題(保健医療システム、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ:UHC)・看護職の課題			ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)や持続可能な開発目標(SDGs)について、教科書などを活用し調べて内容をノートにまとめる。(60)		
第6回 看護における文化(看護と文化・異文化の理解と看護)			教科書の第II章を読み、履修上の疑問点を明確化する。看護の本質に、対象者の文化的権利を尊重することが備わっていることについて、教科書、専門書などを活用し調べて、ノートにまとめる。(60)		
第7回 災害看護(国際協力における災害看護)国際看護の実践の場(国際看護協力に関係する機関)			教科書の第V章を読み、履修上の疑問点を明確化する。国際看護協力を展開する実践の場とその機関について、教科書、専門書などを活用し調べた内容をノートにまとめる。(60)		
第8回 在日外国人・訪日外国人への医療と看護・総括			教科書の第V章を読み、在日外国人、訪日外国人への医療と看護の課題について、調べた内容をノートにまとめる。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:持続可能な開発目標(SDGs)やグローバリゼーションの概念・健康に与える影響に関して確認してください。また、看護倫理・災害看護に照らして国際看護の意義について熟考してください。					
課題に対するフィードバック:事前課題で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、次回以降の授業で講評・解説します。課題の提示方法については、Google Classroomなどを活用します。					
評価方法・基準:課題レポート60% 小テスト30% リアクションペーパー10%					
教科書:教科書 森淑江, 山田智恵子, 正木知恵編:国際看護-国際社会の中で看護の力を発揮するために-, 南江堂					
備考:本科目では、国内及び国外における国際看護の実践に必要な基本的知識と方法を学修します。国や地域、文化や人種などの違いを超えた看護のあり方、さらに世界規模の健康達成のために看護職が担う役割について考察します。実際に海外で国際協力を実践している看護師(助産師)をゲストスピーカーに迎えて具体的な活動を学びます。					
実務経験の内容・期間:一ノ山隆司(看護師15年)					

科目名称:看護学研究法					
担当者名:田中 克恵、金谷 雅代、道券 夕紀子、境 美砂子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	必修	2	看護学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012121
<p>授業概要:本講義では看護における研究の意義や目的を理解し、そのために必要な方法を学ぶ。なぜ研究が必要なのか、研究課題をどのようにして選ぶか、先行研究を学ぶ必要性、いかにして文献を集めるか、研究における倫理的な問題、代表的な研究方法にはどのようなものがあるか、いかにしてデータを収集し分析(解析)するか、またクリティークの意義などを学び、研究計画書の作成、抄録や論文の校正やプレゼンテーションの方法について理解するとともに、主体的に研究に取り組む能力を養う。主として、看護研究における倫理では、将来的な看護研究活動の基盤を作るため、看護研究における倫理の必要性和具体的な配慮の例を、看護研究を通した看護実践の探究では、看護実践の探究とその方法としての研究の必要性や、将来的な看護研究活動の基盤を作るため、看護研究の方法を学ぶことができる。</p>					
<p>到達目標:1. 研究の意義や方法を理解する。 2. 研究における倫理的問題を理解する。 3. 必要な文献の検索方法や活用方法を理解する。 4. 研究計画書の作成方法を理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 研究とは、看護研究とは(金谷)			研究とは何か、研究の意義について考える。(30)		
第2回 研究疑問について(金谷)			先行研究の必要性について学習する。(30)		
第3回 研究方法について(金谷)			研究方法の特徴と展開について考える。(30)		
第4回 研究の倫理的課題について 研究倫理、倫理指針、倫理的配慮、利益相反(一ノ山)			研究倫理に関する課題を考える。(30)		
第5回 看護研究の概観・質的研究の概要・(道券・境)			事前に配布された質的研究の文献を精読する。(60)		
第6回 質的研究データ収集方法とデータ分析方法について			事前に配布された量的研究の文献を精読する。(60)		
第7回 看護研究の概観・量的研究の概要・データ収集方法とデータ分析方法について(田中)			基本統計量について復習する。事前に配布された量的研究の文献を精読する。(60)		
第8回 文献検索の意義と方法について(道券)			研究における文献の意義を考える。(30)		
第9回 文献検索の実際①(道券)			興味・関心がある看護学領域(分野)のキーワードを抽出とラーニングコモンズ(図書館・コンピュータ、ネットワークなど)の活用(60)		
第10回 文献検索の実際②(道券)			文献検索のため医学中央雑誌 Web にアクセスし、興味・関心がある看護学領域(分野)の文献を入手する。(60)		
第11回 文献クリティーク① 文献のクリティークとは、クリティークシート(境)			興味・関心がある看護学領域(分野)看護分野の文献を精読とラーニングコモンズ(図書館・コンピュータ、ネットワークなど)の活用(60)		
第12回 文献クリティーク② 量的研究・質的研究のポイント(境)			文献カード、文献メモを活用し、複数の論文について記載する(90)		
第13回 研究計画書について(田中)			研究疑問について、整理しまとめる。(60)		
第14回 研究テーマと研究計画書の作成について(田中)			研究疑問の解決方法について考える。(60)		
第15回 総括(まとめ)・リサーチマインド、小テスト(田中)			研究計画書の作成に関する意義や記載に伴う必要事項について確認する。(60)		
<p>履修に必要な予備知識や技能:看護の技術や現象について、なぜそのようになっているのか、といった疑問を持ちながら取り組むことが重要です。3年次、4年次に開講される卒業研究ゼミⅠ・卒業研究ゼミⅡ・卒業論文に関連する科目であることを認識して、到達目標を達成できるように取り組み復習を行ってください。統計学(選択科目)を履修することによって、看護研究を進める上での必要とされる統計的なデータの分析手法を習得することができます。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:事前課題で提出した内容や授業中に記述したリアクションペーパーなどについては、点検・添削された後に、次回以降の授業で講評・解説します。また、Google Classroomなどを活用して、事前課題や課題を提示します。</p>					
<p>評価方法・基準:課題学習 30%・課題レポート 50%・小テスト 20%から総合的に評価する。</p>					
<p>教科書:教科書 川野雅資編:看護研究(看護学実践:Science of Nursing), PILAR PRESS 参考書 上野栄一, 出口洋二, 一ノ山隆司著:楽しくなる看護研究, メヂカルフレンド社 李節子:看護研究ころえ帳-研究の基本からプレゼンテーションまで-, 医歯薬出版 南裕子:看護における研究, 日本看護協会出版会 小笠原知枝:これからの看護研究-基礎と応用, ヌーヴェルヒロカワ その他、参考文献や参考図書については授業の際に提示します。</p>					
<p>備考:本科目は卒業研究ゼミⅠ(3年次通年)・卒業研究ゼミⅡ(4年次通年)・卒業論文(4年次通年)に密接に連動しています。他に疫学・保健統計入門・統計学の知識との関連もあります。さらに、今後のカリキュラムから講義・演習・実習が過密になるため、計画的な学修が必要であり、文献検索など自主的に取り組み、課題の目的を理解して臨むことが重要になります。 本科目終了時、ゼミを選択するための希望調査を実施します。</p>					
実務経験の内容・期間:田中克恵(看護師10年)、金谷 雅代(看護師10年)、道券 夕紀子(看護師2年)、境 美砂子(看護師10年)					

科目名称:総合演習					
担当者名:一ノ山 隆司、北山 幸枝、田中 克恵、舞谷 邦代、金谷 雅代、道券 夕紀子、子吉 知恵美、野上 悦子、磯 光江、境 美砂子、田村 博美、野上 睦美、松田 美紀					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年後期	講義・演習	必修	1	看護学科(2)(3)(4)(5)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012154
<p>授業概要:看護師として必要な理念や基本的な知識・技術などを確実に身につけ、また臨床現場において適切な対応ができるように、これまでの学習内容について振り返り、不足点を補う。特に看護実践能力の修得においては、これまでの臨地実習で学修した現象や看護のアプローチ、対象者の理解などについて支援を受けながら確実にリフレクションすることができる。また、演習では、アクティブラーニングの要素(Think-Pair-Share)を取り入れたディスカッションやピアサポートによって目標を達成する。また、4年間の学修課程におけるe-ポートフォリオに記載した「看護技術項目と段階的評価」及び「臨地実習における学びの足跡」を用いて、これから生涯にわたる学習の基礎となる課題を自ら設定することにより、継続的な学修を実践できる基盤を習得することができる。</p>					
<p>到達目標:1. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に関する自己の課題を明らかにできる。 2. 学士課程のコアコンピテンシーに関する自己の課題を明らかにできる。 3. 明らかとなった課題を解決するために積極的な取り組みができる。 4. 看護学に関する基本的な知識・技術・態度が身についている。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション[本科目の位置づけ]			事後学修:「看護技術項目と段階的評価」臨地実習における学びの足跡の記入及び印刷(60)		
第2回 看護師に必要な理念と基本的知識・技術・態度(グループディスカッション)、ディプロマ・ポリシーの達成度			事前学修:看護師に必要な理念と基本的な知識・技術・態度についてまとめる(60)		
第3回 学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標の達成度			事後学修:後期の学修計画を立てる(30)		
第4回 自己の学習課題・計画、教員との面談			事前学修:マイステップ(ユニバーサルパスポート内)に記入した3年次・4年次の学習目標(前期・後期)に対する成果の確認及び印刷(60)		
第5回 チーム医療(チーム連携)・ケアの本質・自己決定			事後学修:保健・医療・福祉における看護師の役割に関して、自己の考え(看護観)をまとめる(60)		
第6回 介護福祉・高齢者福祉・障害者福祉・法学(憲法)・医療関係法・保健医療制度・社会保障制度・看護関係法規・社会福祉概論			事前学修:履修科目(上記内容)の学習内容の確認及び復習[看護師国家試験の出題基準との照合](90)		
第7回 「座学から臨床現場に適応するための「法と社会保障制度」・医療に関する法制度の理解および課題やあり方			事前学修:教科書「医事法入門」や「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉」から社会保障法・社会福祉関連法について復習し授業に臨む(90)		
第8回 医療従事者の資格法、予防衛生法規、保健衛生法規			事後学修:教科書「医事法入門」を使用して、当該箇所の熟読及び演習問題を解く(60)		
第9回 看護の社会的側面及び倫理的側面・看護の対象者及び看護活動の場・看護に必要な人体の構造と機能及び健康障害と回復・看護技術①			事後学修:看護師国家試験の出題基準を参考に基礎知識を確認する(120)		
第10回 看護の社会的側面及び倫理的側面・看護の対象者及び看護活動の場・看護に必要な人体の構造と機能及び健康障害と回復・看護技術②			事後学修:看護師国家試験の出題基準を参考に基礎知識を確認する(120)		
第11回 基礎看護技術の復習(技術確認、ピアサポート)①			事前学修:これまでに学修した基礎看護技術を復習し、授業に臨む(90)		
第12回 基礎看護技術の復習(技術確認、ピアサポート)②			事前学修:これまでに学修した基礎看護技術を復習し、授業に臨む(90)		
第13回 基礎学力確認試験①、振り返り			事前学修:看護師国家試験の出題基準を参考に学習する(120) 事後学修:基礎学力確認試験の見直し(120)		
第14回 基礎学力確認試験②、振り返り			事前学修:看護師国家試験の出題基準を参考に学習する(120) 事後学修:基礎学力確認試験の見直し(120)		
第15回 総括、「学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標」「ディプロマ・ポリシー」等の再評価、担当教員との面談			事前学修:自己の課題解決に向けた取り組みの実施状況についてまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:「看護技術項目と段階的評価」および「臨地実習の学ぶの足跡」は適切な時期に記載してください。ユニバーサルパスポートのマイステップにある学習目標(前期・後期)を必ず記載してください。					
課題に対してのフィードバック:課題の提示は Google Classroom などを活用します。課題などのフィードバックは学生の個別の課題に対して担当教員が行います。					
評価方法・基準:基礎学力確認試験(2回実施)80%、その他20%(「学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標」「ディプロマ・ポリシー(DP2・DP3・DP4・DP5)のGPA」「模擬試験結果の推移)」で総合的に評価する。					
教科書:配付資料 使用テキストはないが、担当教員が指定する場合があります。 参考書:国民衛生の動向、看護師国家試験問題集など					
備考:本学部の3つのポリシー、特にディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)の5項目から、4年間の学修課程、学習成果を学生-教員相互にフィードバックします。特に自己の課題を明確にしてください。事前課題は確実に取り組んでください。通年で実習、卒業論文、就職・進学について同時進行していることを理解してください。					
実務経験の内容・期間:一ノ山(看護師15年)、北山(看護師12年)、田中(看護師10年)、舞谷(看護師8年)、金谷(看護師10年)、道券(看護師2年)、					

子吉(看護師 3 年・保健師 4 年)、野上悦(看護師 36 年)、磯(看護師 16 年)、境(看護師 10 年)、田村(助産師 22 年・看護師 3 年)、野上睦(看護師 5 年)、松田(看護師 28 年)

科目名称:卒業研究ゼミⅠ(研究探究ゼミ)					
担当者名:一ノ山 隆司、北山 幸枝、田中 克恵、舞谷 邦代、野上 悦子、千 英樹、道券 夕紀子、子吉 知恵美、田村 博美、野上 睦美、磯 光江、境 美砂子、松田 美紀、梶井 敬子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年通年	講義・演習	必修	1	看護学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012151
<p>授業概要:卒業研究Ⅰゼミでは、指導教員毎の少人数ゼミ形式で、卒業研究ゼミⅡの履修準備から卒業論文に取りかかるための段階的な学習を行う。各自が興味・関心のある現象の中から、文献を活用して、卒業研究のテーマをイメージし、ゼミ内での発表・討論や指導教員の個別指導を重ねることによって、先行研究や必要となる方法論を学習し、研究計画を立案できる能力を養う。主として、発表や討論を計画的に繰り返すことにより、各自の研究における課題や問題点の抽出を行い、それらを解決するための科学的アプローチを理解し、実践・研究のための探求することを深く学ぶ。ここで学んだことを卒業研究ゼミⅡで発展させることができる。</p>					
<p>到達目標:1.各自が興味ある現象の中から、卒業研究のテーマを設定することができる。 2.設定したテーマの先行研究について学び、妥当な研究目標を設定することができる。 3.設定したテーマの研究に必要な方法・技術を習得することができる。 4.上記の取り組みを基に、研究計画を立案することができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション-卒業研究ゼミⅠにおける到達目標、年間スケジュール			看護学研究法で履修した知識の確認をする。(60)		
第2回 興味ある現象の中から、卒業研究テーマの設定			研究的疑問から問題を探り、テーマを探求する。(60)		
第3回 設定したテーマの先行研究について学び、妥当な研究目的の設定			文献検索、クリティークが十分にでき、研究テーマの焦点化と研究目的、研究意義を論述する(60)		
第4回 研究目的の設定に向けた文献などの学習、ゼミでの発表、討論			文献検索、クリティークが十分にでき、研究テーマの焦点化と研究目的、研究意義を論述する(60)		
第5回 研究テーマ、研究目的の決定(必要な個別指導を含む)			文献検索、クリティークが十分にでき、研究テーマの焦点化と研究目的、研究意義を論述する(60)		
第6回 研究デザイン・研究方法を検討し、必要となる方法・技術の習熟			研究デザイン、研究対象、方法、分析方法を適切に理解する。(60)		
第7回 研究デザイン・研究方法を検討するために必要な文献を収集、学習			研究デザイン、研究対象、方法、分析方法を適切に理解する。(60)		
第8回 研究デザイン・研究方法を検討するために必要な文献を収集、学習			研究デザイン、研究対象、方法、分析方法を適切に理解する。(60)		
第9回 進捗状況の発表、討論			研究倫理を学び倫理的配慮を適切に理解する。(60)		
第10回 研究デザイン・研究方法の決定(必要な個別指導を含む)			文献カードを作成し、10編以上クリティークする。(60)		
第11回 研究計画の立案に伴う、調査・研究に関連する知識の学習			研究デザイン、研究方法を検討する。(60)		
第12回 研究計画の立案に必要な文献の収集と学習			研究デザイン、研究方法を検討する。(60)		
第13回 研究計画の立案に必要な文献の収集と学習			研究テーマ、研究目的、研究デザイン、研究方法を検討する。(60)		
第14回 進捗状況の発表および討論			研究テーマ、研究目的、研究デザイン、研究方法を検討する。(60)		
第15回 研究計画の立案(必要な個別指導を含む)			卒業論文に取り掛かるための準備学習をする。(90)		
<p>履修に必要な予備知識や技能:疫学・保健統計入門、統計学、看護学研究法で学習した内容を確認してください。 ラーニングコモンズ(図書館・コンピュータ、ネットワークなど)を積極的に活用し、文献を検索してください。 また、本科目は卒業研究ゼミⅡ・卒業論文の基盤になることを認識して取り組んでください。 詳細については、担当教員から別途指示する。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:課題(事前課題・事後課題)などの成果やプレゼンテーションの内容については、ゼミの時間内にグループおよび学修進度に応じて、個別指導し、講評・解説をします。</p>					
<p>評価方法・基準:課題学習(事前課題・事後課題)への取り組み(態度やゼミへの参加度を含む)と研究計画書の作成に関する成果(学習、発表、討論)を総合的に評価します。</p>					
<p>教科書:必要に応じて、担当教員から別途指示します。 看護学研究法で使用した教科書および配付資料。 また、Google Classroomに課題などを提示します。</p>					
<p>備考:ゼミ内での発表、討論を含めて、指導教員の個別指導を重ね、卒業論文に取り掛かるための準備学習を確実にに行います。研究計画に必要な方法論を学習することから、研究計画の立案するための能力を培ってください。 後期から成人看護学実習、老年看護学実習の履修が始まりますので、各自の目標・目的を達成のため計画的な取り組みが必要になります。</p>					
<p>実務経験の内容・期間:一ノ山(看護師15年)、北山(看護師12年)、田中(看護師10年)、舞谷(看護師8年)、野上悦(看護師36年)、千(看護師30年)、道券(看護師2年)、子吉(看護師3年・保健師4年)、田村(助産師22年・看護師3年)、野上睦(看護師5年)、磯(看護師16年)、境(看護師10年)、松田(看護師28年)、梶井(助産師9年)</p>					

科目名称:卒業研究ゼミⅡ(研究実践ゼミ)					
担当者名:一ノ山 隆司、北山 幸枝、田中 克恵、舞谷 邦代、野上 悦子、千 英樹、道券 夕紀子、子吉 知恵美、田村 博美、野上 睦美、磯 光江、境 美砂子、松田 美紀、梶井 敬子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年通年	講義・演習	必修	1	看護学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012152
<p>授業概要:卒業研究ゼミⅡでは、卒業研究ゼミⅠと同様に指導教員毎の少人数ゼミ形式で、卒業論文の作成に必要なスキルなどについて、計画的かつ段階的な学習を行う。これまでのゼミで探求した各自が興味・関心ある現象の中から、焦点化できたことを卒業研究のテーマとして設定し、ゼミ内での発表・討論や指導教員の個別指導を重ねることによって、先行研究から必要となる方法論に関連することを学習し、研究計画を立案できる能力を身につける。主として、発表や討論を計画的に繰り返すことにより、各自の研究における課題や問題点の抽出ができ、それらを解決するための実際に活用できる科学的アプローチを理解し、実践できる能力を養う。</p>					
<p>到達目標:1. 研究計画に沿ったデータの収集を行うことができる。 2. 科学的妥当性のあるデータ処理・結果の解釈を行うことができる。 3. 研究途上に発生する問題・課題について、適切に対処することができる。 4. 研究結果をまとめ、他者に理解できるようプレゼンテーションを行うことができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション-卒業研究ゼミⅡにおける到達目標、年間スケジュール			卒業研究ゼミⅠで学習した内容の確認と整理し、研究計画書の作成に必要な知識や文献をまとめる。(90)		
第2回 研究テーマの決定に向けた学習、ゼミでの発表、討論			研究計画書の作成に必要な研究テーマに関連した文献を整理する。(90)		
第3回 先行研究を学ぶための文献検索・収集・文献学習			研究計画書の作成に必要な研究テーマに関連した文献を整理する。(90)		
第4回 研究目的の設定に向けた文献などの学習、ゼミでの発表、討論			研究計画書の作成に必要な研究目的に関連した学習をする。(90)		
第5回 研究テーマ、研究目的の決定(必要な個別指導を含む)			研究計画書の作成に必要な研究デザインおよび研究目的に関連した学習をする。(90)		
第6回 研究デザイン・研究方法を検討し、必要となる方法・技術の習熟			研究計画書の作成に必要な研究デザインおよび研究目的に関連した学習をする。(90)		
第7回 研究デザイン・研究方法を検討するために必要な文献収集および学習			研究計画書の作成に必要な研究デザインおよび研究方法に関連した学習をする。(90)		
第8回 研究デザイン・研究方法を検討するために必要な文献収集および学習			研究計画書の作成に必要な研究デザインおよび研究方法に関連した学習をする。(90)		
第9回 進捗状況の発表および討論			研究テーマの焦点化と研究デザイン、研究方法について論述する。(60)		
第10回 進捗状況の発表および討論			研究テーマの焦点化と研究デザイン、研究方法について論述する。(60)		
第11回 研究デザイン・研究方法の決定(必要な個別指導を含む)			研究目的と研究方法の一貫性について考える。(60)		
第12回 研究デザイン・研究方法の決定(必要な個別指導を含む)			研究目的と研究方法の一貫性について考える。(60)		
第13回 研究計画の立案に必要な文献収集および学習			先行研究(引用・参考文献)の活用および整理をする。(90)		
第14回 進捗状況の発表および討論			卒業論文(研究計画書)に取り掛かるための準備学習をする。(90)		
第15回 研究計画の立案(必要な個別指導を含む)			卒業論文(研究計画書)に取り掛かるための準備学習をする。(90)		
<p>履修に必要な予備知識や技能:看護学研究法、疫学・保健統計入門、統計学で得られた知識を活用するとともに、卒業研究ゼミⅠで学習した内容や自己の課題を明確にし、準備してください。また、本科目は卒業論文と密接に関連し、同時に進行しています。研究計画書の作成に必要な基盤(知識・技術)であることを認識し計画的に取り組んでください。 詳細については、担当教員から別途指示する。</p>					
<p>課題に対してのフィードバック:課題 Google Classroom などの成果やプレゼンテーションの内容については、ゼミの時間にグループ内および学修進度に応じて個別に指導し、講評・解説をします。</p>					
<p>評価方法・基準:課題学習 Google Classroom への取り組み(態度やゼミへの参加度を含む)と研究計画書の作成に関する成果(学習、発表、討論)を総合的に評価します。</p>					
<p>教科書:必要に応じて、担当教員から別途指示します。 Google Classroom に事前課題を提示します。</p>					
<p>備考:卒業研究ゼミⅠと連動しています。ゼミ内で発表・討論を行い、指導教員の個別指導を重ね、卒業論文の作成を行います。研究計画に必要な方法論を学習し、研究計画を立案する能力を培ってください。前期には看護学実習(小児・母性・精神・地域在宅)、実践看護学実習Ⅱの履修があります。また、就職・進学試験、看護師国家試験対策が同時進行するため、各自で目標・目的を設定してください。</p>					
<p>実務経験の内容・期間:一ノ山(看護師15年)、北山(看護師12年)、田中(看護師10年)、舞谷(看護師8年)、野上悦(看護師36年)、千(看護師30年)、道券(看護師2年)、子吉(看護師3年・保健師4年)、田村(助産師22年・看護師3年)、野上睦(看護師5年)、磯(看護師16年)、境(看護師10年)、松田(看護師28年)、梶井(助産師9年)</p>					

科目名称:卒業論文					
担当者名:一ノ山 隆司、北山 幸枝、田中 克恵、舞谷 邦代、野上 悦子、千 英樹、道券 夕紀子、子吉 知恵美、田村 博美、野上 睦美、磯 光江、境 美砂子、松田 美紀、梶井 敬子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年通年	演習	必修	3	看護学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		74012153
<p>授業概要:これまで学内・外で学んだ看護に関連する理念および知識・技術などを基礎として、各自が研究課題を設定し、研究計画を立案し、特にデータ収集・分析に関する基本的知識を習得する。看護学研究法、疫学・保健統計入門、統計学から得られた知識とラーニングcommons(図書館・コンピュータ、ネットワークなど)を活用し、文献を整理する。また、本科目は卒業研究ゼミⅠ、卒業研究ゼミⅡとの連動性を理解して取り組むことが重要である。これまで学修で得られた知見をもとに卒業論文をまとめることによって、4年間の学習の集大成になる。特に研究計画書</p>					
<p>到達目標: 1. 研究計画に記載する事項に沿って、研究計画書としてまとめることができる。 2. 研究計画書に関して、あらかじめ定められた要項に従い、卒業論文として作成することができる。 3. これまで学内・外で学んだ看護に関連する理念・知識・技術等を基礎として、上記の取り組みを行うことにより、4年間の学習の集大成とする。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>本科目は時間割に記載された授業としては開講せずに、卒業研究ゼミⅠ・Ⅱと連携した研究指導・論文作成指導として、担当教員が個別の学生に対し、随時指導を行います。</p>			<p>到達目標の達成のため担当教員からの各課題(120) 各課題(文献検索・文献検討・研究デザイン・研究テーマ・研究目的・研究方法・倫理的配慮、引用文献など) 卒業論文の発表(発表会)に関する抄録作成や発表(口演・示説)に活用する原稿および Power point の作成(120)</p>		
<p>履修に必要な予備知識や技能:卒業研究ゼミⅠ、同時に進行する卒業研究ゼミⅡで学習した内容を活かすことが必要であることから、その継続性を理解し到達目標に沿った学習ができるように準備してください。また、看護倫理・情報リテラシー・データサイエンスで学習したことを整理してください。詳細については、担当教員から別途指示します。</p>					
<p>課題に対するフィードバック:課題(事前課題・事後課題)の成果や看護研究計画書などの内容については、個別に指導し、講評・解説をします。</p>					
<p>評価方法・基準:卒業論文としての信頼性、客観性、独自性[研究題名、研究の背景(文献検討・文献レビュー)、研究目的、研究方法、倫理的配慮、引用文献、研究発表]に関して、評価基準に基づき総合的に評価します。</p>					
<p>教科書:必要に応じ、担当教員から別途指示します。</p>					
<p>備考:発表・討論を含めて、指導教員の個別指導を重ね、卒業論文の作成を確実にを行います。研究計画に必要な方法論を学習し、研究計画を立案する能力を培ってください。卒業研究ゼミⅡと連動し、前期には看護学実習(小児・母性・精神・地域在宅)、実践看護学実習Ⅱの履修があります。また、就職・進学試験、看護師国家試験対策が同時進行するため、各自で目標・目的を設定してください。</p>					
<p>実務経験の内容・期間:一ノ山(看護師15年)、北山(看護師12年)、田中(看護師10年)、舞谷(看護師8年)、野上悦(看護師36年)、千(看護師30年)、道券(看護師2年)、子吉(看護師3年・保健師4年)、田村(助産師22年・看護師3年)、野上睦(看護師5年)、磯(看護師16年)、境(看護師10年)、松田(看護師28年)、梶井(助産師9年)</p>					